

中央区政世論調査

報告書

第52回 令和4年4月実施



中央区

は じ め に

区政運営のための指針づくりや施策の実施にあたっては、区民の皆さまの多様な意見・要望をさまざまな手段を講じて聴取し、把握・分析した上で的確に反映させていくことが大切です。

そのため、区では、「区長への手紙」、「区政への提案制度」など各種の広聴活動を行っています。

「区政世論調査」もその一つとして、区民の皆さまの意見を統計的に把握するもので、昭和40年から実施し今回で52回目となりました。今回の調査では、「定住性」「防災対策」「健康診査」「高齢者施策」「子育て支援」「防犯対策」「スポーツ」「地域のコミュニティ活動」「築地魚河岸」「受動喫煙防止対策」「デジタル技術を活用した区民サービス」「広報」「環境問題」「公園の魅力向上」「今後のまちづくり」「施策の要望・評価」の16項目についてお伺いしました。調査結果は、今後の区政運営の基礎資料として活用していきますが、多くの皆さまに参考としていただければ幸いです。

おわりに、調査にご協力いただきました区民の皆さまに厚くお礼申し上げます。

令和4年9月

中央区企画部広報課

I	調査のあらまし	1
1	調査の目的	3
2	調査の項目	3
3	調査の設計	3
4	回収結果	4
5	地域区分	4
6	この報告書の見方	4
7	調査方法略歴	6
II	回答者の属性	7
1	性別	9
2	年齢	9
3	職業	9
4	居住地域	10
5	同居家族	10
6	住居形態	10
7	家族構成	11
8	家族の状況	11
9	ライフステージ（7分類）	11
III	地域別にみた回答者の属性	13
1	年齢	15
2	職業	15
3	同居家族	15
4	住居形態	16
5	ライフステージ	16
IV	調査結果の分析	17
	【1 定住性】	19
	（1）居住年数	19
	（2）愛着心	22
	（3）定住意向	25

目次

【2 防災対策】	28
（1）家庭での災害に対する備え	28
（2）防災拠点の認知度	33
（3）災害に備えた地域の協力体制	36
（4）避難した際に心配なこと	38
（5）災害情報を得る手段として有効だと思うもの	42
【3 健康診査】	45
（1）健康診査の受診状況	45
（2）健康診査を受けなかった理由	48
【4 高齢者施策】	52
（1）要介護時における暮らし方	52
（2）区に望む高齢者保健福祉サービス	56
（3）区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス	59
【5 子育て支援】	61
（1）子育てに関する悩みの相談	61
（2）重要と考える子育て支援策	65
（3）さらに充実を図る必要がある子育て支援策	69
（4）区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス	73
【6 防犯対策】	75
（1）不安に感じる犯罪	75
（2）防犯のために行っていること	79
（3）区に特に力を入れてほしい施策	83
【7 スポーツ】	87
（1）過去1年間に行ったスポーツや運動の種類	87
（2）過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度	92
【8 地域のコミュニティ活動】	96
（1）新型コロナ感染症拡大以前のコミュニティ活動	96
（2）コロナ禍での影響	98
（3）コミュニティに求めるもの	100
【9 築地魚河岸】	103
（1）「築地魚河岸」への来場経験	103
（2）「築地魚河岸」への来場目的	106
（3）「築地魚河岸」に対する印象やイメージ	108

【10 受動喫煙防止対策】	110
(1) 「中央区たばこルール」の認知度	110
【11 デジタル技術を活用した区民サービス】	113
(1) 区に進めてほしいデジタル技術を活用した区民サービス	113
【12 広報】	116
(1) 広報紙の閲覧状況	116
(2) 広報紙の入手方法	120
(3) 区政情報を得る手段	122
【13 環境問題】	126
(1) 環境を守るための取り組み	126
(2) 今後の家庭での取り組み	129
(3) 企業の責任としての取り組み	132
【14 公園の魅力向上】	135
(1) 区立公園を利用して満足していること	135
(2) 今後の区立公園のあり方	138
【15 今後のまちづくり】	141
(1) 10年後の中央区が「どのようなまち」になっていると良いか	141
【16 施策の要望・評価】	145
(1) 区の施策の満足度と重要度	145
(2) 区の施策への要望	152
V 結果の数表	157
VI 使用した調査票	179

I 調査のあらまし

I 調査のあらまし

1 調査の目的

区民の生活環境への意識、区の施策に対する評価および区政への意見・要望を把握し、本区の行政施策上の参考資料とする。

2 調査の項目

今回の調査では、次の16項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 防災対策
- (3) 健康診査
- (4) 高齢者施策
- (5) 子育て支援
- (6) 防犯対策
- (7) スポーツ
- (8) 地域のコミュニティ活動
- (9) 築地魚河岸
- (10) 受動喫煙防止対策
- (11) デジタル技術を活用した区民サービス
- (12) 広報
- (13) 環境問題
- (14) 公園の魅力向上
- (15) 今後のまちづくり
- (16) 施策の要望・評価

3 調査の設計

- | | |
|----------|--|
| (1) 調査対象 | 中央区に居住する満18歳以上の男女（外国籍の方を除く） |
| (2) 対象者 | 2,000人 |
| (3) 抽出方法 | 無作為抽出法
令和4年4月1日現在の住民基本台帳に登録された満18歳以上の男女138,531人から一定の割合で系統的に抽出 |
| (4) 調査方法 | 郵送法（郵送に準じた配布－郵送回収） |
| (5) 調査時期 | 令和4年4月26日（火）～6月6日（月） |
| (6) 調査機関 | 株式会社エスピー研 |

4 回収結果

(1) 地域別対象者数・回収数・回収率

地域	対象者	回収数	回収率(%)
京橋地域	506	249	49.2
日本橋地域	627	317	50.6
月島地域 (無回答)	867	424	48.9
計	2,000	1,004	50.2

(2) 無効票(率)・無効内訳(率)

事故内訳	実数(率)	内訳比率
転居	28(1.4)	87.5
その他	4(0.2)	12.5
計	32(1.6)	100.0

* 宛名なしで返送されてきた調査票を転居とした。

* 高齢や病気などの理由による調査辞退者をその他とした。

5 地域区分

集計にあたっては、地域特性を把握するため、区役所、特別出張所管内別に、京橋・日本橋・月島の3地域に区分した。

6 この報告書の見方

(1) 注意事項

- ①この報告書の設問および図表中のnとは、設問に対する回答者数で、比率算出の基数を示す。
- ②回答の比率(%)はnを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位までを示した。従って、合計が100%にならない場合がある。
- ③グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- ④回答者数が20に満たないものについては、図示するに留め、この報告書の中では特に取りあげていないものもある。
- ⑤本文中で、百分率の比較をする際には、ポイントと表記している。
- ⑥統計数値を考察するにあたっては、表現をおおむね以下のとおりとしている。

例	表現
20.0～20.4%	2割
20.5～20.9%	約2割
21.0～23.9%	2割を超える
24.0～26.4%	2割台半ば
26.5～28.9%	3割近く
29.0～29.4%	約3割
29.5～29.9%	3割

- ⑦クロス集計の図表では、分析軸となる質問（性別、性／年齢別など）に無回答だった人については掲載していない。そのため、各層の n の合計が総数とは一致しない場合がある。
- ⑧複数回答の設問におけるクロス集計の分析については、タイトルに（上位10項目）や（5項目）など書き添えているものもある。その場合、「その他」や「無回答」などは項目数として含めずに数えている。

（2）ライフステージについて

ライフステージとは、人間の一生を年齢や結婚、子どもの成長、子どもの独立、子どもの同居の有無などによっていくつかの段階に分けたものである。例えば、今回の調査で30歳代のライフステージ構成をみると、子どもがいないか未就学児のいる「家族形成期」（64.3%）が最も高いが、「独身期」（23.8%）や小・中学生の子どものいる「家族成長前期」（8.3%）もある。このように同じ30歳代でも人生段階は異なり、未就学児のいる人と小・中学生のいる人では、関心を持つ問題なども異なってくる。ライフステージによる分析は、単なる年齢別とは違う人生段階に目を向けた点に特徴がある。

今回の調査では、家族の状況を6分類して、回答者にどの段階であるかを答えてもらい、年齢を考慮して、最終的に「その他」を含む7分類にまとめた。

- ①独身期 = 独身（18～39歳、学生など：親と同居含む）
- ②家族形成期 = 子どものいない夫婦（18～39歳）、
子どもあり（一番上が小学校入学前）
- ③家族成長前期 = 子どもあり（一番上が小・中学生）
- ④家族成長後期 = 子どもあり（一番上が高・大学生）
- ⑤家族成熟期 = 64歳以下で子どもあり
（一番上または子ども全員が卒業、就職、結婚など）
- ⑥老齢期 = 65歳以上で子どもあり
（一番上または子ども全員が卒業、就職、結婚など）
独身（65歳以上）、子どものいない夫婦（65歳以上）
- ⑦その他 = 独身（40～64歳）、子どものいない夫婦（40～64歳）

(3) 標本誤差

標本誤差（サンプル誤差）はおおよそ下記の通りである。等間隔抽出法、すなわち無作為抽出法の標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、比率算出の基数（n）および回答比率（P）によって異なる。

$$b = 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b=標本誤差 N=母集団
n=比率算出の基数（サンプル数）
P=回答比率

回答比率(P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,004	±1.89	±2.52	±2.89	±3.09	±3.16
700	±2.27	±3.02	±3.46	±3.70	±3.78
500	±2.68	±3.58	±4.10	±4.38	±4.47
300	±3.46	±4.62	±5.29	±5.66	±5.77

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数が1,004で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.09%以内（56.91～63.09%）である」とみることができる。

7 調査方法略歴

この報告書の一部の設問において過年度比較をしている。比較に用いている各調査年の調査手法をまとめた。

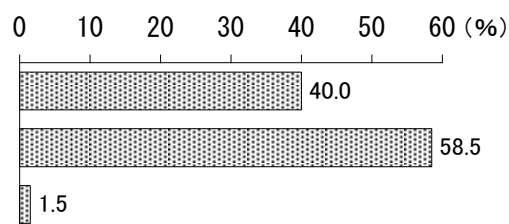
調査年	調査方法	説明	対象とした年齢
昭和63年	面接法	調査員による個別面接調査	満20歳以上
平成4年	面接法	調査員による個別面接調査	満20歳以上
平成8年	面接法	調査員による個別面接調査	満20歳以上
平成12年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成16年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成17年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成18年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成19年	留置法	郵送配布－訪問回収	満20歳以上
平成20年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満20歳以上
平成21年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満20歳以上
平成22年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満20歳以上
平成23年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満20歳以上
平成24年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満20歳以上
平成25年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満20歳以上
平成26年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満20歳以上
平成27年	郵送法	郵送配布－郵送回収	満20歳以上
平成28年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
平成29年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
平成30年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
令和元年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
令和2年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
令和3年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上
令和4年	郵送法	郵送に準じた配布－郵送回収	満18歳以上

Ⅱ 回答者の属性

II 回答者の属性

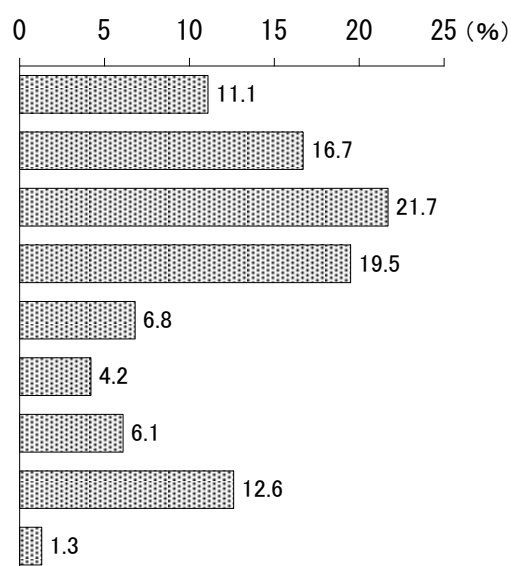
1 性別

	基数	構成比
1 男性	402	40.0%
2 女性	587	58.5
(無回答)	15	1.5
合計	1,004	100.0



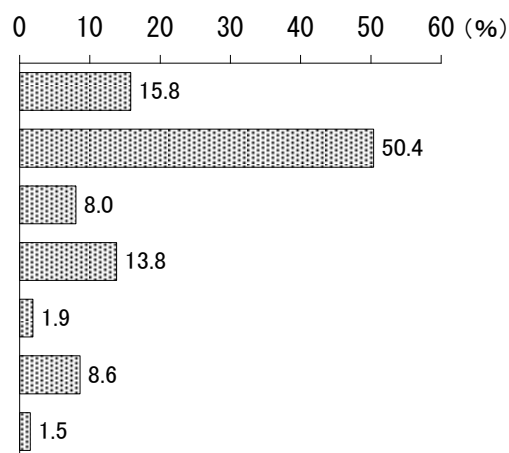
2 年齢

	基数	構成比
1 18～29歳	111	11.1%
2 30歳代	168	16.7
3 40歳代	218	21.7
4 50歳代	196	19.5
5 60～64歳	68	6.8
6 65～69歳	42	4.2
7 70～74歳	61	6.1
8 75歳以上	127	12.6
(無回答)	13	1.3
合計	1,004	100.0



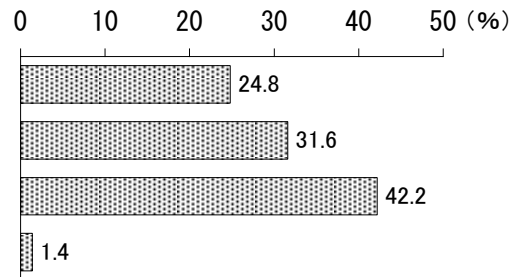
3 職業

	基数	構成比
1 自営業 (家族従業を含む)	159	15.8%
2 勤め人	506	50.4
3 アルバイト・パートタイマー	80	8.0
4 無職 (主婦・主夫)	139	13.8
5 無職 (学生)	19	1.9
6 無職 (その他)	86	8.6
(無回答)	15	1.5
合計	1,004	100.0



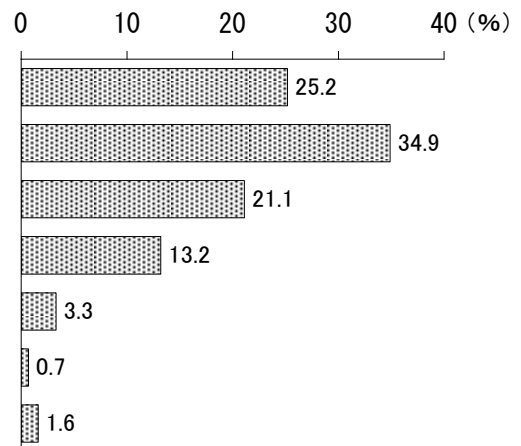
4 居住地域

	基数	構成比
1 京橋地域	249	24.8%
2 日本橋地域	317	31.6
3 月島地域	424	42.2
(無 回 答)	14	1.4
合 計	1,004	100.0



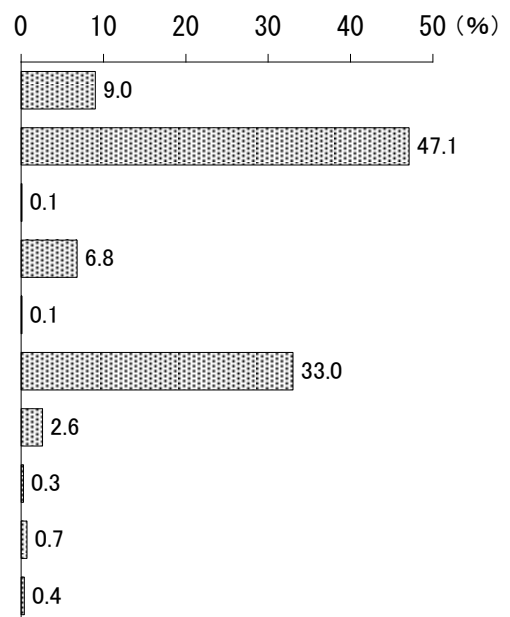
5 同居家族

	基数	構成比
1 1人	253	25.2%
2 2人	350	34.9
3 3人	212	21.1
4 4人	133	13.2
5 5人	33	3.3
6 6人以上	7	0.7
(無 回 答)	16	1.6
合 計	1,004	100.0



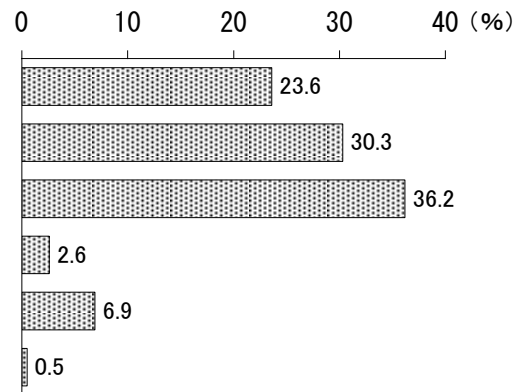
6 住居形態

	基数	構成比
1 持家 一戸建	90	9.0%
2 持家 分譲マンション	473	47.1
3 借家 一戸建	1	0.1
4 借家 公共住宅 (区立、区営、都営、公社、都市再生機構 (旧公団))	68	6.8
5 借家 民間木造アパート	1	0.1
6 借家 民間鉄筋アパート、マンション	331	33.0
7 借家 社宅、官舎、寮	26	2.6
8 借家 間借り、住込み	3	0.3
9 その他	7	0.7
(無 回 答)	4	0.4
合 計	1,004	100.0



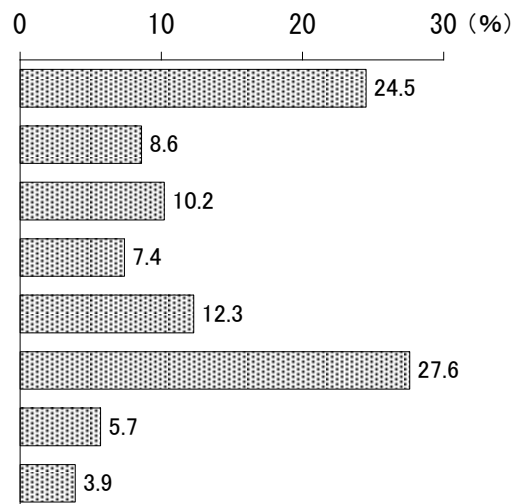
7 家族構成

	基数	構成比
1 ひとり暮らし	237	23.6%
2 夫婦だけ（1世代）	304	30.3
3 夫婦と子どもだけ（2世代）	363	36.2
4 夫婦と子どもと親（3世代）	26	2.6
5 その他	69	6.9
（無回答）	5	0.5
合計	1,004	100.0



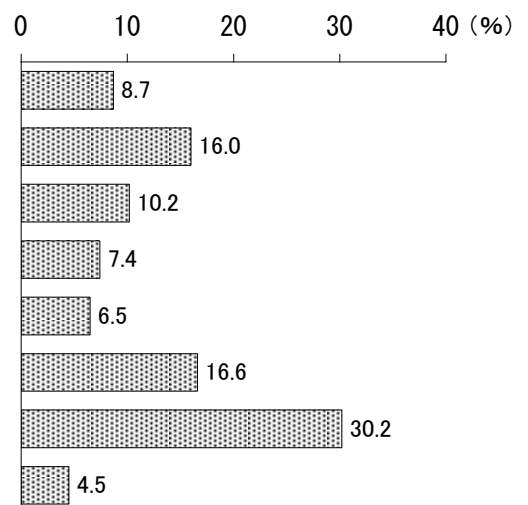
8 家族の状況

	基数	構成比
1 子どものいない夫婦	246	24.5%
2 一番上の子どもが小学校入学前	86	8.6
3 一番上の子どもが小・中学生	102	10.2
4 一番上の子どもが高校・大学生	74	7.4
5 一番上の子どもが学校卒業	123	12.3
6 独身	277	27.6
7 その他	57	5.7
（無回答）	39	3.9
合計	1,004	100.0



9 ライフステージ（7分類）

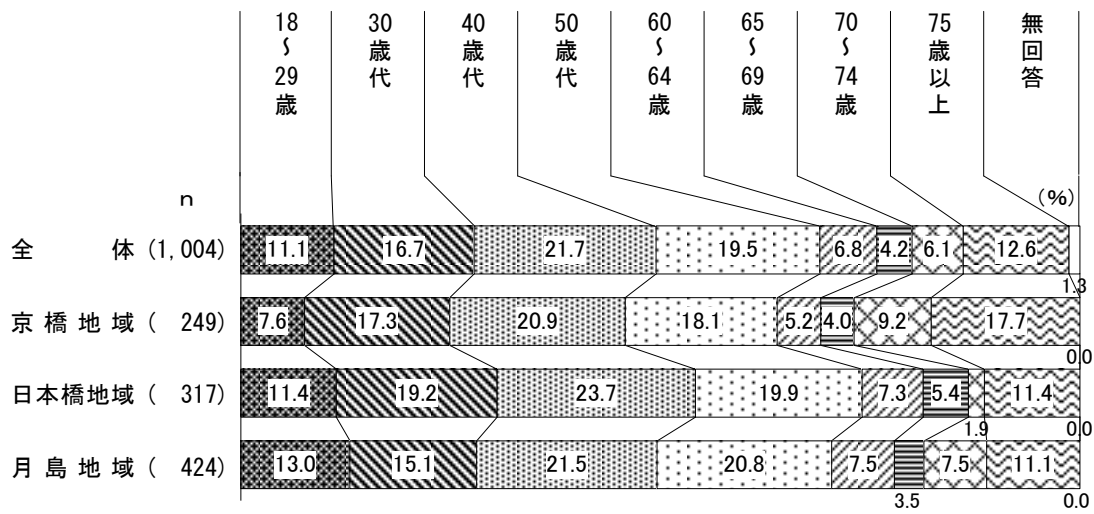
	基数	構成比
1 独身期	87	8.7%
2 家族形成期	161	16.0
3 家族成長前期	102	10.2
4 家族成長後期	74	7.4
5 家族成熟期	65	6.5
6 老齢期	167	16.6
7 その他	303	30.2
（無回答）	45	4.5
合計	1,004	100.0



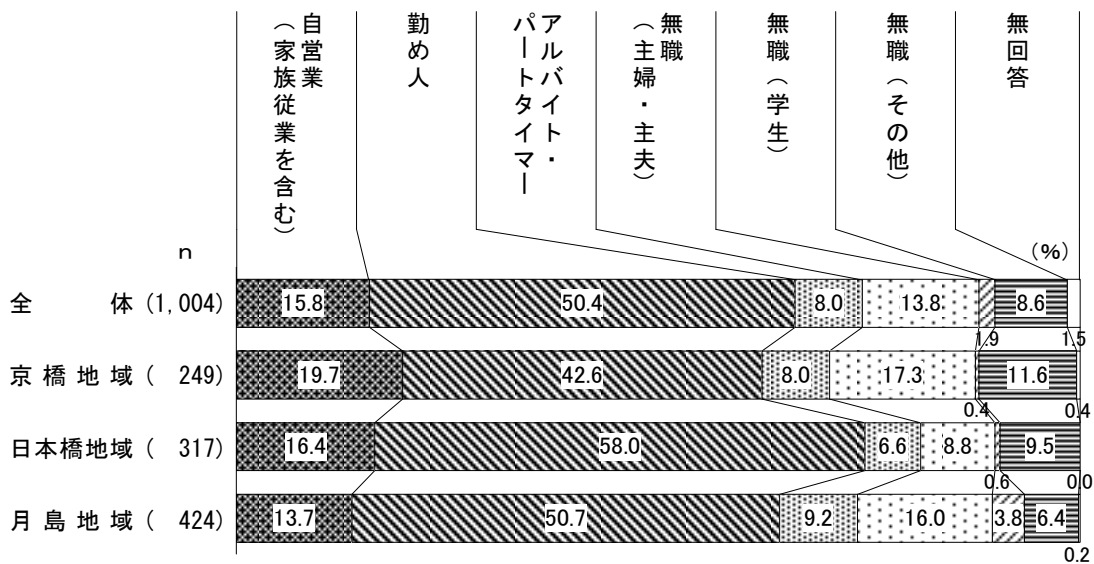
Ⅲ 地域別にみた回答者の属性

Ⅲ 地域別にみた回答者の属性

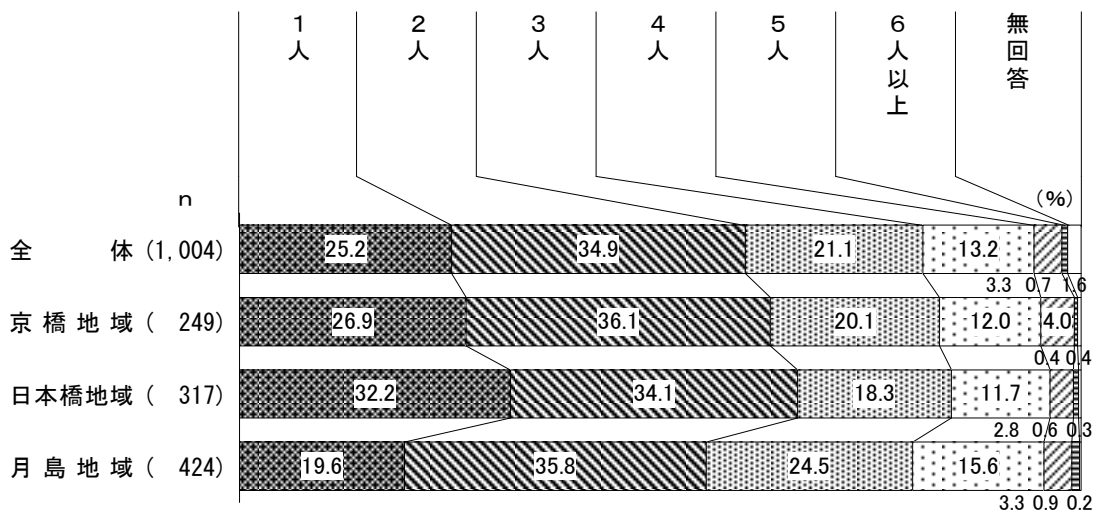
1 年齢



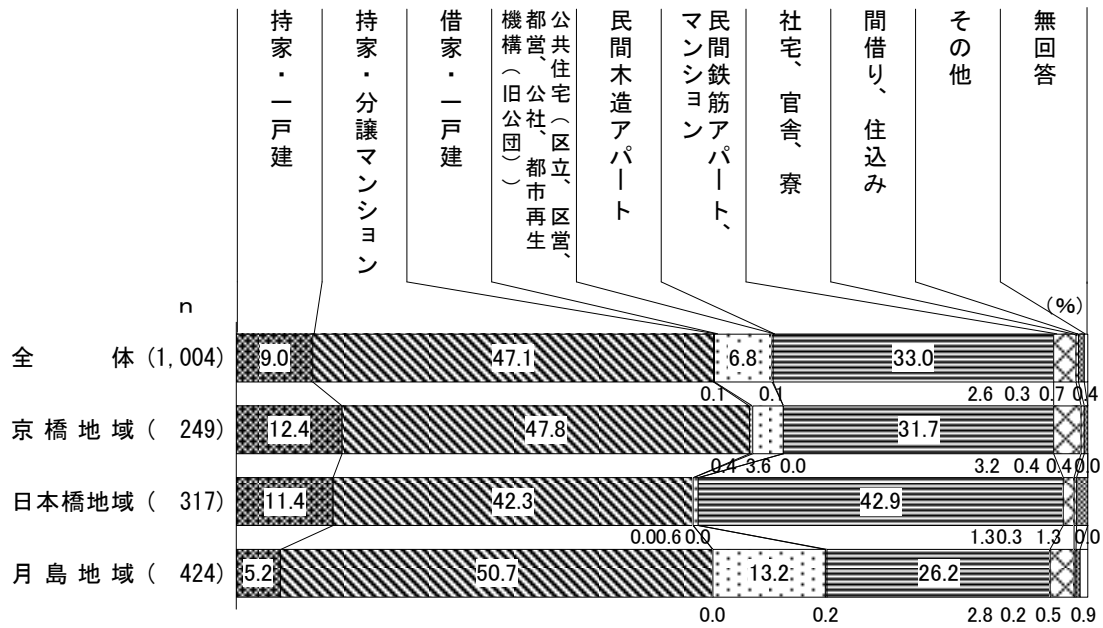
2 職業



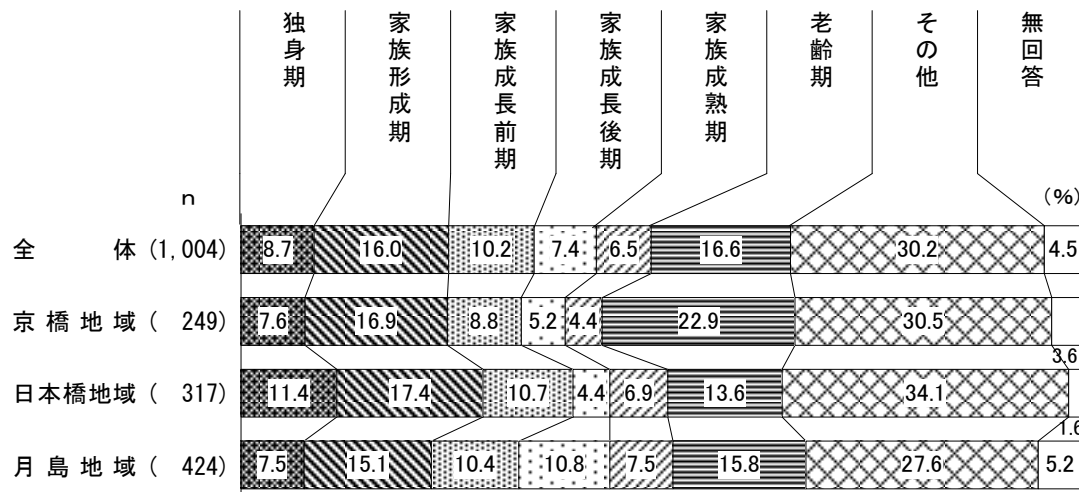
3 同居家族



4 住居形態



5 ライフステージ



IV 調査結果の分析

IV 調査結果の分析

【1 定住性】

(1) 居住年数

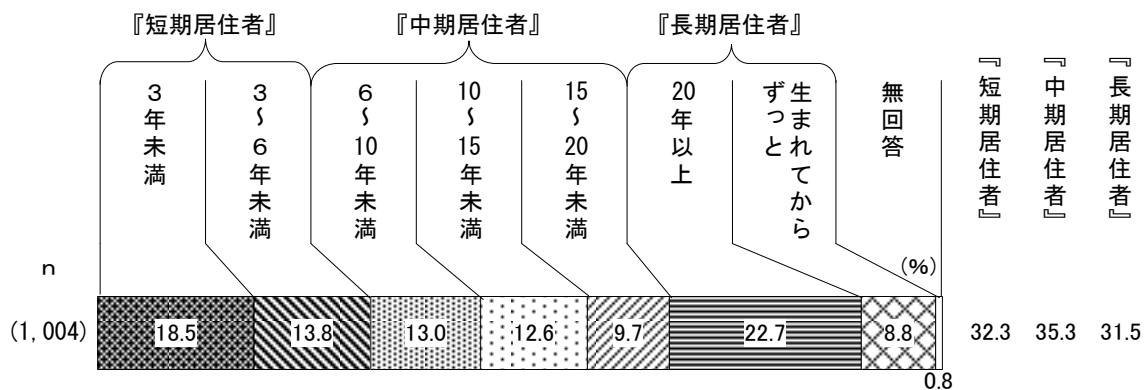
◇『長期居住者』が3割を超え、『中期居住者』が3割台半ば、『短期居住者』が3割を超える

問1 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。(○は1つ)					
n = 1,004					
1	3年未満	18.5%	5	15～20年未満	9.7
2	3～6年未満	13.8	6	20年以上	22.7
3	6～10年未満	13.0	7	生まれてからずっと	8.8
4	10～15年未満	12.6		(無回答)	0.8

居住年数は、「20年以上」(22.7%)が最も高くなっており、「生まれてからずっと」(8.8%)と合わせた『長期居住者』(31.5%)は3割を超えている。

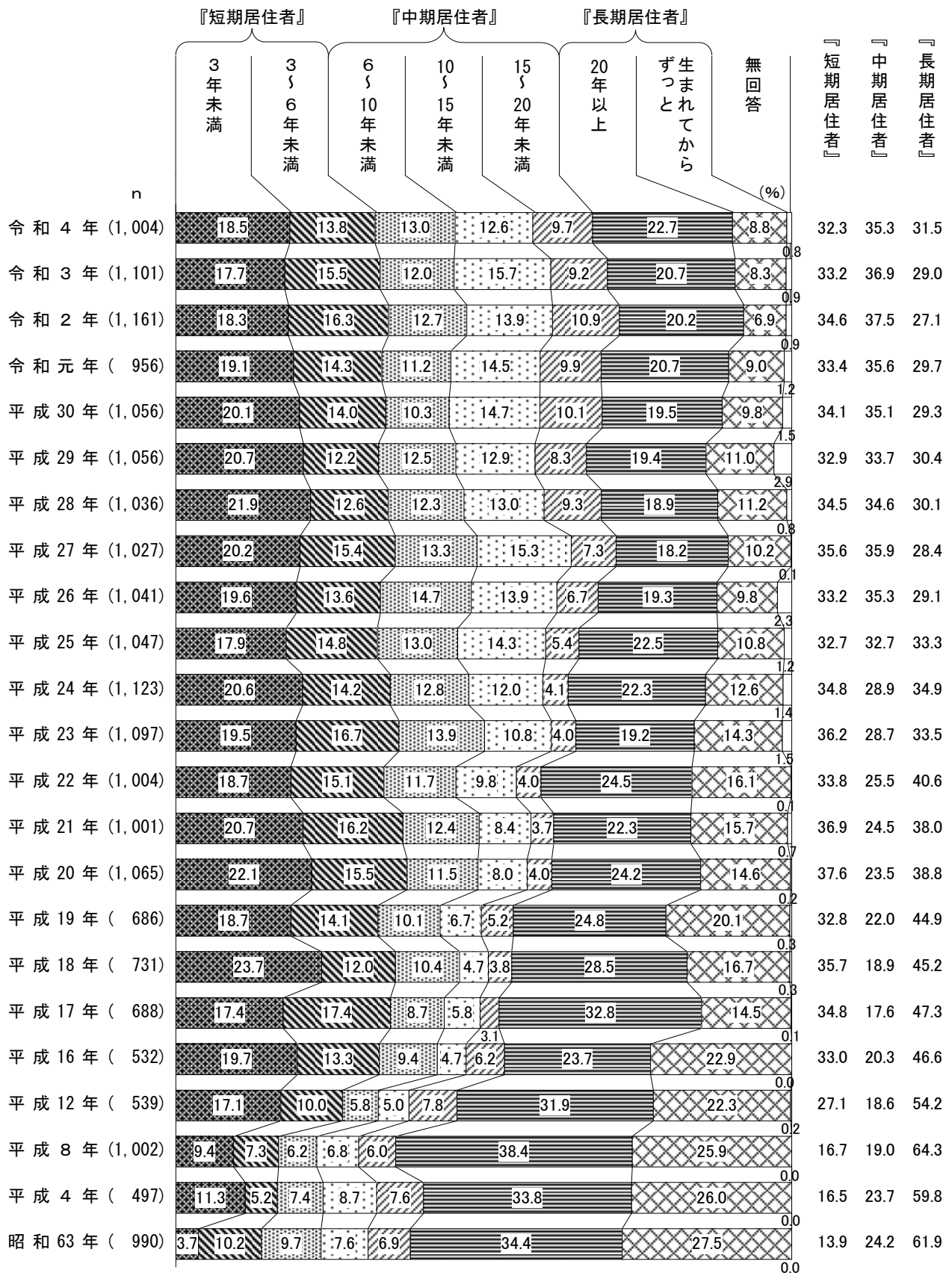
また、「6～10年未満」(13.0%)と「10～15年未満」(12.6%)、「15～20年未満」(9.7%)を合わせた『中期居住者』(35.3%)は3割台半ばとなっている。「3年未満」(18.5%)と「3～6年未満」(13.8%)を合わせた『短期居住者』(32.3%)は3割を超えている。(図表1-1-1)

図表1-1-1 居住年数



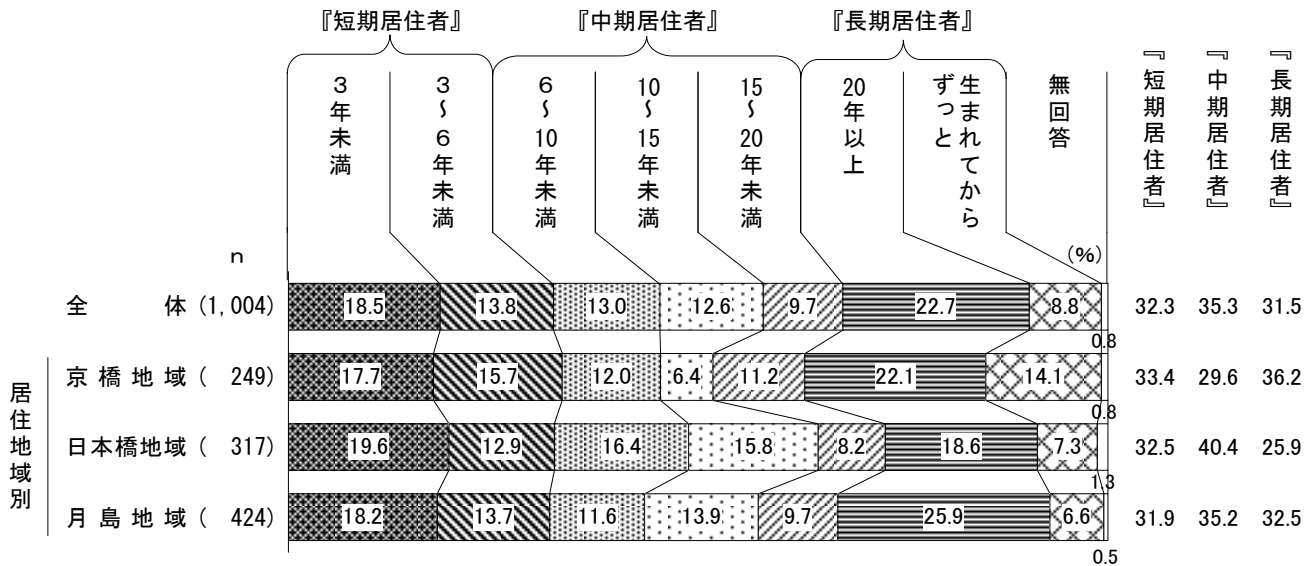
過去の調査結果と比較すると、平成26年以降大きな傾向の違いはみられない。(図表1-1-2)

図表1-1-2 居住年数一過年度比較



居住地域別でみると、『中期居住者』は日本橋地域で4割と高くなっている。『長期居住者』は京橋地域で3割台半ばと高くなっている。(図表1-1-3)

図表1-1-3 居住年数-居住地域別



(2) 愛着心

◇愛着を『感じる』人が8割台半ば

問2 あなたは、中央区に対して「わがまち」というような愛着心を感じていますか。
(○は1つ)

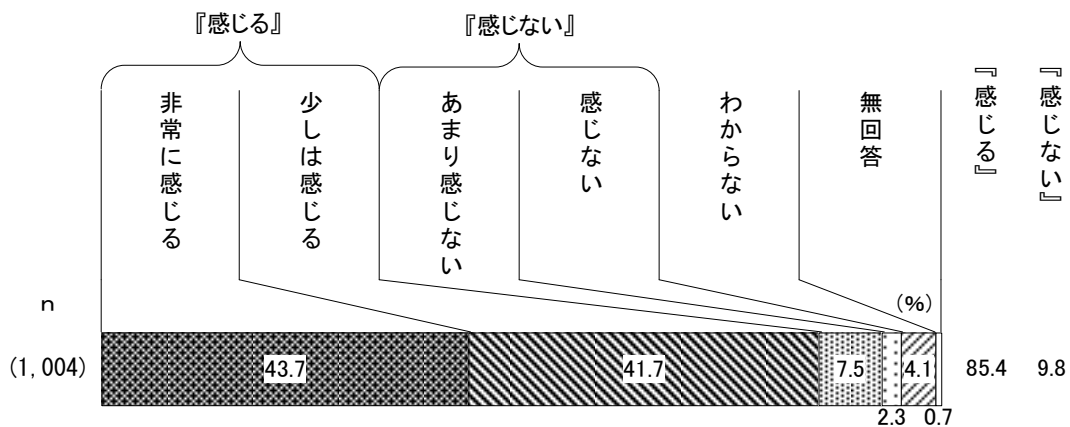
n = 1,004

1	非常に感じる	43.7%	4	感じない	2.3
2	少しは感じる	41.7	5	わからない	4.1
3	あまり感じない	7.5		(無回答)	0.7

愛着心は、「非常に感じる」(43.7%)が最も高くなっており、「少しは感じる」(41.7%)と合わせた『感じる』(85.4%)は8割台半ばとなっている。

一方、「あまり感じない」(7.5%)と「感じない」(2.3%)を合わせた『感じない』(9.8%)は1割となっている。(図表1-2-1)

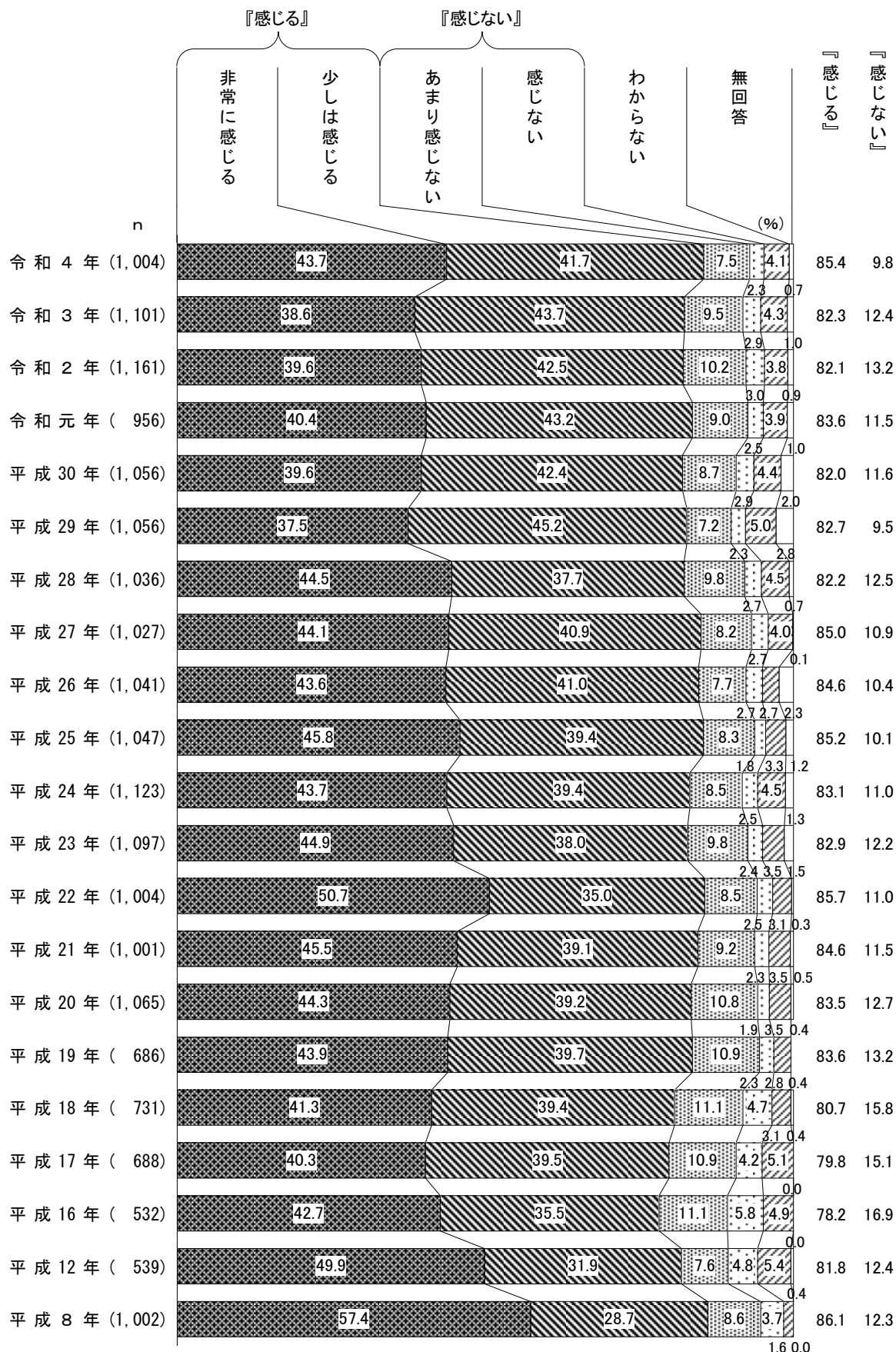
図表1-2-1 愛着心



過去の調査結果と比較すると、『感じる』は平成18年以降 8割台で推移している。

(図表 1-2-2)

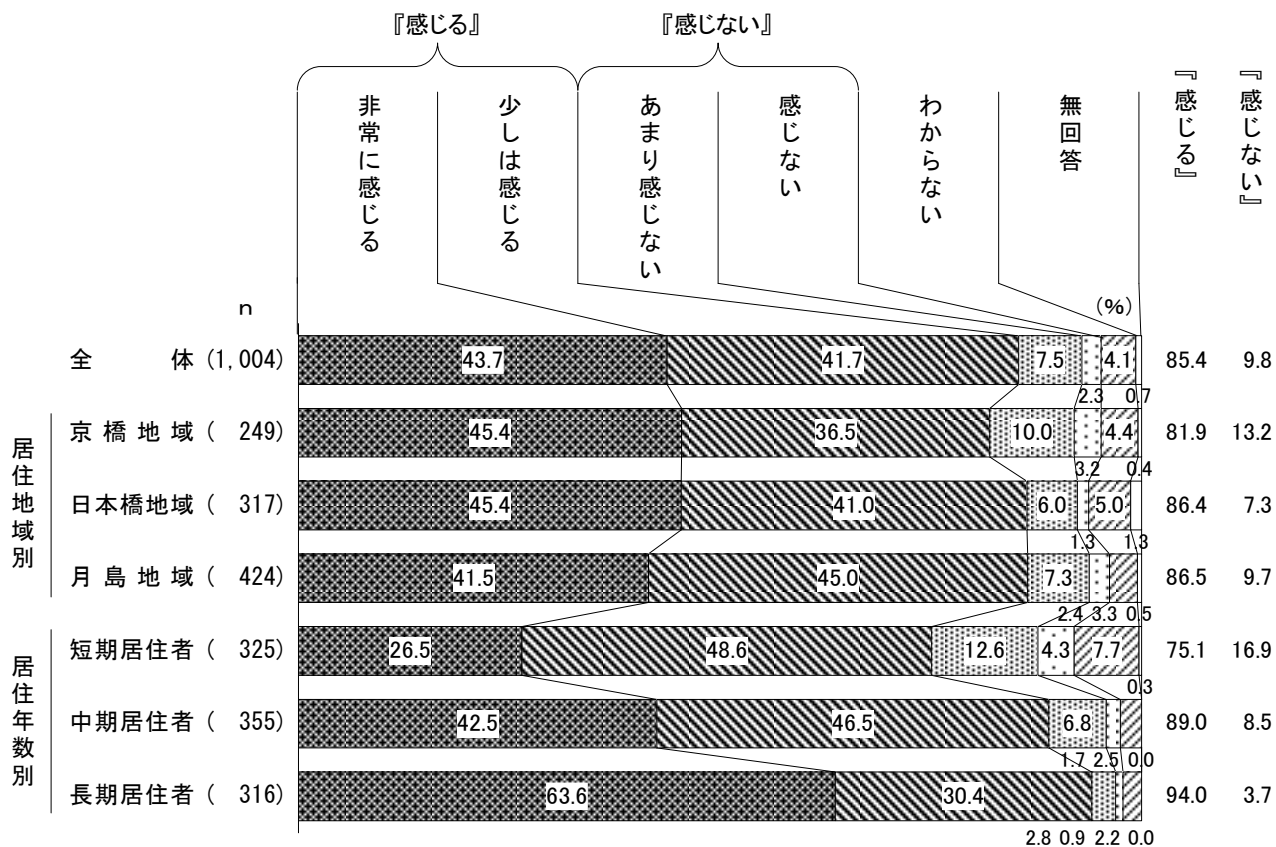
図表 1-2-2 愛着心一過年度比較



居住地域別でみると、『感じる』は月島地域で9割近くと高くなっている。

居住年数別でみると、『感じる』は長期居住者で9割台半ば、中期居住者で約9割と高くなっている。(図表1-2-3)

図表1-2-3 愛着心—居住地域別・居住年数別



(3) 定住意向

◇『定住意向』が8割台半ば

問3 あなたは、中央区に今後もずっと住みたいと思っていますか。(〇は1つ)

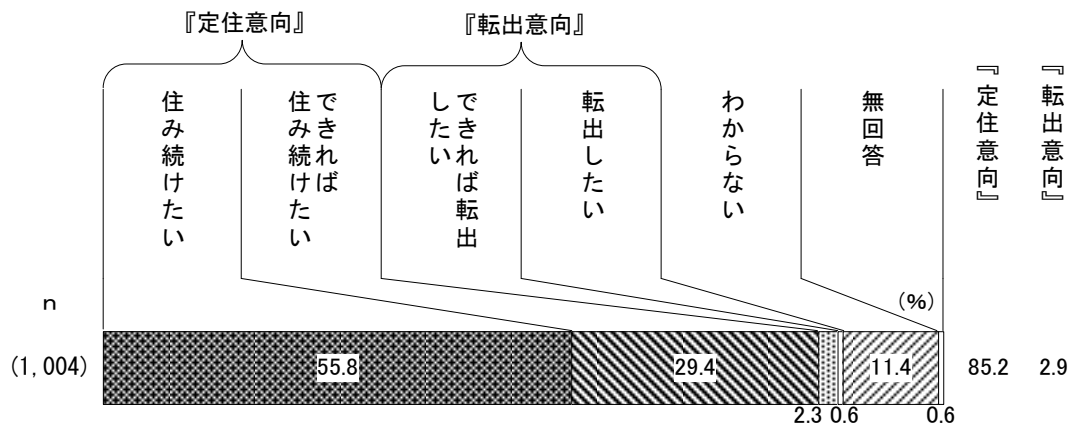
n = 1,004

1	住み続けたい	55.8%	4	転出したい	0.6
2	できれば住み続けたい	29.4	5	わからない	11.4
3	できれば転出したい	2.3		(無回答)	0.6

定住意向は、「住み続けたい」(55.8%)が最も高くなっており、「できれば住み続けたい」(29.4%)と合わせた『定住意向』(85.2%)は8割台半ばとなっている。

一方、「できれば転出したい」(2.3%)と「転出したい」(0.6%)を合わせた『転出意向』(2.9%)は1割に満たない。(図表1-3-1)

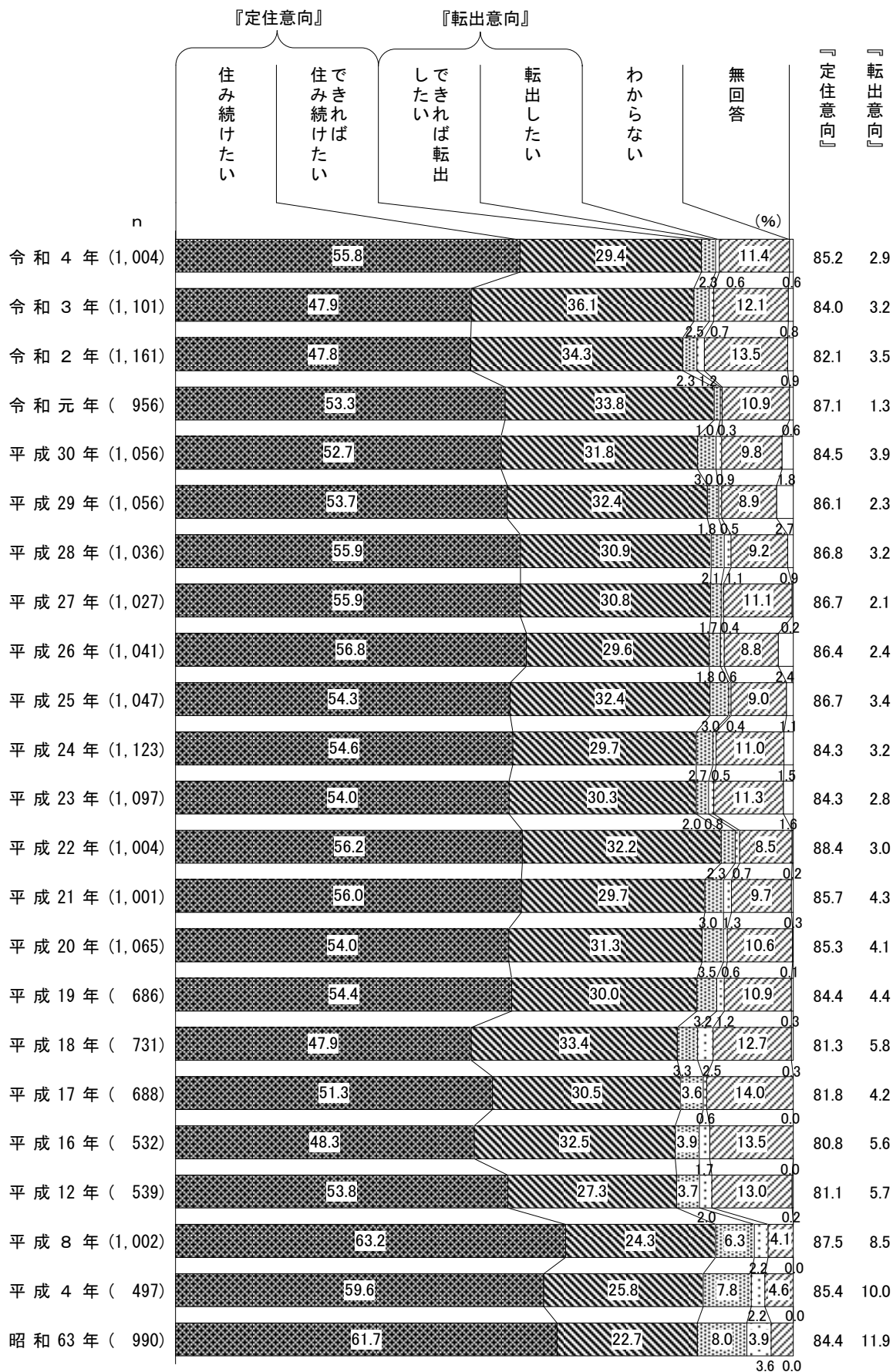
図表1-3-1 定住意向



過去の調査結果と比較すると、『定住意向』は昭和63年以降8割台で推移している。

(図表1-3-2)

図表1-3-2 定住意向-過年度比較

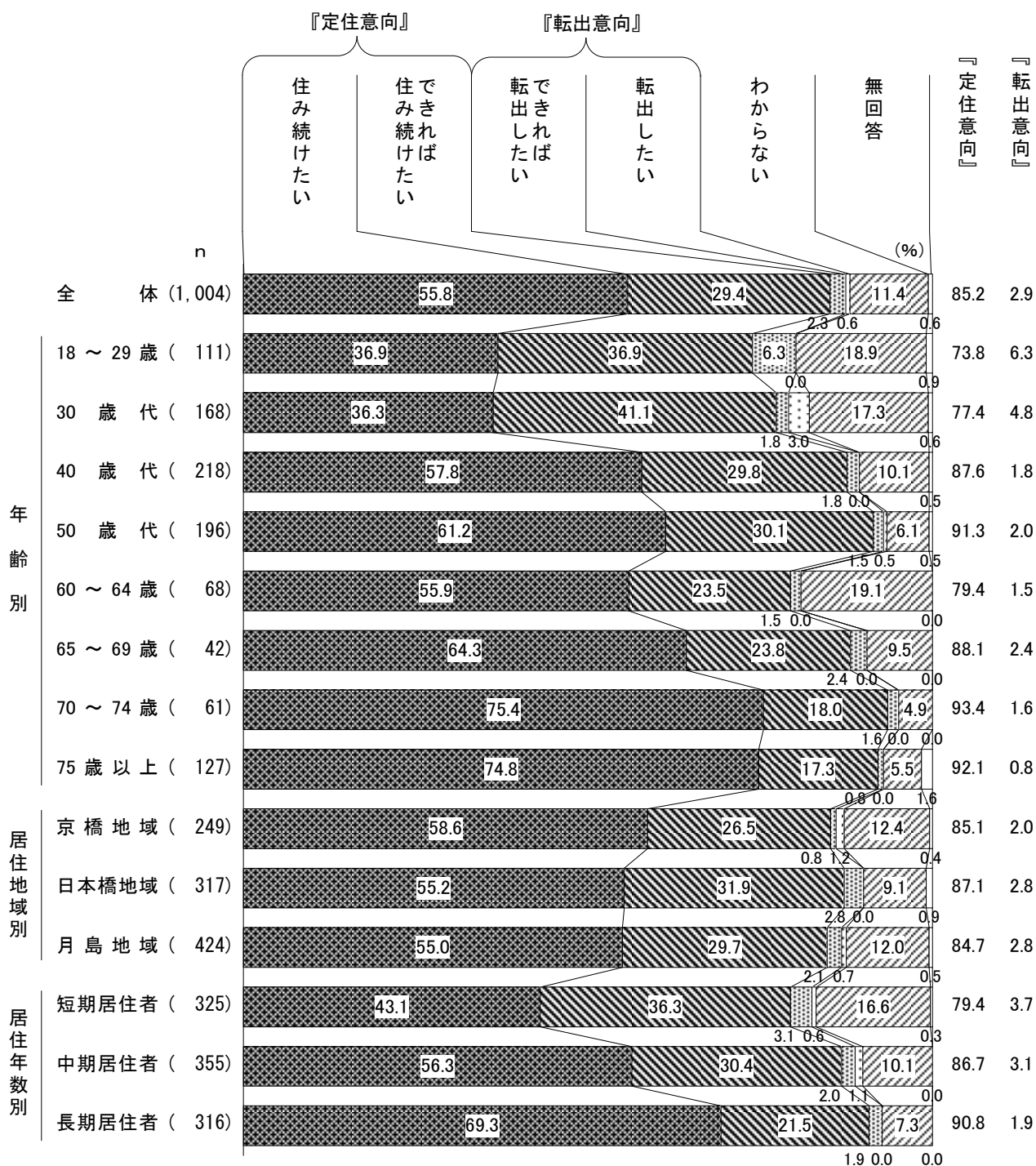


年齢別でみると、『定住意向』は50歳代と70～74歳、75歳以上で9割を超えて高くなっている。

居住地域別でみると、『定住意向』は日本橋地域で9割近くと高くなっている。

居住年数別でみると、『定住意向』は長期居住者で約9割と高くなっている。(図表1-3-3)

図表1-3-3 定住意向一年齢別・居住地域別・居住年数別



【2 防災対策】

(1) 家庭での災害に対する備え

◇「飲料水の備蓄」が7割を超える

問4 あなたのご家庭では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。(〇はいくつでも)

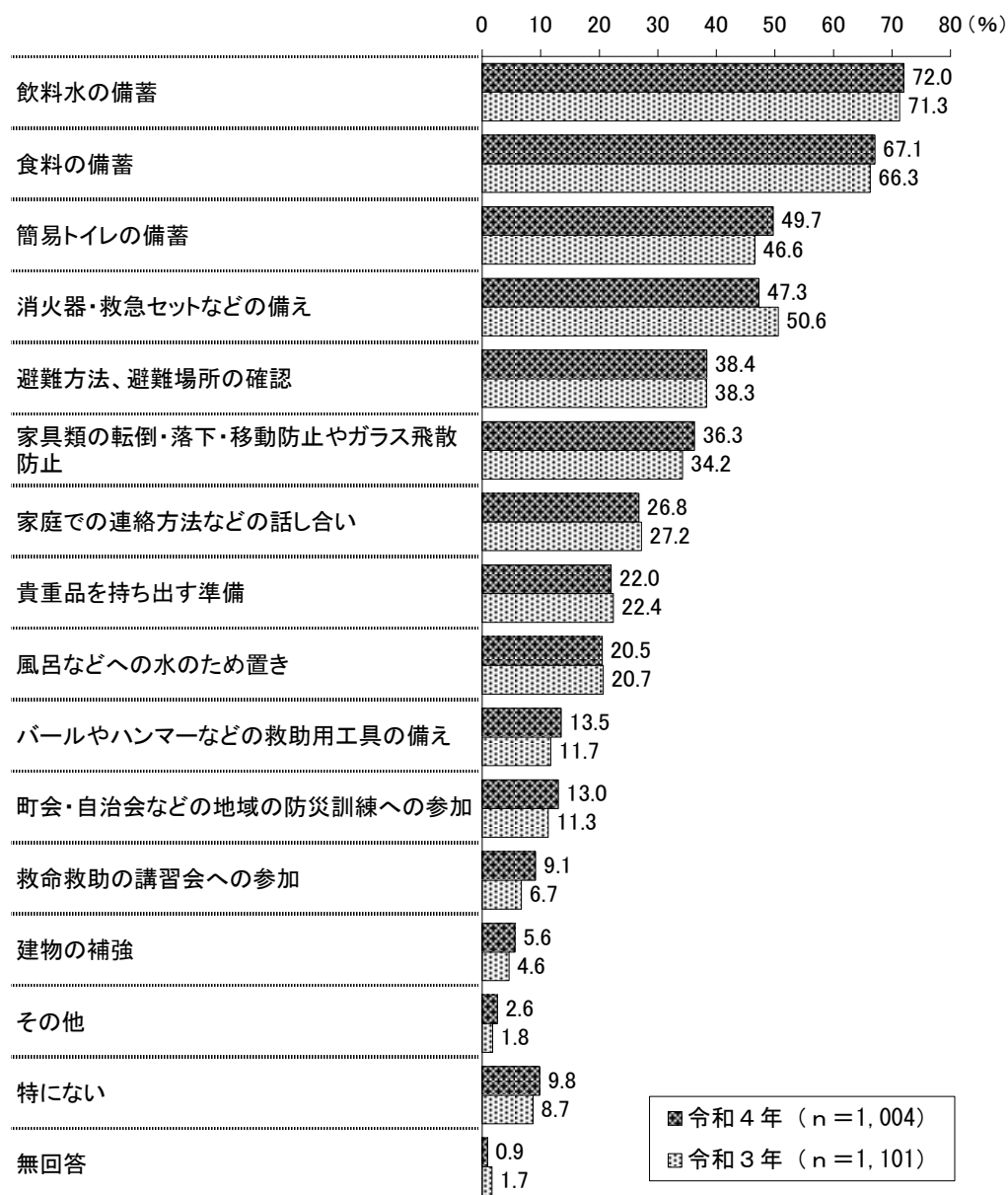
n = 1,004

1 食料の備蓄	67.1%
2 飲料水の備蓄	72.0
3 簡易トイレの備蓄	49.7
4 家具類の転倒・落下・移動防止やガラス飛散防止	36.3
5 消火器・救急セットなどの備え	47.3
6 バールやハンマーなどの救助用工具の備え	13.5
7 貴重品を持ち出す準備	22.0
8 風呂などへの水のため置き	20.5
9 救命救助の講習会への参加	9.1
10 町会・自治会などの地域の防災訓練への参加	13.0
11 避難方法、避難場所の確認	38.4
12 家庭での連絡方法などの話し合い	26.8
13 建物の補強	5.6
14 その他	2.6
15 特にない	9.8
(無回答)	0.9

家庭での災害に対する備えは、「飲料水の備蓄」(72.0%)が7割を超えて最も高くなっている。次いで、「食料の備蓄」(67.1%)、「簡易トイレの備蓄」(49.7%)、「消火器・救急セットなどの備え」(47.3%)、「避難方法、避難場所の確認」(38.4%)、「家具類の転倒・落下・移動防止やガラス飛散防止」(36.3%)などとなっている。一方、「特にない」(9.8%)は1割となっている。

昨年の調査結果と比較すると、「簡易トイレの備蓄」は3.1ポイント増加している。一方、「消火器・救急セットなどの備え」は3.3ポイント減少している。(図表2-1-1)

図表2-1-1 家庭での災害に対する備え（複数回答）

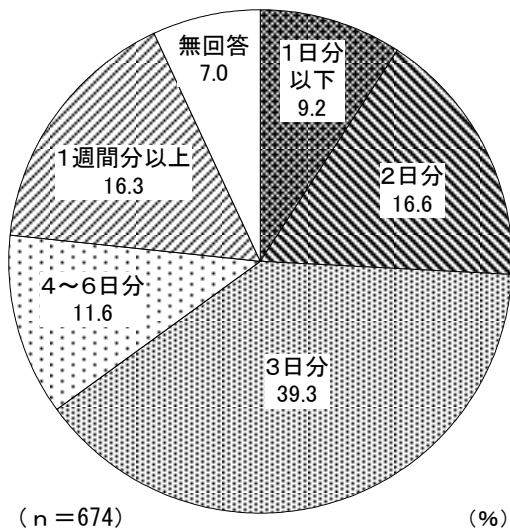


食料の備蓄日数は、「3日分」(39.3%)が約4割で最も高く、平均備蓄日数は3.92日分となっている。(図表2-1-2)

飲料水の備蓄日数は、「3日分」(30.6%)が約3割で最も高く、平均備蓄日数は4.49日分となっている。(図表2-1-3)

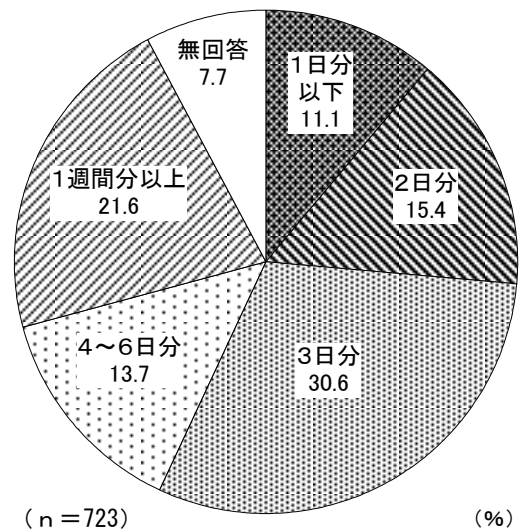
簡易トイレの備蓄日数は、「3日分」(30.3%)が3割で最も高く、平均備蓄日数は4.85日分となっている。(図表2-1-4)

図表2-1-2 食料の備蓄日数



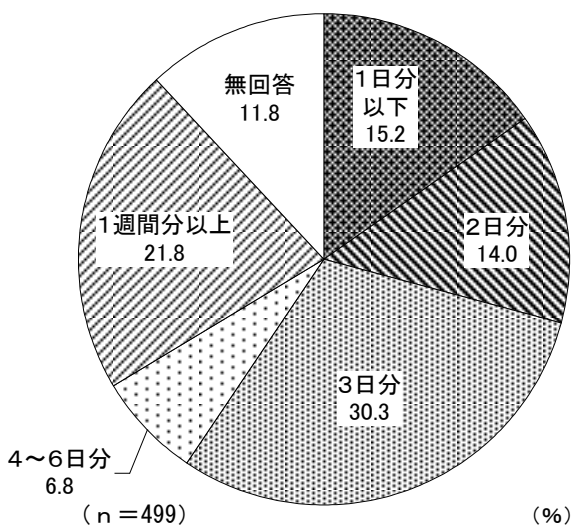
平均備蓄日数 : 3.92日

図表2-1-3 飲料水の備蓄日数



平均備蓄日数 : 4.49日

図表2-1-4 簡易トイレの備蓄日数



平均備蓄日数 : 4.85日

過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「飲料水の備蓄」と「食料の備蓄」が引き続き上位2項目となっている。(図表2-1-5)

図表2-1-5 家庭での災害に対する備え一過年度比較

調査年	n	(%)															
		飲料水の備蓄	食料の備蓄	簡易トイレの備蓄	消火器・救急セットなどの備え	避難方法、避難場所の確認	家具類の転倒・落下・移動防止やガラス飛散防止	家具類の転倒・落下・移動防止	家庭での連絡方法などの話し合い	貴重品を持ち出す準備	風呂などへの水のため置き	バールやハンマーなどの救助用工具の備え	町会・自治会などの地域の防災訓練への参加	救命救助の講習会への参加	建物の補強	その他	特になし
令和4年	1,004	72.0	67.1	49.7	47.3	38.4	36.3	26.8	22.0	20.5	13.5	13.0	9.1	5.6	2.6	9.8	0.9
令和3年	1,101	71.3	66.3	46.6	50.6	38.3	34.2	27.2	22.4	20.7	11.7	11.3	6.7	4.6	1.8	8.7	1.7
令和2年	1,161	69.1	65.1	40.1	45.4	34.4	33.0	27.6	20.2	17.6	11.6	13.6	9.3	4.2	2.1	11.8	1.3
令和元年	956	67.1	59.5	41.0	49.5	35.7	36.6	29.6	21.2	19.5	12.9	15.5	12.6	4.6	2.6	11.0	1.3
平成30年	1,056	63.4	54.2	37.4	46.6	33.0	36.6	27.5	18.8	18.2	11.0	15.2	11.4	5.0	2.3	12.5	1.8
平成29年	1,056	66.3	58.0	38.7	47.7	32.2	35.9	30.9	21.1	20.5	12.5	15.4	10.9	4.7	1.2	11.9	2.7
平成28年	1,036	66.4	57.0	33.2	44.8	36.0	33.5	32.7	19.6	23.5	12.5	16.0	12.7	4.5	2.6	11.1	1.1
平成27年	1,027	63.5	57.7	33.9	47.0	35.3	35.2	29.9	23.8	20.4	11.3	16.6	10.5	5.6	2.5	14.4	0.5
平成26年	1,041	67.0	60.7	36.4	50.1	37.7	37.9	33.5	22.1	25.5	12.5	16.8	14.2	4.0	2.5	10.2	3.4
平成25年	1,047	67.1	60.6	30.0	49.5	36.9	37.0	34.7	24.7	28.5	13.1	18.6	11.2	4.8	3.1	8.8	1.5
平成24年	1,123	67.7	58.9	23.5	51.6	35.5	40.1	36.2	26.2	27.0	13.1	16.5	11.0	4.2	2.2	9.0	1.8
平成23年	1,097	63.1	51.0	19.3	39.5	30.5	36.7	35.1	31.6	28.4	8.5	11.5	6.2	2.3	1.9	7.1	2.0
平成22年	1,004	42.8	37.3	※	39.5	26.7	※	21.2	17.5	21.8	6.7	16.6	7.2	5.8	1.9	19.9	2.0
平成21年	1,001	41.0	36.4	※	37.2	24.3	21.0	23.1	13.4	19.9	4.7	14.2	7.5	3.0	0.9	20.3	1.4
平成20年	1,065	41.1	24.8	※	31.7	29.6	23.6	26.1	11.0	19.5	4.2	14.3	6.5	2.1	1.6	20.5	1.9
平成19年	686	42.6	26.5	※	36.7	24.3	21.3	16.9	12.8	22.6	4.5	14.0	6.0	1.6	0.7	25.8	0.7

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

* 「家具類の転倒・落下・移動防止やガラス飛散防止」の選択肢は、令和2年以前は「家具類の転倒防止」としていた。

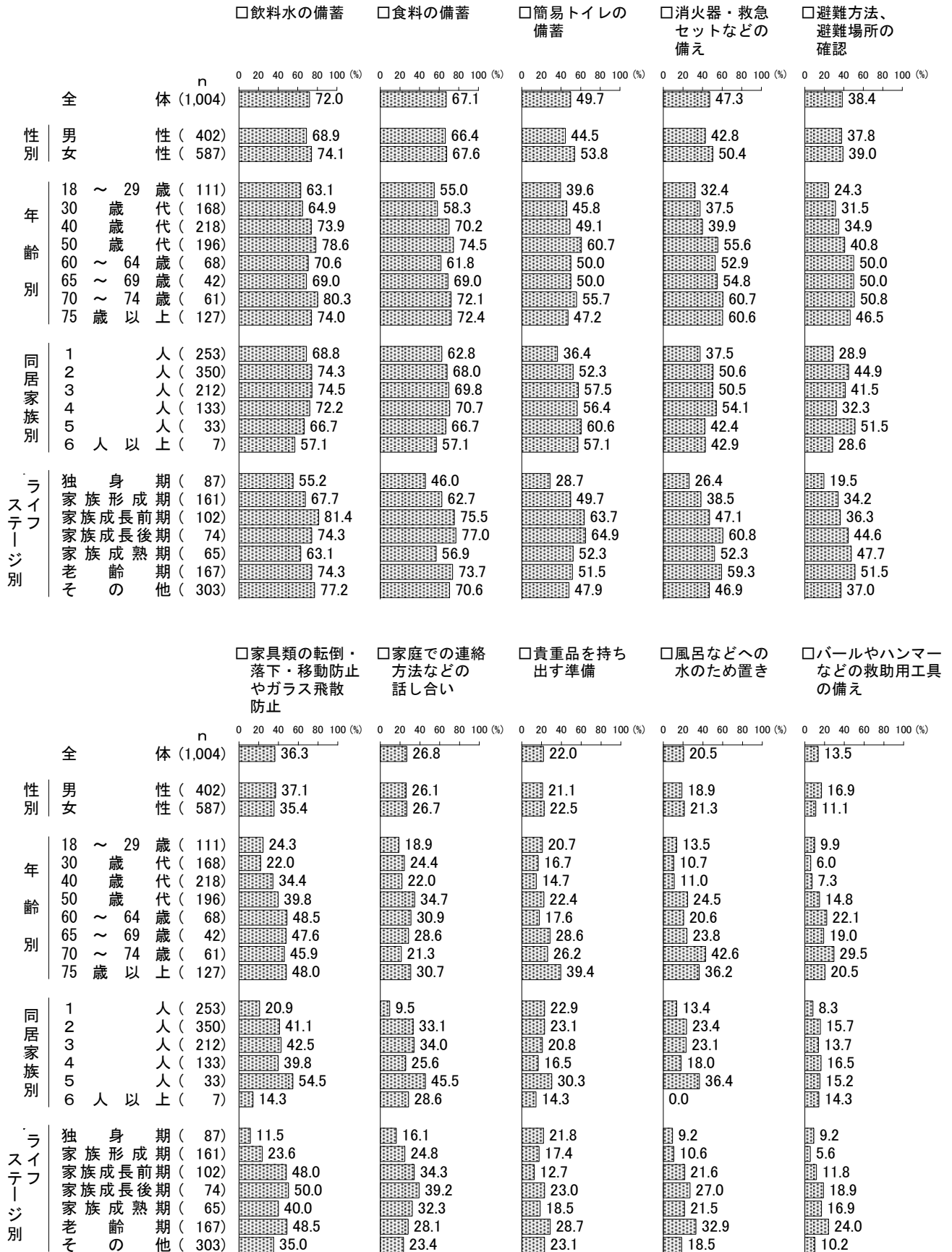
性別で見ると、女性の方が男性よりも「簡易トイレの備蓄」で9.3ポイント、「消火器・救急セットなどの備え」で7.6ポイント、「飲料水の備蓄」で5.2ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「バールやハンマーなどの救助用工具の備え」で5.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「飲料水の備蓄」は70～74歳で8割と高くなっている。「食料の備蓄」は50歳代で7割台半ばと高くなっている。「簡易トイレの備蓄」は50歳代で約6割と高くなっている。「消火器・救急セットなどの備え」は70～74歳と75歳以上で約6割と高くなっている。

同居家族別で見ると、「飲料水の備蓄」は同居家族2人と3人で7割台半ばと高くなっている。「食料の備蓄」は同居家族3人と4人で約7割と高くなっている。

ライフステージ別で見ると、「飲料水の備蓄」は家族成長前期で8割を超えて高くなっている。「食料の備蓄」は家族成長後期で8割近くと高くなっている。(図表2-1-6)

図表2-1-6 家庭での災害に対する備え—性別・年齢別・同居家族別・ライフステージ別
(上位10項目)



(2) 防災拠点の認知度

◇「知っている」が6割を超える

問5 区では区立の小・中学校などを「防災拠点」とし、食料や毛布などの備蓄や井戸を整備しています。この「防災拠点」は避難所や救護所などの機能を持っています。
あなたは、ご自分の地域の「防災拠点」を知っていますか。(〇は1つ)

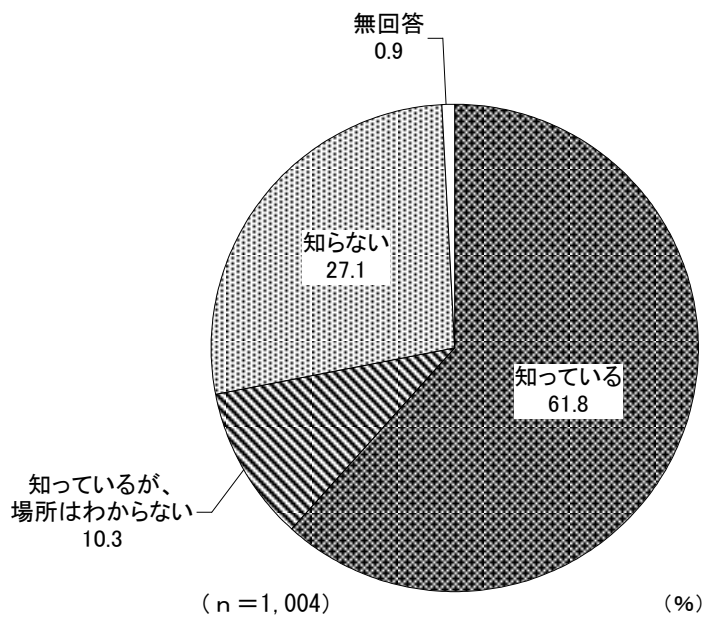
n = 1,004

1	知っている	61.8%	3	知らない	27.1
2	知っているが、場所はわからない	10.3		(無回答)	0.9

防災拠点の認知度は、「知っている」(61.8%)が6割を超えて最も高くなっている。「知っているが、場所はわからない」(10.3%)は1割で、「知らない」(27.1%)は3割近くとなっている。

(図表2-2-1)

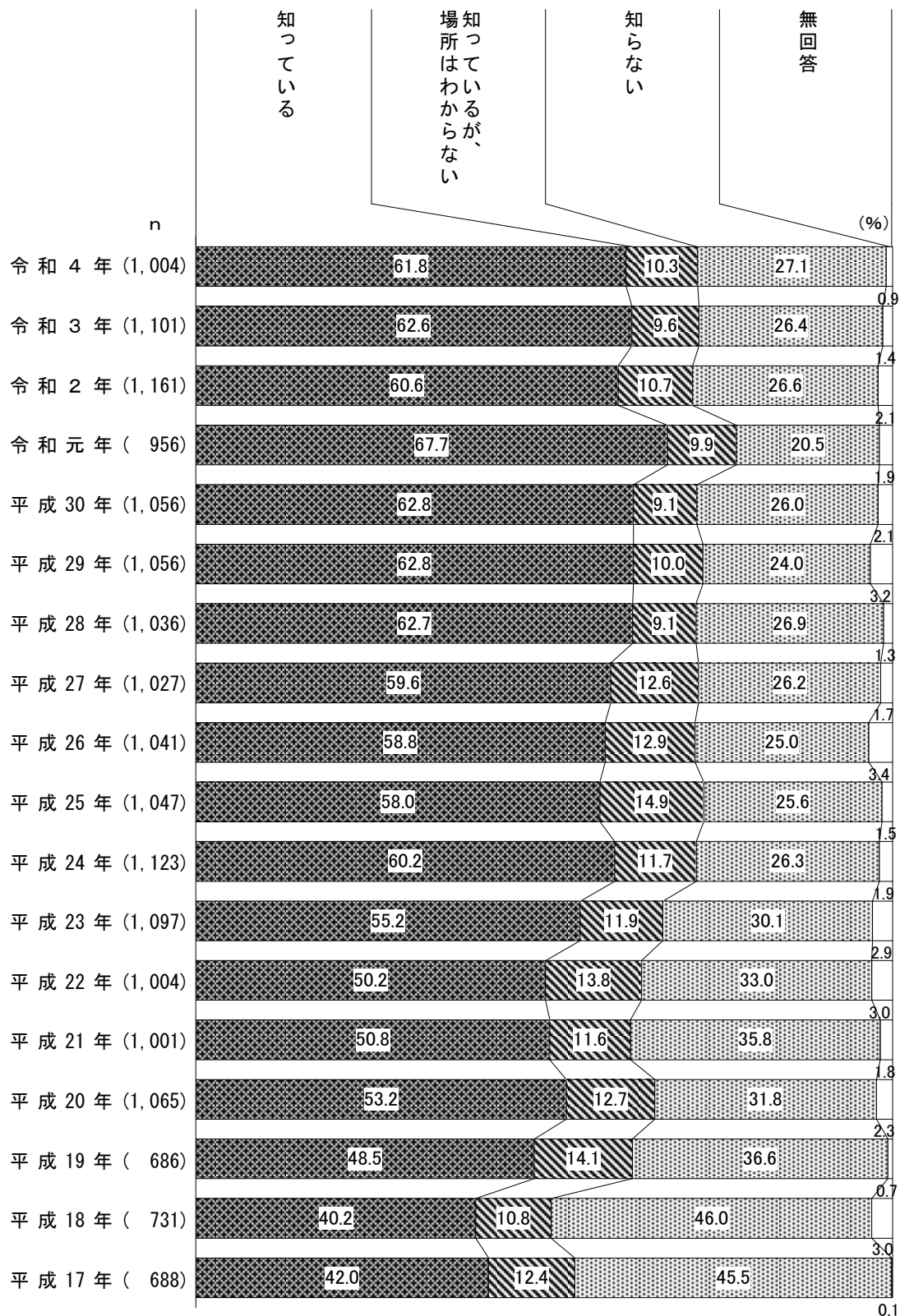
図表2-2-1 防災拠点の認知度



過去の調査結果と比較すると、「知っている」は平成28年以降6割台で推移している。

(図表2-2-2)

図表2-2-2 防災拠点の認知度一過年度比較



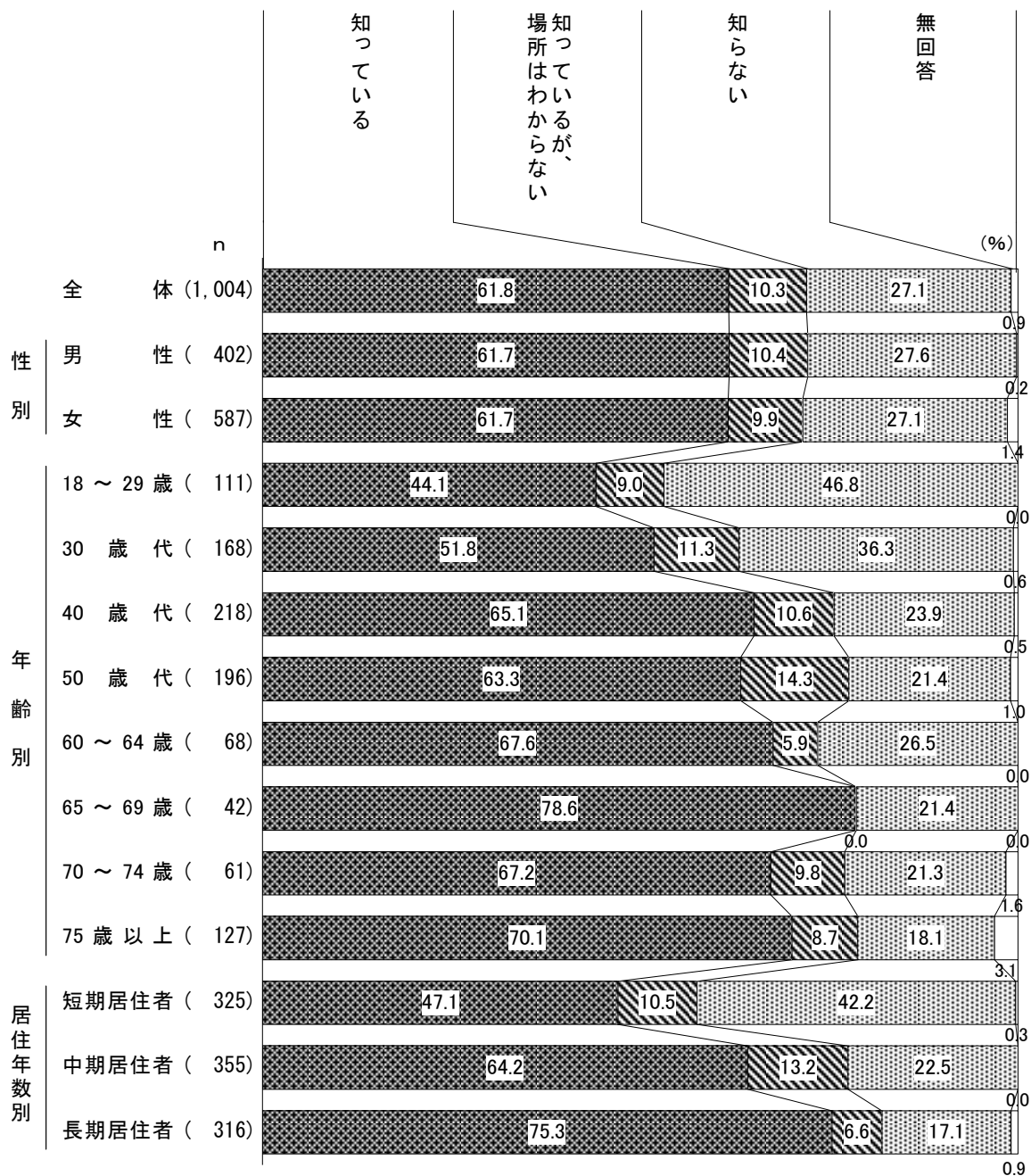
性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別でみると、「知っている」は65～69歳で8割近くと高くなっている。

居住年数別でみると、「知っている」は長期居住者で7割台半ばと高くなっている。

(図表 2-2-3)

図表 2-2-3 防災拠点の認知度—性別・年齢別・居住年数別



(3) 災害に備えた地域の協力体制

◇「知っている」が2割を超える

(問5で、「1 知っている」または「2 知っているが、場所はわからない」とお答えの方に)
問5-1 この防災拠点の災害時の運営を円滑に進めるため、町会・自治会や防災区民組織が
防災拠点運営委員会をつくり、防災訓練の実施や日頃から防災について話し合うなど、
災害に備えた協力体制をとっていることをあなたは知っていますか。(○は1つ)

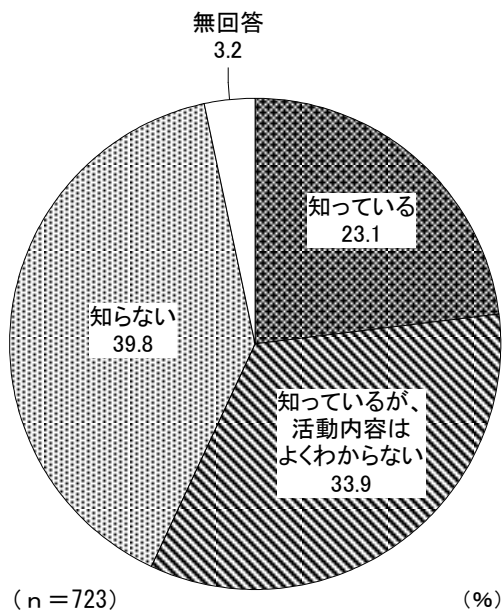
n = 723

1 知っている	23.1%	3 知らない	39.8
2 知っているが、活動内容はよくわからない	33.9	(無回答)	3.2

問5で、「知っている」または「知っているが、場所はわからない」と回答した方の、災害に備えた地域の協力体制は、「知っている」(23.1%)が2割を超えている。「知っているが、活動内容はよくわからない」(33.9%)は3割を超え、「知らない」(39.8%)は4割となっている。

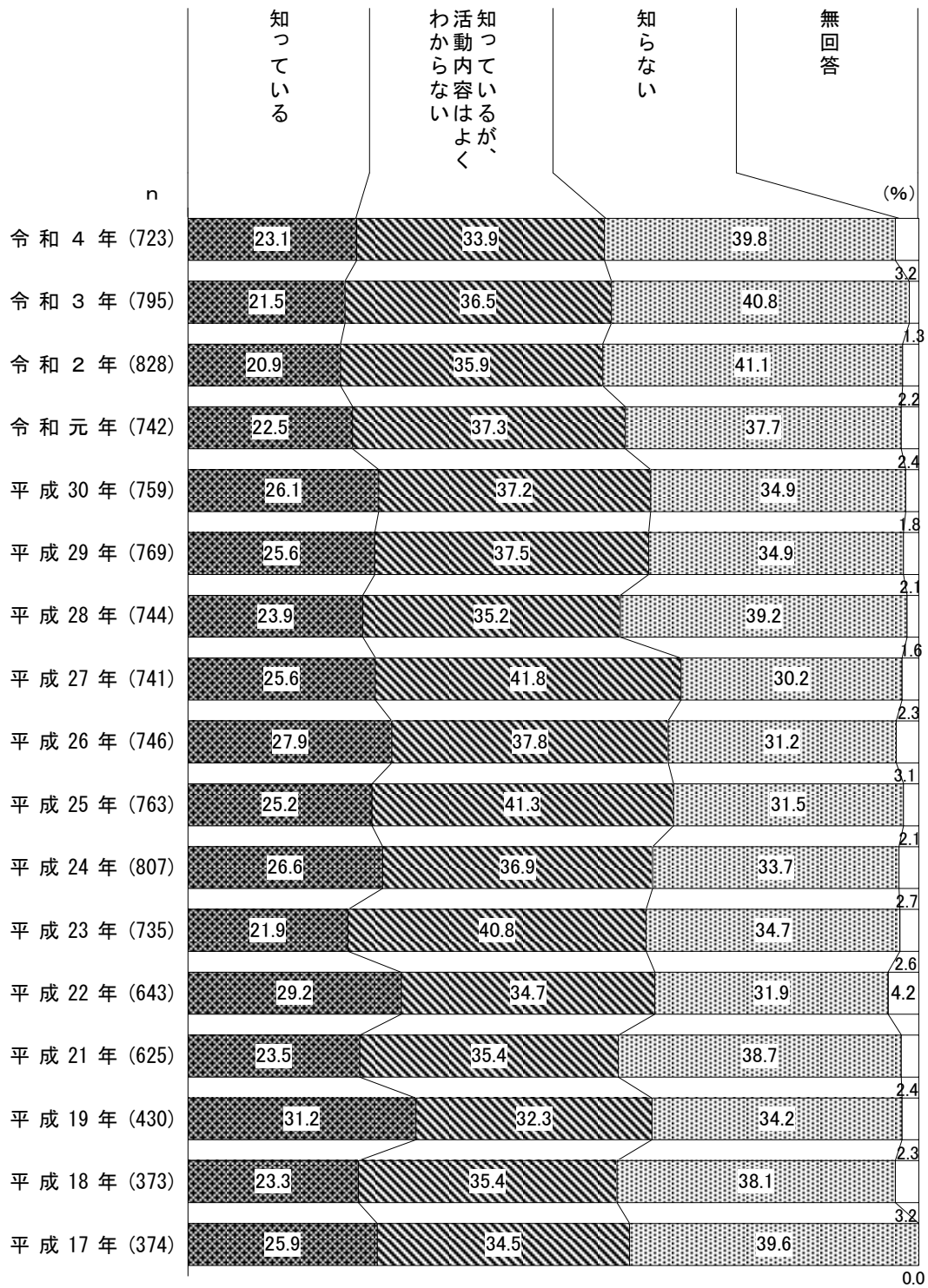
(図表2-3-1)

図表2-3-1 災害に備えた地域の協力体制



過去の調査結果と比較すると、「知らない」は令和2年以降4割前後で推移しており、大きな傾向の違いはみられない。(図表2-3-2)

図表2-3-2 災害に備えた地域の協力体制一過年度比較



(4) 避難した際に心配なこと

◇「トイレ」が約7割

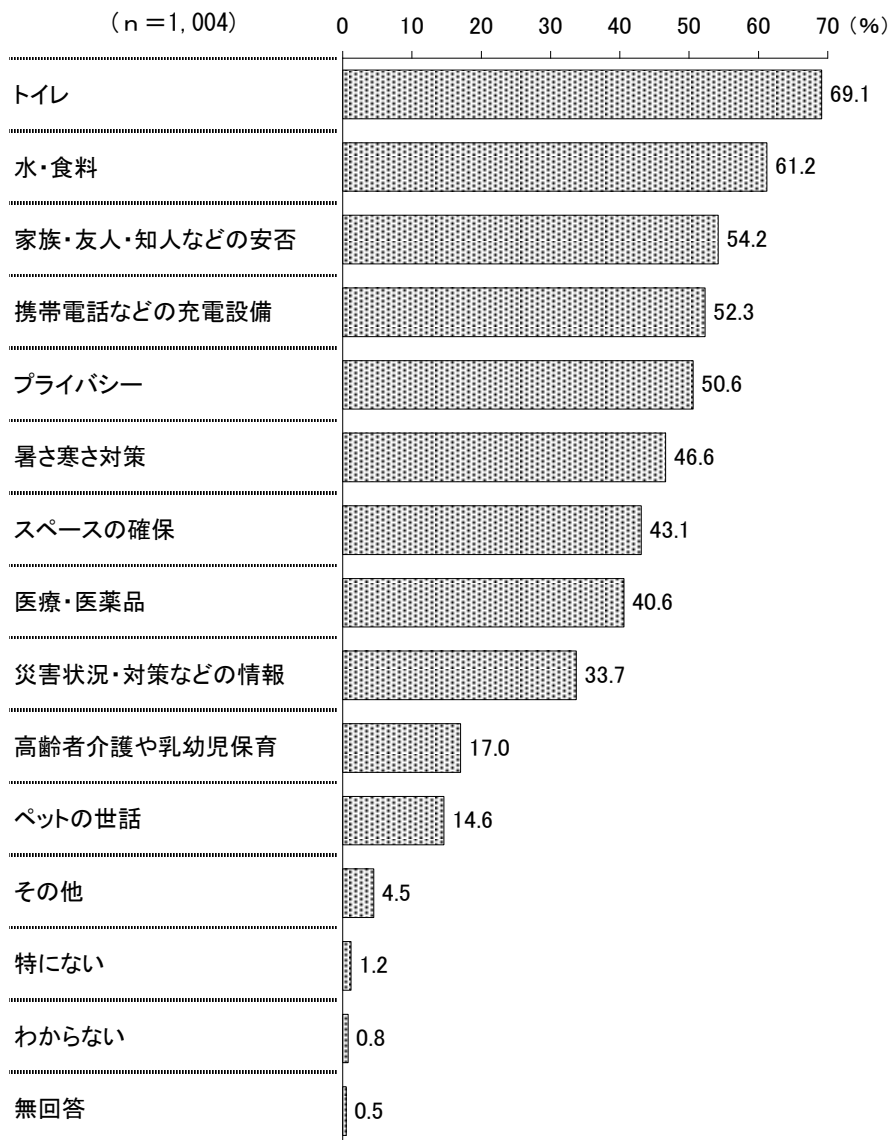
問6 大地震などの災害が起こり、自宅が火災や倒壊などにより居住できず防災拠点へ避難することになった場合、あなたが特に気がかりなことは何ですか。(〇はいくつでも)

n = 1,004

1	水・食料	61.2%
2	トイレ	69.1
3	プライバシー	50.6
4	家族・友人・知人などの安否	54.2
5	災害状況・対策などの情報	33.7
6	携帯電話などの充電設備	52.3
7	医療・医薬品	40.6
8	高齢者介護や乳幼児保育	17.0
9	スペースの確保	43.1
10	暑さ寒さ対策	46.6
11	ペットの世話	14.6
12	その他	4.5
13	特にない	1.2
14	わからない	0.8
	(無回答)	0.5

避難した際に心配なことは、「トイレ」(69.1%)が約7割で最も高くなっている。次いで、「水・食料」(61.2%)、「家族・友人・知人などの安否」(54.2%)、「携帯電話などの充電設備」(52.3%)、「プライバシー」(50.6%)、「暑さ寒さ対策」(46.6%)などとなっている。(図表2-4-1)

図表 2-4-1 避難した際に心配なこと（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「トイレ」と「水・食料」が引き続き上位2項目となっている。(図表2-4-2)

図表2-4-2 避難した際に心配なこと一過年度比較

(%)

調査年	n	トイレ	水・食料	家族・友人・知人などの安否	携帯電話などの充電設備	プライバシー	暑さ寒さ対策	スペースの確保	医療・医薬品	災害状況・対策などの情報	高齢者介護や乳幼児保育	ペットの世話	その他	特になし	わからない	無回答	避難スペースの確保や暑さ寒さ対策
令和4年	1,004	69.1	61.2	54.2	52.3	50.6	46.6	43.1	40.6	33.7	17.0	14.6	4.5	1.2	0.8	0.5	※
令和2年	1,161	70.6	61.0	50.6	48.7	52.9	51.1	48.5	40.0	31.9	19.1	11.8	6.8	1.0	0.6	1.6	※
令和元年	956	74.9	64.9	55.0	43.7	45.5	51.7	38.9	37.8	33.5	19.8	10.3	4.6	1.3	0.5	1.4	※
平成30年	1,056	77.0	65.5	55.7	※	42.5	43.9	36.9	37.8	34.3	21.4	13.0	6.3	1.0	0.9	1.5	※
平成29年	1,056	74.5	63.4	58.1	※	42.3	46.4	36.2	39.5	35.0	20.2	12.0	5.2	1.1	0.5	2.8	※
平成28年	1,036	78.5	69.3	56.2	※	48.1	47.6	38.8	41.2	35.6	24.8	11.3	6.2	0.5	0.5	0.8	※
平成27年	1,027	75.5	67.7	61.1	※	38.3	46.1	31.5	42.7	35.9	24.0	10.3	5.4	1.4	1.5	0.4	※
平成26年	1,041	72.8	64.6	62.4	※	38.9	46.2	31.8	45.9	40.1	23.2	10.1	4.3	1.7	0.7	2.4	※
平成25年	1,047	76.6	66.5	62.6	※	40.4	47.7	30.3	43.9	37.5	20.7	12.0	4.5	1.3	0.6	0.8	※
平成24年	1,123	74.1	65.4	64.8	※	37.1	44.5	29.0	38.7	38.3	19.9	13.7	4.1	0.7	0.6	1.4	※
平成23年	1,097	77.8	72.3	55.1	※	45.7	53.2	33.2	43.4	37.9	21.2	13.3	4.9	0.8	0.3	1.2	※
平成22年	1,004	74.9	67.5	56.8	※	27.0	36.7	37.6	43.1	33.2	24.3	11.1	3.1	0.6	1.0	0.9	※
平成21年	1,001	79.6	69.5	50.2	※	34.6	39.8	40.1	41.1	33.0	24.0	11.3	2.5	0.7	1.1	0.6	※
平成20年	1,065	78.4	72.1	60.4	※	29.8	40.3	41.4	46.9	34.2	26.2	10.6	2.7	0.0	0.0	0.9	※
平成19年	686	74.9	74.2	62.0	※	25.9	※	※	48.4	40.7	24.1	10.8	1.7	0.9	2.0	0.3	45.5

* 太枠内が今回の調査の選択肢。

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

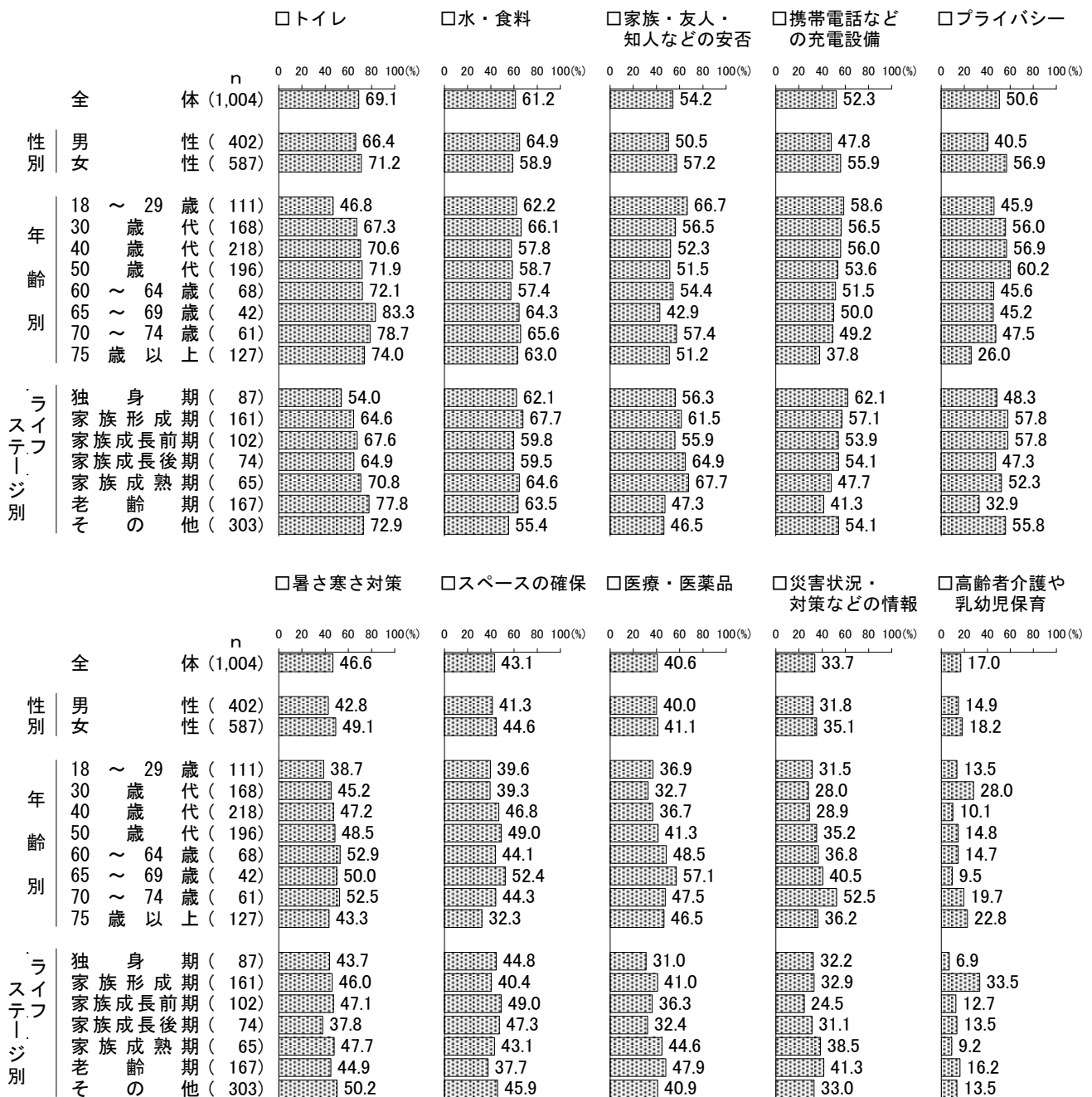
* 「スペースの確保」の選択肢は、平成22年まで「避難スペースの確保」としていた。

性別でみると、女性の方が男性よりも「プライバシー」で16.4ポイント、「携帯電話などの充電設備」で8.1ポイント、「家族・友人・知人などの安否」で6.7ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「水・食料」で6.0ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「トイレ」は65～69歳で8割を超えて高くなっている。「家族・友人・知人などの安否」は18～29歳で7割近くと高くなっている。「携帯電話などの充電設備」は低い年代ほど割合が高くなっている。

ライフステージ別でみると、「トイレ」は老齢期で8割近くと高くなっている。「水・食料」は家族形成期で7割近くと高くなっている。「家族・友人・知人などの安否」は家族成熟期で7割近くと高くなっている。(図表2-4-3)

図表2-4-3 避難した際に心配なことー性別・年齢別・ライフステージ別（上位10項目）



(5) 災害情報を得る手段として有効だと思うもの

◇「インターネット」が6割を超える

問7 災害時に区内の災害情報を得る手段として、一般のテレビ・ラジオ以外にあなたが有効だと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

n = 1,004

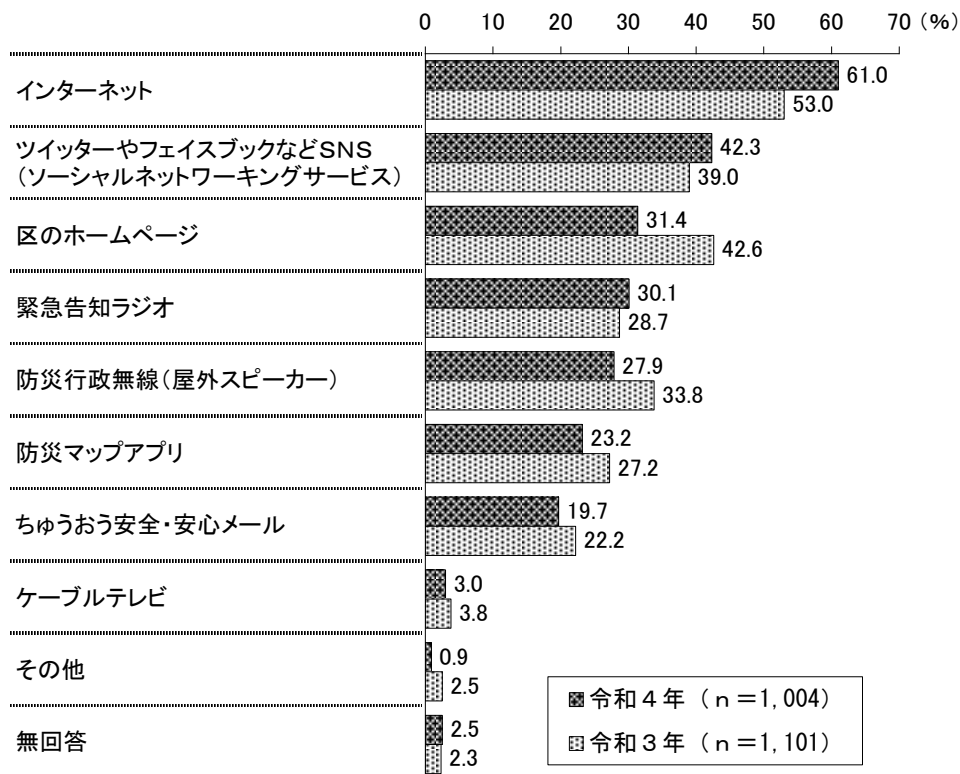
1	区のホームページ	31.4%
2	防災マップアプリ	23.2
3	ちゅうおう安全・安心メール	19.7
4	インターネット	61.0
5	ツイッターやフェイスブックなどSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)	42.3
6	防災行政無線(屋外スピーカー)	27.9
7	緊急告知ラジオ	30.1
8	ケーブルテレビ	3.0
9	その他	0.9
	(無回答)	2.5

(※) 緊急告知ラジオ 大きな地震や水害など緊急を要する災害の発生時に自動的に電源が入り、災害情報や避難情報などの緊急放送を受信できるラジオです。区では、平成23年度より区民の皆さんへ有償頒布を実施しています。

災害情報を得る手段として有効だと思うものは、「インターネット」(61.0%)が6割を超えて最も高くなっている。次いで、「ツイッターやフェイスブックなどSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)」(42.3%)、「区のホームページ」(31.4%)、「緊急告知ラジオ」(30.1%)、「防災行政無線(屋外スピーカー)」(27.9%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「インターネット」は8.0ポイント増加している。一方、「区のホームページ」は11.2ポイント、「防災行政無線（屋外スピーカー）」は5.9ポイント、それぞれ減少している。（図表2-5-1）

図表2-5-1 災害情報を得る手段として有効だと思うもの（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「インターネット」は平成27年以降5割以上で推移している。（図表2-5-2）

図表2-5-2 災害情報を得る手段として有効だと思うもの—過年度比較

調査年	n	インターネット	ツイッターやフェイスブックなどSNS (ソーシャルネットワーキングサービス)	区のホームページ	緊急告知ラジオ	防災行政無線(屋外スピーカー)	防災マップアプリ	ちゅうおう安全・安心メール	ケーブルテレビ	その他	無回答
令和4年	1,004	61.0	42.3	31.4	30.1	27.9	23.2	19.7	3.0	0.9	2.5
令和3年	1,101	53.0	39.0	42.6	28.7	33.8	27.2	22.2	3.8	2.5	2.3
令和2年	1,161	56.2	40.7	35.8	32.6	33.0	24.7	22.0	3.9	1.3	2.5
令和元年	956	51.4	36.3	28.7	36.1	38.1	25.2	20.6	3.8	1.9	3.9
平成30年	1,056	54.6	38.9	29.9	37.3	37.2	19.0	18.4	6.0	1.8	3.2
平成29年	1,056	52.0	38.9	26.9	42.0	38.8	※	19.0	4.6	1.8	3.0
平成28年	1,036	52.7	38.3	27.5	40.2	40.6	※	18.5	6.9	2.4	2.2
平成27年	1,027	50.1	31.6	28.6	42.7	39.6	※	14.1	7.9	1.9	3.7
平成26年	1,041	49.4	30.5	25.4	45.6	40.7	※	16.5	7.0	2.3	4.1
平成25年	1,047	46.7	29.5	26.7	47.3	47.3	※	16.1	9.9	2.8	2.9
平成24年	1,123	45.5	27.6	22.1	48.8	44.5	※	15.0	7.2	3.0	3.9

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

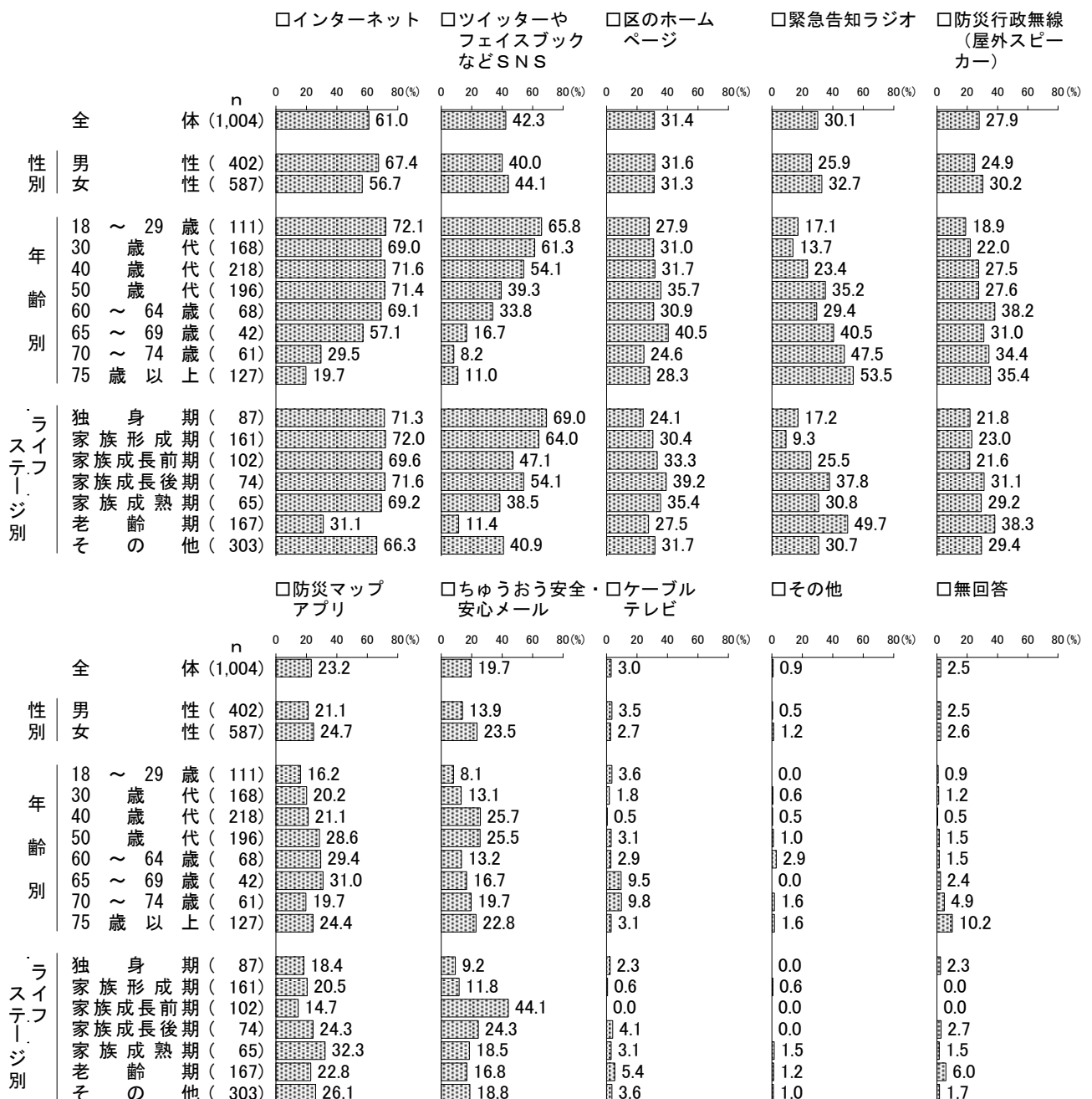
性別でみると、男性の方が女性よりも「インターネット」で10.7ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「ちゅうおう安全・安心メール」で9.6ポイント、「緊急告知ラジオ」で6.8ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「インターネット」は18～29歳と40歳代、50歳代で7割を超えて高くなっている。「ツイッターやフェイスブックなどSNS」はおおむね年代が下がるほど割合が高くなっており、18～29歳で6割台半ばと高くなっている。「緊急告知ラジオ」は75歳以上で5割を超えて高くなっている。

ライフステージ別でみると、「ツイッターやフェイスブックなどSNS」は独身期と家族形成期で6割台と高くなっている。「緊急告知ラジオ」は老齢期で5割と高くなっている。

(図表 2-5-3)

図表 2-5-3 災害情報を得る手段として有効だと思うもの一性別・年齢別・ライフステージ別



【3 健康診査】

(※) 健康診査 勤務先で実施する定期健康診断、区や加入している健康保険で実施している健康診査、人間ドックなどです。

(1) 健康診査の受診状況

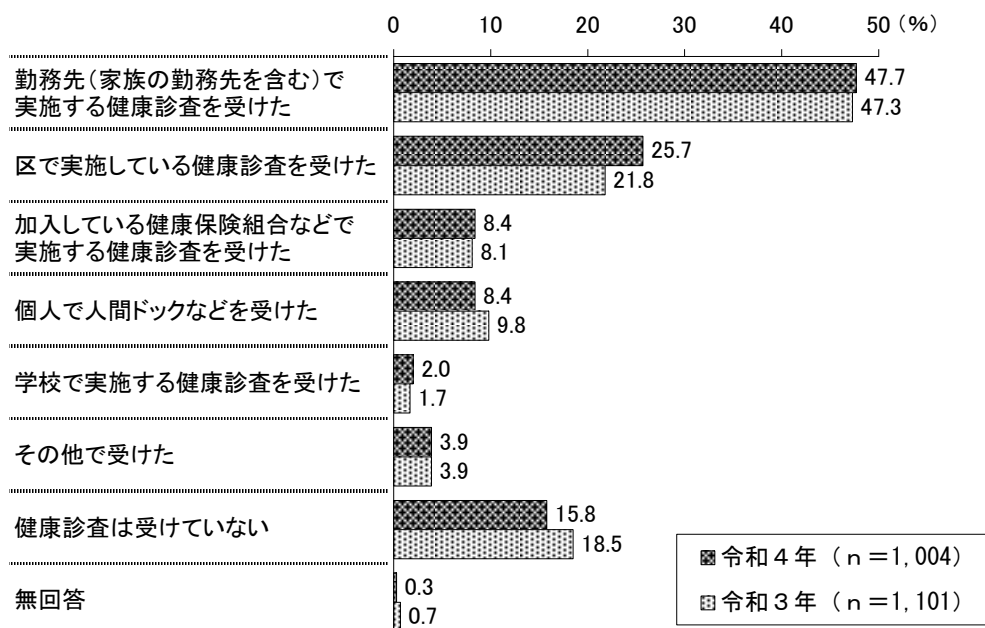
◇「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」が5割近く

問8 あなたは、この1年間に健康診査（健康診断）を受けましたか。（〇はいくつでも）	
n = 1,004	
1 区で実施している健康診査を受けた	25.7%
2 勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた	47.7
3 加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた	8.4
4 個人で人間ドックなどを受けた	8.4
5 学校で実施する健康診査を受けた	2.0
6 その他で受けた	3.9
7 健康診査は受けていない	15.8
(無回答)	0.3

健康診査の受診状況は、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」（47.7%）が5割近くで最も高くなっている。次いで、「区で実施している健康診査を受けた」（25.7%）、「加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた」（8.4%）、「個人で人間ドックなどを受けた」（8.4%）などとなっている。一方、「健康診査は受けていない」（15.8%）は1割台半ばとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「区で実施している健康診査を受けた」は3.9ポイント増加している。（図表3-1-1）

図表3-1-1 健康診査の受診状況（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」と「区で実施している健康診査を受けた」が引き続き上位2項目となっている。（図表3-1-2）

図表3-1-2 健康診査の受診状況一過年度比較

(%)

調査年	n	勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた	区で実施している健康診査を受けた	加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた	個人で人間ドックなどを受けた	学校で実施する健康診査を受けた	その他で受けた	健康診査は受けていない	無回答
令和4年	1,004	47.7	25.7	8.4	8.4	2.0	3.9	15.8	0.3
令和3年	1,101	47.3	21.8	8.1	9.8	1.7	3.9	18.5	0.7
令和2年	1,161	45.0	19.0	10.2	7.2	1.1	3.5	21.3	0.9
令和元年	956	44.2	25.3	10.0	8.9	1.8	4.8	16.5	0.6
平成30年	1,056	44.7	25.7	9.8	8.8	1.3	3.4	16.1	0.6
平成29年	1,056	42.9	24.6	8.6	8.5	2.2	4.5	17.8	1.8
平成28年	1,036	42.5	27.2	8.9	9.0	1.5	4.2	17.2	0.6
平成27年	1,027	40.9	27.3	8.8	7.8	1.7	3.8	18.7	1.3
平成26年	1,041	38.9	25.8	6.8	8.1	1.5	4.7	21.1	2.0
平成25年	1,047	39.5	27.8	8.9	9.6	1.0	4.0	19.0	1.9

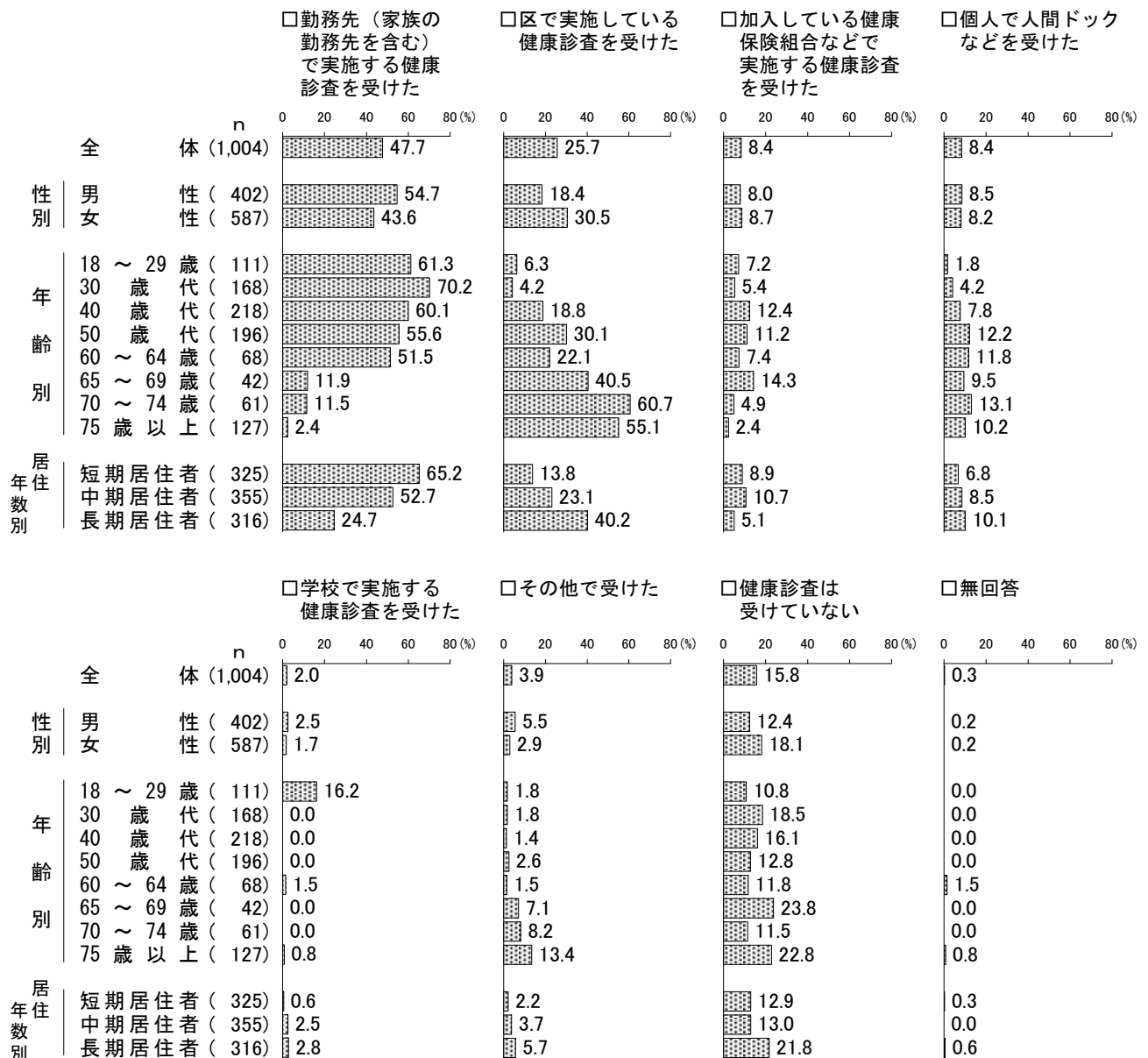
* 「加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた」は、平成25年は「加入している健康保険で実施する健康診査を受けた」としていた。

性別でみると、女性の方が男性よりも「区で実施している健康診査を受けた」で12.1ポイント、「健康診査は受けていない」で5.7ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」で11.1ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」は30歳代で7割と高くなっている。「区で実施している健康診査を受けた」は70～74歳で約6割、75歳以上で5割台半ばと高くなっている。

居住年数別でみると、「勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた」は短期居住者で6割台半ばと高くなっている。「区で実施している健康診査を受けた」は長期居住者で4割と高くなっている。（図表3-1-3）

図表3-1-3 健康診査の受診状況－性別・年齢別・居住年数別



(2) 健康診査を受けなかった理由

◇「時間がない」が3割近く

(問8で、「7 健康診査は受けていない」とお答えの方に)

問8-1 あなたが健康診査を受けなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

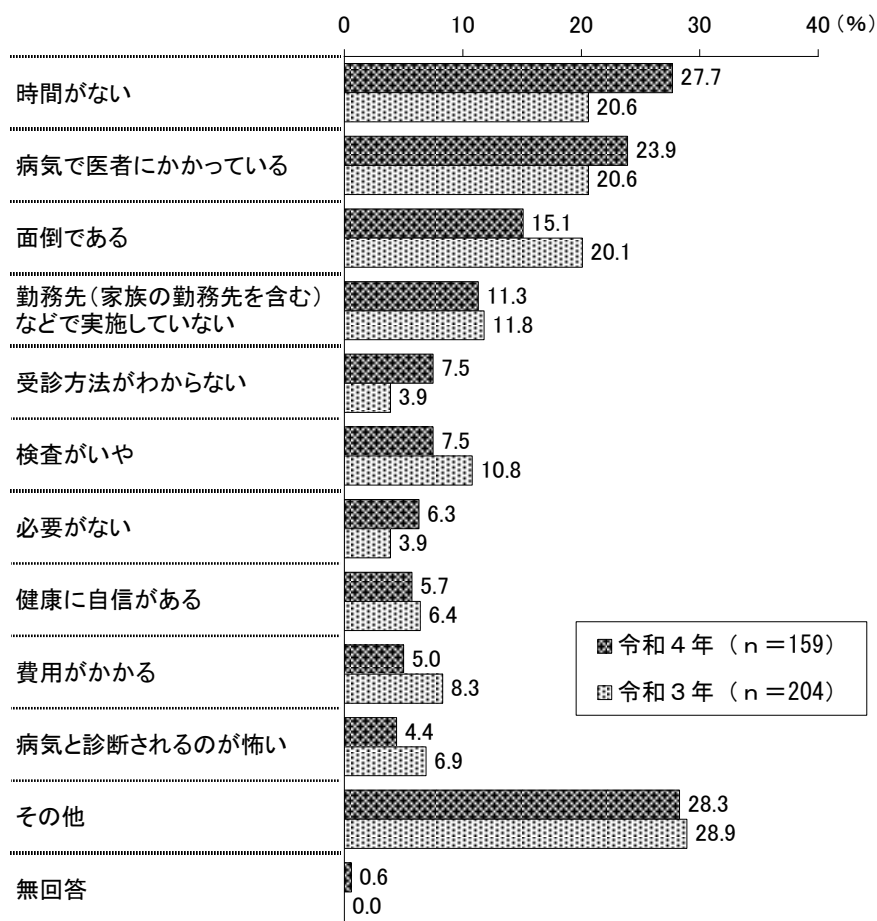
n = 159

1 勤務先(家族の勤務先を含む)などで実施していない	11.3%
2 受診方法がわからない	7.5
3 必要がない	6.3
4 時間がない	27.7
5 面倒である	15.1
6 健康に自信がある	5.7
7 病気で医者にかかっている	23.9
8 検査がいや	7.5
9 病気と診断されるのが怖い	4.4
10 費用がかかる	5.0
11 その他 (無回答)	28.3 0.6

問8で、「健康診査は受けていない」と回答した方の、健康診査を受けなかった理由は、「時間がない」(27.7%)が3割近くで最も高くなっている。次いで、「病気で医者にかかっている」(23.9%)、「面倒である」(15.1%)、「勤務先(家族の勤務先を含む)などで実施していない」(11.3%)などとなっている。また、「その他」の回答として、「コロナ禍のため控えた」などが多くあげられている。

昨年の調査結果と比較すると、「時間がない」は7.1ポイント増加している。一方、「面倒である」は5.0ポイント減少している。(図表3-2-1)

図表3-2-1 健康診査を受けなかった理由(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、第2位以下の項目の順位には変動がみられるが、「時間がない」は引き続き第1位となっている。(図表3-2-2)

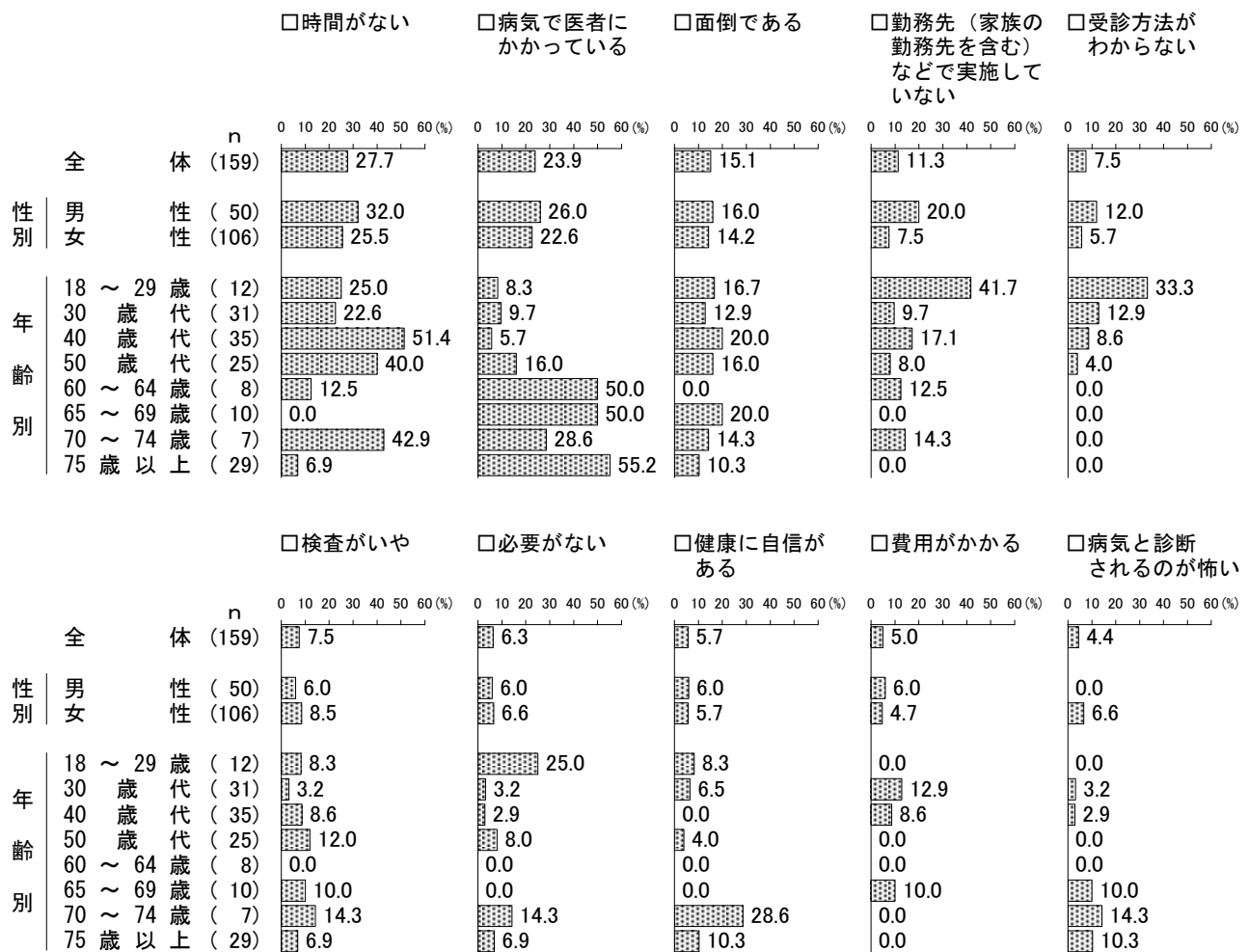
図表3-2-2 健康診査を受けなかった理由一過年度比較

調査年	n	(%)											
		時間がない	病気で医者にかかっている	面倒である	勤務先(家族の勤務先を含む)などで実施していない	受診方法がわからない	検査がいや	必要がない	健康に自信がある	費用がかかる	病気と診断されるのが怖い	その他	無回答
令和4年	159	27.7	23.9	15.1	11.3	7.5	7.5	6.3	5.7	5.0	4.4	28.3	0.6
令和3年	204	20.6	20.6	20.1	11.8	3.9	10.8	3.9	6.4	8.3	6.9	28.9	0.0
令和2年	247	28.7	17.4	18.6	10.5	4.5	11.3	4.0	7.3	6.9	7.7	31.6	0.8
令和元年	158	33.5	20.3	22.2	10.8	4.4	11.4	7.0	7.6	9.5	10.8	13.3	0.6
平成30年	170	28.2	25.3	13.5	13.5	5.9	4.1	6.5	7.1	9.4	3.5	14.7	1.2
平成29年	188	26.1	22.3	21.3	10.1	5.9	12.8	6.9	8.0	12.2	10.1	17.0	2.1
平成28年	178	27.5	16.9	19.1	14.6	4.5	14.6	6.7	8.4	12.9	6.2	16.9	1.1
平成27年	192	32.3	15.6	23.4	9.9	6.3	14.1	7.3	9.4	14.6	9.9	12.0	3.1
平成26年	220	29.1	18.2	14.5	15.0	6.4	12.3	5.9	4.1	14.1	6.8	18.2	0.0
平成25年	199	34.7	16.6	17.1	12.6	6.5	7.5	7.5	7.0	9.5	6.0	19.1	0.5

性別でみると、男性の方が女性よりも「勤務先（家族の勤務先を含む）などで実施していない」で12.5ポイント、「時間がない」で6.5ポイント、「受診方法がわからない」で6.3ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「病気と診断されるのが怖い」で6.6ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「時間がない」は40歳代で5割を超えて高くなっている。「病気で医者にかかっている」は75歳以上で5割台半ばと高くなっている。（図表3-2-3）

図表3-2-3 健康診査を受けなかった理由—性別・年齢別



【4 高齢者施策】

(1) 要介護時における暮らし方

◇「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」が4割近く

問9 あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいですか。

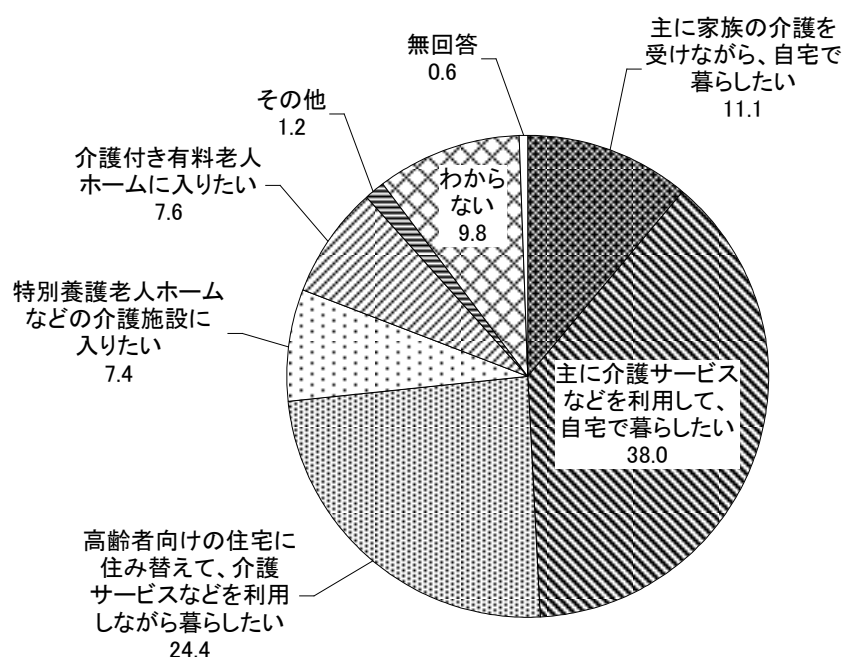
(もっとも近い考え1つに○)

n = 1,004

1	主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい	11.1%
2	主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい	38.0
3	高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい	24.4
4	特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい	7.4
5	介護付き有料老人ホームに入りたい	7.6
6	その他	1.2
7	わからない	9.8
	(無回答)	0.6

要介護時における暮らし方は、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」(38.0%)が4割近くで最も高くなっている。次いで、「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」(24.4%)、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」(11.1%)、「介護付き有料老人ホームに入りたい」(7.6%) などとなっている。(図表4-1-1)

図表4-1-1 要介護時における暮らし方

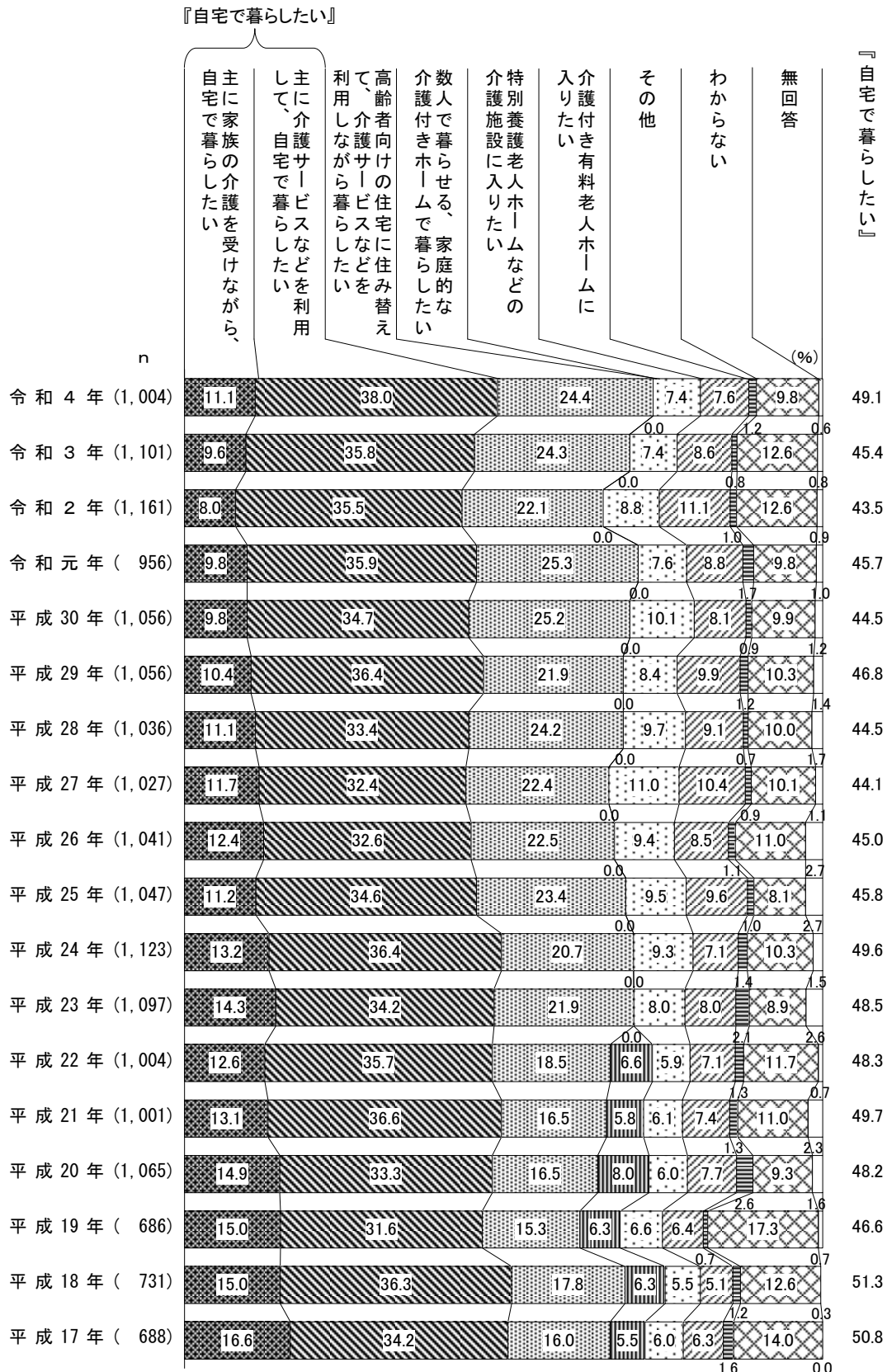


(n = 1,004)

(%)

過去の調査結果と比較すると、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」は平成17年以降3割台で推移しており、今回調査が過去最高の割合となっている。(図表4-1-2)

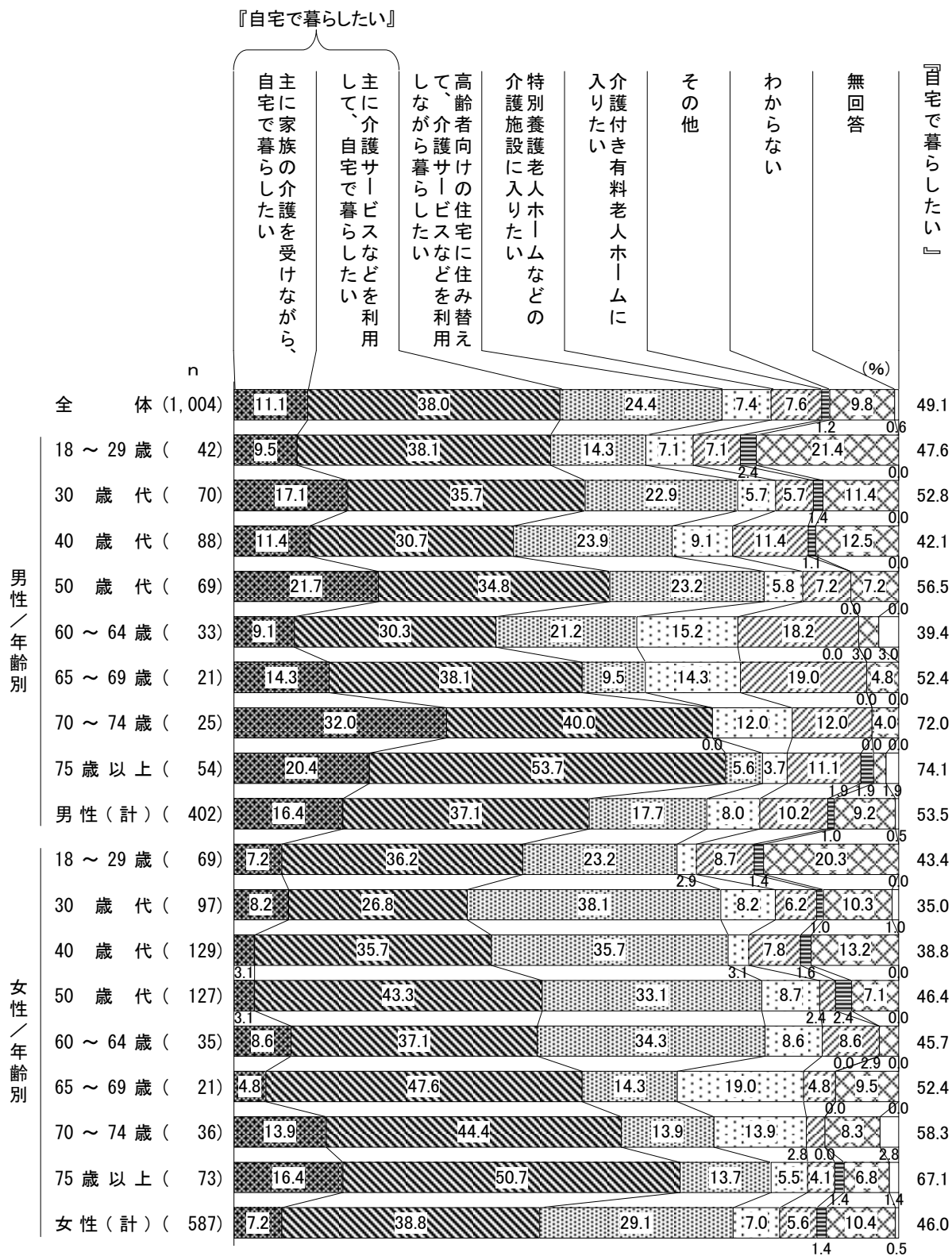
図表4-1-2 要介護時における暮らし方一過年度比較



* 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホームで暮らしたい」は、平成23年以降選択肢に含まれていない。

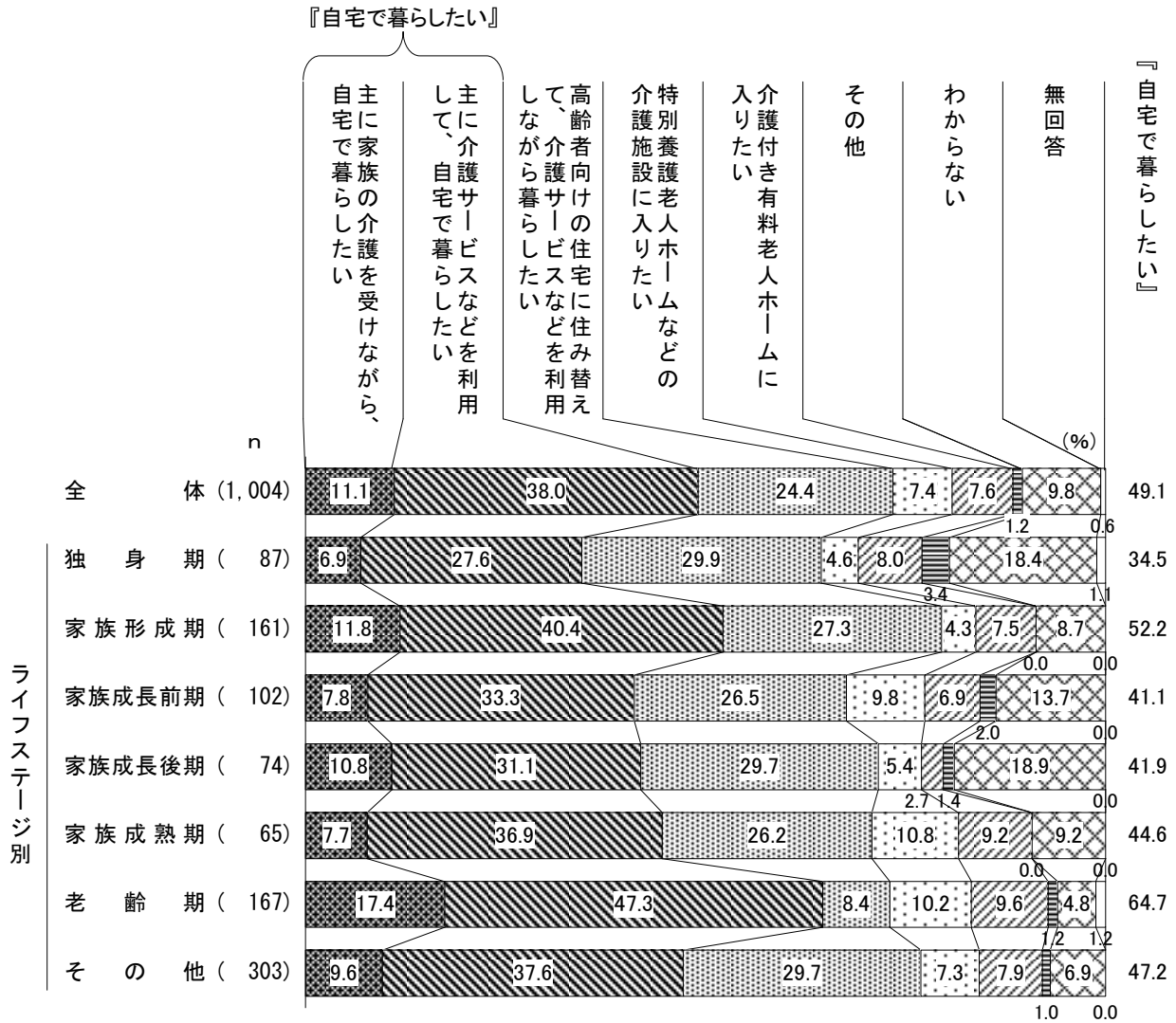
性／年齢別でみると、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」は男性の70～74歳で3割を超えて高くなっている。「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」は男女ともに75歳以上で5割台と高くなっている。「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」は女性の30歳代で4割近くと高くなっている。(図表4-1-3)

図表4-1-3 要介護時における暮らし方—性／年齢別



ライフステージ別でみると、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」は高齢期で5割近くと高くなっている。「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」は独身期とその他、家族成長後期で3割と高くなっている。(図表4-1-4)

図表4-1-4 要介護時における暮らし方—ライフステージ別



(2) 区に望む高齢者保健福祉サービス

◇「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」が5割を超える

問10 あなたは、住み慣れた地域で暮らし続けるために、これからの高齢者保健福祉施策で、区が力を入れていくべきものは何だと思えますか。（〇はいくつでも）

n = 1,004

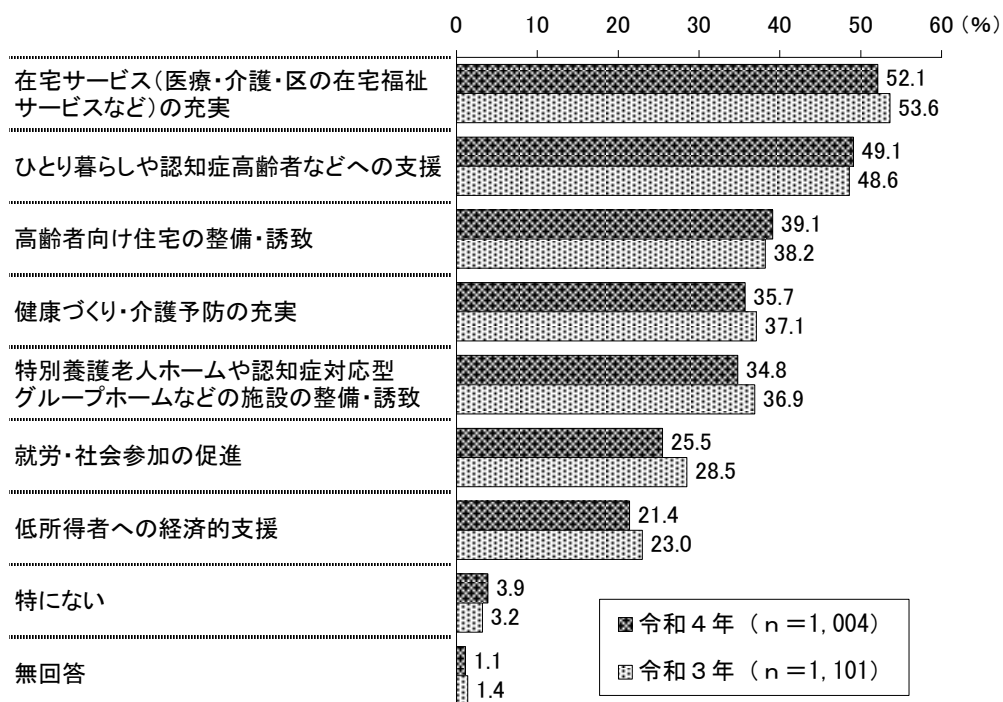
1	健康づくり・介護予防の充実	35.7%
2	就労・社会参加の促進	25.5
3	在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実	52.1
4	特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致	34.8
5	高齢者向け住宅の整備・誘致	39.1
6	ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援	49.1
7	低所得者への経済的支援	21.4
8	特にない	3.9
	（無回答）	1.1

区に望む高齢者保健福祉サービスは、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」（52.1%）が5割を超えて最も高くなっている。次いで、「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」（49.1%）、「高齢者向け住宅の整備・誘致」（39.1%）、「健康づくり・介護予防の充実」（35.7%）、「特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致」（34.8%）などとなっている。

昨年との調査結果と比較すると、「就労・社会参加の促進」は3.0ポイント減少している。

（図表4-2-1）

図表4-2-1 区に望む高齢者保健福祉サービス（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」と「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」が引き続き上位2項目となっている。

(図表4-2-2)

図表4-2-2 区に望む高齢者保健福祉サービス一過年度比較

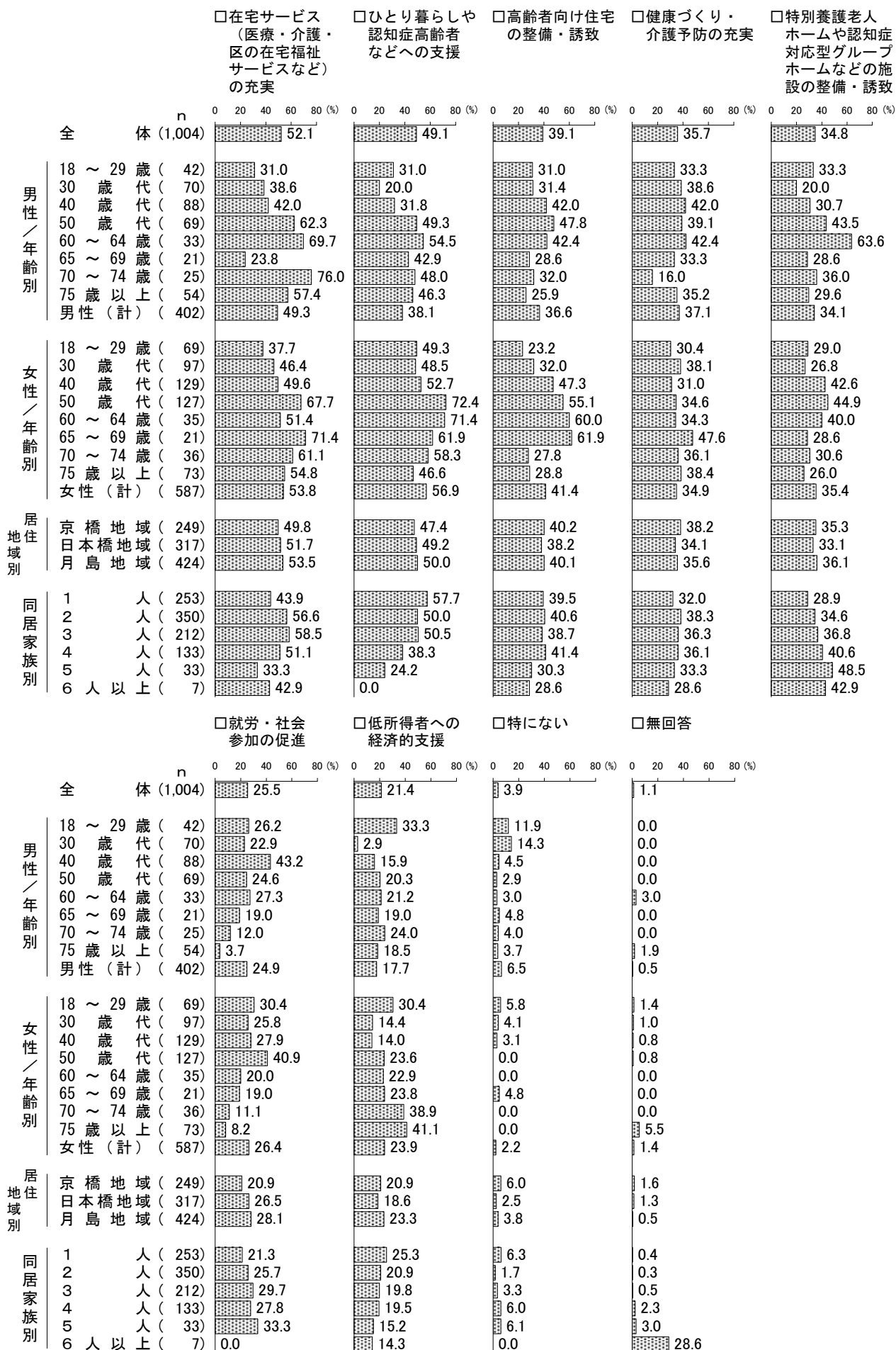
調査年	n	(%)								
		在宅福祉サービス（医療・介護・区の充実）	ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援	高齢者向け住宅の整備・誘致	健康づくり・介護予防の充実	特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致	就労・社会参加の促進	低所得者への経済的支援	特になし	無回答
令和4年	1,004	52.1	49.1	39.1	35.7	34.8	25.5	21.4	3.9	1.1
令和3年	1,101	53.6	48.6	38.2	37.1	36.9	28.5	23.0	3.2	1.4
令和2年	1,161	51.8	46.3	39.5	35.4	36.3	28.3	23.3	4.2	1.1
令和元年	956	52.7	48.1	37.2	38.0	35.6	28.0	20.9	3.3	1.4
平成30年	1,056	49.5	44.4	41.1	41.3	37.5	27.1	21.3	2.9	1.2
平成29年	1,056	54.5	44.3	36.9	35.0	38.9	26.5	21.5	2.6	1.7
平成28年	1,036	50.8	46.1	40.5	37.2	40.7	28.3	23.4	2.8	2.0
平成27年	1,027	48.7	45.8	38.5	37.9	37.8	28.1	21.9	3.5	1.4
平成26年	1,041	54.9	47.0	39.1	34.7	39.9	28.1	24.7	2.2	3.1

性／年齢別で見ると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」は男性の70～74歳で7割台半ばと高くなっている。「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」は女性の50歳代と60～64歳で7割を超えて高くなっている。「高齢者向け住宅の整備・誘致」は女性の60～64歳と65～69歳で6割台と高くなっている。

居住地域別で見ると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」は月島地域と日本橋地域で5割を超えて高くなっている。「健康づくり・介護予防の充実」は京橋地域で4割近くと高くなっている。

同居家族別で見ると、「在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実」は同居家族2人と3人で6割近くと高くなっている。「ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援」は同居家族1人で6割近くと高くなっている。(図表4-2-3)

図表4-2-3 区に望む高齢者保健福祉サービス—性／年齢別・居住地域別・同居家族別



(3) 区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス

問10-1 問10で、あなたが○をした選択肢を含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスを自由に記述していただいたところ、310人から延べ338件の回答が寄せられた。問10の区に望む高齢者保健福祉サービスにおおむね沿った形で整理した。

(ご意見の一部)

■健康づくり・介護予防の充実 (53件)

- ・ 老化により筋力が低下するので、安価で体を鍛えられ、マッサージや足湯等のリラクゼーションを受けられるサービスが欲しい。
- ・ 認知症、フレイル予防のための交流の場（都会は難しいかもしれませんが、そのような場があれば老人も安心して住めるような気がします）。
- ・ 高齢者が気軽に参加できるコミュニティ。
- ・ 治療医学だけではなく、予防医学に対する取り組みを期待する。
- ・ 認知症予防や体力・健康維持等の為の、デイサービスまでいかないデイサービス手前の施設や場所がもっとあると良いなと思います。

■就労・社会参加の促進 (28件)

- ・ 高齢者の雇用（収入・健康管理・他者との関わりの保持のため）。
- ・ 80歳以上になると、就労を希望していても案件がない（義父の場合）ので、ボランティアではなく、少額でいいので就労機会を設けてほしい。
- ・ 子どもの教育現場に高齢者を活用すべき。
- ・ 高齢になると仕事から離れ、それによって自信を無くして、生活のハリがなくなる。無理のない形で社会とのかかわりを続けられるようになってほしい。

■在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実 (52件)

- ・ 在宅サービスや支援のわかりやすい説明。利用の仕方も具体的に教えてほしい。
- ・ 在宅福祉サービスに関する人材確保と将来的な予算の拡充（中央区のボリュームゾーンである30～40代の現役世代が老齢世代になる事を見越した早期の事業計画の策定）。
- ・ 高齢者向け住宅は、今後の高齢者増加に対して限界があると思います。在宅サービス強化のため、介護職につく人々の給与をアップさせることが望ましいと思います。
- ・ 在宅サービスにおける毎日の安全確認（メールや電話などで）の充実。生活をする上でちょっとした（例えば、電球の取替えとか、家具の移動など）サポートを気軽に頼めるようなサービス。
- ・ 外出の介護や食事づくり（食事の提供）のサポートを充実させてほしい。これからひとり暮らしの高齢者が増加すると思います。

■特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致（51件）

- ・ 特別養護老人ホームやグループホーム等の施設になかなか入れないようです。施設を増やしてください。
- ・ 施設の設置について、1つの街に集中させることなく、中央区内に分散させてほしい。どうしても、勝どき・月島等に多いイメージがある。
- ・ 老人ホーム内での老人虐待、入居者のお金を使いこんだなどのニュースを聞くと、不安になる。そういう事がないよう監視、指導をしてほしい。
- ・ 年金生活で入居可能な施設の誘致。

■高齢者向け住宅の整備・誘致（36件）

- ・ 住宅サービスの充実。中央区に住む人の親への住宅サービス。自分の家の近くに安い家賃で住めると、親の面倒を見ながら子どものサポートも受けられて、お互いが良い。
- ・ 高齢者のマンションで、自炊して生活しながら、定期的に共同スペースなどで様子を見に来てくれる施設があると良いと思う。
- ・ 中央区の高齢者向け住宅は高額な所ばかりなので、もう少し住み替えやすい住宅を増やしてほしいです。
- ・ 介護付きの高齢者向け住宅を区内に整備し、独居老人になっても区内で生活できるようにしていただけるとありがたいです。

■ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援（34件）

- ・ 認知症高齢者の介護のサポートや、情報発信を充実させてほしいです。
- ・ 高齢者の見守りサービスを充実させて、孤立を防ぐ仕組みづくりをして頂きたいです。
- ・ ひとり暮らしの方や体が衰えてきている高齢者のために、安全と安心の両方を得られるサービスなどを考えておくとよいと思います。
- ・ 子どもがいないひとり暮らしの者への支援。生活支援はもちろんだが、死んだ後の事にも不安がある。

■低所得者への経済的支援（14件）

- ・ 生活保護の値上げと都営の賃料の値下げ、どちらかでも良い。
- ・ 無料で使えるバスやタクシーの充実。
- ・ 所得や家族の有無を基準としない経済的支援。

■その他（70件）

- ・ 介護で疲労している家族へのケア。
- ・ 区外に住む両親の介護の相談（困っている本人は中央区の住民なので、実家のある市や区役所へ足を運んで相談するのは距離的にも時間的にも辛い）。
- ・ 現在の公助に重きを置きすぎた各種施策を、所得（年金給付額）水準に鑑みて、自助的な個人負担の増加（健康へのケア含む）へ変更する。
- ・ 若いうちから色々話を聞く機会が欲しい。早く知ることで、逆算してライフプランを立てられるから。

【5 子育て支援】

(1) 子育てに関する悩みの相談

◇「配偶者・パートナー」が3割を超える

問11 あなたは、子育てに関する悩みや不安をどこに相談しましたか。(〇は2つまで)

n = 1,004

1	配偶者・パートナー	32.2%
2	その他の親族	16.8
3	職場の人	2.1
4	隣近所の人、知人、友人	8.8
5	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間	3.7
6	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生	1.6
7	子ども家庭支援センター、児童館、あかちゃん天国など子育て支援施設	1.7
8	(健診時などで)保健所、保健センターの担当者	2.4
9	その他	1.8
10	特に相談しない	9.4
11	子育てを経験していない	42.4
	(無回答)	7.7

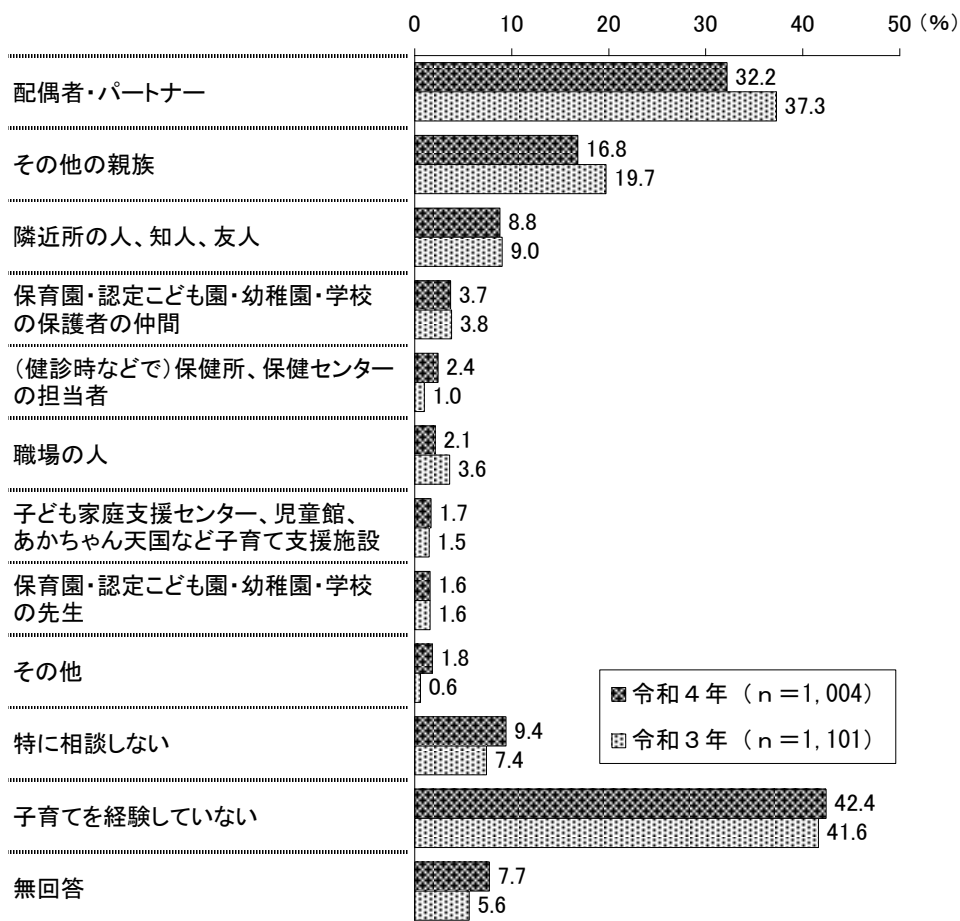
(※) 認定こども園 小学校に就学する前の子どもの教育・保育・子育て支援を一体的に行う施設で、幼稚園と保育所の両方の役割を果たします。

子育てに関する悩みの相談は、「配偶者・パートナー」(32.2%)が3割を超えて最も高くなっている。次いで、「その他の親族」(16.8%)、「隣近所の人、知人、友人」(8.8%)、「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間」(3.7%)などとなっている。

昨年との調査結果と比較すると、「配偶者・パートナー」は5.1ポイント減少している。

(図表5-1-1)

図表5-1-1 子育てに関する悩みの相談（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「配偶者・パートナー」と「その他の親族」、「隣近所の人、知人、友人」が引き続き上位3項目となっている。

(図表5-1-2)

図表5-1-2 子育てに関する悩みの相談一過年度比較

調査年	n	(%)												
		配偶者・パートナー	その他の親族	隣近所の人、知人、友人	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間	(健診時などで)の担当者	保健所、保健センター	職場の人	子ども家庭支援センター、児童館、あかちゃん天国など子育て支援施設	先生	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生	その他	特に相談しない	子育てを経験していない
令和4年	1,004	32.2	16.8	8.8	3.7	2.4	2.1	1.7	1.6	1.8	9.4	42.4	7.7	※
令和3年	1,101	37.3	19.7	9.0	3.8	1.0	3.6	1.5	1.6	0.6	7.4	41.6	5.6	※
令和2年	1,161	35.3	18.2	7.8	3.3	1.4	3.5	1.0	3.3	1.3	8.2	41.9	6.5	※
令和元年	956	34.3	20.2	9.2	3.1	1.7	3.3	1.0	2.3	1.0	8.4	39.3	7.9	※
平成30年	1,056	35.0	18.8	7.9	3.7	1.3	3.7	1.6	2.8	0.9	7.9	39.7	8.5	※
平成29年	1,056	33.5	20.0	8.5	4.8	1.8	4.0	1.9	2.6	0.5	6.4	38.8	10.2	※
平成28年	1,036	33.9	17.4	9.4	3.2	1.5	4.2	1.5	2.6	1.9	9.2	37.8	8.8	※
平成27年	1,027	35.7	19.2	10.7	5.7	2.7	4.4	1.9	4.2	1.9	8.9	38.0	9.0	※
平成26年	1,041	35.0	18.9	9.7	4.9	2.2	2.2	1.2	3.6	1.3	8.3	34.6	11.0	※
平成25年	1,047	34.8	19.2	10.8	4.6	2.1	2.7	2.5	3.2	1.4	8.1	33.8	11.7	※
平成24年	1,123	32.8	17.5	10.2	5.1	1.3	2.2	1.5	2.4	1.7	6.8	38.1	11.5	※
平成23年	1,097	31.4	17.1	11.8	5.7	1.5	3.0	0.9	2.6	0.9	7.6	36.6	12.9	※
平成22年	1,004	35.2	17.9	12.4	4.9	1.8	3.1	1.2	3.1	0.9	9.2	35.6	7.9	※
平成21年	1,001	31.4	15.0	9.9	3.8	2.5	2.5	※	3.0	4.1	8.9	34.0	12.5	1.0
平成20年	1,065	30.8	15.4	12.7	4.2	2.7	1.3	※	2.9	1.8	8.5	34.8	12.4	2.1
平成19年	686	28.4	13.8	11.1	8.0	※	2.2	※	5.0	1.0	13.0	38.2	6.3	1.7

* 太枠内が今回の調査の選択肢。

* ※印は、その年の調査では開かれていない選択肢。

* 「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間」の選択肢は、平成22年以前は「保育園、幼稚園、学校の保護者の仲間」としていた。

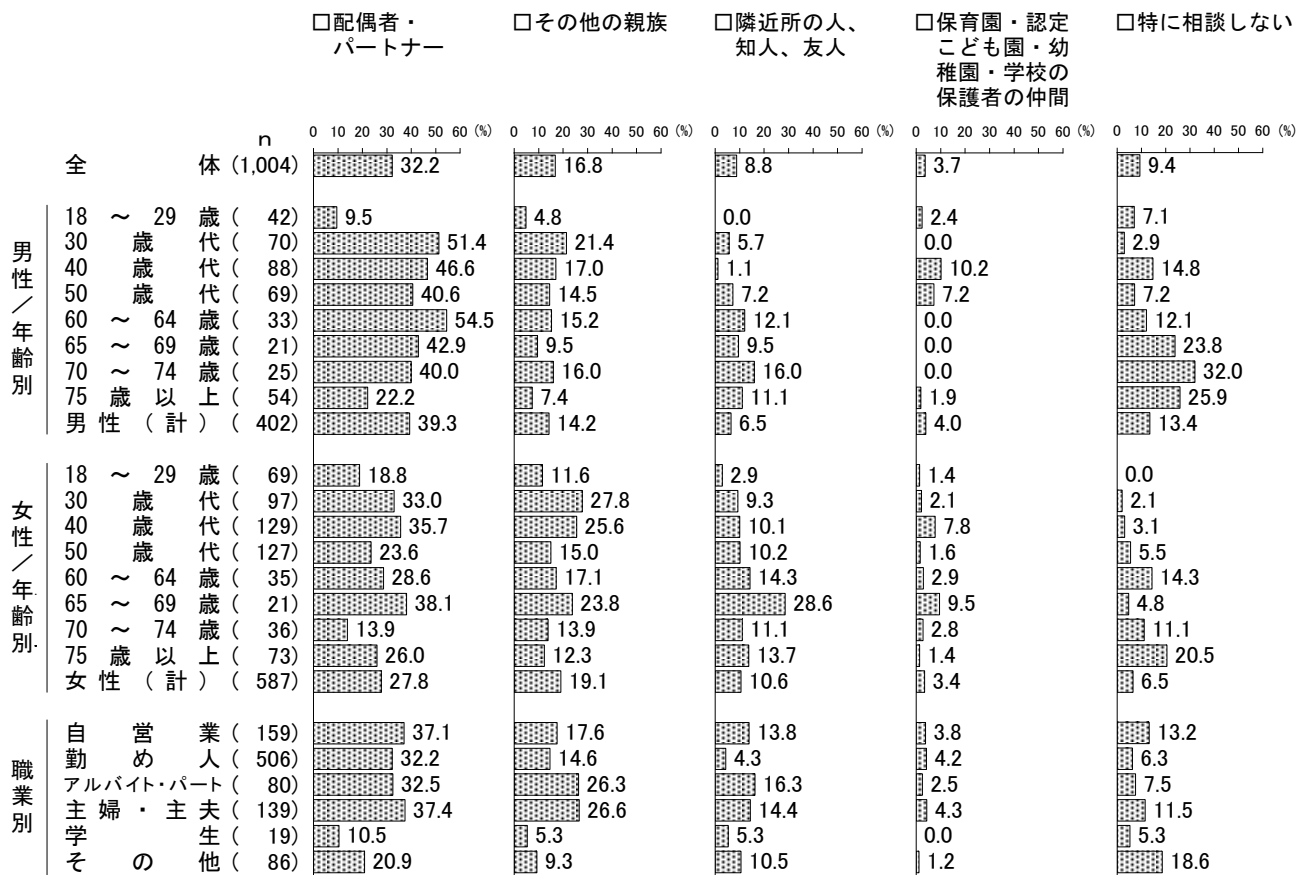
* 「保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生」の選択肢は、平成22年以前は「保育士、幼稚園・学校の先生」としていた。

性／年齢別でみると、「配偶者・パートナー」は男性の30歳代と60～64歳で5割台と高くなっている。「隣近所の人、知人、友人」は女性の65～69歳で3割近くと高くなっている。「特に相談しない」は男性の70～74歳で3割を超えて高くなっている。

職業別でみると、「配偶者・パートナー」は主婦・主夫と自営業で4割近くと高くなっている。「その他の親族」は主婦・主夫とアルバイト・パートタイマーで2割台と高くなっている。

(図表5-1-3)

図表5-1-3 子育てに関する悩みの相談—性／年齢別・職業別（上位5項目）



(2) 重要と考える子育て支援策

◇「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」が3割台半ば

問12 あなたがこれからの区の子育て支援で重要と考えるものを選んでください。

(○は2つまで)

n = 1,004

1	保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備	33.7%
2	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	34.2
3	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	4.5
4	子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	11.7
5	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	10.7
6	情報の提供や相談サービス	3.9
7	公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備	12.1
8	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	1.8
9	職業生活と家庭生活との両立の支援	16.9
10	児童虐待防止対策	8.5
11	経済的な支援	10.9
12	特にない	5.5
	(無回答)	17.2

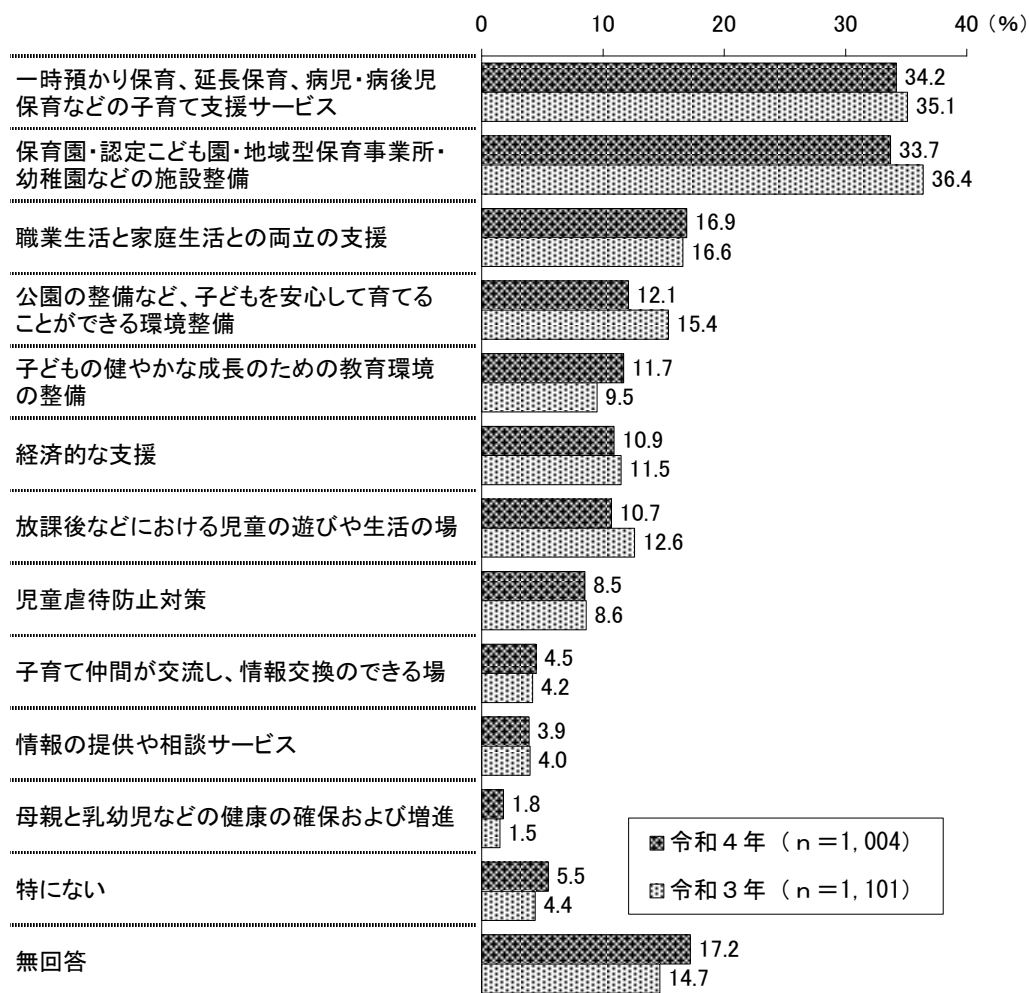
(※) 地域型保育事業所 少人数の単位で0～2歳の子どもを預かる保育事業所です。

(家庭的保育事業・小規模保育事業・事業所内保育事業・居宅訪問型保育事業)

重要と考える子育て支援策は、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」(34.2%)が3割台半ばで最も高くなっている。次いで、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」(33.7%)、「職業生活と家庭生活との両立の支援」(16.9%)、「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」(12.1%)、「子どもの健やかな成長のための教育環境の整備」(11.7%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」は3.3ポイント減少している。(図表5-2-1)

図表5-2-1 重要と考える子育て支援策（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」と「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」が引き続き上位2項目となっている。(図表5-2-2)

図表5-2-2 重要と考える子育て支援策一過年度比較

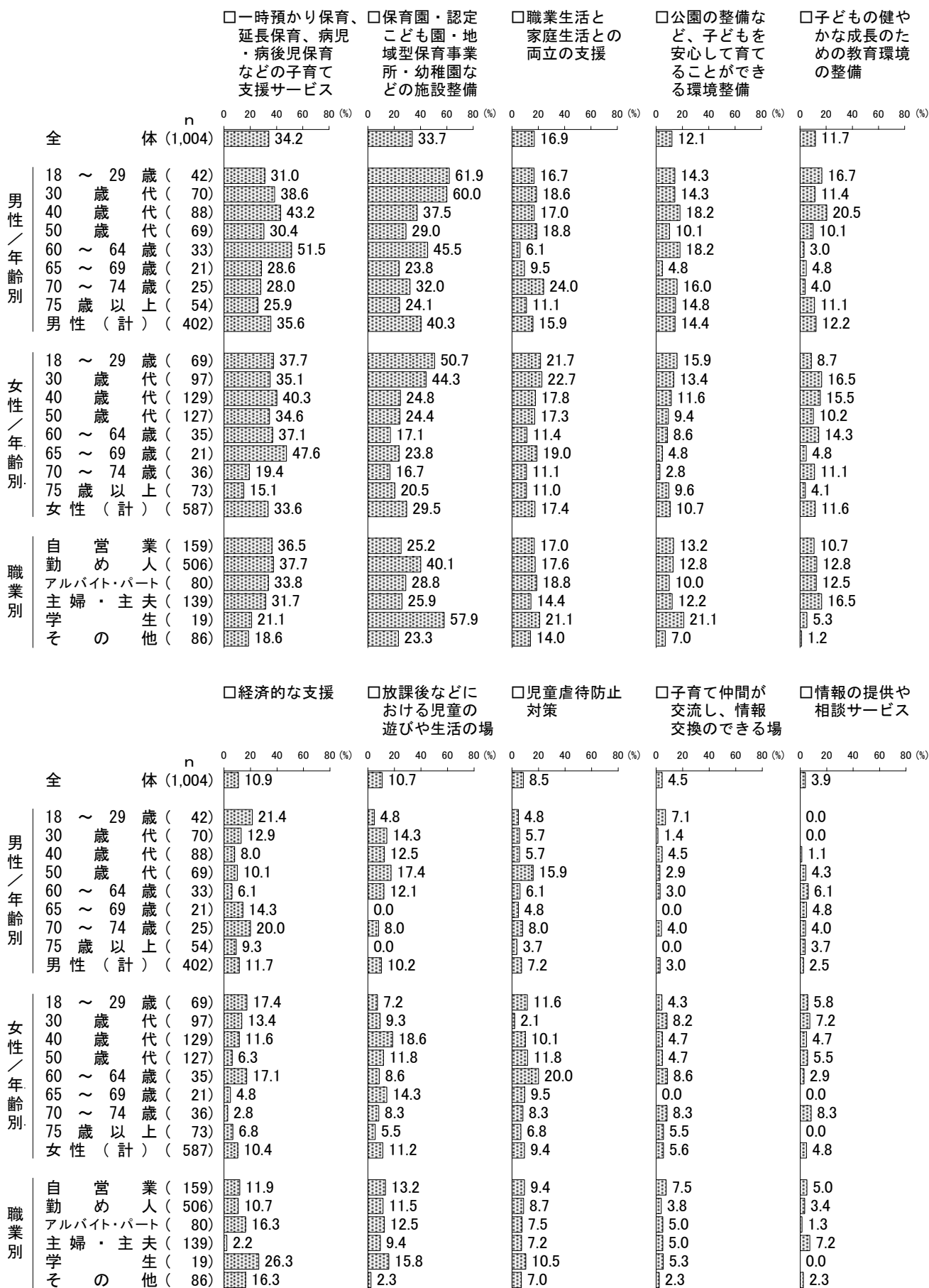
調査年	n	(%)													
		一時預かり保育、延長保育、病児・病後児	保育園・認定こども園・地域型保育事業	職業生活と家庭生活との両立の支援	公園の整備など、子どもを安心して育てることができ環境整備	子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	経済的な支援	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	児童虐待防止対策	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	情報の提供や相談サービス	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	特にな	無回答	その他
令和4年	1,004	34.2	33.7	16.9	12.1	11.7	10.9	10.7	8.5	4.5	3.9	1.8	5.5	17.2	※
令和3年	1,101	35.1	36.4	16.6	15.4	9.5	11.5	12.6	8.6	4.2	4.0	1.5	4.4	14.7	※
令和2年	1,161	33.7	38.8	15.1	12.1	11.8	12.2	11.8	9.0	4.4	4.1	1.9	4.8	14.7	※
令和元年	956	37.0	34.5	16.7	10.6	9.3	7.5	11.7	11.6	4.9	3.8	1.8	4.4	17.4	※
平成30年	1,056	40.2	42.8	14.6	11.3	8.5	9.7	11.3	6.6	3.0	2.8	1.6	4.4	15.8	※
平成29年	1,056	36.4	42.6	16.6	11.5	10.4	8.3	12.6	6.8	3.5	2.7	1.1	4.1	16.1	※
平成28年	1,036	36.0	44.3	15.9	11.3	8.8	10.2	12.4	7.9	4.5	1.8	2.2	3.8	15.8	※
平成27年	1,027	38.9	41.1	19.7	17.7	14.3	10.4	※	7.5	7.1	6.5	4.3	9.8	9.8	※
平成26年	1,041	42.5	40.6	14.4	12.3	11.9	8.0	※	4.2	6.3	5.0	2.3	8.5	11.6	※
平成25年	1,047	43.7	46.2	12.4	12.4	10.7	9.0	※	5.2	6.2	4.9	2.9	6.5	11.6	※
平成24年	1,123	※	53.7	28.6	15.3	17.2	15.9	※	4.9	13.4	7.5	3.7	4.7	7.5	2.8
平成23年	1,097	※	52.4	30.5	14.7	19.7	15.5	※	5.4	10.8	7.5	4.3	4.3	8.4	2.3
平成22年	1,004	※	59.4	31.9	15.7	19.9	15.4	※	7.4	9.2	6.0	3.6	3.9	4.1	3.1
平成21年	1,001	※	42.9	30.0	13.2	15.4	26.1	※	3.1	8.0	5.2	3.2	4.5	8.1	9.9
平成20年	1,065	※	39.6	31.4	18.6	20.2	22.3	※	3.7	12.5	7.8	3.2	3.3	7.1	6.1
平成19年	686	※	34.1	30.3	20.6	20.6	24.6	※	4.7	9.3	5.4	3.6	12.5	4.2	1.3

- * 太枠内が今回の調査の選択肢。
- * ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。
- * 「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」の選択肢は、平成23年から平成26年までは「保育園・認定こども園・幼稚園などの施設整備」、平成22年以前は「保育所・幼稚園などの施設整備」としていた。
- * 「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」の選択肢は、平成27年以前は「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの保育サービスの充実」としていた。
- * 「職業生活と家庭生活との両立の支援」の選択肢は、平成27年以前は「職業生活と家庭生活との両立の推進」としていた。

性/年齢別で見ると、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は男性の60～64歳で5割を超えて高くなっている。「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は男性の18～29歳と30歳代で6割台と高くなっている。

職業別で見ると、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は勤め人と自営業で4割近くと高くなっている。「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は勤め人で4割と高くなっている。(図表5-2-3)

図表5-2-3 重要と考える子育て支援策一性／年齢別・職業別（上位10項目）



(3) さらに充実を図る必要がある子育て支援策

◇「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」が3割

問12 また、さらに充実を図る必要があると考えるものを選んでください。(〇はいくつでも)

n = 1,004

1	保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備	25.5%
2	一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	29.5
3	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	12.0
4	子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	21.7
5	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	24.1
6	情報の提供や相談サービス	14.0
7	公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備	27.8
8	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	11.7
9	職業生活と家庭生活との両立の支援	25.9
10	児童虐待防止対策	17.8
11	経済的な支援	18.8
12	特にない	5.4
	(無回答)	30.6

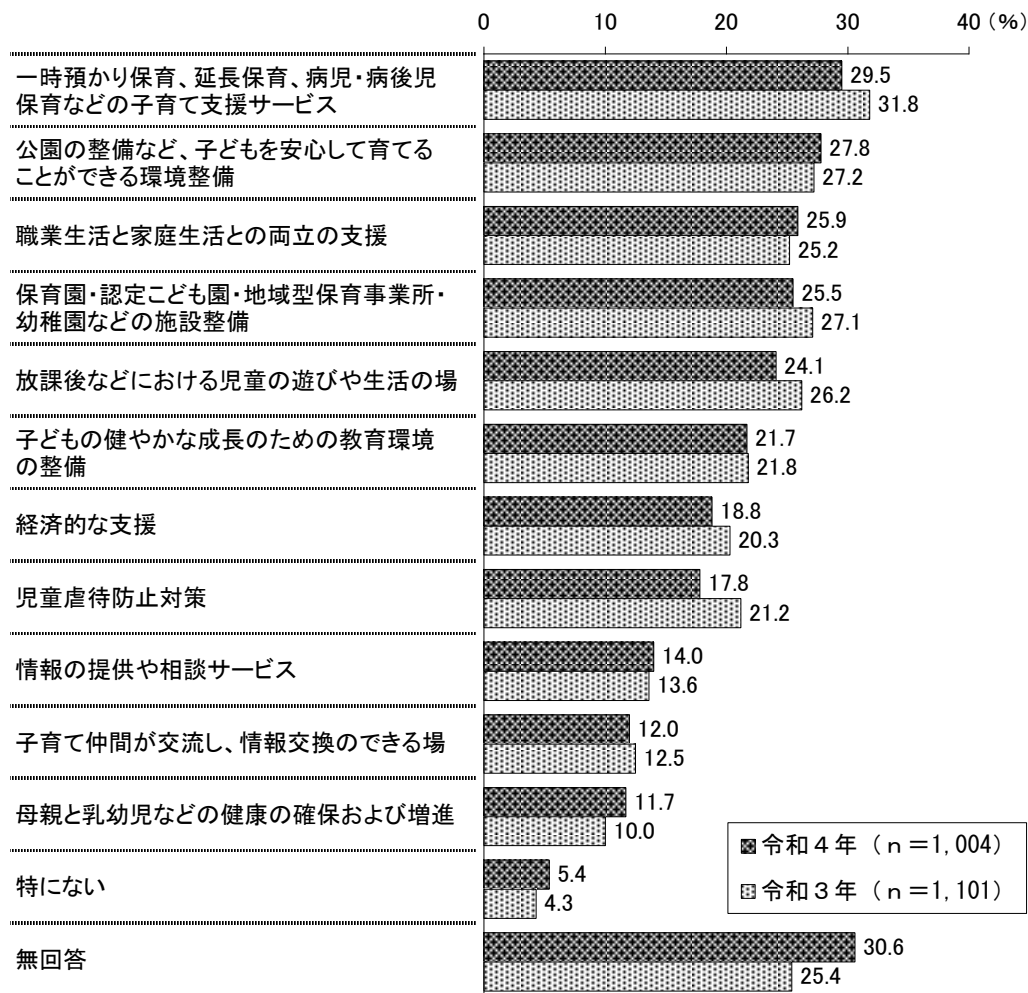
(※) 地域型保育事業所 少人数の単位で0～2歳の子どもを預かる保育事業所です。
(家庭的保育事業・小規模保育事業・事業所内保育事業・居宅訪問型保育事業)

さらに充実を図る必要がある子育て支援策は、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」(29.5%)が3割で最も高くなっている。次いで、「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」(27.8%)、「職業生活と家庭生活との両立の支援」(25.9%)、「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」(25.5%)、「放課後などにおける児童の遊びや生活の場」(24.1%)などとなっている。

昨年との調査結果と比較すると、「児童虐待防止対策」は3.4ポイント減少している。

(図表 5-3-1)

図表 5-3-1 さらに充実を図る必要がある子育て支援策（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、第2位以下の項目の順位には変動がみられるが、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は引き続き第1位となっている。

(図表5-3-2)

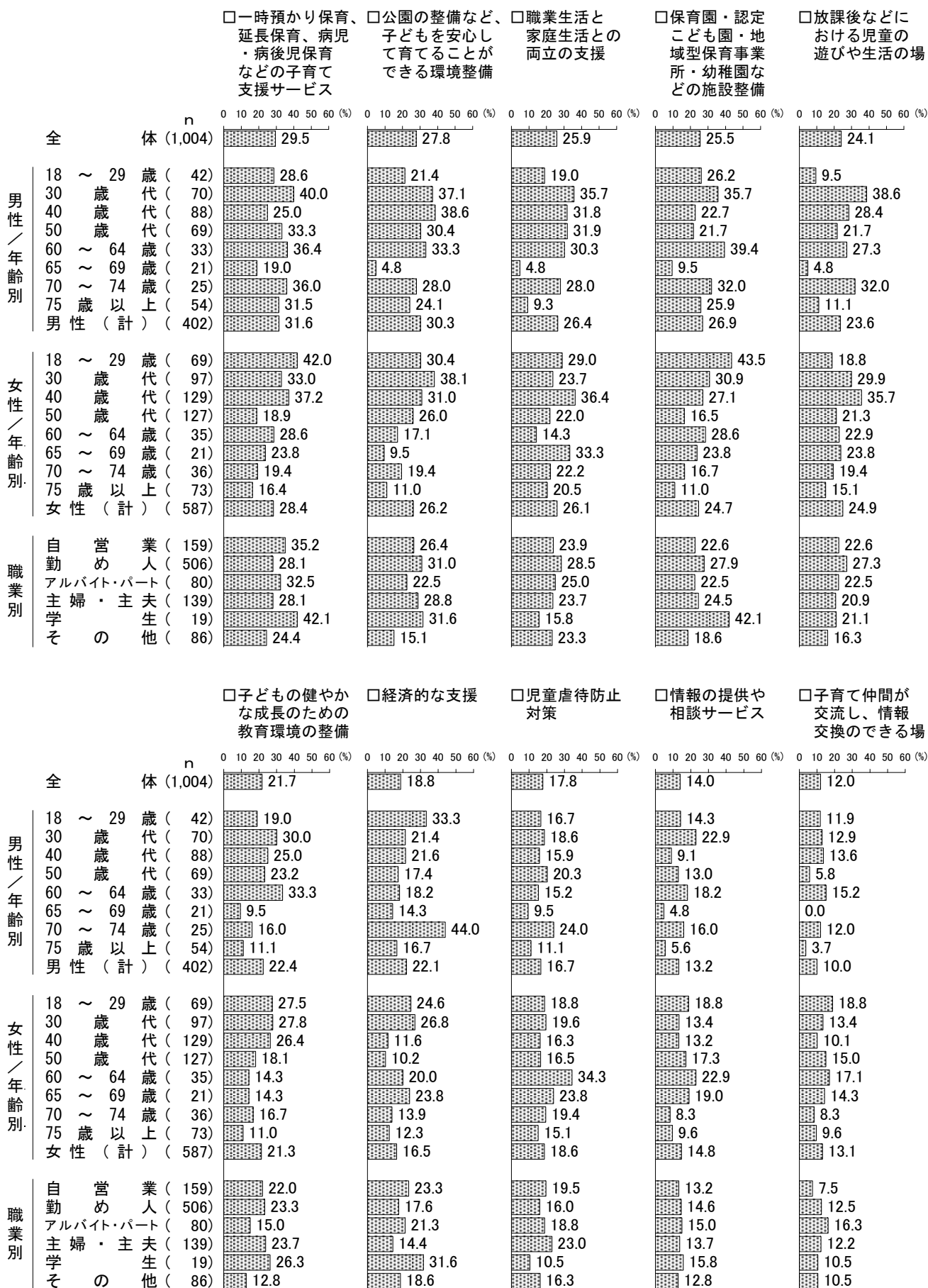
図表5-3-2 さらに充実を図る必要がある子育て支援策—過年度比較

調 査 年	n	(%)												
		一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備	職業生活と家庭生活との両立の支援	保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備	放課後などにおける児童の遊びや生活の場	子どもの健全な成長のための教育環境の整備	経済的な支援	児童虐待防止対策	情報の提供や相談サービス	子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	母親と乳幼児などの健康の確保および増進	特 に な い	無 回 答
令和4年	1,004	29.5	27.8	25.9	25.5	24.1	21.7	18.8	17.8	14.0	12.0	11.7	5.4	30.6
令和3年	1,101	31.8	27.2	25.2	27.1	26.2	21.8	20.3	21.2	13.6	12.5	10.0	4.3	25.4
令和2年	1,161	33.9	28.9	27.6	29.2	28.3	23.4	20.5	21.2	12.9	10.5	11.5	5.2	23.5
令和元年	956	32.6	26.2	25.5	27.4	27.0	20.4	16.3	24.4	13.0	11.1	11.7	4.5	27.5
平成30年	1,056	33.6	27.3	26.8	30.6	27.7	19.4	17.4	16.3	13.3	13.1	10.4	4.8	24.2
平成29年	1,056	33.3	24.6	25.8	28.5	27.7	19.2	17.1	16.0	12.5	12.5	11.5	3.4	25.9
平成28年	1,036	36.2	26.7	28.3	32.4	26.4	20.7	16.4	20.0	13.8	12.2	11.1	3.7	26.3

性／年齢別でみると、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は女性の18～29歳と男性の30歳代で4割台と高くなっている。「保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備」は女性の18～29歳で4割を超えて高くなっている。「経済的な支援」は男性の70～74歳で4割台半ばと高くなっている。

職業別でみると、「一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス」は自営業で3割台半ばと高くなっている。「公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備」は勤め人で3割を超えて高くなっている。「職業生活と家庭生活との両立の支援」は勤め人で3割近くと高くなっている。(図表5-3-3)

図表5-3-3 さらに充実を図る必要がある子育て支援策一性／年齢別・職業別（上位10項目）



(4) 区に取り組んでほしい具体的な施策やサービス

問12-1 あなたが問12で重要と考えるものに○をした選択肢も含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスを自由に記述していただいたところ、262人から延べ299件の回答が寄せられた。問12の重要と考える子育て支援策におおむね沿った形で整理した。

(ご意見の一部)

■保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備 (54件)

- ・ 保育園・幼稚園の受け入れ人数の確保。働いている人が子どもを預けられない状況や、預けられず仕事を辞める、または働き出せない状況はありえない。
- ・ 私自身は子育ての経験はありませんが、認可保育園と企業内保育園(2園)を運営した経験を持ちます。施設整備等のハードウェアは、行政のサポートもあり急速に充実しましたが、保育士等の教育等ソフトウェアが必要だと感じます。有資格者は増えましたが、教育者としての人間力、問題解決能力、社会力等のある「先生たち」を育てることが子どもや保護者にとっても重要だと感じております。
- ・ たびたび保育園が閉園になると仕事に行けない。何か対策を考えてほしい。

■一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス (40件)

- ・ 保育園に入れるほどではないが、週に数回預けられる場所があるといい。
- ・ 一時預かりをネットで申し込めるようにする、決済もネットで完結するなど。
- ・ 仕事をしていなくても一般的に預かってくれる所や病院、保育をしてくれる所をもっと増やす、利用のハードルを下げる。
- ・ 病児・病後児保育や一時預かり保育は、登録しても使いたい時に使えないことが多い。

■子育て仲間が交流し、情報交換のできる場 (4件)

- ・ 同じくらいの年齢の子の親とふれ合う機会がコロナで全く持てず、ずっと孤独だったので、ママ友を作れるような機会があると嬉しい。
- ・ 悩みに応じた交流、情報提供の場。

■子どもの健やかな成長のための教育環境の整備 (25件)

- ・ 古い校舎の建て替え(新しいところとの差が激しすぎ)。
- ・ コロナ禍になる前と、何も変わらない学校生活(学校行事もちろん含む)の提供。

■放課後などにおける児童の遊びや生活の場 (18件)

- ・ 学童施設運営の完全民間委託(弁当の提供など)。
- ・ プレディのような小学生が放課後に行ける施設の数を増やし、充実させてほしい。

■情報の提供や相談サービス（8件）

- ・ 相談相手となる職員の教育がなにより必要。学歴や試験での採用に頼らず、カウンセリング等の資質のある職員の育成を望む。
- ・ 子育て世代にきちんと届く情報発信と、使い勝手の良さを進めるためのIT化。
- ・ 子どもの発達について専門家に相談できる窓口があると安心。

■公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備（45件）

- ・ 子どもだけでも、安心・安全に過ごせる公園や室内施設の充実。
- ・ 公園など子どもが遊べる場所を増やしてほしい。野球やサッカーができる場所が少ないと思う。
- ・ 子どもが喘息のため、公園や路上喫煙者の注意や見回りをして欲しい。

■母親と乳幼児などの健康の確保および増進（4件）

- ・ 中央区の補助対象の産後ケア施設は、母子同室で、子と離れて母が休息を取ることができません。港区のように、いくつか施設の選択肢を用意してほしいです。

■職業生活と家庭生活との両立の支援（21件）

- ・ 親が働く場所の至近距離に、安心して子どもを預ける所がある事。
- ・ 仕事との両立で忙しく、家の中がごちゃごちゃなため、家事サービスや平日料理を作ってくれるサービスなどがあるといいな、と思います。
- ・ 男性も子育てを協力して行うという教育や、企業の制度の見直しを行ってほしい。
- ・ 保育所や幼稚園にいる子どもの近くで、リモートワークできる環境。

■児童虐待防止対策（13件）

- ・ 児童虐待を無くすよう、児童相談員の人数を増やすなどして対応してほしい。
- ・ 児童虐待に対応するには警察の協力が必要です。

■経済的な支援（27件）

- ・ 親の所得制限に関わらず、子育て世代への手当を平等に支給してほしい。
- ・ ひとり親家庭への経済的支援。経済的にどんな家庭であっても、高校・大学へ行けるような策があればいいと思います。
- ・ 私立幼稚園へ通った場合の入園料や保育料の手当が他区より低いため、私立幼稚園の負担が大きい。港区の子育て支援にあこがれます。

■その他（40件）

- ・ 独身のため、具体的な要望はありませんが、結婚せずに出産する、養子を迎える等、親子の形も多様化してくると思いますので、多くの方がサービスを受けられる施策だと良いと思います。
- ・ 父親、母親を親として育てることが必要だと思う。もちろんサポートも必要だが、親として考える力、子どもの伸ばしたい事にしっかり向き合えるよう、援助するのはどうでしょうか。

【6 防犯対策】

(1) 不安を感じる犯罪

◇「振り込め詐欺」が2割近く

問13 あなたの住む地域で不安を感じる具体的犯罪は何ですか。(○は2つまで)

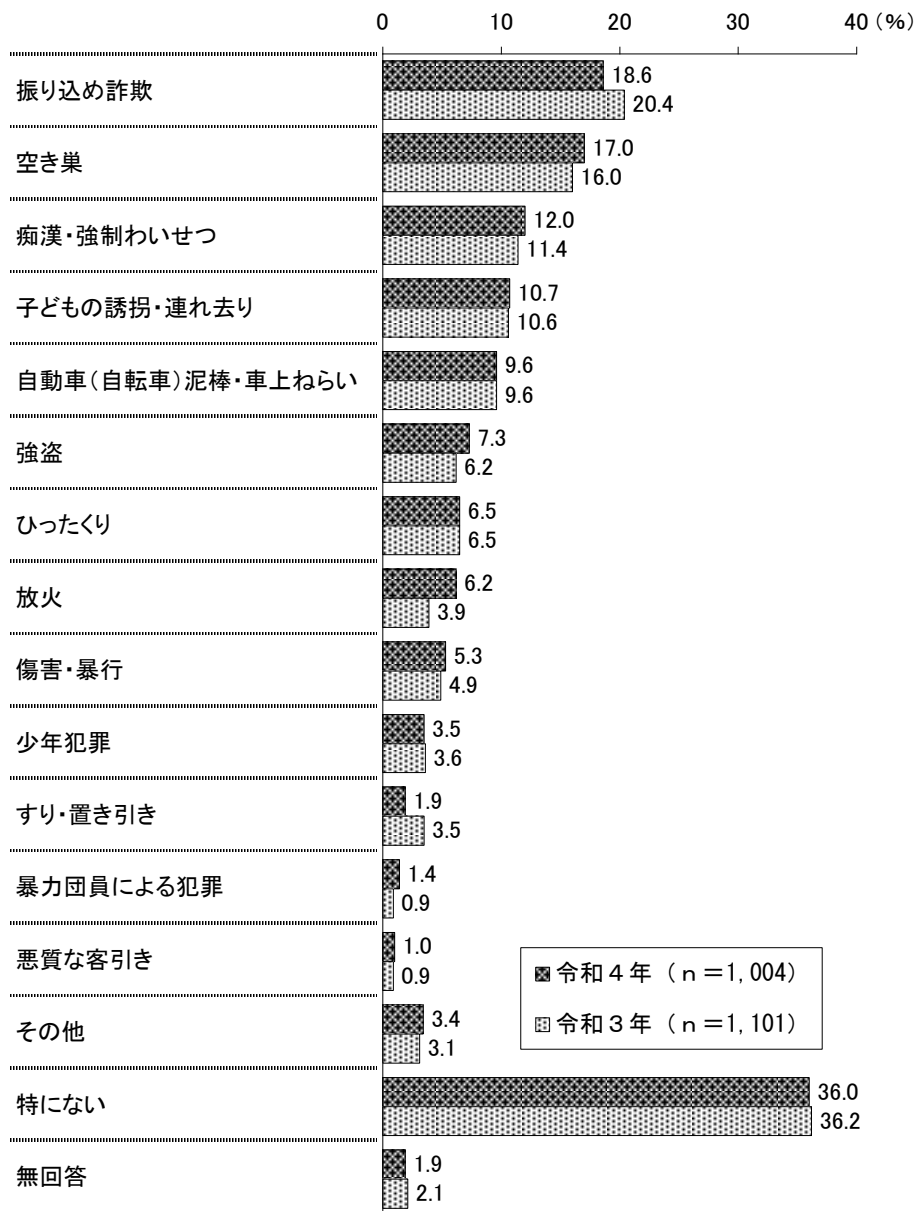
n = 1,004

1	ひったくり	6.5%	9	痴漢・強制わいせつ	12.0
2	空き巣	17.0	10	少年犯罪	3.5
3	強盗	7.3	11	子どもの誘拐・連れ去り	10.7
4	すり・置き引き	1.9	12	暴力団員による犯罪	1.4
5	自動車(自転車)泥棒・車上ねらい	9.6	13	悪質な客引き	1.0
6	振り込め詐欺	18.6	14	その他	3.4
7	傷害・暴行	5.3	15	特にない	36.0
8	放火	6.2		(無回答)	1.9

不安を感じる犯罪は、「振り込め詐欺」(18.6%)が2割近くで最も高くなっている。次いで、「空き巣」(17.0%)、「痴漢・強制わいせつ」(12.0%)、「子どもの誘拐・連れ去り」(10.7%)、「自動車(自転車)泥棒・車上ねらい」(9.6%)などとなっている。一方、「特にない」(36.0%)は3割台半ばとなっている。

昨年との調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図表6-1-1)

図表6-1-1 不安を感じる犯罪(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、令和2年以降は「振り込め詐欺」が第1位となっている。(図表6-1-2)

図表6-1-2 不安に感じる犯罪—過年度比較

調査年	n	(%)															
		振り込め詐欺	空き巣	痴漢・強制わいせつ	子どもの誘拐・連れ去り	自動車(自転車)泥棒・車上ねらい	強盗	ひったくり	放火	傷害・暴行	少年犯罪	すり・置き引き	暴力団員による犯罪	悪質な客引き	その他	特にない	無回答
令和4年	1,004	18.6	17.0	12.0	10.7	9.6	7.3	6.5	6.2	5.3	3.5	1.9	1.4	1.0	3.4	36.0	1.9
令和3年	1,101	20.4	16.0	11.4	10.6	9.6	6.2	6.5	3.9	4.9	3.6	3.5	0.9	0.9	3.1	36.2	2.1
令和2年	1,161	19.8	17.7	14.4	11.0	9.2	8.7	7.1	3.9	5.9	2.4	3.7	0.7	1.3	4.0	32.3	2.2
令和元年	956	18.1	23.6	10.8	9.8	7.1	7.8	5.9	5.1	6.3	3.3	2.7	1.7	1.9	4.0	32.5	2.4
平成30年	1,056	16.8	22.1	9.0	14.1	8.4	4.7	8.4	6.9	7.5	3.5	2.9	1.2	1.7	4.1	32.1	2.3
平成29年	1,056	13.6	22.2	8.3	13.2	10.6	5.9	9.8	6.4	5.2	3.1	3.0	1.0	1.7	3.3	31.5	4.0
平成28年	1,036	12.4	21.7	10.0	14.0	12.2	6.4	6.0	5.2	6.0	3.6	2.7	2.0	1.4	3.8	33.4	3.2
平成27年	1,027	15.1	26.4	7.4	14.1	10.8	6.5	7.7	8.7	6.5	7.6	3.8	1.7	0.8	4.2	29.7	2.0
平成26年	1,041	21.4	40.1	11.8	16.9	17.5	11.9	16.0	13.8	11.1	8.8	8.4	3.9	※	4.1	※	15.9
平成25年	1,047	21.5	37.8	11.4	11.4	22.1	12.0	22.6	16.4	11.9	7.6	8.2	4.7	※	4.9	※	11.7
平成24年	1,123	13.1	41.7	10.5	11.9	21.1	16.9	21.5	17.8	16.8	10.2	7.5	8.2	※	5.9	※	9.3
平成23年	1,097	14.2	43.6	9.9	12.8	23.2	15.4	23.4	15.6	11.9	7.8	7.5	5.7	※	6.3	※	10.4
平成22年	1,004	17.1	41.8	10.3	13.9	20.9	12.8	20.3	16.7	12.2	11.3	6.5	7.0	※	4.5	※	11.5
平成21年	1,001	12.2	44.8	10.2	14.2	21.1	17.7	27.7	21.9	9.7	9.5	6.3	4.8	※	6.6	※	7.4
平成20年	1,065	18.0	42.6	18.6	16.9	13.9	18.1	19.8	18.9	17.7	15.0	4.5	10.4	※	5.9	※	7.6
平成19年	686	18.4	43.7	15.9	16.5	16.0	20.6	20.6	22.6	14.0	16.3	5.0	8.7	※	1.9	※	5.4

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

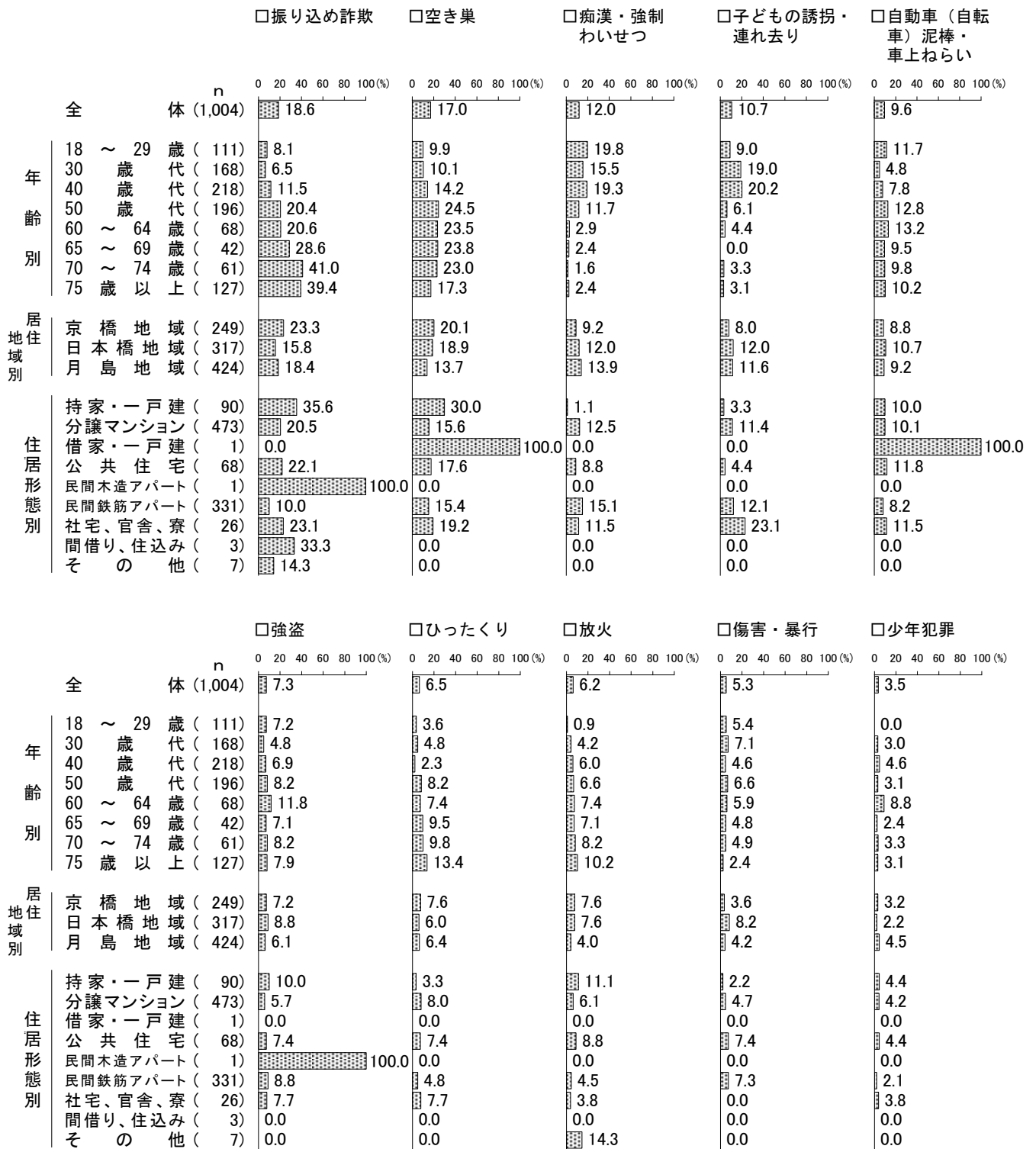
* 平成26年以前は、3つまで回答可能としていた。

年齢別で見ると、「振り込め詐欺」は70～74歳で4割を超えて高くなっている。「子どもの誘拐・連れ去り」は30歳代と40歳代で約2割と高くなっている。

居住地域別で見ると、「振り込め詐欺」は京橋地域で2割を超えて高くなっている。「空き巣」は京橋地域で2割と高くなっている。

住居形態別で見ると、「振り込め詐欺」は持家・一戸建てで3割台半ばと高くなっている。「空き巣」は持家・一戸建てで3割と高くなっている。(図表6-1-3)

図表6-1-3 不安に感じる犯罪一年齢別・居住地域別・住居形態別（上位10項目）



(2) 防犯のために行っていること

◇「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」が6割近く

問14 あなたが防犯のために実行していること、心掛けていることは何ですか。

(〇はいくつでも)

n = 1,004

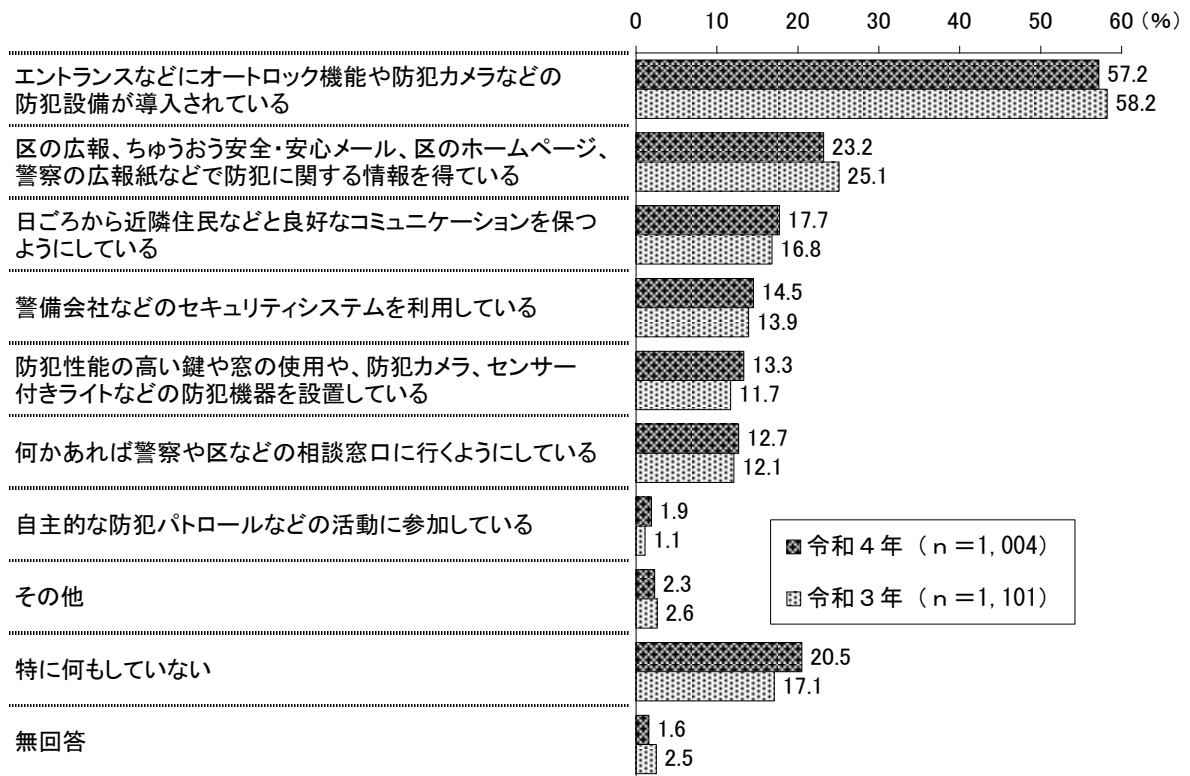
1	自主的な防犯パトロールなどの活動に参加している	1.9%
2	区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている	23.2
3	何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている	12.7
4	日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている	17.7
5	防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している	13.3
6	警備会社などのセキュリティシステムを利用している	14.5
7	エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている	57.2
8	その他	2.3
9	特に何もしていない	20.5
	(無回答)	1.6

防犯のために行っていることは、「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」(57.2%)が6割近くで最も高くなっている。次いで、「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」(23.2%)、「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」(17.7%)、「警備会社などのセキュリティシステムを利用している」(14.5%)、「防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している」(13.3%)などとなっている。一方、「特に何もしていない」(20.5%)は約2割となっている。

昨年の調査結果と比較すると、「特に何もしていない」は3.4ポイント増加している。

(図表6-2-1)

図表6-2-1 防犯のために行っていること（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」と「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」、「日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている」が令和2年以降上位3項目となっている。(図表6-2-2)

図表6-2-2 防犯のために行っていること一過年度比較

調査年	n	(%)									
		エンカントランスなどの防犯にオートロック機能や防	区にの関する情報を得ている	区にの関する情報を得ている	日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーション	警備会社などのセキュリティシステムを利用	防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯カメラ	防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯カメラ	防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯カメラ	防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯カメラ	防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯カメラ
令和4年	1,004	57.2	23.2	17.7	14.5	13.3	12.7	1.9	2.3	20.5	1.6
令和3年	1,101	58.2	25.1	16.8	13.9	11.7	12.1	1.1	2.6	17.1	2.5
令和2年	1,161	59.6	25.7	16.0	14.3	10.9	13.3	1.2	1.8	16.9	2.0
令和元年	956	※	21.1	20.5	16.7	16.3	13.7	1.6	2.4	40.5	2.4
平成30年	1,056	※	19.8	19.6	14.7	11.6	13.3	1.5	3.9	42.1	2.1
平成29年	1,056	※	21.3	19.1	14.6	15.9	13.2	1.4	3.0	38.0	3.6
平成28年	1,036	※	19.8	20.3	15.2	15.5	13.5	1.2	2.2	41.0	2.6
平成27年	1,027	※	20.0	20.1	14.2	14.1	13.0	1.6	3.0	41.6	1.9
平成26年	1,041	※	17.5	19.5	13.6	14.9	14.4	1.2	3.7	41.6	3.2
平成25年	1,047	※	18.4	22.3	11.9	16.1	15.2	2.1	3.9	36.8	4.7
平成24年	1,123	※	19.6	20.1	12.0	15.2	16.3	1.6	2.8	40.5	2.4
平成23年	1,097	※	17.7	22.0	11.9	14.8	15.3	1.8	3.2	39.7	3.4
平成22年	1,004	※	20.3	27.5	14.0	19.2	19.2	2.6	2.8	33.0	2.1
平成21年	1,001	※	13.7	26.8	15.4	19.4	16.2	2.6	3.5	35.2	2.2
平成20年	1,065	※	12.7	29.8	14.1	19.7	17.2	3.4	3.3	36.2	2.3
平成19年	686	※	9.0	27.7	10.5	19.2	13.0	2.9	2.5	41.5	2.0

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。

* 「区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」の選択肢は、平成21年以前は「子ども安全安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている」としていた。

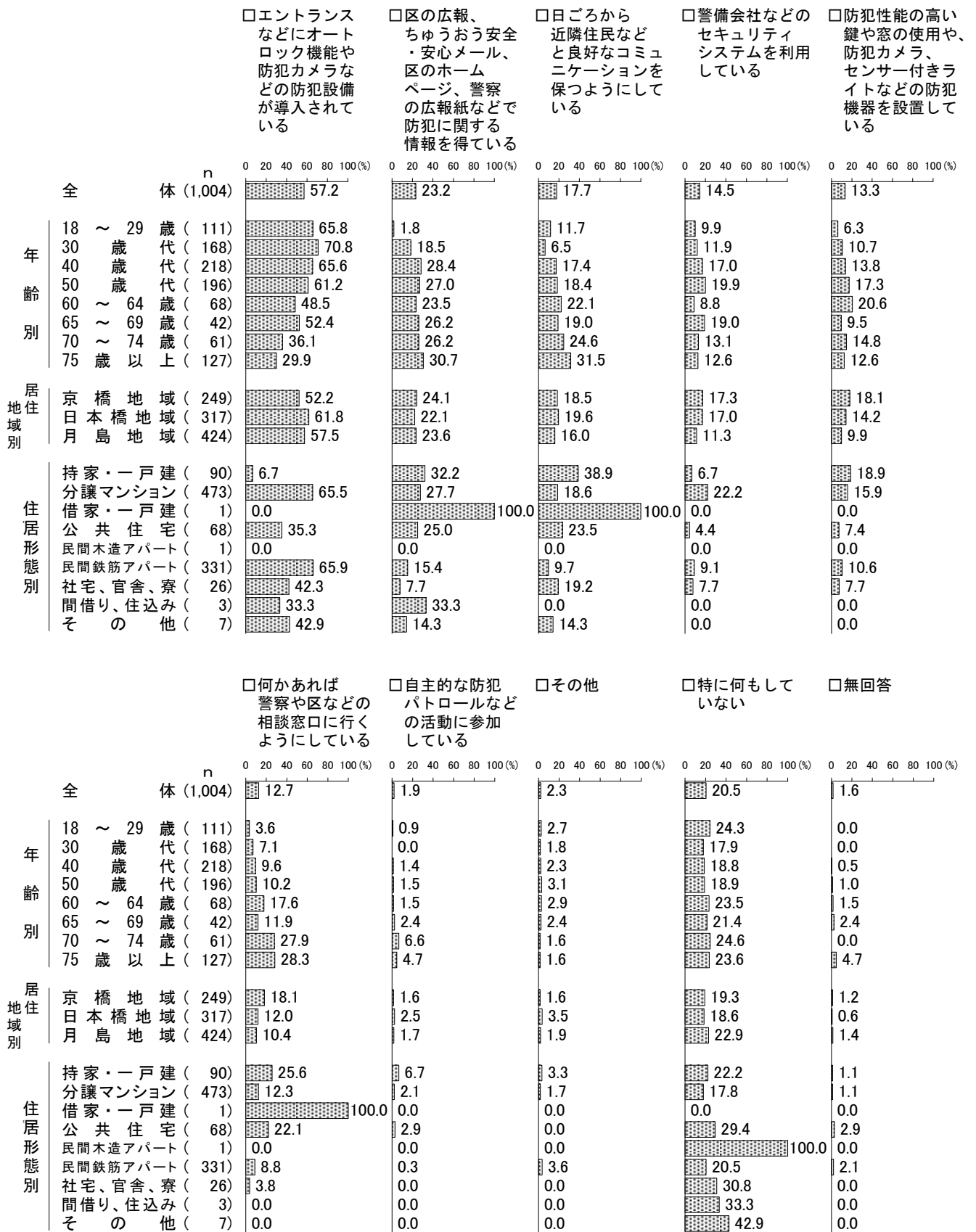
年齢別でみると、「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」は30歳代で約7割と高くなっている。

居住地域別でみると、「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」は日本橋地域で6割を超えて高くなっている。

住居形態別でみると、「エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている」は民間鉄筋アパートと分譲マンションで6割台半ばと高くなっている。

(図表6-2-3)

図表6-2-3 防犯のために行っていること一年齢別・居住地域別・住居形態別



(3) 区に特に力を入れてほしい施策

◇「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」が5割近く

問15 今後、あなたが区に特に力を入れてほしいと考える施策は何ですか。(〇は2つまで)

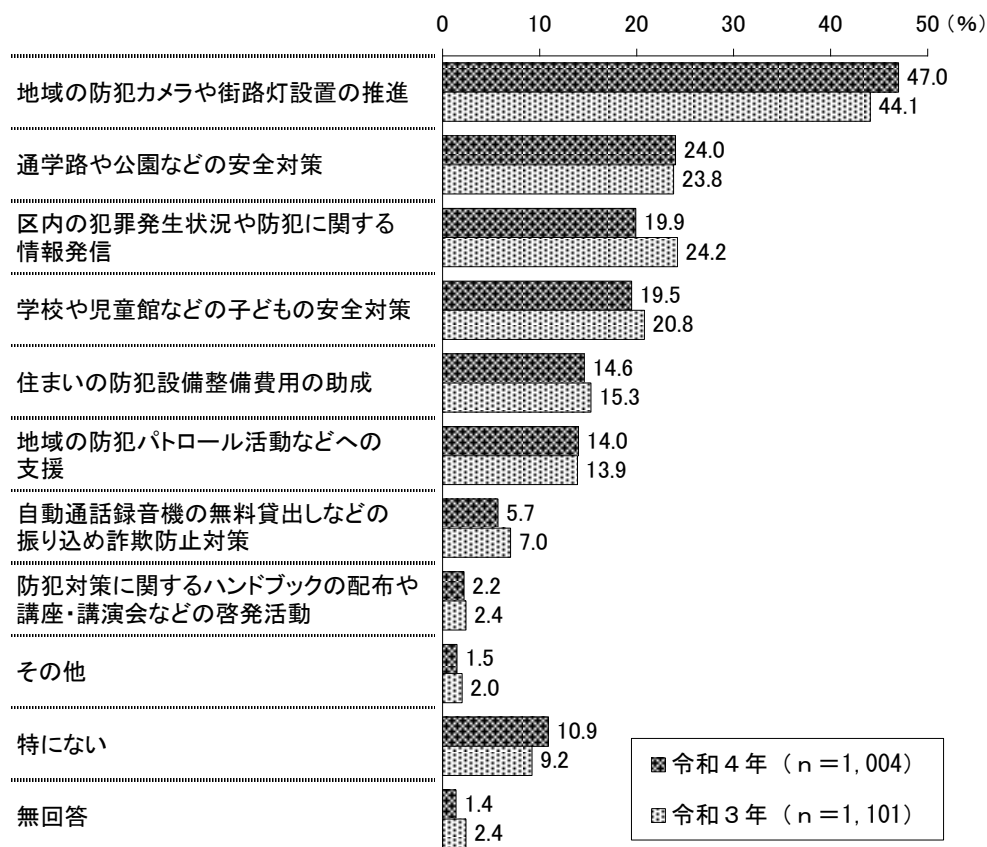
n = 1,004

1	区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信	19.9%
2	住まいの防犯設備整備費用の助成	14.6
3	自動通話録音機の無料貸出しなどの振り込め詐欺防止対策	5.7
4	地域の防犯カメラや街路灯設置の推進	47.0
5	防犯対策に関するハンドブックの配布や講座・講演会などの啓発活動	2.2
6	学校や児童館などの子どもの安全対策	19.5
7	通学路や公園などの安全対策	24.0
8	地域の防犯パトロール活動などへの支援	14.0
9	その他	1.5
10	特にない	10.9
	(無回答)	1.4

区に特に力を入れてほしい施策は、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」(47.0%)が5割近くで最も高くなっている。次いで、「通学路や公園などの安全対策」(24.0%)、「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」(19.9%)、「学校や児童館などの子どもの安全対策」(19.5%)、「住まいの防犯設備整備費用の助成」(14.6%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」は4.3ポイント減少している。(図表6-3-1)

図表6-3-1 区に特に力を入れてほしい施策(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は平成27年以降第1位となっている。(図表6-3-2)

図表6-3-2 区に特に力を入れてほしい施策一過年度比較

調査年	n	(%)										
		地域の防犯カメラや街路灯設置の推進	通学路や公園などの安全対策	区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信	学校や児童館などの子どもの安全対策	住まいの防犯設備整備費用の助成	地域の防犯パトロール活動などへの支援	自動通話録音機の無料貸出しなどの防犯対策	配布や講座・講演会などの啓発活動	その他	特にない	無回答
令和4年	1,004	47.0	24.0	19.9	19.5	14.6	14.0	5.7	2.2	1.5	10.9	1.4
令和3年	1,101	44.1	23.8	24.2	20.8	15.3	13.9	7.0	2.4	2.0	9.2	2.4
令和2年	1,161	45.9	22.7	22.0	21.7	15.2	12.6	7.9	1.1	2.2	10.0	2.6
令和元年	956	43.7	25.0	24.2	20.6	11.9	16.0	8.5	1.9	1.8	7.6	2.8
平成30年	1,056	51.1	26.9	20.1	20.4	14.2	17.0	※	2.7	2.7	6.4	2.1
平成29年	1,056	47.1	26.2	24.1	22.1	11.7	16.3	※	2.5	2.1	8.0	4.5
平成28年	1,036	46.9	25.5	24.0	22.0	11.5	18.8	※	2.2	1.2	8.5	3.1
平成27年	1,027	50.6	30.1	21.3	23.5	12.8	22.1	※	2.9	2.4	5.6	2.7
平成26年	1,041	26.9	35.8	14.6	22.9	21.3	22.4	※	4.4	3.2	※	8.9
平成25年	1,047	30.7	34.4	14.9	19.5	23.3	21.0	※	4.6	3.5	※	8.3
平成24年	1,123	14.2	38.1	20.7	24.0	11.0	28.9	※	5.9	3.9	※	9.3
平成23年	1,097	13.7	38.6	15.6	24.2	12.4	30.8	※	5.7	4.6	※	10.6
平成22年	1,004	14.4	42.4	14.9	29.3	10.8	31.1	※	5.0	3.7	※	7.3
平成21年	1,001	16.3	39.3	14.5	23.6	11.4	28.6	※	5.0	7.1	※	9.0

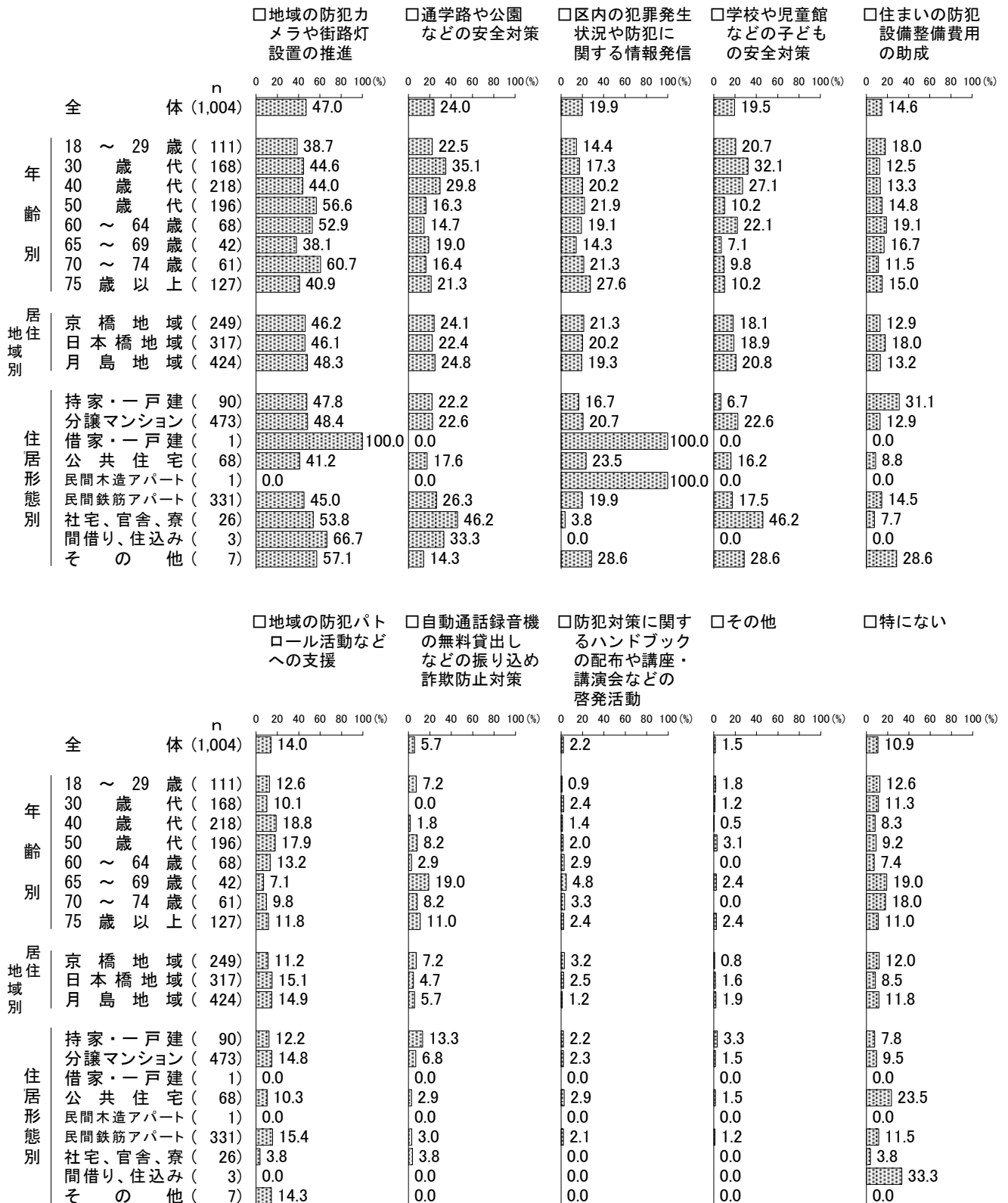
- * ※印は、その年の調査では開かれていない選択肢。
- * 「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」の選択肢は、平成25年から平成26年までは「町会、自治会などに対する防犯アドバイザーの派遣および防犯カメラなどの設置費用の助成」、平成24年以前は「町会、自治会等に対する街の防犯対策に関するアドバイザーの派遣相談及び費用の助成」としていた。
- * 「地域の防犯パトロール活動などへの支援」の選択肢は、平成29年と平成27年では「地域の防犯パトロール活動への支援」、平成26年以前は「地域の自主的防犯パトロール活動や子ども見守り活動への支援」としていた。
- * 「区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」の選択肢は、平成26年以前は「メールによる犯罪発生状況や防犯に関する情報発信」としていた。
- * 「住まいの防犯設備整備費用の助成」の選択肢は、平成25年から平成26年までは「住まいの防犯アドバイザーの派遣および防犯性能の高い鍵やセンサー付きライトなどの設置費用の助成」、平成24年以前は「住まいの防犯対策に関するアドバイザーの派遣相談及び費用の助成」としていた。
- * 「防犯対策に関するハンドブックの配付や講座・講演会などの啓発活動」の選択肢は、平成26年以前は「防犯や子どもの安全に関する講座・講演会」としていた。

年齢別で見ると、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は70～74歳で約6割と高くなっている。「通学路や公園などの安全対策」は30歳代で3割台半ばと高くなっている。

居住地域別で見ると、「住まいの防犯設備整備費用の助成」は日本橋地域で2割近くとなっている。

住居形態別で見ると、「地域の防犯カメラや街路灯設置の推進」は社宅、官舎、寮で5割を超えて高くなっている。(図表6-3-3)

図表6-3-3 区に特に力を入れてほしい施策一年齢別・居住地域別・住居形態別



【7 スポーツ】

(1) 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類

◇「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」が6割を超える

問16 あなたがこの1年間に行ったスポーツや運動は何ですか。（○はいくつでも）

※ 運動の量や時間の条件はありません。

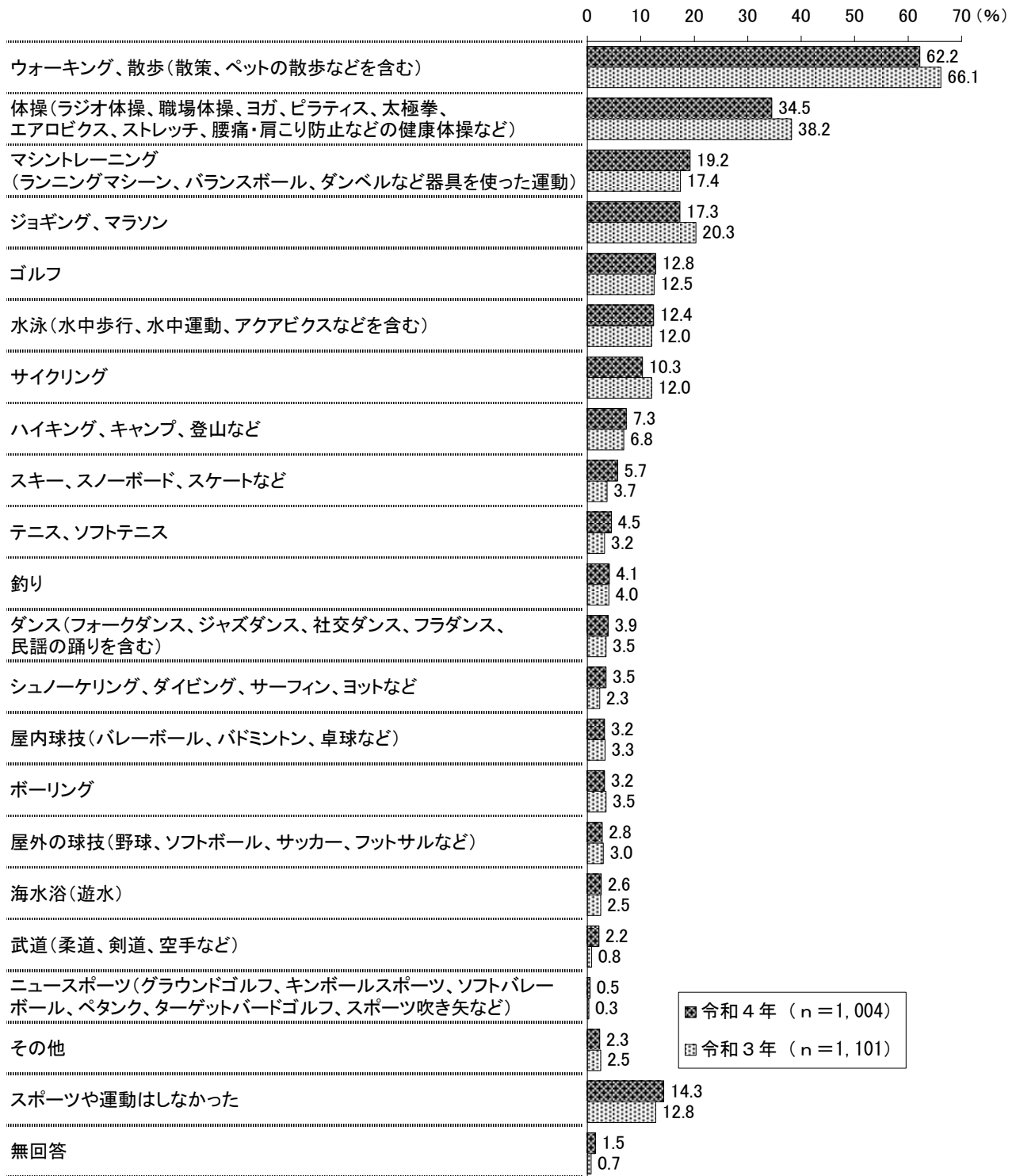
n=1,004

1	水泳（水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む）	12.4%
2	体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）	34.5
3	ジョギング、マラソン	17.3
4	ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）	62.2
5	マシントレーニング（ランニングマシン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動）	19.2
6	武道（柔道、剣道、空手など）	2.2
7	テニス、ソフトテニス	4.5
8	屋内球技（バレーボール、バドミントン、卓球など）	3.2
9	屋外の球技（野球、ソフトボール、サッカー、フットサルなど）	2.8
10	ゴルフ	12.8
11	ハイキング、キャンプ、登山など	7.3
12	スキー、スノーボード、スケートなど	5.7
13	海水浴（遊水）	2.6
14	シュノーケリング、ダイビング、サーフィン、ヨットなど	3.5
15	釣り	4.1
16	ボーリング	3.2
17	サイクリング	10.3
18	ニュースポーツ（グラウンドゴルフ、キンボールスポーツ、ソフトバレーボール、ペタンク、ターゲットバードゴルフ、スポーツ吹き矢など）	0.5
19	ダンス（フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、民謡の踊りを含む）	3.9
20	その他	2.3
21	スポーツや運動はしなかった （無回答）	14.3 1.5

過去1年間に行ったスポーツや運動の種類は、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」（62.2%）が6割を超えて最も高くなっている。次いで、「体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）」（34.5%）、「マシントレーニング（ランニングマシン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動）」（19.2%）、「ジョギング、マラソン」（17.3%）などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」は3.9ポイント、「体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）」は3.7ポイント、「ジョギング、マラソン」は3.0ポイント、それぞれ減少している。（図表7-1-1）

図表7-1-1 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類（複数回答）



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「ウォーキング、散歩」と「体操」が引き続き上位2項目となっている。(図表7-1-2)

図表7-1-2 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類—過年度比較

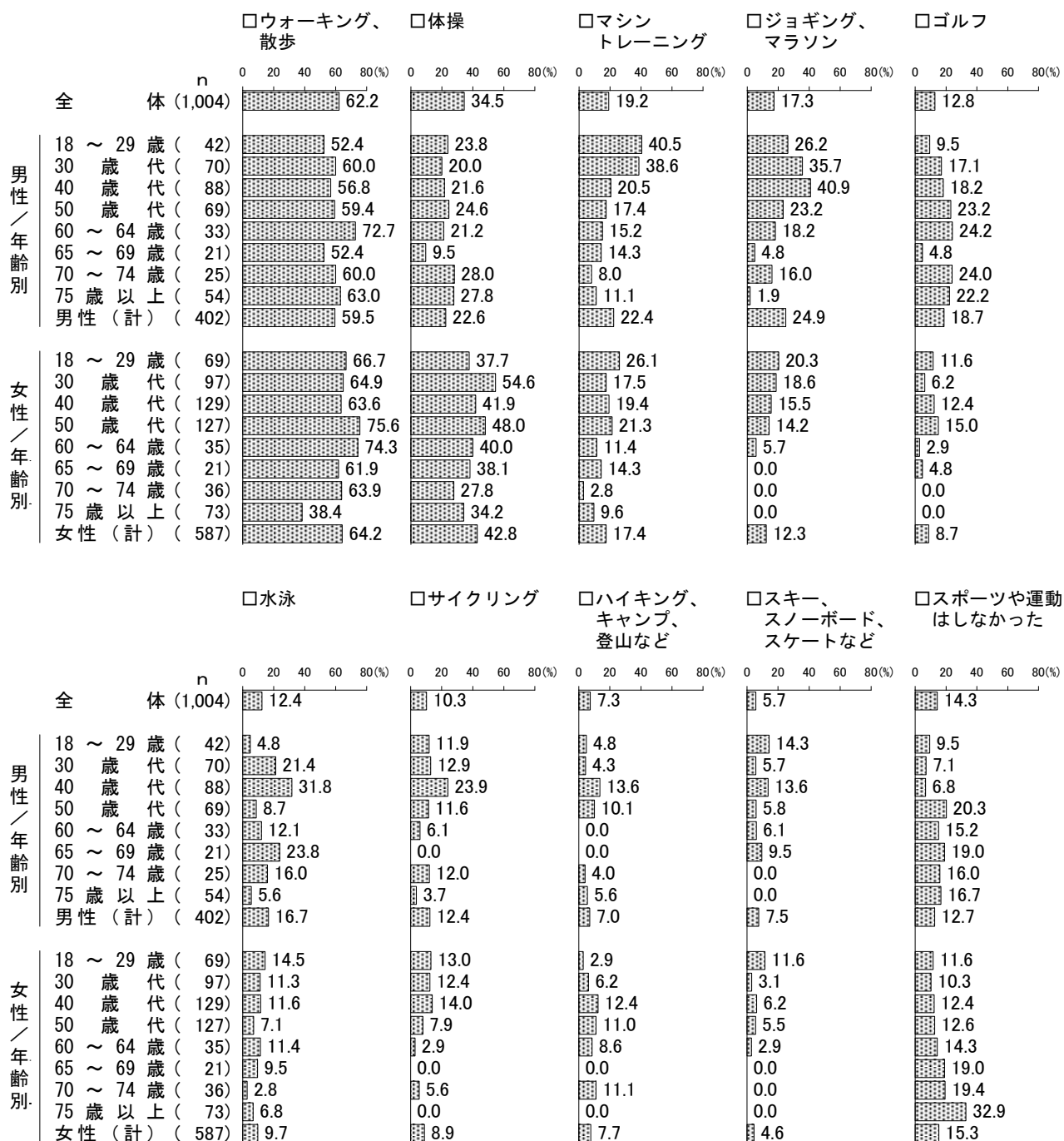
調査年	n	(%)																					
		ウォーキング、散歩	体操	マシントレーニング	ジョギング、マラソン	ゴルフ	水泳	サイクリング	ハイキング、キャンプ、登山など	スキー、スノーボード、スケートなど	テニス、ソフトテニス	釣り	ダンス	シンクロナイズドダイビング、サーフィ	屋内球技	ボウリング	屋外の球技	海水浴(遊水)	武道(柔道、剣道、空手など)	ニュースポーツ	その他	スポーツや運動はしなかった	無回答
令和4年	1,004	62.2	34.5	19.2	17.3	12.8	12.4	10.3	7.3	5.7	4.5	4.1	3.9	3.5	3.2	3.2	2.8	2.6	2.2	0.5	2.3	14.3	1.5
令和3年	1,101	66.1	38.2	17.4	20.3	12.5	12.0	12.0	6.8	3.7	3.2	4.0	3.5	2.3	3.3	3.5	3.0	2.5	0.8	0.3	2.5	12.8	0.7
令和2年	1,161	62.9	40.1	18.1	20.1	12.4	16.6	12.6	8.2	4.7	3.9	3.5	3.7	5.2	3.5	3.5	5.3	5.8	1.4	0.4	3.1	13.4	1.8
平成30年	1,056	57.5	37.9	20.3	18.8	12.2	17.0	13.7	11.6	6.2	3.6	3.5	5.7	6.0	4.3	6.6	4.5	7.2	1.1	0.9	1.2	11.9	2.0
平成29年	1,056	56.7	40.0	17.4	16.4	12.7	17.6	13.0	11.2	6.0	4.4	3.9	5.8	5.6	5.6	6.7	4.9	8.6	1.3	1.0	0.9	12.7	3.5
平成28年	1,036	58.3	36.2	18.8	20.6	14.3	21.9	15.9	11.3	6.9	5.4	4.7	5.3	7.4	5.3	8.7	5.5	11.0	1.4	1.5	1.0	12.6	3.4
平成27年	1,027	50.2	30.0	14.0	16.8	15.1	16.9	10.2	8.3	7.4	3.8	3.1	3.3	5.1	3.3	4.6	3.9	6.2	1.5	0.9	1.8	15.5	2.8
平成26年	1,041	57.8	37.8	15.0	17.2	13.9	21.3	14.6	11.6	7.4	4.2	4.9	5.0	3.7	5.2	7.3	5.2	8.5	1.1	1.0	1.2	12.1	2.2
平成25年	1,047	57.0	36.1	14.3	15.6	13.0	20.9	12.3	9.6	5.9	5.3	4.2	5.3	4.9	4.8	7.1	5.2	7.6	1.3	1.1	1.5	12.1	2.7
平成24年	1,123	43.6	27.2	9.8	17.7	13.2	20.1	※	11.2	※	4.1	※	※	※	5.3	※	4.0	※	※	1.0	7.1	19.4	2.2

* ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢

* 「ニュースポーツ(グラウンドゴルフ、キンボールスポーツ、ソフトバレーボール、ペタンク、ターゲットバードゴルフ、スポーツ吹き矢など)」の選択肢は、平成29年では「ニュースポーツ(グラウンドゴルフ、キンボール、ソフトバレー、ペタンク、スポーツ吹き矢など)」としていた。

性／年齢別で見ると、「ウォーキング、散歩」は女性の50歳代と60～64歳で7割台半ばと高くなっている。「体操」は女性の30歳代で5割台半ばと高くなっている。「ジョギング、マラソン」は男性の40歳代で約4割と高くなっている。(図表7-1-3)

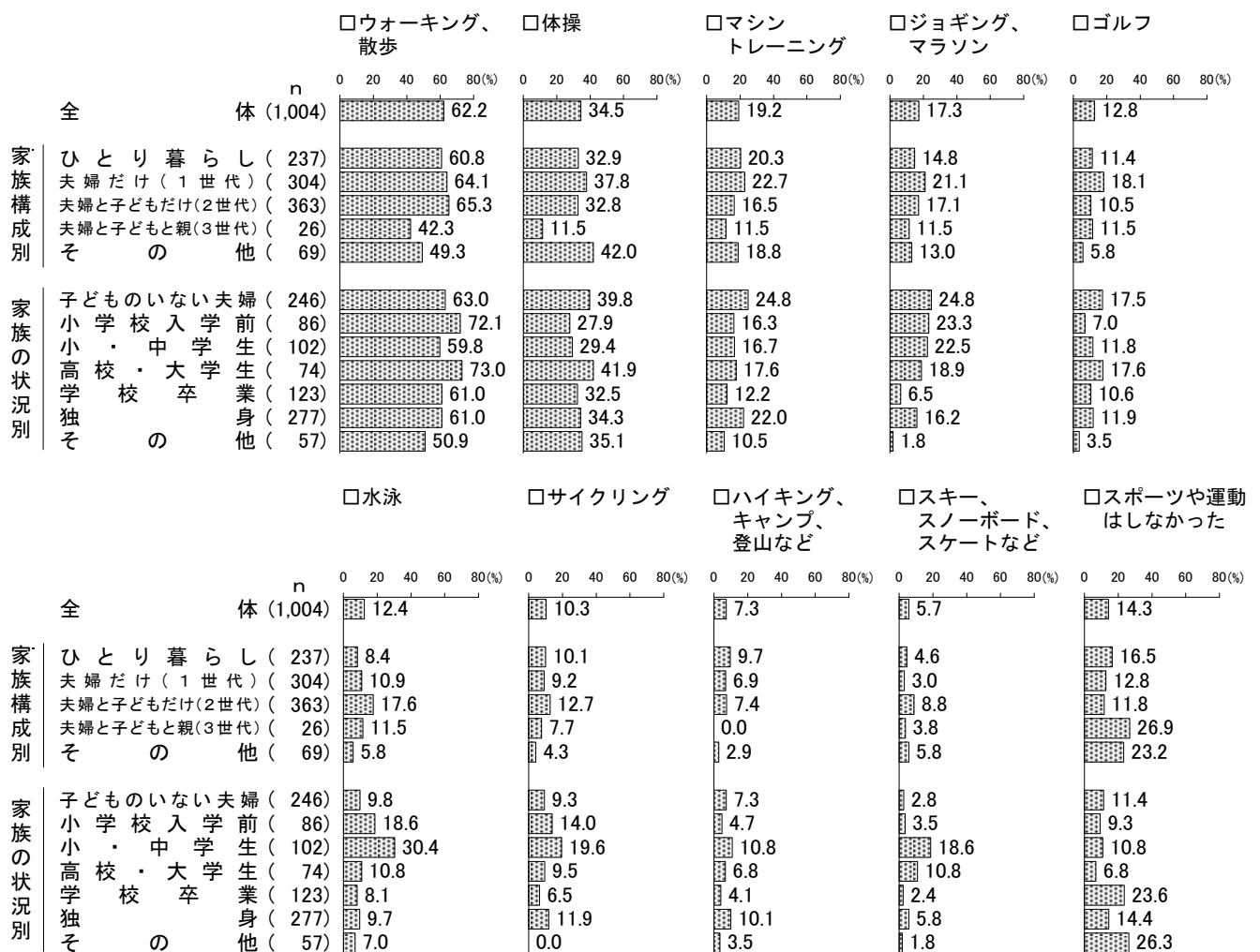
図表7-1-3 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類一性／年齢別（上位10項目）



家族構成別でみると、「ウォーキング、散歩」は夫婦と子どもだけ（2世代）と夫婦だけ（1世代）で6割台半ばと高くなっている。

家族の状況別でみると、「ウォーキング、散歩」が一番上の子どもが高校・大学生の家族と一番上の子どもが小学校入学前の家族で7割を超えて高くなっている。「体操」が一番上の子どもが高校・大学生の家族で4割を超えて高くなっている。「マシントレーニング」は子どものいない夫婦で2割台半ばと高くなっている。（図表7-1-4）

図表7-1-4 過去1年間に行ったスポーツや運動の種類—家族構成別・家族の状況別（上位10項目）



(2) 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度

◇「週に1～2日程度」が3割台半ば

(問16で、「1 水泳」から「20 その他」のいずれかにお答えの方に)

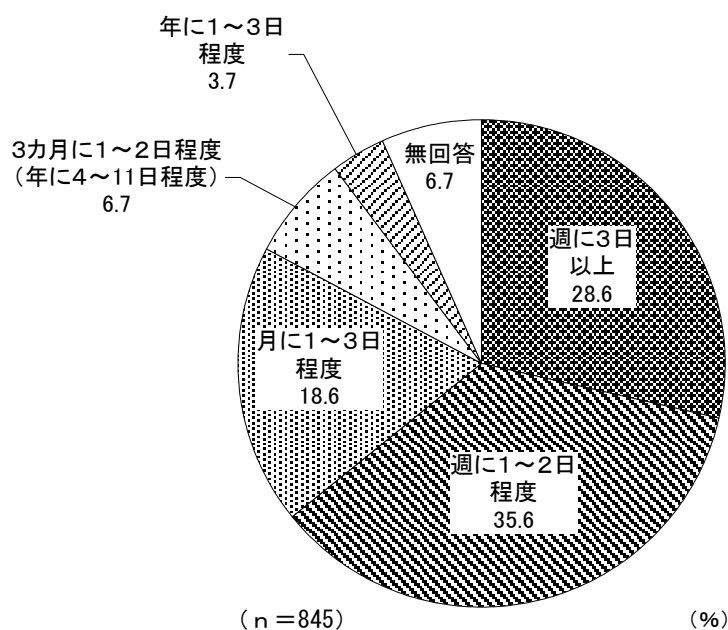
問16-1 あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(○は1つ)

n = 845

1 週に3日以上	28.6%
2 週に1～2日程度	35.6
3 月に1～3日程度	18.6
4 3カ月に1～2日程度(年に4～11日程度)	6.7
5 年に1～3日程度	3.7
(無回答)	6.7

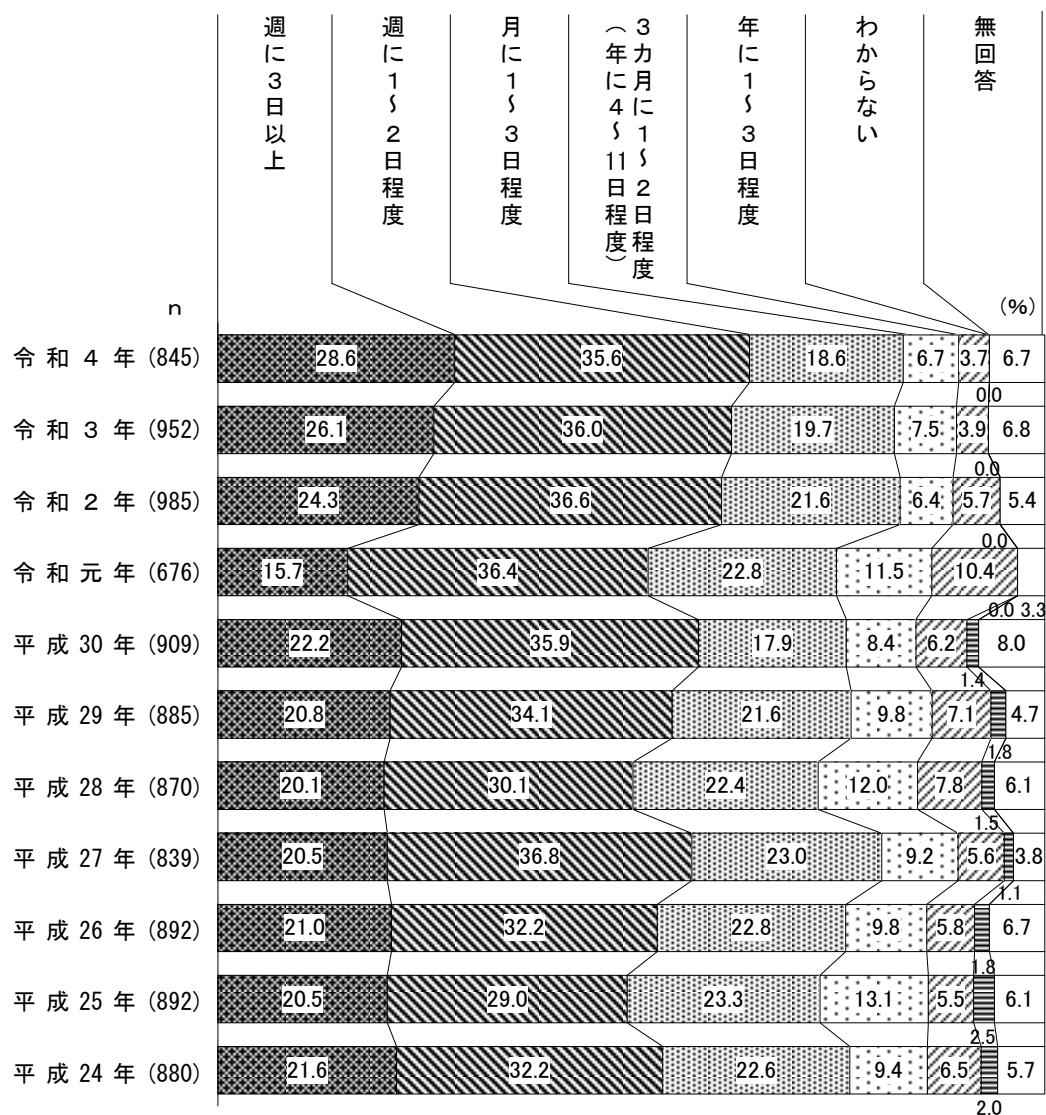
問16で、いずれかのスポーツや運動をしたことがあると回答した方の、過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度は、「週に1～2日程度」(35.6%)が3割台半ばで最も高くなっている。次いで、「週に3日以上」(28.6%)、「月に1～3日程度」(18.6%)、「3カ月に1～2日程度(年に4～11日程度)」(6.7%)などとなっている。(図表7-2-1)

図表7-2-1 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度



過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、令和3年と比べて大きな傾向の違いはみられない。(図表7-2-2)

図表7-2-2 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度—過年度比較

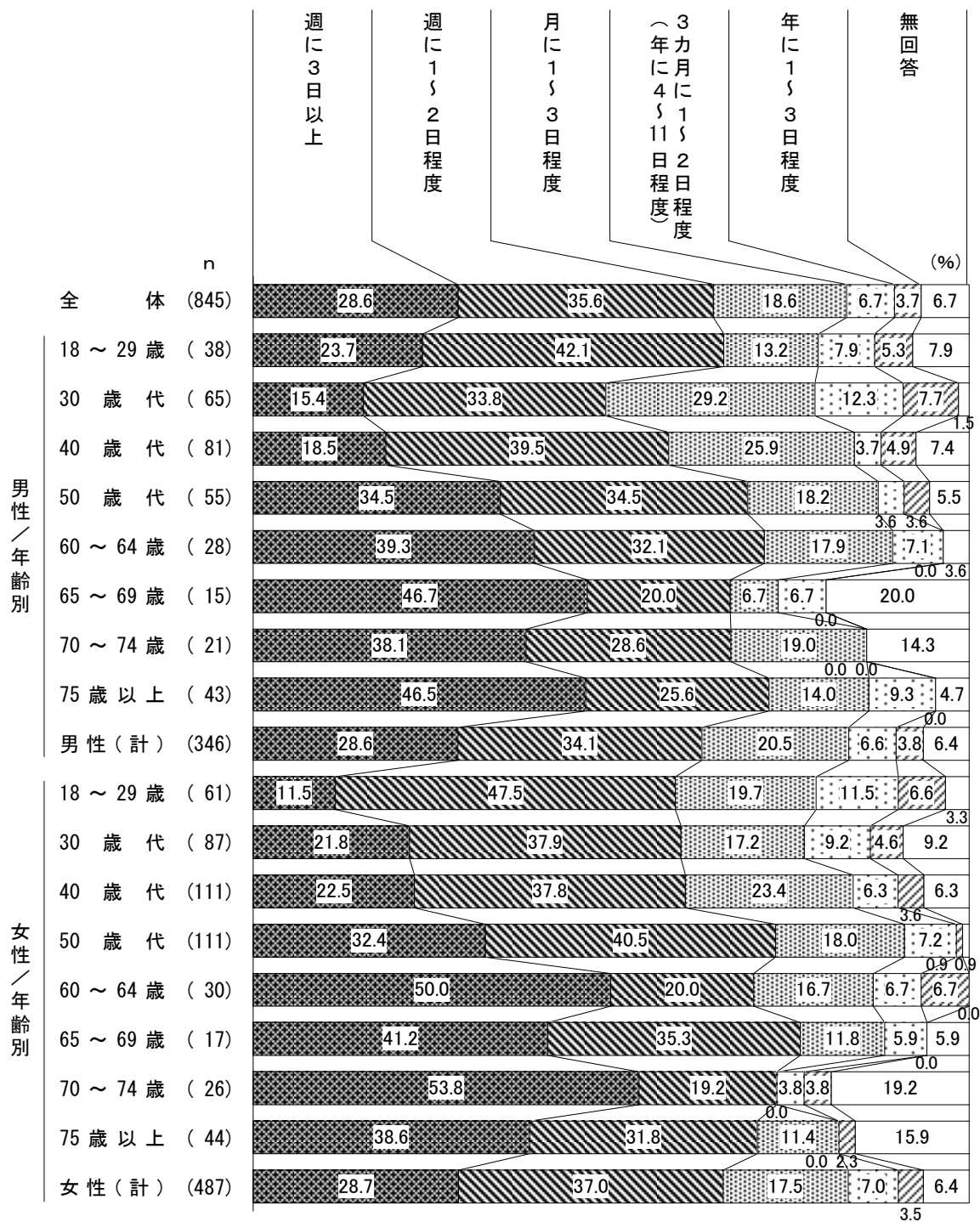


* 「わからない」は、令和元年調査から選択肢に含まれていない。

* 令和元年の調査では、「あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(○は1つ)」と全員に対してこの質問を聞いた。図表7-2-2における令和元年の比率は、「スポーツや運動はしなかった」と答えた数を除いて再計算した比率を示す。

性／年齢別でみると、「週に3日以上」は女性の60～64歳と70～74歳で5割台と高くなっている。「週に1～2日程度」は女性の18～29歳で5割近くと高くなっている。「月に1～3日程度」は男性の30歳代で約3割と高くなっている。(図表7-2-3)

図表7-2-3 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度－性／年齢別

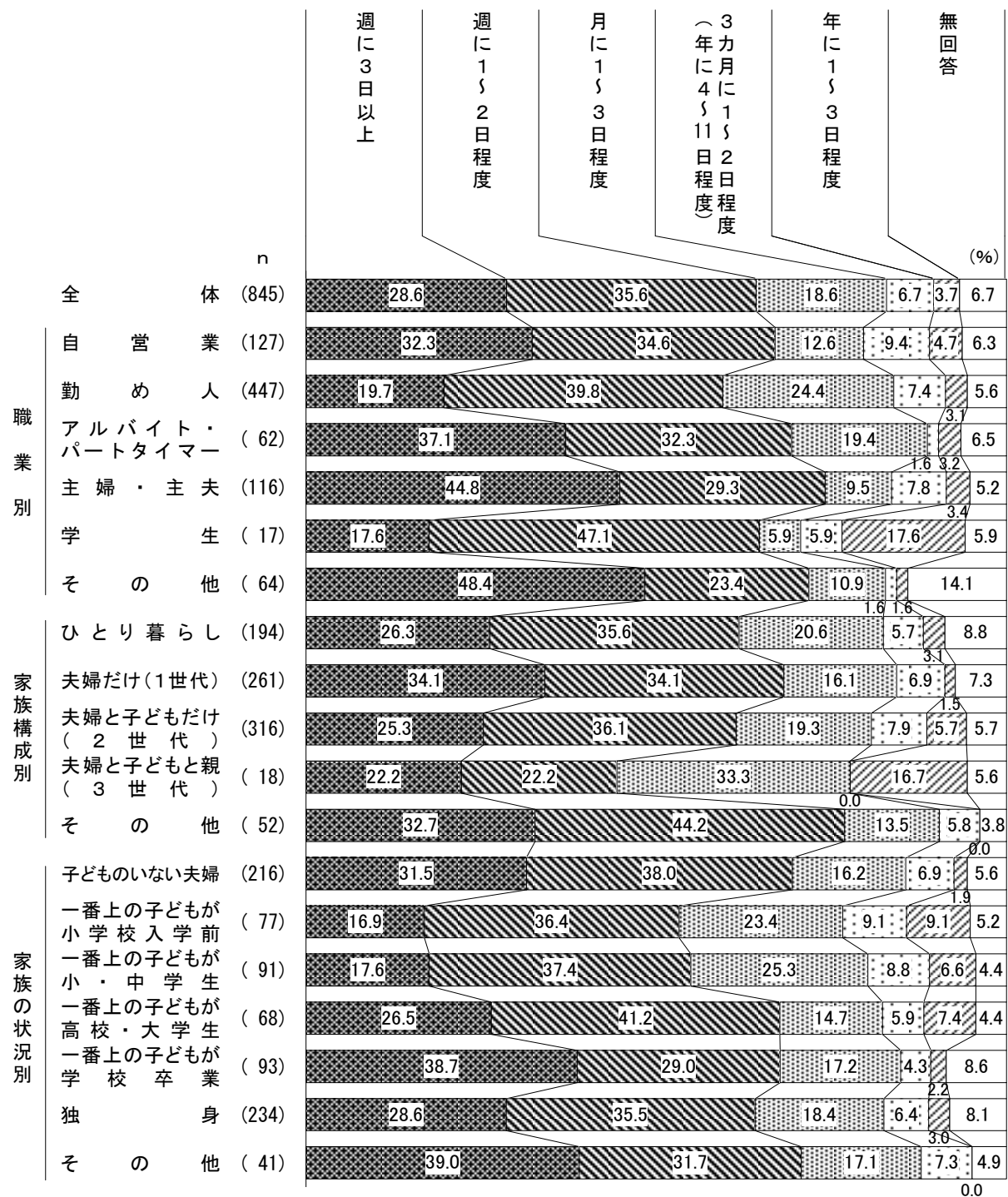


職業別でみると、「週に3日以上」はその他と主婦・主夫で4割台と高くなっている。「週に1～2日程度」は勤め人で4割と高くなっている。

家族構成別でみると、「週に3日以上」は夫婦だけ（1世代）で3割台半ばと高くなっている。

家族の状況別でみると、「週に3日以上」はその他の家族と一番上の子どもが学校卒業の家族で3割台と高くなっている。「週に1～2日程度」が一番上の子どもが高校・大学生の家族で4割を超えて高くなっている。（図表7-2-4）

図表7-2-4 過去1年間に行ったスポーツや運動の頻度－職業別・家族構成別・家族の状況別



【8 地域のコミュニティ活動】

(1) 新型コロナウイルス感染症拡大以前のコミュニティ活動

◇「地域の行事（盆踊り、縁日、もちつきへの参加など）」が1割

問17 新型コロナウイルス感染症が拡大する以前に、あなたが最も力を入れてきたコミュニティ活動は何ですか。(〇は1つ)

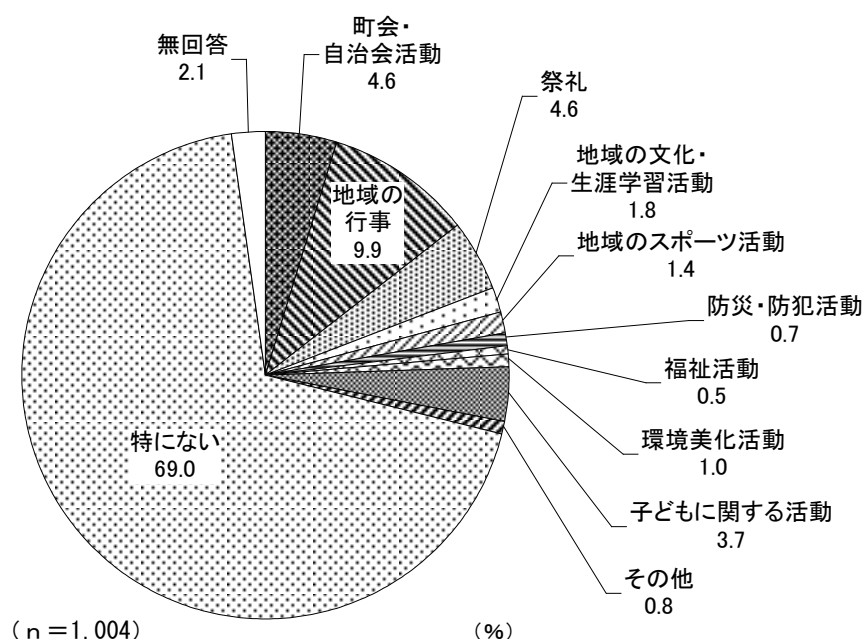
n = 1,004

1	町会・自治会活動（回覧板、文書配布、情報発信など）	4.6%
2	地域の行事（盆踊り、縁日、もちつきへの参加など）	9.9
3	祭礼（おみこし・山車への参加など）	4.6
4	地域の文化・生涯学習活動（伝統文化の普及啓発、団体での演奏など）	1.8
5	地域のスポーツ活動（体を動かす機会の提供、技術指導など）	1.4
6	防災・防犯活動（防災訓練、交通安全、地域の見回りなど）	0.7
7	福祉活動（子育ての手助け、高齢者の見守りへの協力など）	0.5
8	環境美化活動（まちかどクリーンデーへの参加、花壇・公園の清掃など）	1.0
9	子どもに関する活動（青少年対策地区委員会、PTA、読み聞かせなど）	3.7
10	その他	0.8
11	特にない	69.0
	(無回答)	2.1

新型コロナウイルス感染症が拡大する以前に最も力を入れてきたコミュニティ活動は、「地域の行事（盆踊り、縁日、もちつきへの参加など）」(9.9%) が1割で最も高くなっている。次いで、「町会・自治会活動（回覧板、文書配布、情報発信など）」(4.6%)、「祭礼（おみこし・山車への参加など）」(4.6%) などとなっている。一方、「特にない」(69.0%) は約7割となっている。

(図表8-1-1)

図表8-1-1 新型コロナウイルス感染症拡大以前のコミュニティ活動

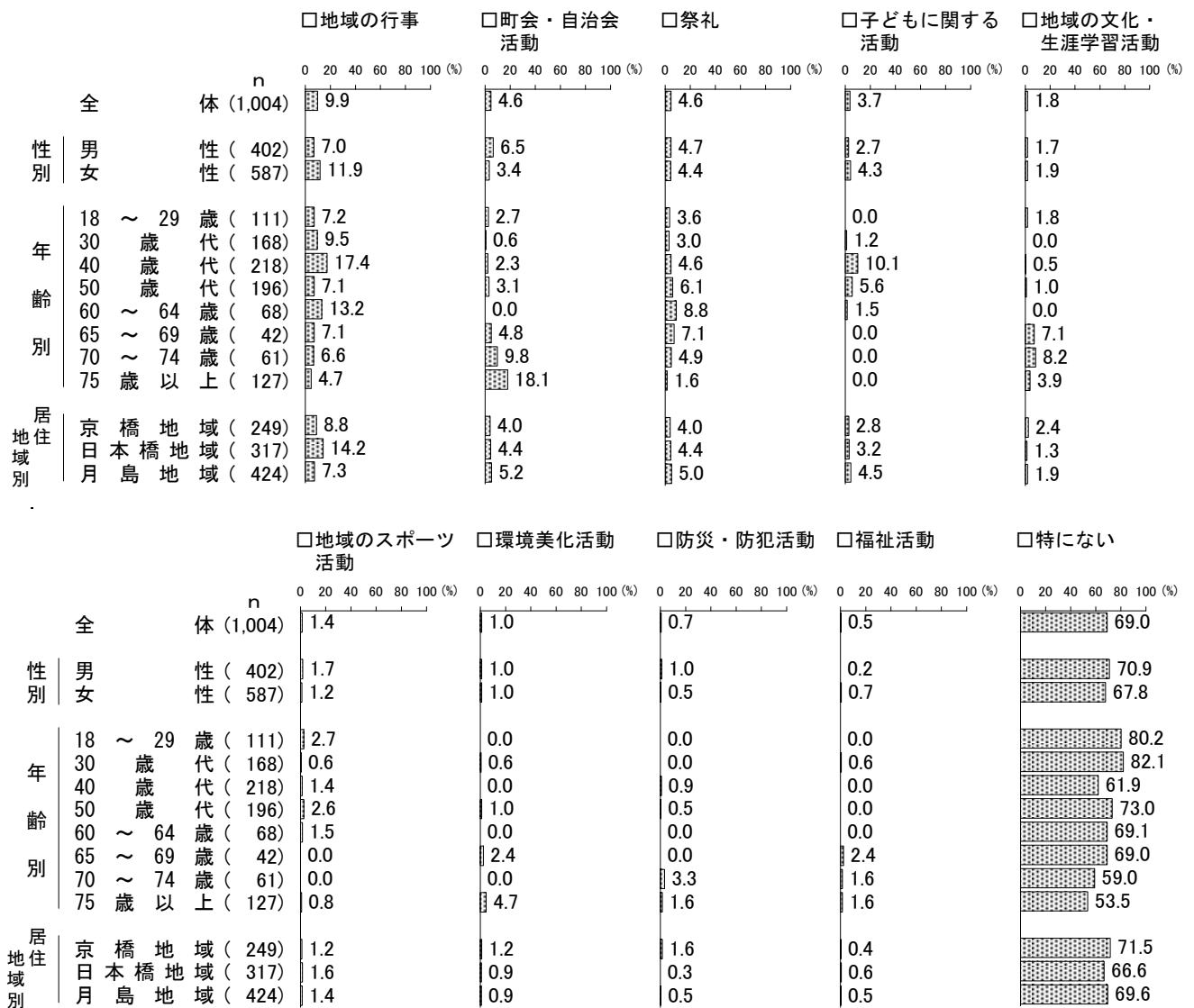


性別でみると、女性の方が男性よりも「地域の行事」で4.9ポイント高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「町会・自治会活動」で3.1ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「地域の行事」は40歳代で2割近くとなっている。「町会・自治会活動」は75歳以上で2割近くとなっている。

居住地域別でみると、「地域の行事」は日本橋地域で1割台半ばとなっている。(図表8-1-2)

図表8-1-2 新型コロナウイルス感染症拡大以前のコミュニティ活動—性別・年齢別・居住地域別



(2) コロナ禍での影響

◇「従来どおりには活動できなかった」が約7割

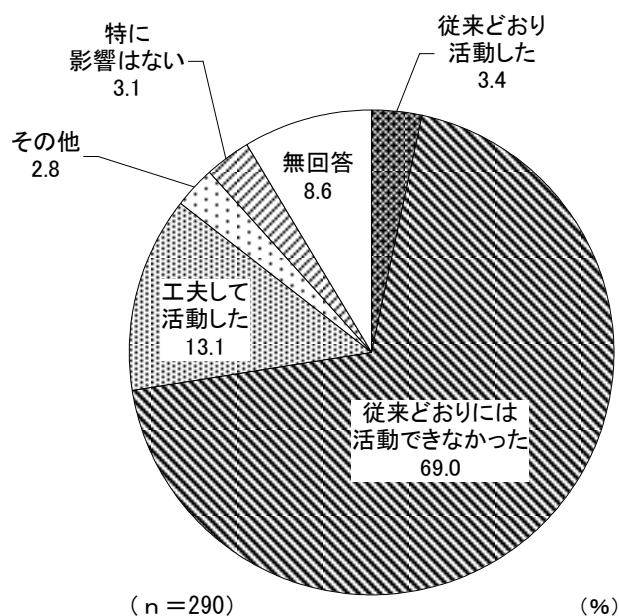
(問17で、「1 町会・自治会活動」から「10 その他」のいずれかにお答えの方に)
 問17-1 問17で選択した活動に対してコロナ禍によりどのような影響がありましたか。
 (もっとも近い考え1つに○)

n = 290

1 従来どおり活動した	3.4%	4 その他	2.8
2 従来どおりには活動できなかった	69.0	5 特に影響はない	3.1
3 工夫して活動した	13.1	(無回答)	8.6

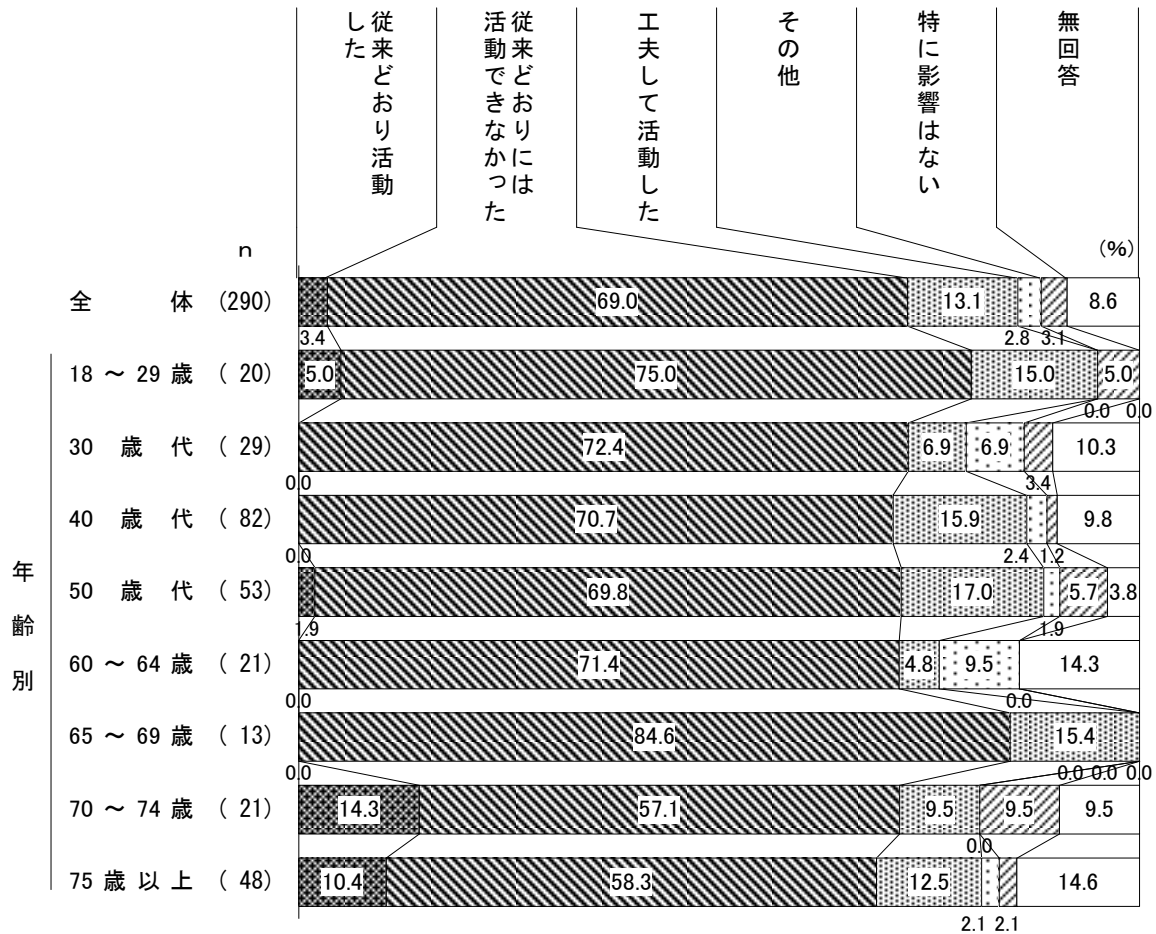
問17で、コミュニティ活動に参加していたと回答した方のコロナ禍での影響は、「従来どおりには活動できなかった」(69.0%)が約7割で最も高くなっている。次いで、「工夫して活動した」(13.1%)、「従来どおり活動した」(3.4%)などとなっている。(図表8-2-1)

図表8-2-1 コロナ禍での影響



年齢別でみると、「従来どおり活動した」は70～74歳で1割台半ばとなっている。「従来どおりには活動できなかった」は18～29歳で7割台半ばと高くなっている。「工夫して活動した」は50歳代で2割近くとなっている。(図表8-2-2)

図表8-2-2 コロナ禍での影響—年齢別



(3) コミュニティに求めるもの

◇「顔を合わせたら挨拶できる近所付き合い」が4割近く

問18 これまでのコロナ禍を踏まえ、あなたがコミュニティに求めるものは何ですか。

(○はいくつでも)

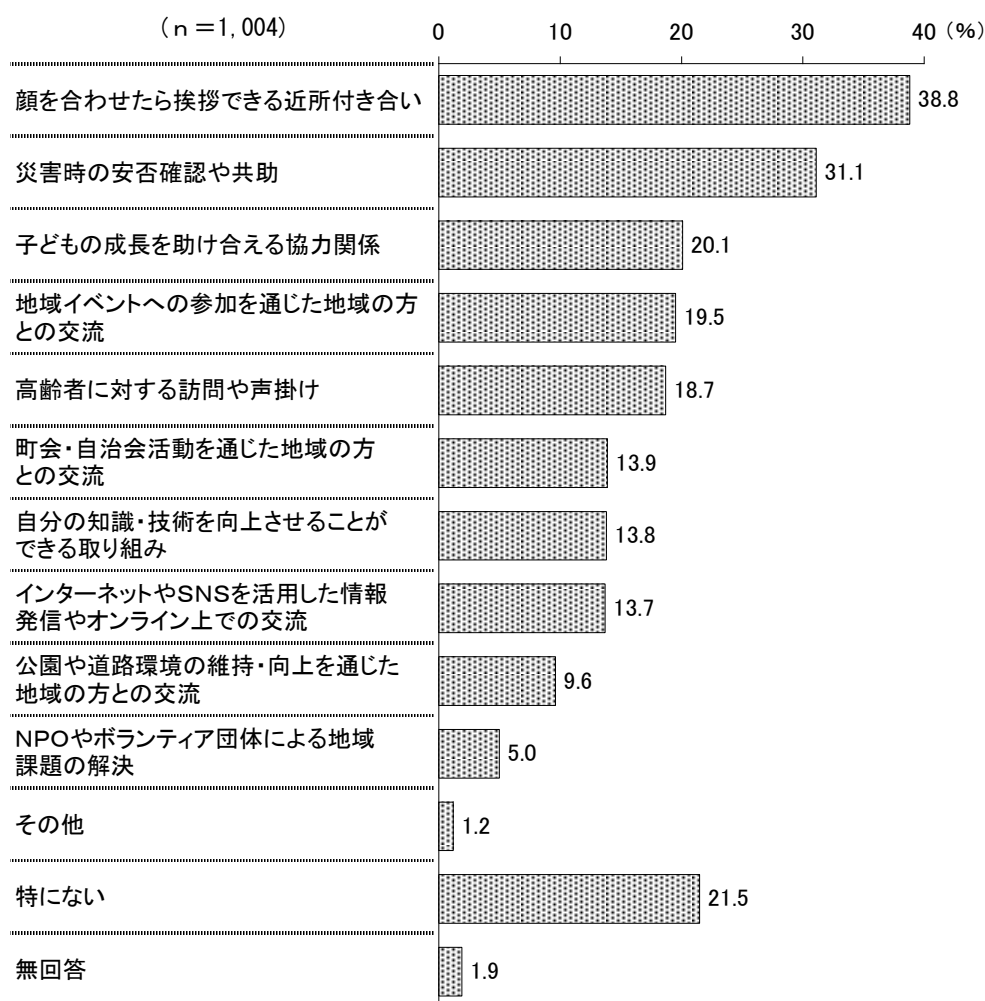
n = 1,004

1	顔を合わせたら挨拶できる近所付き合い	38.8%
2	地域イベントへの参加を通じた地域の方との交流	19.5
3	町会・自治会活動を通じた地域の方との交流	13.9
4	NPOやボランティア団体による地域課題の解決	5.0
5	インターネットやSNSを活用した情報発信やオンライン上での交流	13.7
6	自分の知識・技術を向上させることができる取り組み	13.8
7	災害時の安否確認や共助	31.1
8	高齢者に対する訪問や声掛け	18.7
9	公園や道路環境の維持・向上を通じた地域の方との交流	9.6
10	子どもの成長を助け合える協力関係	20.1
11	その他	1.2
12	特にない	21.5
	(無回答)	1.9

(※) NPO Non-Profit OrganizationまたはNot-for-Profit Organizationの略称で、さまざまな社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、収益を分配することを目的としない団体の総称です。

コミュニティに求めるものは、「顔を合わせたら挨拶できる近所付き合い」(38.8%)が4割近くで最も高くなっている。次いで、「災害時の安否確認や共助」(31.1%)、「子どもの成長を助け合える協力関係」(20.1%)、「地域イベントへの参加を通じた地域の方との交流」(19.5%)、「高齢者に対する訪問や声掛け」(18.7%)などとなっている。(図表8-3-1)

図表 8-3-1 コミュニティに求めるもの（複数回答）

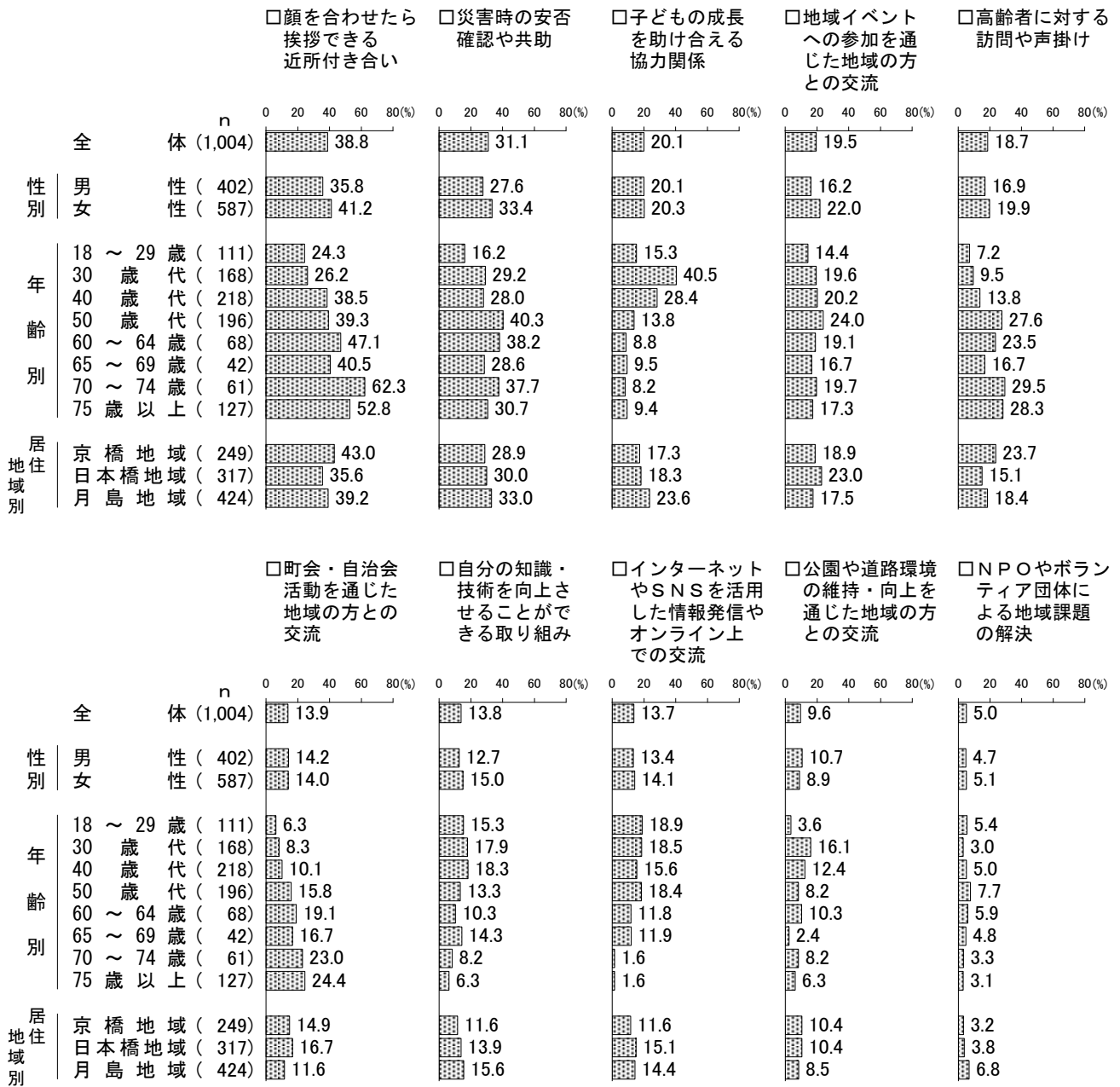


性別でみると、女性の方が男性よりも「災害時の安否確認や共助」で5.8ポイント、「地域イベントへの参加を通じた地域の方との交流」で5.8ポイント、「顔を合わせたら挨拶できる近所付き合い」で5.4ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「顔を合わせたら挨拶できる近所付き合い」は70～74歳で6割を超え、75歳以上で5割を超えて高くなっている。「災害時の安否確認や共助」は50歳代で4割と高くなっている。「子どもの成長を助け合える協力関係」は30歳代で約4割と高くなっている。

居住地域別でみると、「顔を合わせたら挨拶できる近所付き合い」は京橋地域で4割を超えて高くなっている。「災害時の安否確認や共助」は月島地域で3割を超えて高くなっている。「高齢者に対する訪問や声掛け」は京橋地域で2割を超えて高くなっている。(図表 8-3-2)

図表 8-3-2 コミュニティに求めるもの—性別・年齢別・居住地域別（上位10項目）



【9 築地魚河岸】

(※) 築地魚河岸 築地市場が移転しても築地の活気とにぎわいを絶やさないために、区が『食のプロに支持され、一般客・観光客にも親しまれる、食のまち「築地」のにぎわいの拠点となる施設』として築地場外に開設した生鮮市場です。目利きのプロが厳選した高品質の水産物や青果物などを販売しています。

(1) 「築地魚河岸」への来場経験

◇『来場経験あり』が6割を超える

問19 あなたは、「築地魚河岸」に行ったことがありますか。(○は1つ)

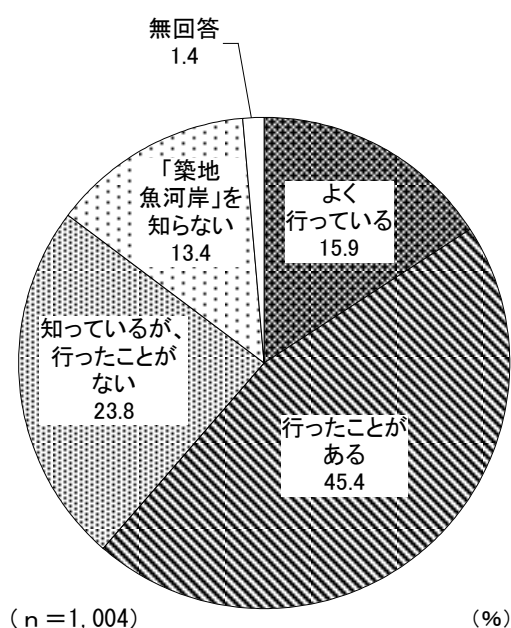
n=1,004

1 よく行っている	15.9%	3 知っているが、行ったことがない	23.8
2 行ったことがある	45.4	4 「築地魚河岸」を知らない	13.4
		(無回答)	1.4

「築地魚河岸」への来場経験は、「よく行っている」(15.9%)と「行ったことがある」(45.4%)を合わせた『来場経験あり』(61.3%)が6割を超えている。

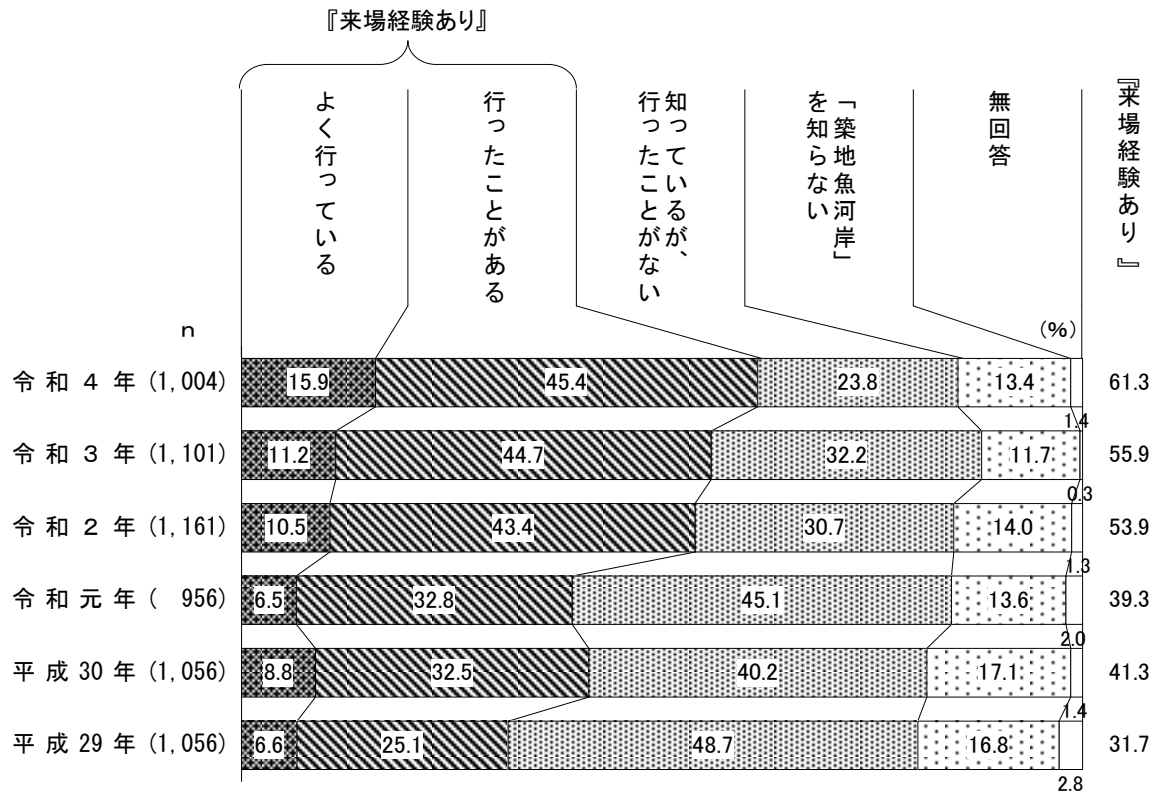
一方、「知っているが、行ったことがない」(23.8%)は2割を超え、「『築地魚河岸』を知らない」(13.4%)は1割を超えている。(図表9-1-1)

図表9-1-1 「築地魚河岸」への来場経験



過去の調査結果と比較すると、『来場経験あり』は令和3年と比べて5.4ポイント増加しており、今回調査が過去最高の割合となっている。(図表9-1-2)

図表9-1-2 「築地魚河岸」への来場経験一過年度比較

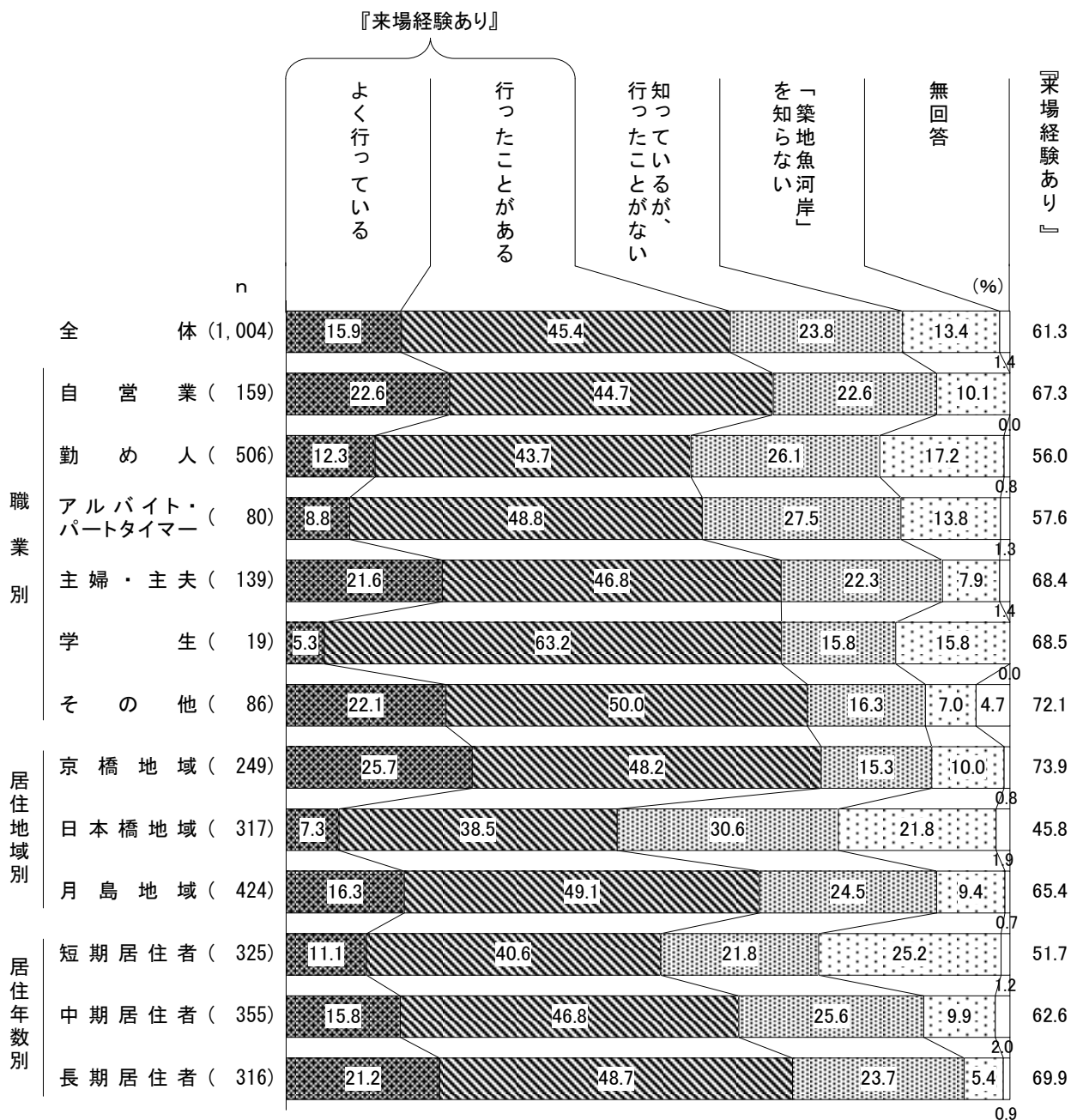


職業別でみると、『来場経験あり』はその他で7割を超え、主婦・主夫と自営業で7割近くと高くなっている。

居住地域別でみると、『来場経験あり』は京橋地域で7割を超えて高くなっている。一方、『「築地魚河岸」を知らない』は日本橋地域で2割を超えて高くなっている。

居住年数別でみると、『来場経験あり』は長期居住者で7割と高くなっている。一方、『「築地魚河岸」を知らない』は短期居住者で2割台半ばと高くなっている。(図表9-1-3)

図表9-1-3 「築地魚河岸」への来場経験—職業別・居住地域別・居住年数別



(2) 「築地魚河岸」への来場目的

◇「1階の店舗で買い物をするため」が7割近く

(問19で、「1 よく行っている」または「2 行ったことがある」とお答えの方に)
問19-1 あなたが「築地魚河岸」に行った目的は何ですか。(〇はいくつでも)

n = 616

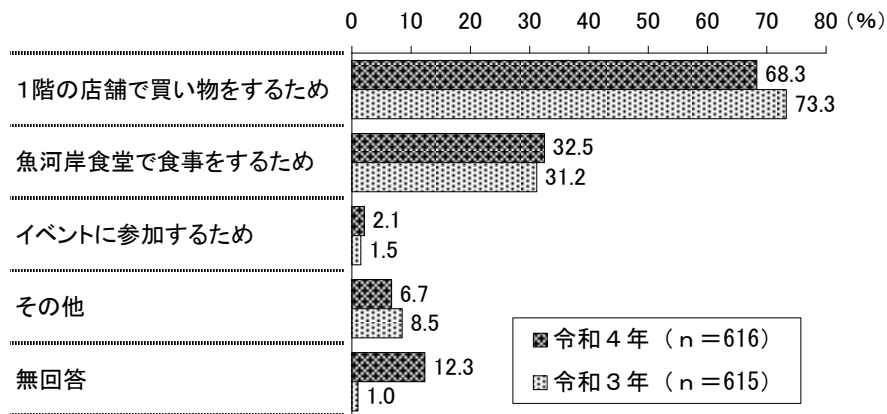
1	1階の店舗で買い物をするため	68.3%	3	イベントに参加するため	2.1
2	魚河岸食堂で食事をするため	32.5	4	その他	6.7
				(無回答)	12.3

問19で、「よく行っている」または「行ったことがある」と回答した方の、「築地魚河岸」への来場目的は、「1階の店舗で買い物をするため」(68.3%)が7割近くで最も高くなっている。次いで、「魚河岸食堂で食事をするため」(32.5%)、「イベントに参加するため」(2.1%)などとなっている。

昨年との調査結果と比較すると、「1階の店舗で買い物をするため」は5.0ポイント減少している。

(図表9-2-1)

図表9-2-1 「築地魚河岸」への来場目的(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、「1階の店舗で買い物をするため」は7割前後で推移しており、引き続き第1位となっている。(図表9-2-2)

図表9-2-2 「築地魚河岸」への来場目的一過年度比較

調 査 年	n	(%)				
		た め 1 階 の 店 舗 で 買 い 物 を す る	め 魚 河 岸 食 堂 で 食 事 を す る た め	イ ベ ン ト に 参 加 す る た め	そ の 他	無 回 答
令和4年	616	68.3	32.5	2.1	6.7	12.3
令和3年	615	73.3	31.2	1.5	8.5	1.0
令和2年	626	73.5	34.3	2.9	8.6	1.0

(3) 「築地魚河岸」に対する印象やイメージ

◇<1階の店舗について>では、「新鮮なものが買える」が5割台半ば

◇<魚河岸食堂について>では、「おいしい料理が食べられる」が4割近く

◇<その他>では、「いつ、どのようなイベントを開催しているかがわからない」が4割を超える

(問19で、「1 よく行っている」「2 行ったことがある」「3 知っているが、行ったことがない」とお答えの方に)

問19-2 「築地魚河岸」には一般の方が利用できる店舗や食堂などがありますが、その印象やイメージとしてあてはまるものをお答えください。(〇はいくつでも)

n = 855

<1階の店舗について>

1	プロが厳選した商品が販売されており、安心して買い物ができる	28.8%
2	新鮮なものが買える	55.2
3	スーパーでは買えないような珍しいものが買える	32.3
4	同じようなものを扱う店が多く、どこで買っていいかわからない	16.1
5	近くのスーパーなどとの違いを感じない	4.3
6	一般の人でも気軽に利用できる施設であることを知らない	7.6
7	混雑している (イメージがある)	24.1

<魚河岸食堂について>

1	おいしい料理が食べられる	38.4
2	食堂があることを知らない	11.1
3	混雑している (イメージがある)	26.2

<その他>

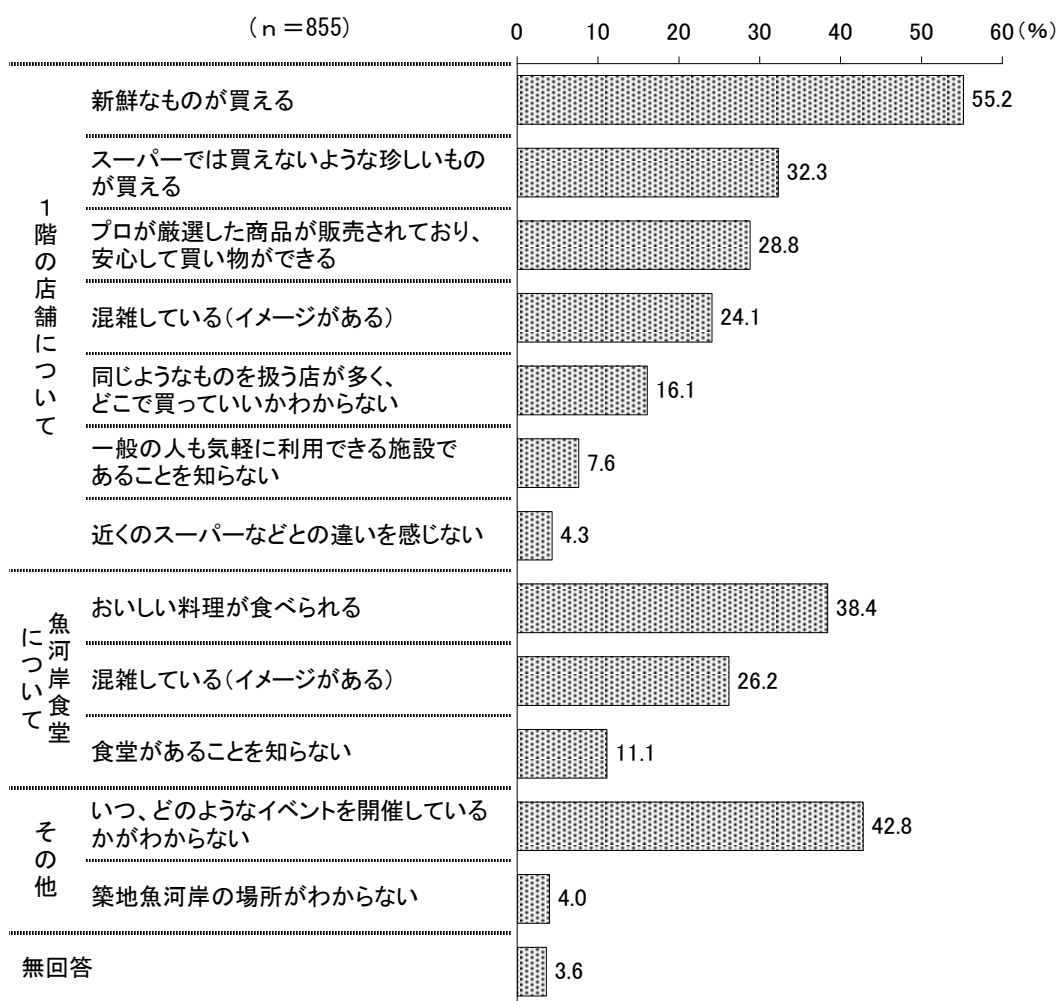
1	いつ、どのようなイベントを開催しているかがわからない	42.8
2	築地魚河岸の場所がわからない	4.0
	(無回答)	3.6

問19で、「よく行っている」「行ったことがある」「知っているが、行ったことがない」と回答した方の、「築地魚河岸」に対する印象やイメージは、<1階の店舗について>では、「新鮮なものが買える」(55.2%)が5割台半ばで最も高くなっている。次いで、「スーパーでは買えないような珍しいものが買える」(32.3%)、「プロが厳選した商品が販売されており、安心して買い物ができる」(28.8%)などとなっている。

<魚河岸食堂について>では、「おいしい料理が食べられる」(38.4%)が4割近くで最も高くなっている。次いで、「混雑している (イメージがある)」(26.2%)、「食堂があることを知らない」(11.1%)となっている。

<その他>では、「いつ、どのようなイベントを開催しているかがわからない」(42.8%)が4割を超え、「築地魚河岸の場所がわからない」(4.0%)は1割に満たない。(図表9-3-1)

図表 9-3-1 「築地魚河岸」に対する印象やイメージ（複数回答）



【10 受動喫煙防止対策】

(1) 「中央区たばこルール」の認知度

◇『中央区たばこルール』の内容も知っている」が2割台半ば

問20 令和2年7月1日に「中央区受動喫煙防止対策の推進に関する条例」が施行されました。あなたは条例で定めた「中央区たばこルール」を知っていますか。(○は1つだけ)

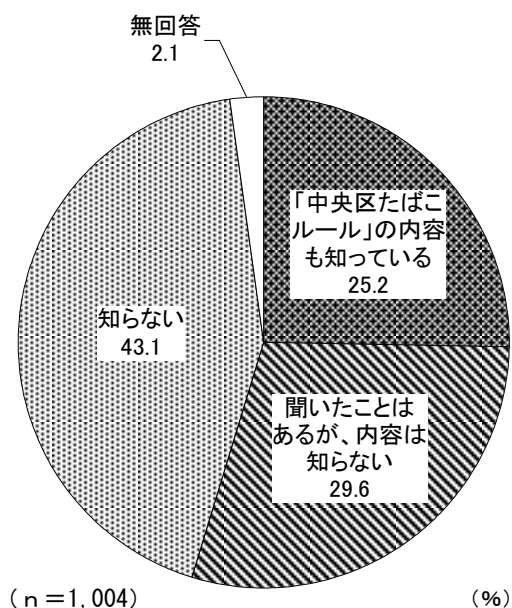
n = 1,004

1 「中央区たばこルール」の内容も知っている	25.2%
2 聞いたことはあるが、内容は知らない	29.6
3 知らない	43.1
(無回答)	2.1

(※) 中央区たばこルール 公共の場所(区内全域の道路、公園、広場)での受動喫煙を防止するため、「喫煙者が守るべきルール」及び「灰皿を設置する事業者が守るべきルール」を設けました。ルールには加熱式たばこも含まれます。

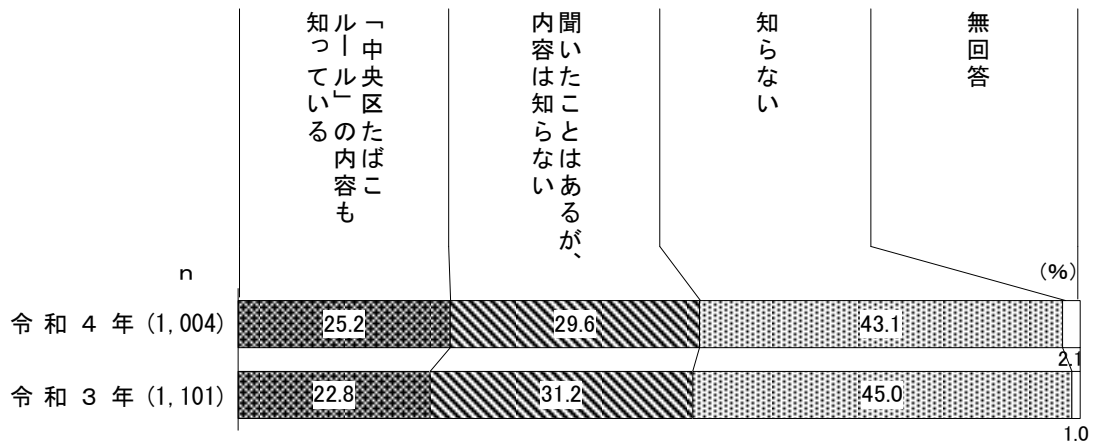
「中央区たばこルール」の認知度は、「『中央区たばこルール』の内容も知っている」(25.2%)が2割台半ばとなっている。「聞いたことはあるが、内容は知らない」(29.6%)は3割、「知らない」(43.1%)は4割を超えている。(図表10-1-1)

図表10-1-1 「中央区たばこルール」の認知度



昨年(令和3年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図表10-1-2)

図表10-1-2 「中央区たばこルール」の認知度一過年度比較

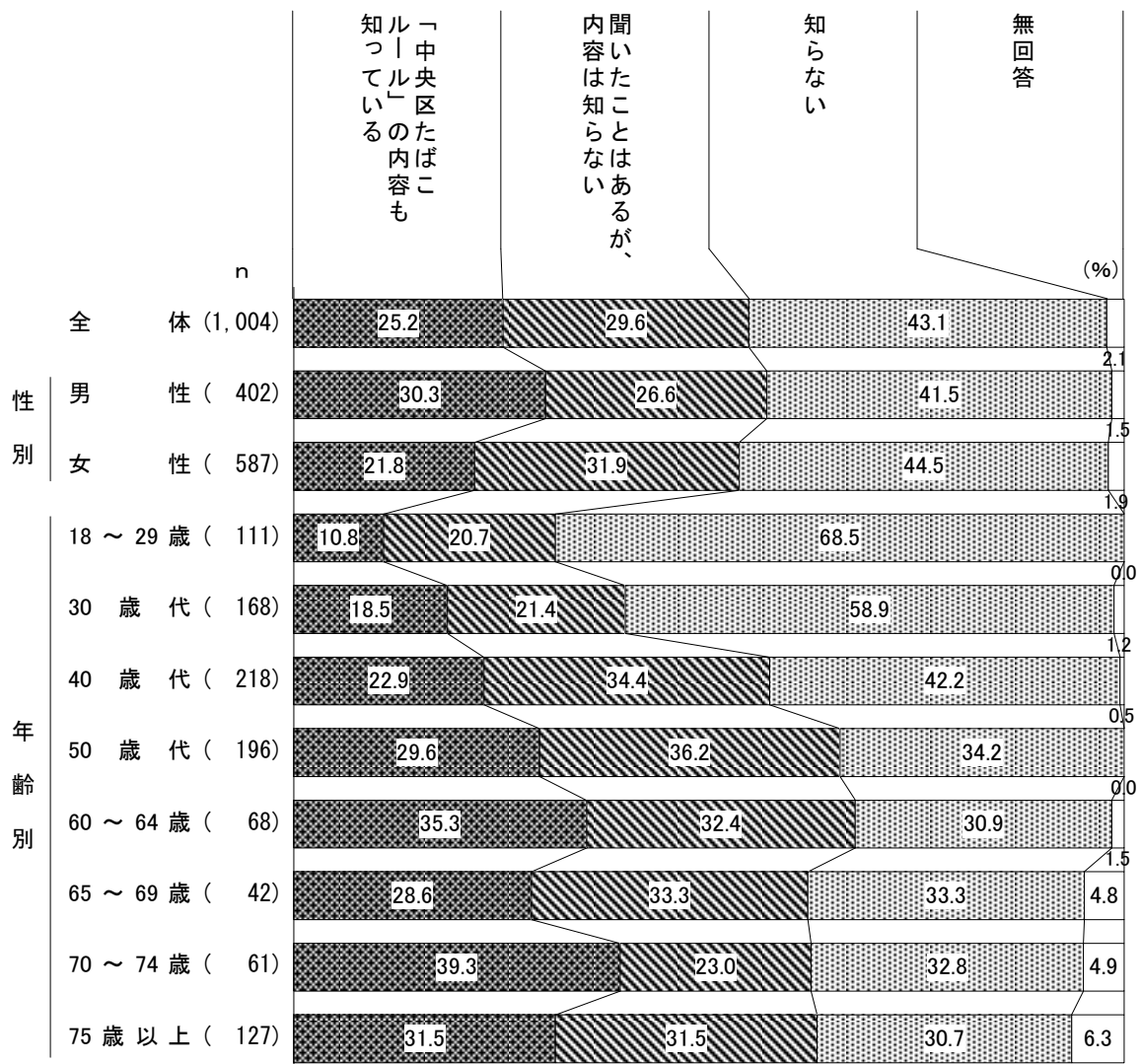


性別で見ると、男性の方が女性よりも『中央区たばこルール』の内容も知っている」で8.5ポイント高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「聞いたことはあるが、内容は知らない」で5.3ポイント、「知らない」で3.0ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別で見ると、『中央区たばこルール』の内容も知っている」は70～74歳で約4割と高くなっている。一方、「知らない」は18～29歳で7割近く、30歳代で6割近くと高くなっている。

(図表10-1-3)

図表10-1-3 「中央区たばこルール」の認知度—性別・年齢別



【11 デジタル技術を活用した区民サービス】

(1) 区に進めてほしいデジタル技術を活用した区民サービス

◇「区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる手続きの拡大」が6割近く

問21 あなたが、区に進めてほしいと考えるデジタル技術を活用した区民サービスはどれですか。(〇はいくつでも)

n = 1,004

1	窓口手続きにおけるキャッシュレス決済	38.4%
2	オンライン手続きにおけるキャッシュレス決済	37.6
3	区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる手続きの拡大	58.8
4	マイナンバーカードを利用したオンライン手続きの拡大	36.7
5	スマートフォン等への区民サービスの案内	22.1
6	チャットボットを活用した自動応答サービスの提供	6.5
7	ICTを活用した窓口受付サービス	12.9
8	オンラインでの窓口の混雑状況の配信	16.5
9	区が開催する講座や説明会等のオンライン配信	14.8
10	区が保有するデータのオープンデータ化	11.3
11	その他	2.2
12	特にない	16.7
	(無回答)	5.3

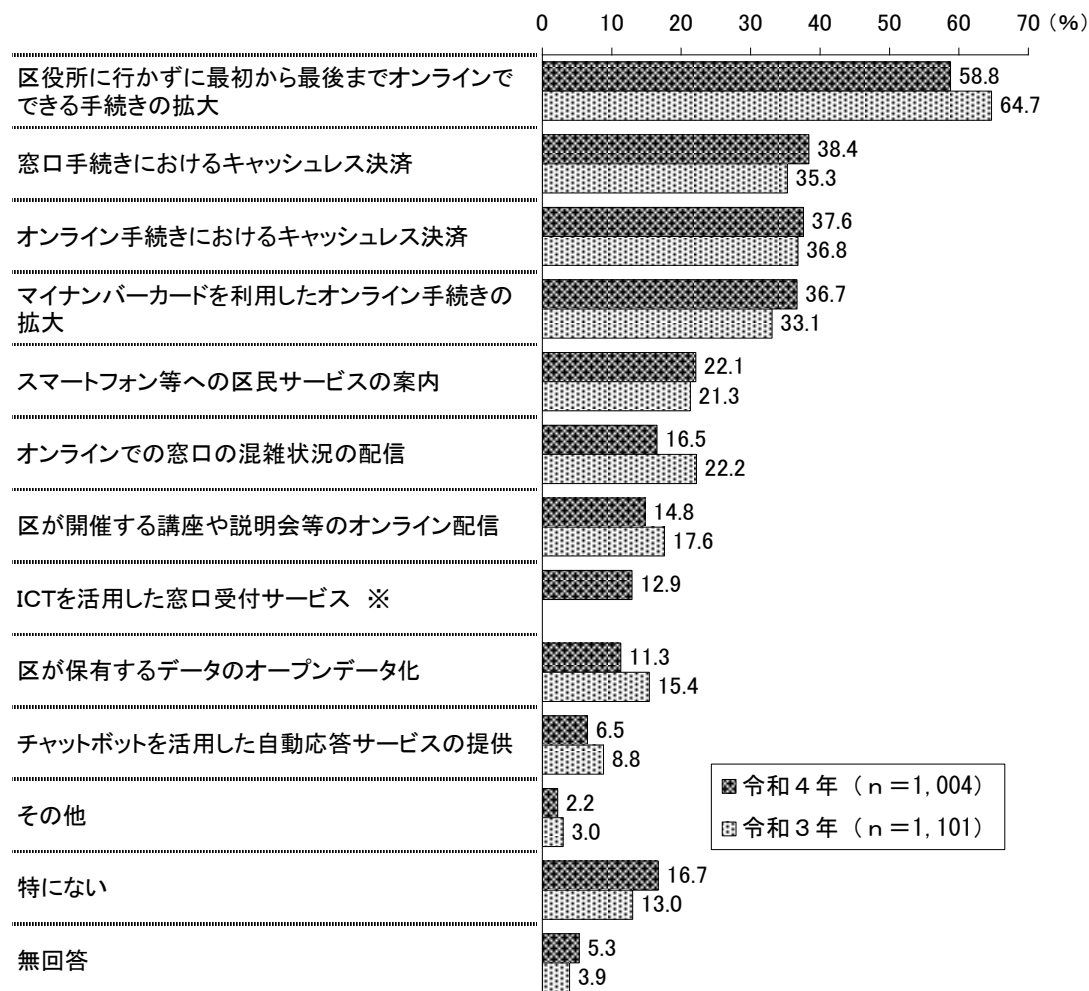
(※) チャットボット インターネットを利用し、人間と会話しているような受け答えをロボットが自動で行うしくみです。

(※) ICTを活用した窓口受付サービス インターネットでの手続き案内、申請書作成支援、書かない窓口（タブレット端末等を利用した、申請書記入不要の窓口受付サービス）等の区役所窓口での手続きの利便性を向上するしくみです。

区に進めてほしいデジタル技術を活用した区民サービスは、「区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる手続きの拡大」(58.8%)が6割近くで最も高くなっている。次いで、「窓口手続きにおけるキャッシュレス決済」(38.4%)、「オンライン手続きにおけるキャッシュレス決済」(37.6%)、「マイナンバーカードを利用したオンライン手続きの拡大」(36.7%)、「スマートフォン等への区民サービスの案内」(22.1%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「マイナンバーカードを利用したオンライン手続きの拡大」は3.6ポイント、「窓口手続きにおけるキャッシュレス決済」は3.1ポイント、それぞれ増加している。一方、「区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる手続きの拡大」は5.9ポイント、「オンラインでの窓口の混雑状況の配信」は5.7ポイント、それぞれ減少している。(図表11-1-1)

図表11-1-1 区に進めてほしいデジタル技術を活用した区民サービス（複数回答）



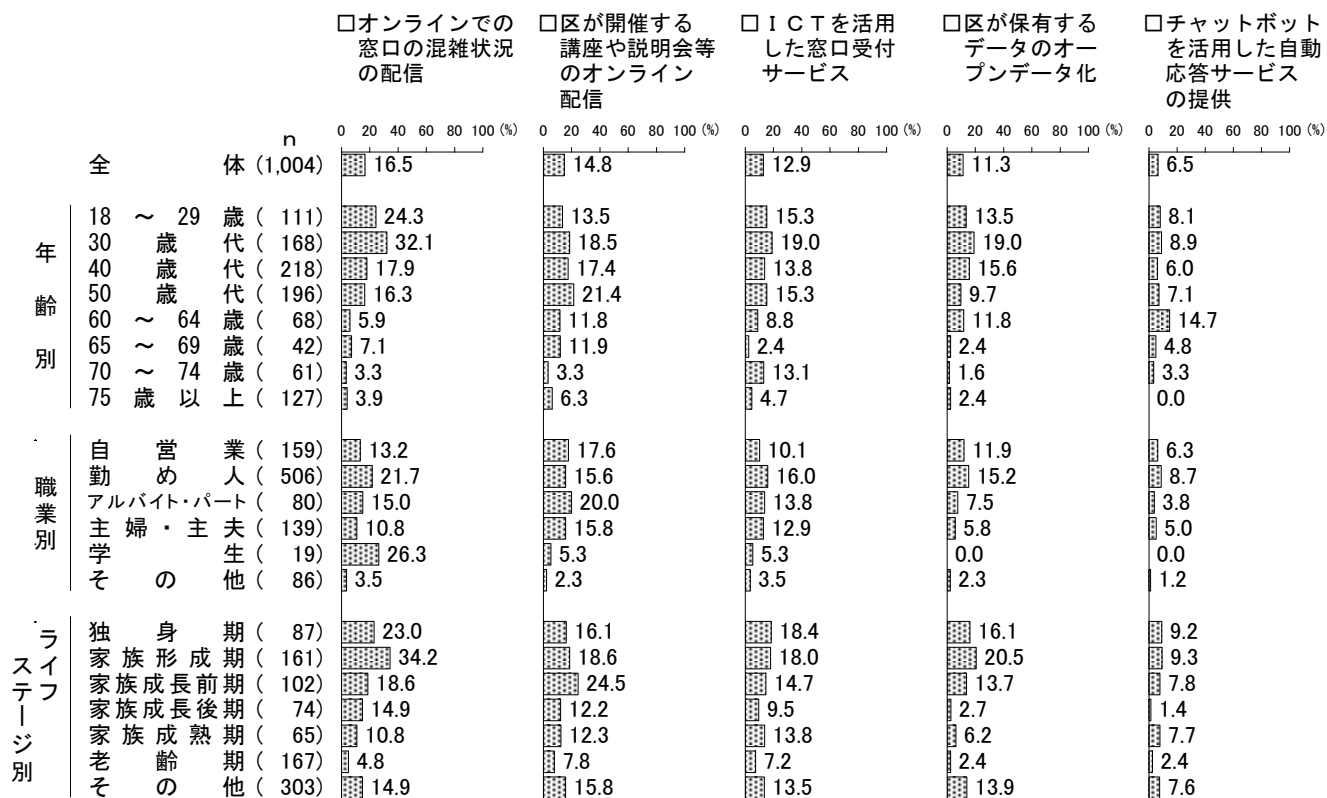
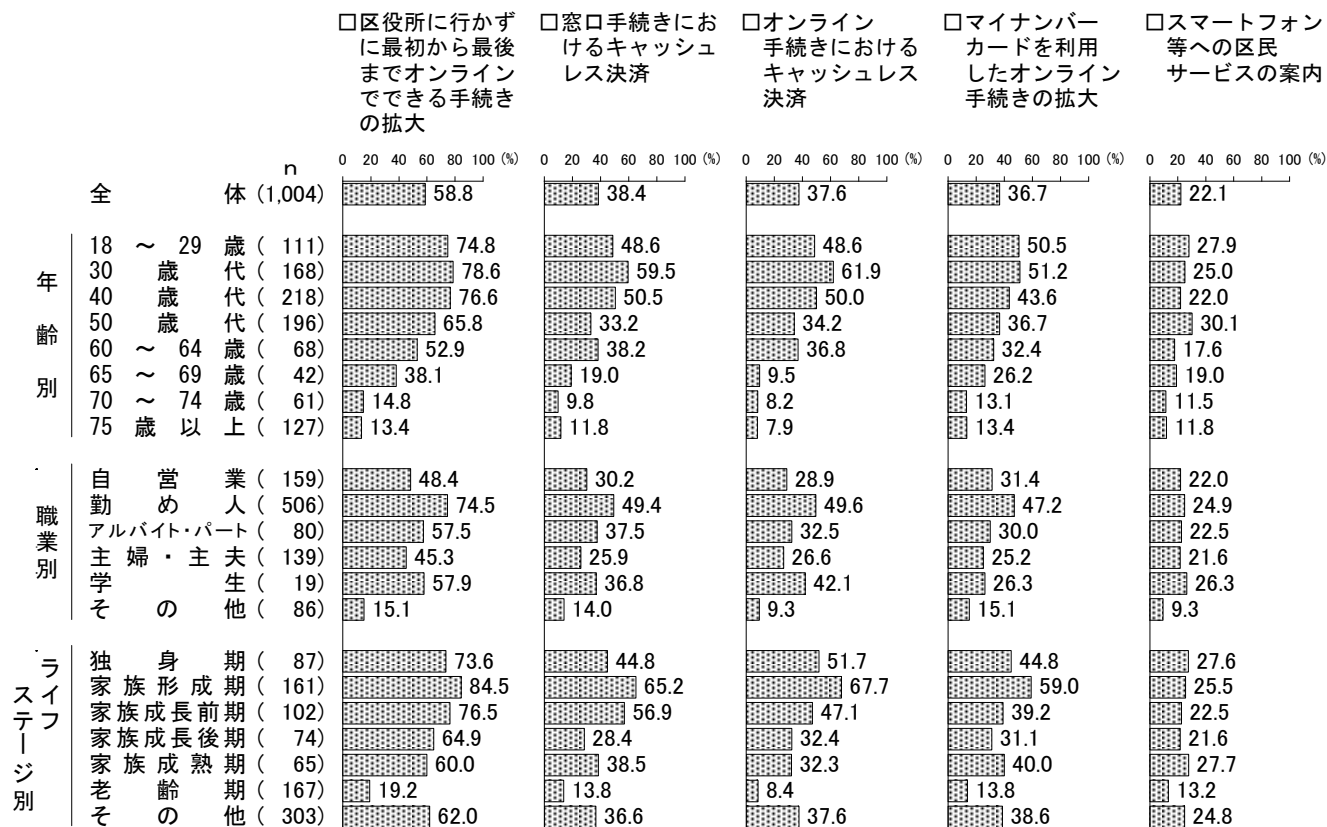
※「ICTを活用した窓口受付サービス」は、令和4年度調査から追加された選択肢。

年齢別でみると、「区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる手続きの拡大」は30歳代と40歳代で8割近くと高くなっている。「オンライン手続きにおけるキャッシュレス決済」は30歳代で6割を超えて高くなっている。

職業別でみると、「区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる手続きの拡大」は勤め人で7割台半ばと高くなっている。「オンライン手続きにおけるキャッシュレス決済」は勤め人で5割と高くなっている。

ライフステージ別でみると、「区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる手続きの拡大」は家族形成期で8割台半ばと高くなっている。「オンライン手続きにおけるキャッシュレス決済」は家族形成期で7割近くと高くなっている。(図表11-1-2)

図表11-1-2 区に進めてほしいデジタル技術を活用した区民サービス
 一年齢別・職業別・ライフステージ別（上位10項目）



【12 広報】

(1) 広報紙の閲覧状況

◇『読んだことがある』が7割を超える

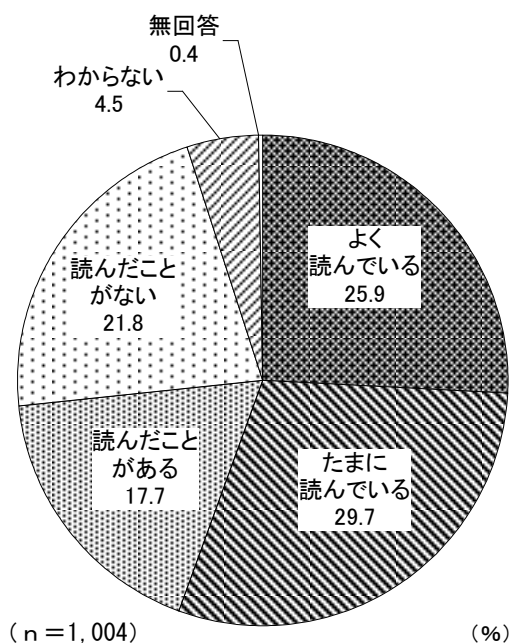
問22 区の広報紙「区のおしらせ ちゅうおう」は月3回発行しています。あなたは広報紙を読んだことがありますか。(○は1つだけ)

n = 1,004

1	よく読んでいる	25.9%	4	読んだことがない	21.8
2	たまに読んでいる	29.7	5	わからない	4.5
3	読んだことがある	17.7		(無回答)	0.4

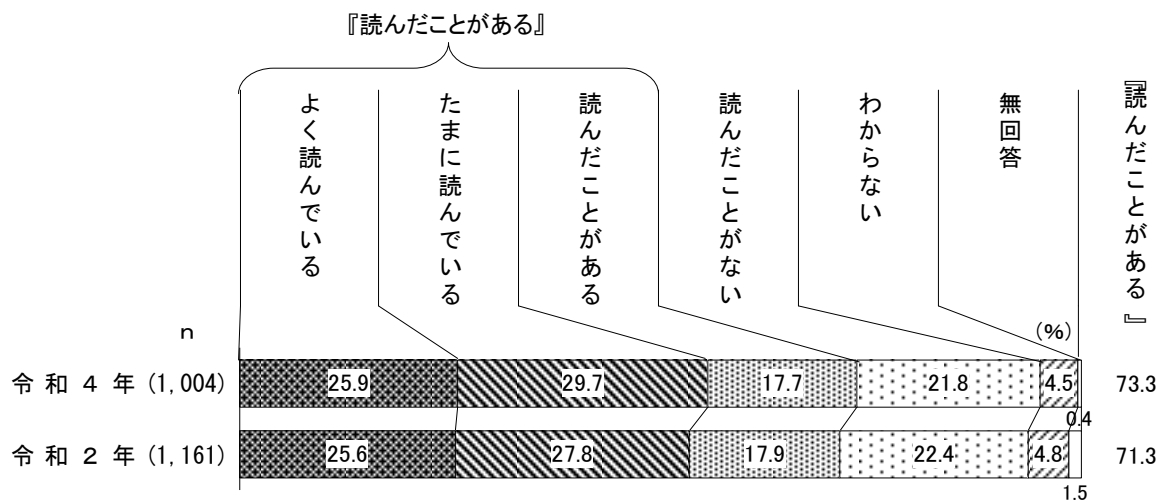
広報紙の閲覧状況は、「よく読んでいる」(25.9%)と「たまに読んでいる」(29.7%)、「読んだことがある」(17.7%)の3つを合わせた『読んだことがある』(73.3%)は7割を超えている。一方、「読んだことがない」(21.8%)は2割を超えている。(図表12-1-1)

図表12-1-1 広報紙の閲覧状況



令和2年の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図表12-1-2)

図表12-1-2 広報紙の閲覧状況一過年度比較



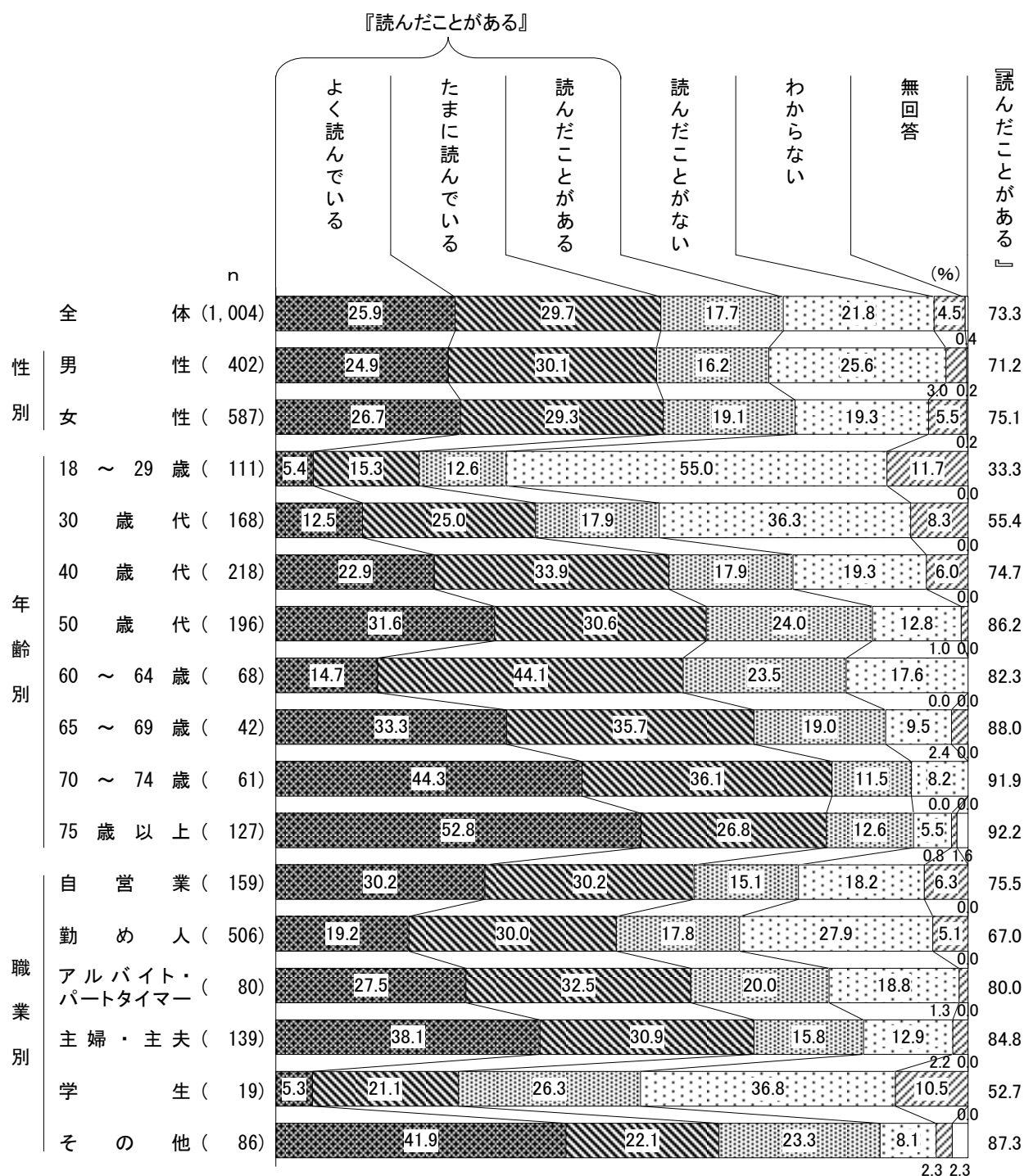
性別でみると、女性の方が男性よりも『読んだことがある』で3.9ポイント高くなっている。

年齢別でみると、『読んだことがある』はおおむね年代が上がるほど割合が高くなっており、70～74歳と75歳以上で9割を超えて高くなっている。一方、「読んだことがない」は18～29歳で5割台半ば、30歳代で3割台半ばと高くなっている。

職業別でみると、『読んだことがある』はその他と主婦・主夫、アルバイト・パートタイマーで8割台と高くなっている。一方、「読んだことがない」は勤め人で3割近くと高くなっている。

(図表12-1-3)

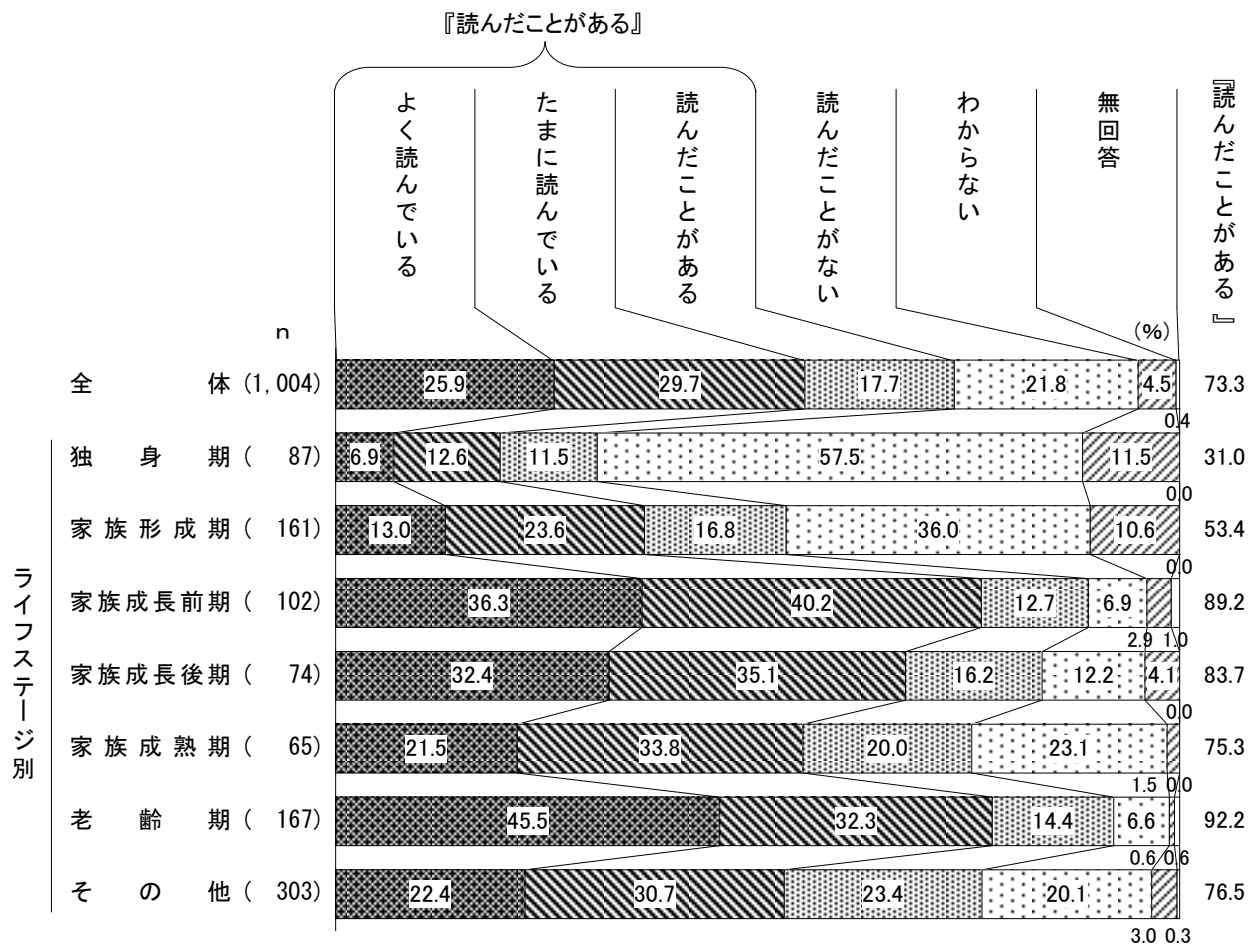
図表12-1-3 広報紙の閲覧状況－性別・年齢別・職業別



ライフステージ別で見ると、『読んだことがある』は老齢期で9割を超え、家族成長前期で約9割と高くなっている。一方、「読んだことがない」は独身期で6割近くと高くなっている。

(図表12-1-4)

図表12-1-4 広報紙の閲覧状況—ライフステージ別



(2) 広報紙の入手方法

◇「紙媒体（町会・自治会配布、新聞折り込み、区施設や地下鉄駅などでの配布）」が9割台半ば

（問22で、「1 よく読んでいる」「2 たまに読んでいる」「3 読んだことがある」とお答えの方に）

問22-1 広報紙を何で読んでいますか。（○はいくつでも）

n = 736

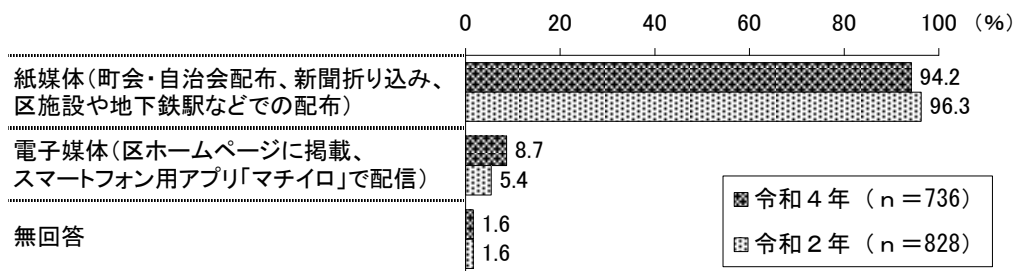
1 紙媒体（町会・自治会配布、新聞折り込み、区施設や地下鉄駅などでの配布）	94.2%
2 電子媒体（区ホームページに掲載、スマートフォン用アプリ「マチイロ」で配信）	8.7
（無回答）	1.6

（※）マチイロ 広報紙を電子書籍として、そのままの形で読むことができます。

問22で、広報紙を「よく読んでいる」「たまに読んでいる」「読んだことがある」と回答した方の、広報紙の入手方法は、「紙媒体（町会・自治会配布、新聞折り込み、区施設や地下鉄駅などでの配布）」（94.2%）が9割台半ばとなっている。また、「電子媒体（区ホームページに掲載、スマートフォン用アプリ『マチイロ』で配信）」（8.7%）は1割に満たない。

令和2年の調査結果と比較すると、「電子媒体（区ホームページに掲載、スマートフォン用アプリ『マチイロ』で配信）」は3.3ポイント増加している。（図表12-2-1）

図表12-2-1 広報紙の入手方法（複数回答）



※ 「電子媒体（区ホームページに掲載、スマートフォン用アプリ『マチイロ』で配信）」の選択肢は、令和2年では「電子媒体（区ホームページに掲載、スマートフォン用アプリ『中央区版 マイ広報紙』『マチイロ』で配信）」とされていた。

性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

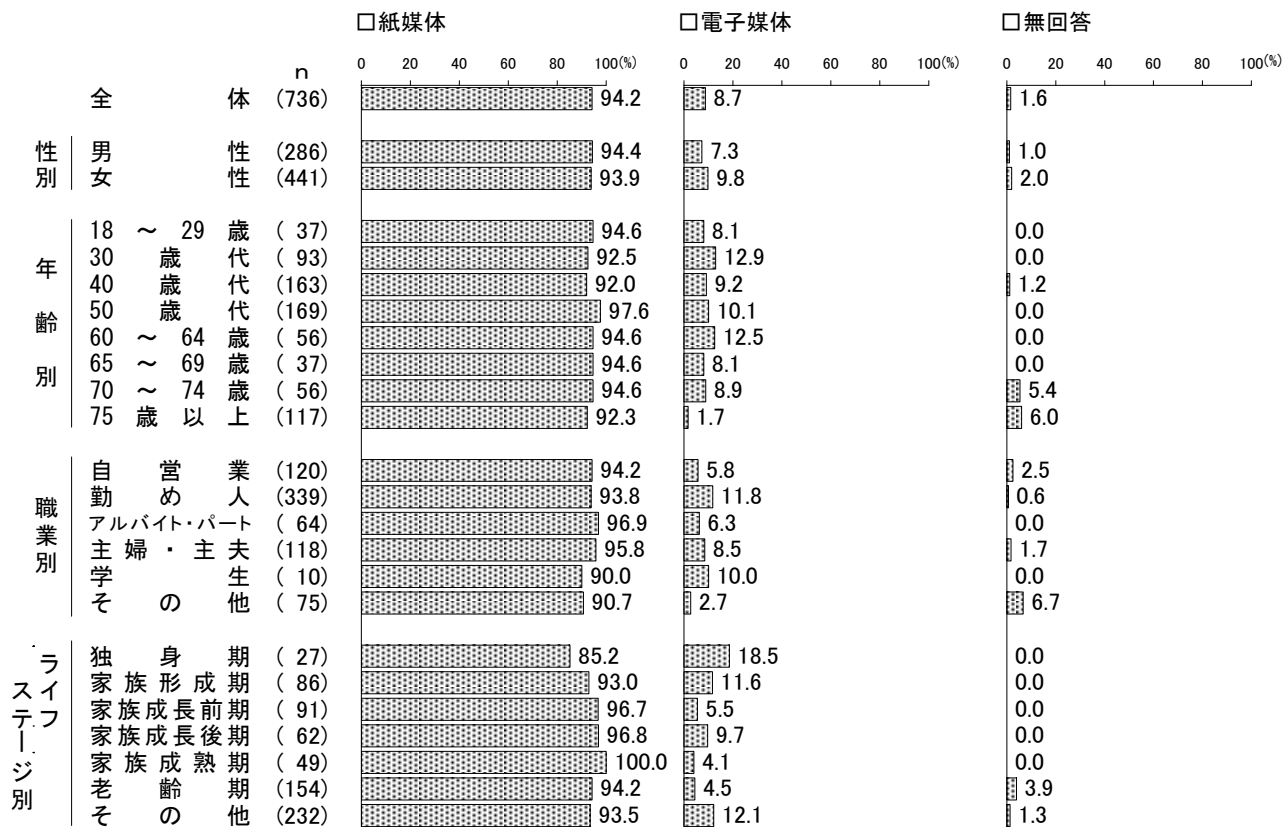
年齢別でみると、「紙媒体（町会・自治会配布、新聞折り込み、区施設や地下鉄駅などでの配布）」は全ての年齢で9割台と高くなっている。

職業別でみると、「紙媒体（町会・自治会配布、新聞折り込み、区施設や地下鉄駅などでの配布）」は全ての職業で9割台と高くなっている。

ライフステージ別でみると、「紙媒体（町会・自治会配布、新聞折り込み、区施設や地下鉄駅などでの配布）」は独身期を除く全てのライフステージで9割以上と高くなっている。

(図表12-2-2)

図表12-2-2 広報紙の入手方法—性別・年齢別・職業別・ライフステージ別



(3) 区政情報を得る手段

◇「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』（紙版、電子版いずれも含みます）」が6割

問23 あなたは、区のサービスやイベントなどの区政情報をどのように入手していますか。

(○はいくつでも)

n = 1,004

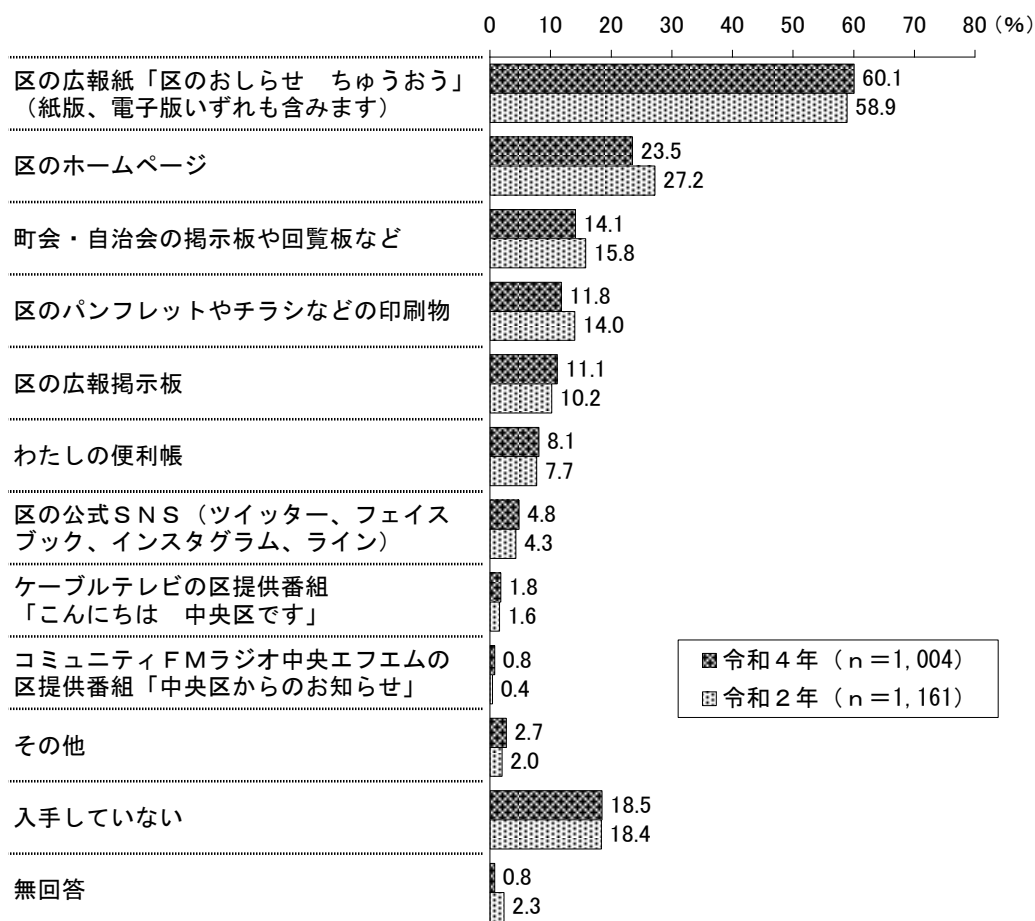
1	区の広報紙「区のおしらせ ちゅうおう」（紙版、電子版いずれも含みます）	60.1%
2	わたしの便利帳	8.1
3	区のパンフレットやチラシなどの印刷物	11.8
4	区のホームページ	23.5
5	区の広報掲示板	11.1
6	町会・自治会の掲示板や回覧板など	14.1
7	ケーブルテレビの区提供番組「こんにちは 中央区です」	1.8
8	コミュニティFMラジオ中央エフエムの区提供番組「中央区からのお知らせ」	0.8
9	区の公式SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、ライン）	4.8
10	その他	2.7
11	入手していない (無回答)	18.5 0.8

区政情報を得る手段は、「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』（紙版、電子版いずれも含みます）」(60.1%) が6割で最も高くなっている。次いで、「区のホームページ」(23.5%)、「町会・自治会の掲示板や回覧板など」(14.1%)、「区のパンフレットやチラシなどの印刷物」(11.8%)、「区の広報掲示板」(11.1%) などとなっている。一方、「入手していない」(18.5%) は2割近くとなっている。

令和2年の調査結果と比較すると、「区のホームページ」は3.7ポイント減少している。

(図表 12-3-1)

図表12-3-1 区政情報を得る手段（複数回答）



※ 「区の公式SNS (ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、ライン)」の選択肢は、令和2年では「区の公式SNS (ツイッター、フェイスブック、インスタグラム)」としていた。

過去の調査結果と比較すると、選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』」と「区のホームページ」が平成26年以降引き続き上位2項目となっている。(図表12-3-2)

図表12-3-2 区政情報を得る手段一過年度比較

調査年	n	(%)												
		区の広報紙「区のおしらせ ちゅうおう」(紙版、電子版いずれも含まれます)	区のホームページ	町会・自治会の掲示板や回覧板など	区のパンフレットやチラシなどの印刷物	区の広報掲示板	わたしの便利帳	区の公式SNS(ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、ライン)	ケーブルテレビの区提供番組「こんにちは中央区です」	区提供番組「中央FMラジオ中央エフエムの区提供番組「中央区からお知らせ」	その他	入手していない	無回答	スマートフォン用アプリ「中央区版マイ広報紙」、「マチイロ」
令和4年	1,004	60.1	23.5	14.1	11.8	11.1	8.1	4.8	1.8	0.8	2.7	18.5	0.8	※
令和2年	1,161	58.9	27.2	15.8	14.0	10.2	7.7	4.3	1.6	0.4	2.0	18.4	2.3	※
平成30年	1,056	70.2	27.2	16.6	21.9	9.7	10.3	2.0	2.7	1.3	2.5	※	7.2	1.9
平成28年	1,036	72.3	25.4	18.1	20.1	10.2	12.8	1.9	1.9	1.1	1.4	※	7.2	※
平成26年	1,041	75.0	28.0	19.1	20.2	10.3	18.7	※	4.1	1.2	1.5	※	5.8	※
平成24年	1,123	77.5	22.8	※	23.2	24.5	※	※	4.7	2.3	3.5	※	3.1	※

- * 太枠内が今回の調査の選択肢。
- * ※印は、その年の調査では聞かれていない選択肢。
- * 「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』(紙版、電子版いずれも含まれます)」の選択肢は、平成30年以前では「区の広報紙『区のおしらせ 中央』」としていた。
- * 「区の公式SNS(ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、ライン)」の選択肢は、令和2年・平成30年では「区の公式SNS(ツイッター、フェイスブック、インスタグラム)」、平成28年では「区のツイッターやフェイスブック」としていた。

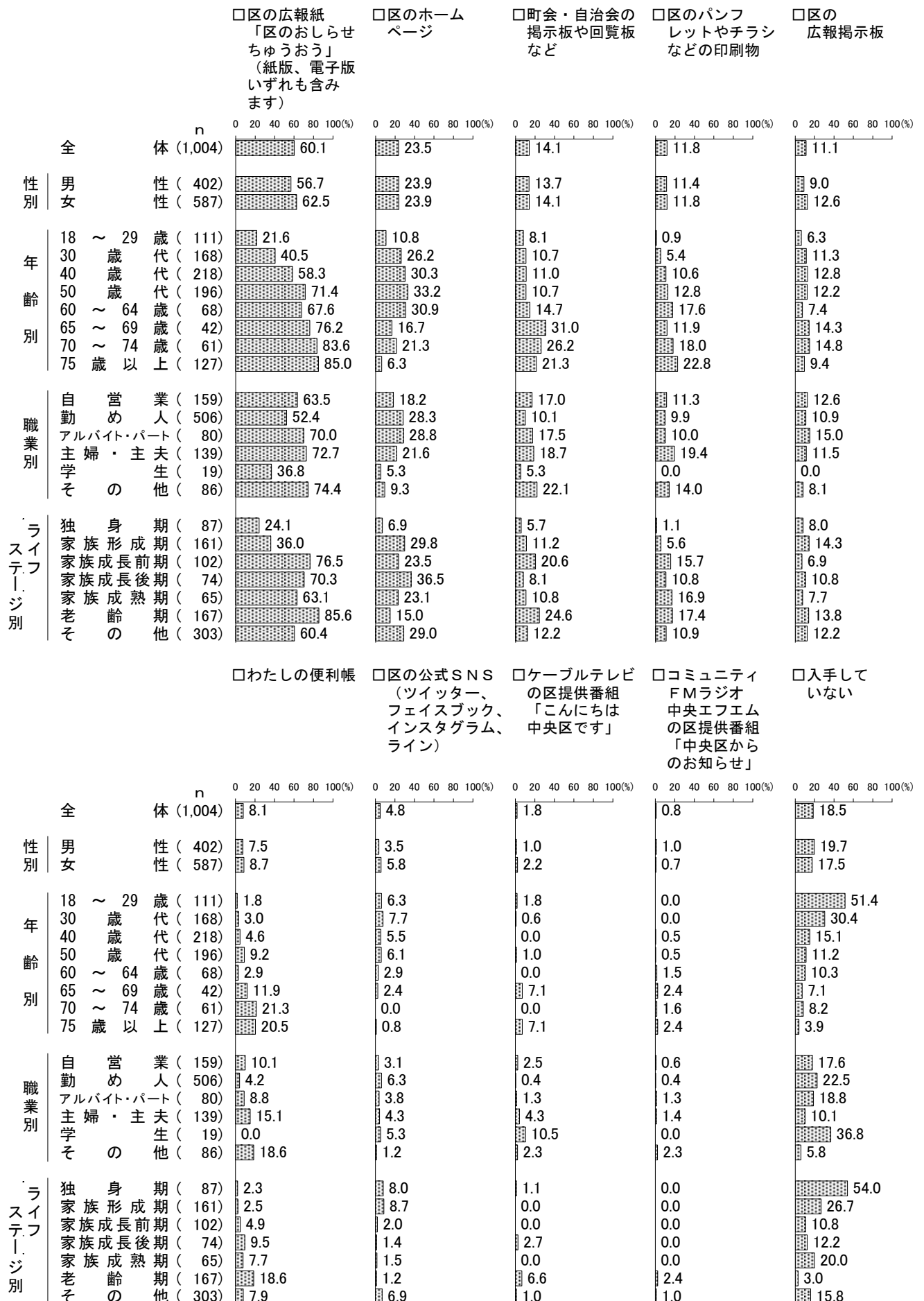
性別でみると、女性の方が男性よりも「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』」で5.8ポイント、「区の広報掲示板」で3.6ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』」はおおむね年代が上がるほど割合が高くなっており、75歳以上で8割台半ばと高くなっている。「町会・自治会の掲示板や回覧板など」は65～69歳で3割を超えて高くなっている。一方、「入手していない」は18～29歳で5割を超えて高くなっている。

職業別でみると、「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』」はその他と主婦・主夫、アルバイト・パートタイマーで7割台と高くなっている。

ライフステージ別でみると、「区の広報紙『区のおしらせ ちゅうおう』」は高齢期で8割台半ばと高くなっている。「区のホームページ」は家族成長後期で4割近くと高くなっている。一方、「入手していない」は独身期で5割台半ばと高くなっている。(図表12-3-3)

図表12-3-3 区政情報を得る手段—性別・年齢別・職業別・ライフステージ別（上位10項目）



【13 環境問題】

(1) 環境を守るための取り組み

◇「ごみ・資源の分別をしている」が8割台半ば

問24 あなたは、環境を守るために、どのような取り組みを行っていますか。

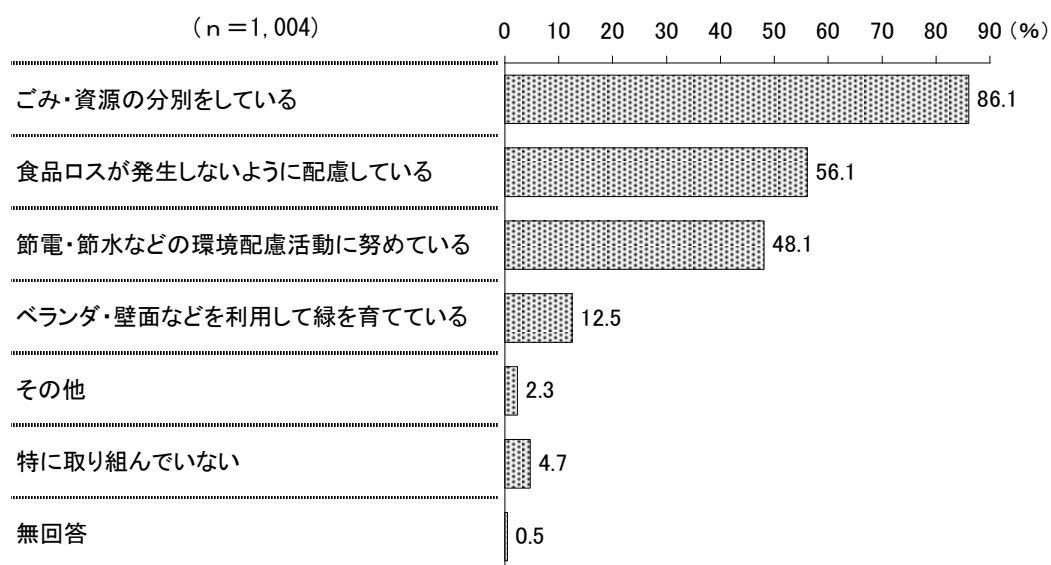
(○はいくつでも)

n = 1,004

1	節電・節水などの環境配慮活動に努めている	48.1%
2	ごみ・資源の分別をしている	86.1
3	ベランダ・壁面などを利用して緑を育てている	12.5
4	食品ロスが発生しないように配慮している	56.1
5	その他	2.3
6	特に取り組んでいない	4.7
	(無回答)	0.5

環境を守るための取り組みは、「ごみ・資源の分別をしている」(86.1%)が8割台半ばで最も高くなっている。次いで、「食品ロスが発生しないように配慮している」(56.1%)、「節電・節水などの環境配慮活動に努めている」(48.1%)、「ベランダ・壁面などを利用して緑を育てている」(12.5%)などとなっている。(図表13-1-1)

図表13-1-1 環境を守るための取り組み（複数回答）



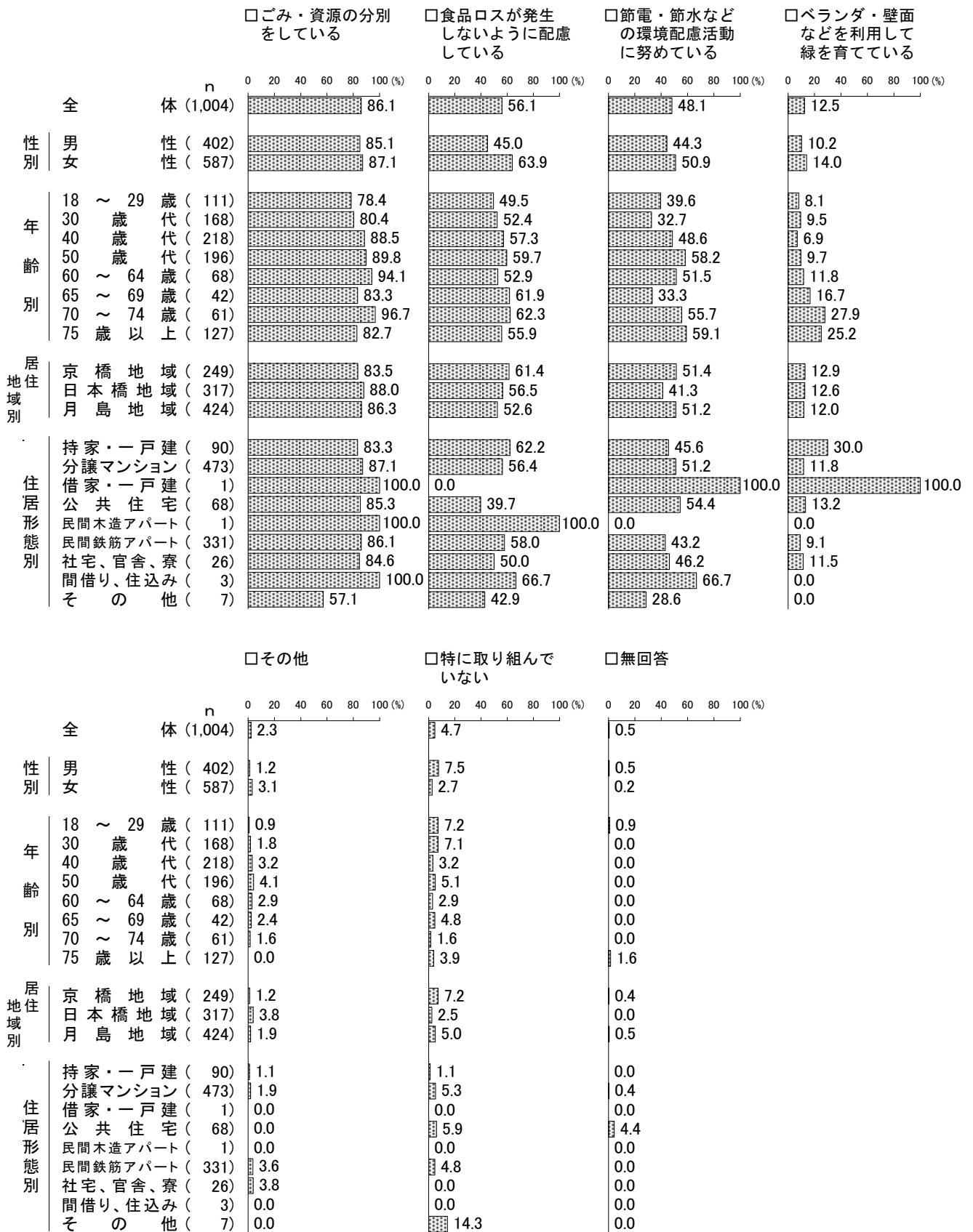
性別でみると、女性の方が男性よりも「食品ロスが発生しないように配慮している」で18.9ポイント、「節電・節水などの環境配慮活動に努めている」で6.6ポイント、「ベランダ・壁面などを利用して緑を育てている」で3.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「特に取り組んでいない」で4.8ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「ごみ・資源の分別をしている」は60～64歳と70～74歳で9割台と高くなっている。「食品ロスが発生しないように配慮している」は65～69歳と70～74歳で6割を超えて高くなっている。「節電・節水などの環境配慮活動に努めている」は75歳以上で約6割と高くなっている。

居住地域別でみると、「食品ロスが発生しないように配慮している」は京橋地域で6割を超えて高くなっている。「節電・節水などの環境配慮活動に努めている」は京橋地域と月島地域で5割を超えて高くなっている。

住居形態別でみると、「食品ロスが発生しないように配慮している」は持家・一戸建で6割を超えて高くなっている。「節電・節水などの環境配慮活動に努めている」は公共住宅で5割台半ばと高くなっている。(図表13-1-2)

図表13-1-2 環境を守るための取り組み—性別・年齢別・居住地域別・住居形態別



(2) 今後の家庭での取り組み

◇「節電・節水などの環境配慮活動を徹底する」が6割を超える

問25 あなたは、環境を守るために、今後どのような家庭での取り組みが必要だと思いますか。
(○はいくつでも)

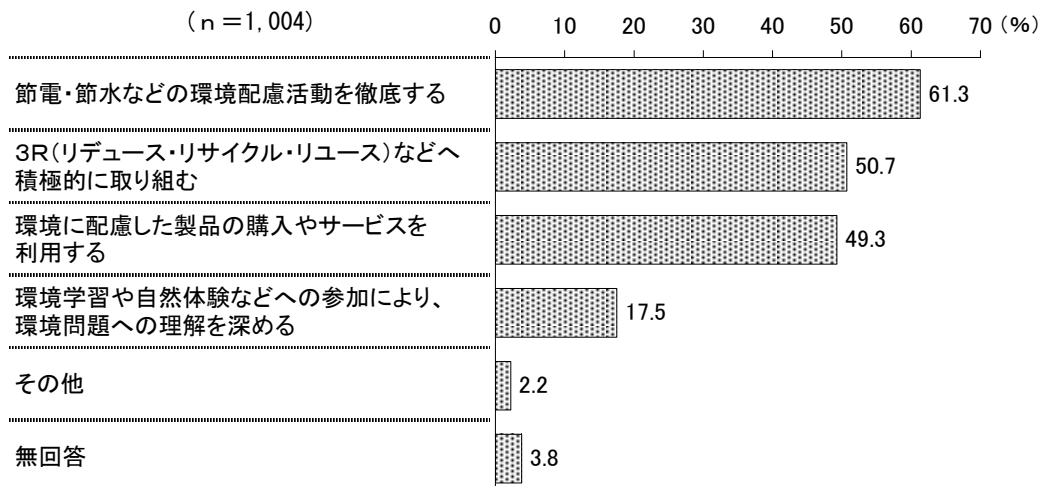
n = 1,004

1	節電・節水などの環境配慮活動を徹底する	61.3%
2	環境に配慮した製品の購入やサービスを利用する	49.3
3	3R（リデュース・リサイクル・リユース）などへ積極的に取り組む	50.7
4	環境学習や自然体験などへの参加により、環境問題への理解を深める	17.5
5	その他	2.2
	(無回答)	3.8

今後の家庭での取り組みは、「節電・節水などの環境配慮活動を徹底する」(61.3%)が6割を超えて最も高くなっている。次いで、「3R（リデュース・リサイクル・リユース）などへ積極的に取り組む」(50.7%)、「環境に配慮した製品の購入やサービスを利用する」(49.3%)、「環境学習や自然体験などへの参加により、環境問題への理解を深める」(17.5%)などとなっている。

(図表13-2-1)

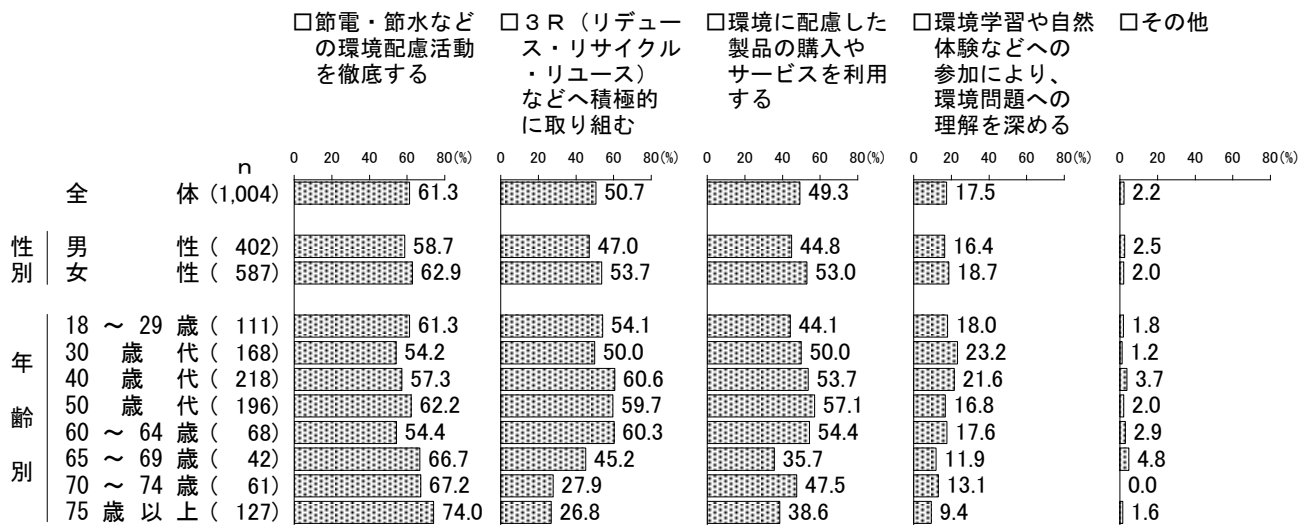
図表13-2-1 今後の家庭での取り組み（複数回答）



性別でみると、女性の方が男性よりも「環境に配慮した製品の購入やサービスを利用する」で8.2ポイント、「3R（リデュース・リサイクル・リユース）などへ積極的に取り組む」で6.7ポイント、「節電・節水などの環境配慮活動を徹底する」で4.2ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「節電・節水などの環境配慮活動を徹底する」は75歳以上で7割台半ばと高くなっている。「3R（リデュース・リサイクル・リユース）などへ積極的に取り組む」は40歳代と50歳代、60～64歳で約6割と高くなっている。「環境に配慮した製品の購入やサービスを利用する」は50歳代で6割近くと高くなっている。（図表13-2-2）

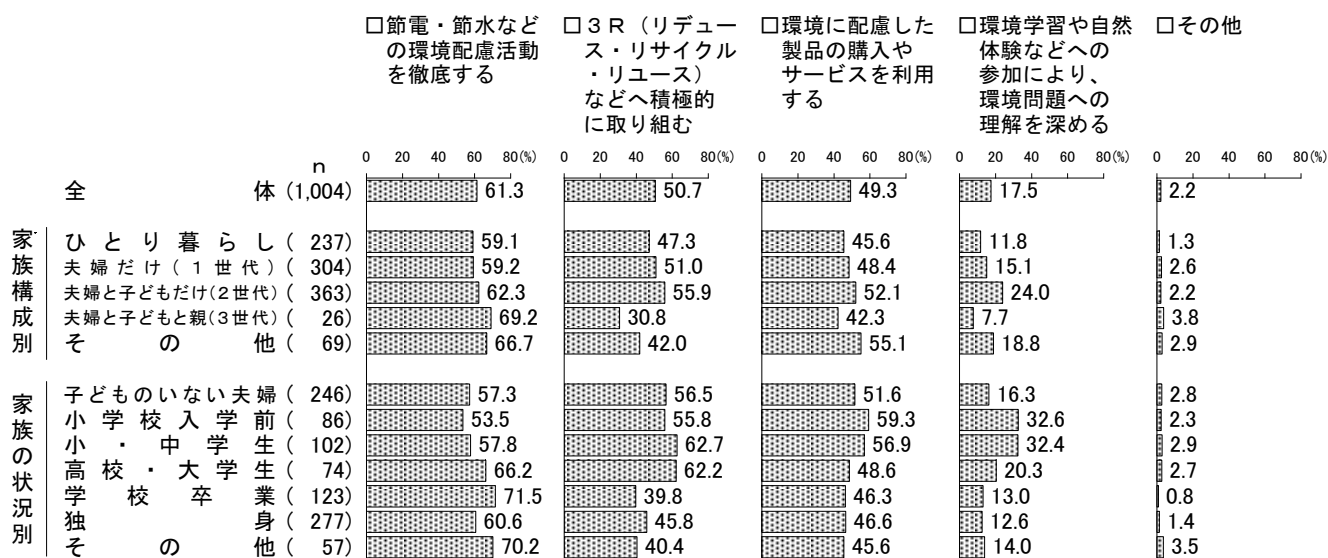
図表13-2-2 今後の家庭での取り組み－性別・年齢別



家族構成別でみると、「節電・節水などの環境配慮活動を徹底する」は夫婦と子どもと親（3世代）で約7割と高くなっている。「3R（リデュース・リサイクル・リユース）などへ積極的に取り組む」は夫婦と子どもだけ（2世代）で5割台半ばと高くなっている。

家族の状況別でみると、「節電・節水などの環境配慮活動を徹底する」が一番上の子どもが学校卒業の家族で7割を超えて高くなっている。「3R（リデュース・リサイクル・リユース）などへ積極的に取り組む」が一番上の子どもが小・中学生の家族と一番上の子どもが高校・大学生の家族で6割を超えて高くなっている。（図表13-2-3）

図表13-2-3 今後の家庭での取り組み—家族構成別・家族の状況別



(3) 企業の責任としての取り組み

◇「再生可能エネルギー機器や省エネルギー機器の導入」が6割

問26 区内には多くの企業がありますが、あなたは、環境を守るために企業の責任として何に取り組む必要があると思いますか。(〇はいくつでも)

n = 1,004

1	再生可能エネルギー機器や省エネルギー機器の導入	59.6%
2	建物のZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）化	33.3
3	再生可能エネルギーで発電された電気などの積極的な利用	43.1
4	ZEV（ゼロ・エミッション・ビークル）などの積極的な導入	27.8
5	建材などの木質化や屋上緑化などの緑化推進による二酸化炭素排出量の削減	40.1
6	森林整備の支援などによる環境活動への参加	27.6
7	社員等への環境教育による環境配慮への意識向上	29.4
8	その他	3.1
	(無回答)	6.5

(※) ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）

快適な室内環境を実現しながら、省エネや再生可能エネルギーを利用して建物で消費するエネルギーをゼロにすることを目指した建物のことです。

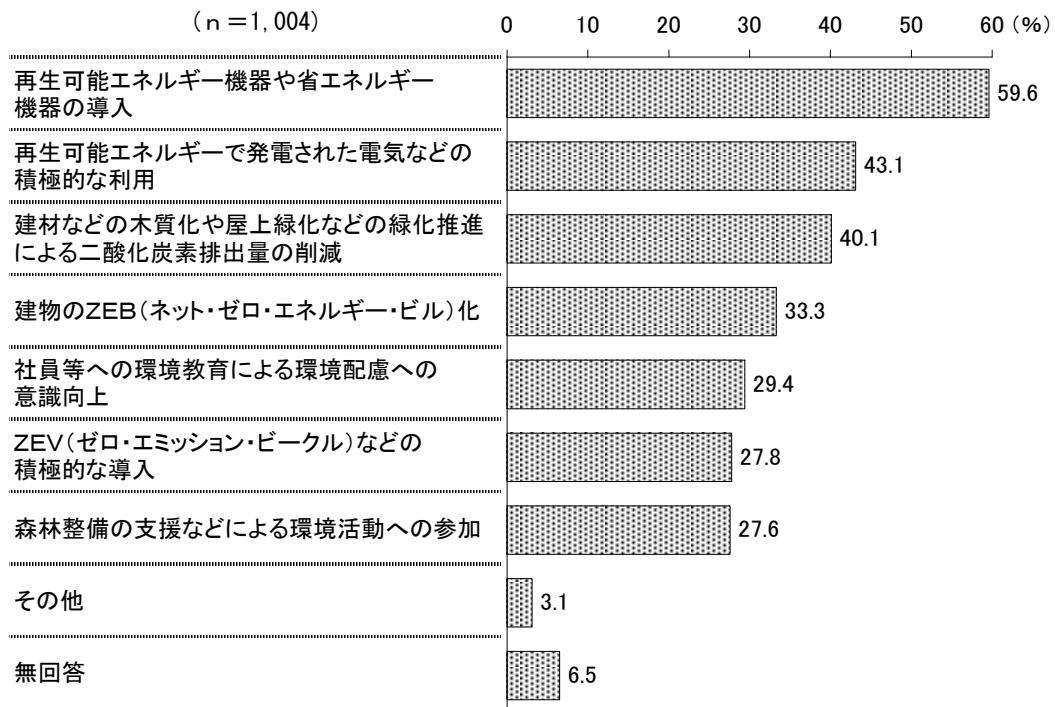
(※) ZEV（ゼロ・エミッション・ビークル）

走行時に二酸化炭素等の排出ガスを出さない電気自動車（EV）や燃料電池車（FCV）、プラグインハイブリッド自動車（PHV）のことです。

企業の責任としての取り組みは、「再生可能エネルギー機器や省エネルギー機器の導入」(59.6%)が6割で最も高くなっている。次いで、「再生可能エネルギーで発電された電気などの積極的な利用」(43.1%)、「建材などの木質化や屋上緑化などの緑化推進による二酸化炭素排出量の削減」(40.1%)、「建物のZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）化」(33.3%)などとなっている。

(図表13-3-1)

図表13-3-1 企業の責任としての取り組み（複数回答）



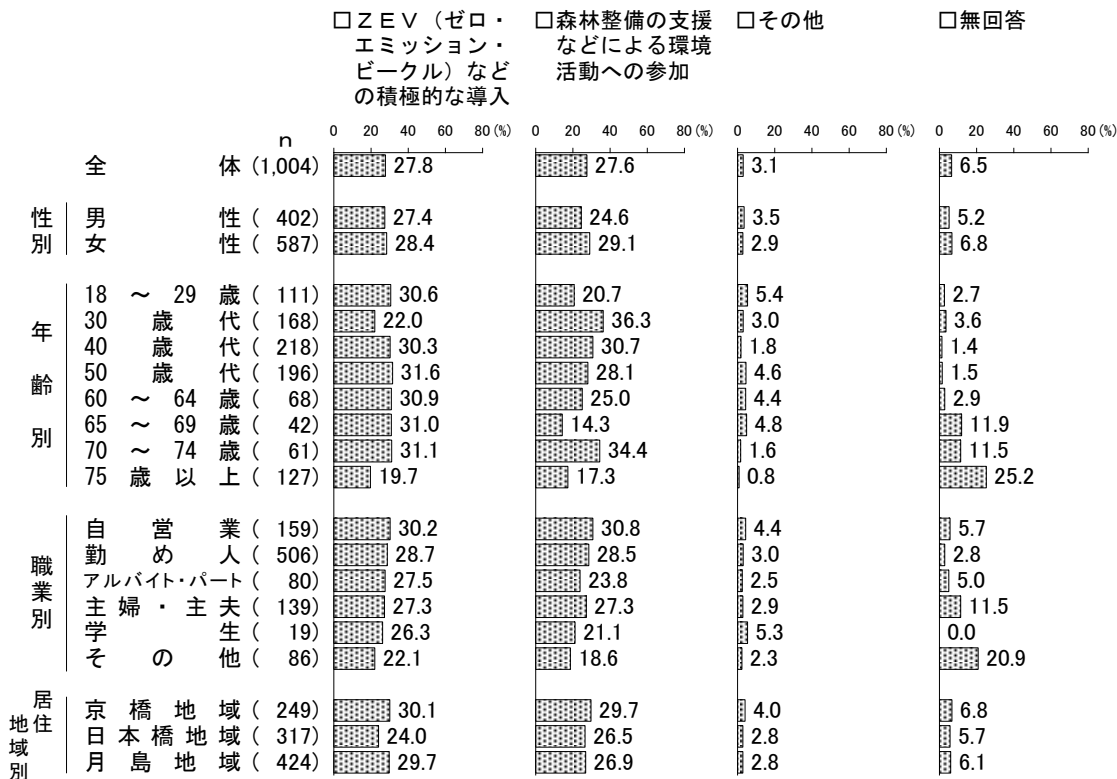
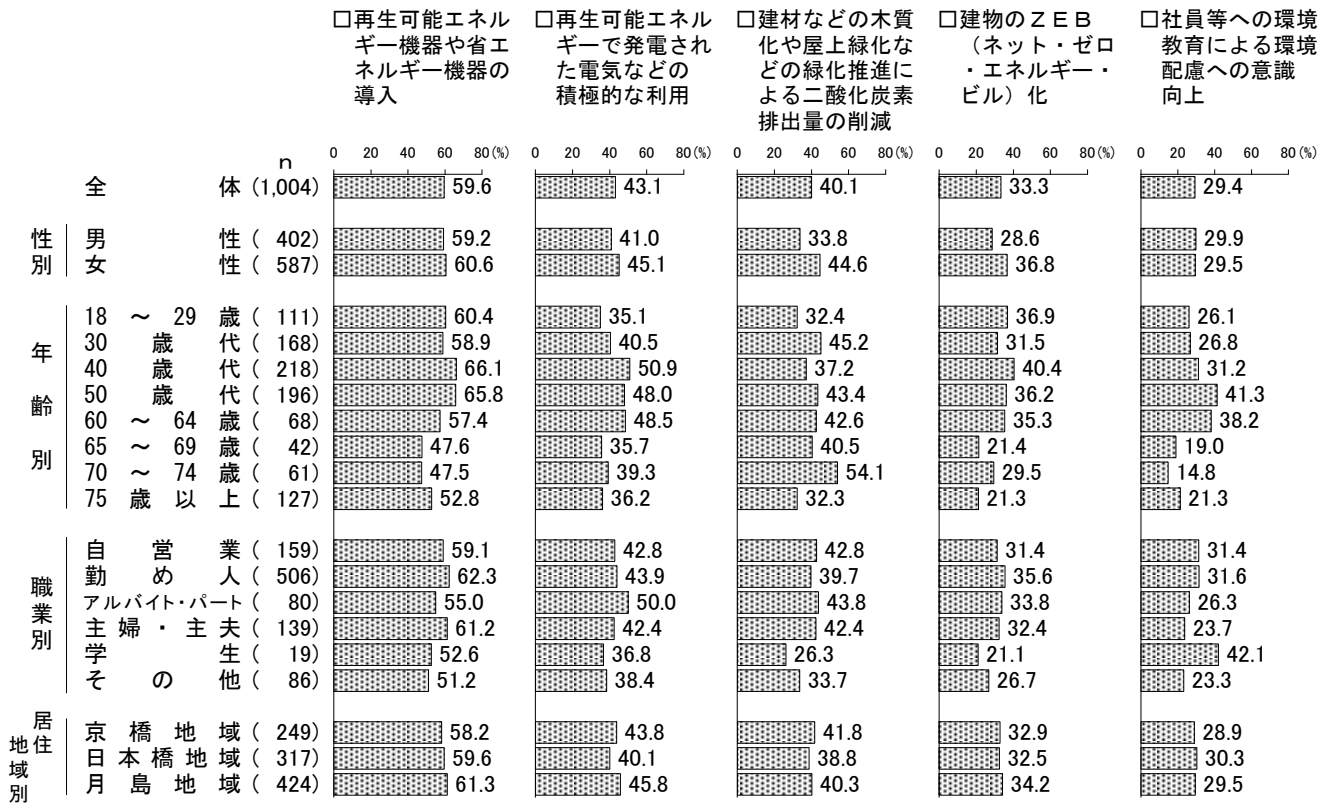
性別でみると、女性の方が男性よりも「建材などの木質化や屋上緑化などの緑化推進による二酸化炭素排出量の削減」で10.8ポイント、「建物のZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）化」で8.2ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「再生可能エネルギー機器や省エネルギー機器の導入」は40歳代と50歳代で6割台半ばと高くなっている。「建材などの木質化や屋上緑化などの緑化推進による二酸化炭素排出量の削減」は70～74歳で5割台半ばと高くなっている。

職業別でみると、「再生可能エネルギー機器や省エネルギー機器の導入」は勤め人と主婦・主夫で6割を超えて高くなっている。「再生可能エネルギーで発電された電気などの積極的な利用」はアルバイト・パートタイマーで5割と高くなっている。

居住地域別でみると、「再生可能エネルギー機器や省エネルギー機器の導入」は月島地域で6割を超えて高くなっている。「再生可能エネルギーで発電された電気などの積極的な利用」は月島地域で4割台半ばと高くなっている。（図表13-3-2）

図表13-3-2 企業の責任としての取り組み—性別・年齢別・職業別・居住地域別



【14 公園の魅力向上】

(1) 区立公園を利用して満足していること

◇「緑や花のある場であること」が5割を超える

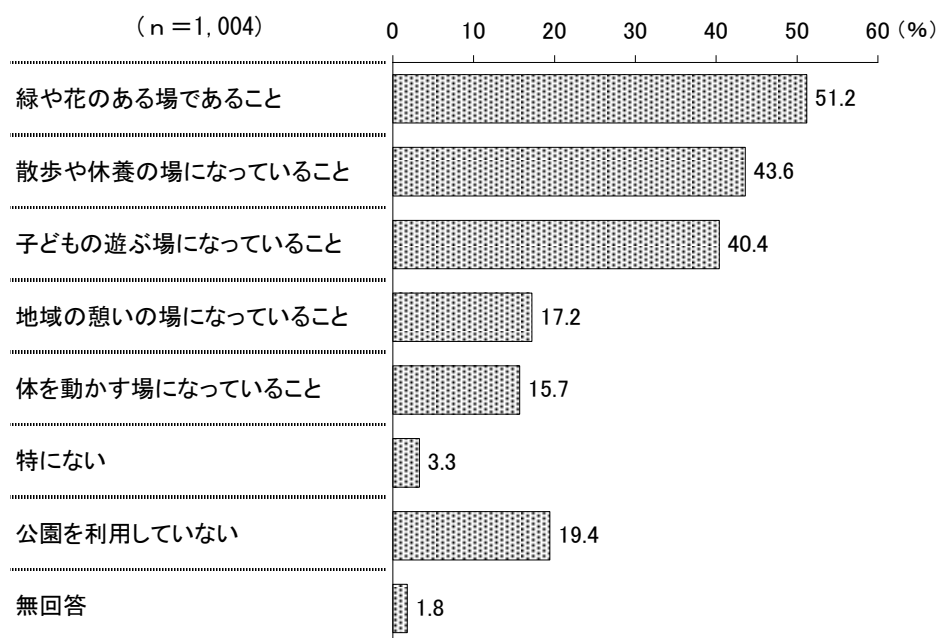
問27 あなたは、区立公園を利用して満足していることは何ですか。(○は3つまで)

n = 1,004

1	子どもの遊ぶ場になっていること	40.4%	5	散歩や休養の場になっていること	43.6
2	緑や花のある場であること	51.2	6	特にない	3.3
3	体を動かす場になっていること	15.7	7	公園を利用していない	19.4
4	地域の憩いの場になっていること	17.2		(無回答)	1.8

区立公園を利用して満足していることは、「緑や花のある場であること」(51.2%)が5割を超えて最も高くなっている。次いで、「散歩や休養の場になっていること」(43.6%)、「子どもの遊ぶ場になっていること」(40.4%)、「地域の憩いの場になっていること」(17.2%)、「体を動かす場になっていること」(15.7%)などとなっている。(図表14-1-1)

図表14-1-1 区立公園を利用して満足していること (複数回答)



性別でみると、男性の方が女性よりも「子どもの遊ぶ場になっていること」で6.7ポイント、「体を動かす場になっていること」で4.6ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「緑や花のある場であること」で5.9ポイント、「地域の憩いの場になっていること」で3.7ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「緑や花のある場であること」は70～74歳で6割を超えて高くなっている。「散歩や休養の場になっていること」は65～69歳で5割を超えて高くなっている。「子どもの遊ぶ場になっていること」は40歳代で5割を超えて高くなっている。

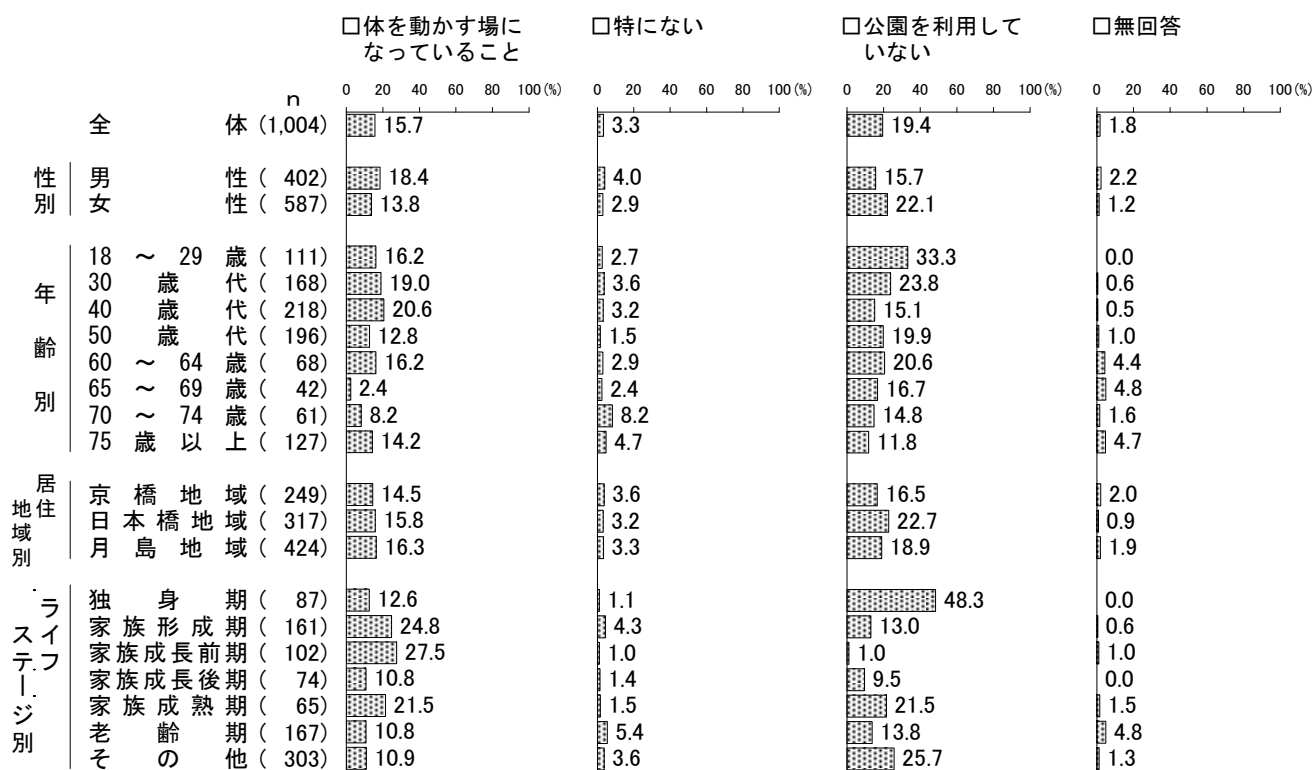
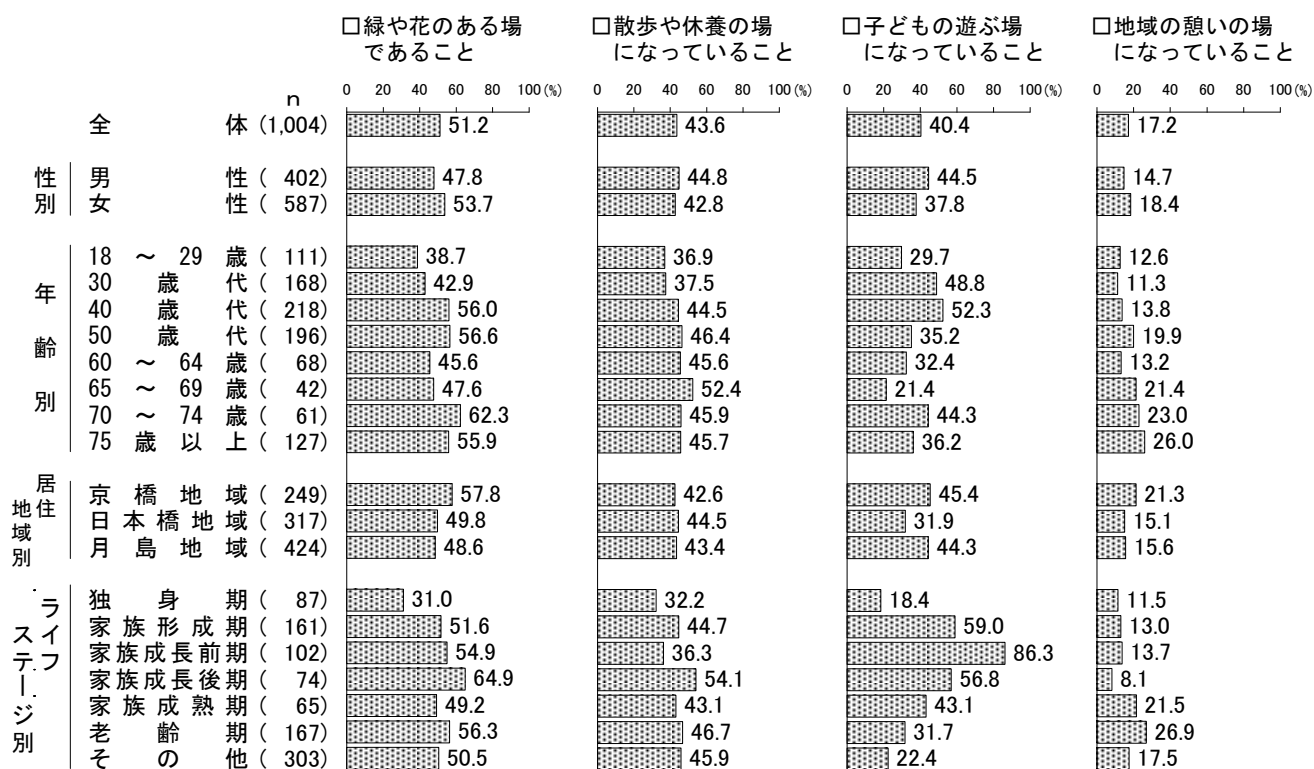
居住地域別でみると、「緑や花のある場であること」は京橋地域で6割近くと高くなっている。「子どもの遊ぶ場になっていること」は京橋地域と月島地域で4割台半ばと高くなっている。「地域の憩いの場になっていること」は京橋地域で2割を超えて高くなっている。

ライフステージ別でみると、「緑や花のある場であること」は家族成長後期で6割台半ばと高くなっている。「散歩や休養の場になっていること」は家族成長後期で5割台半ばと高くなっている。「子どもの遊ぶ場になっていること」は家族成長前期で8割台半ばと高くなっている。

(図表14-1-2)

図表14-1-2 区立公園を利用して満足していること

—性別・年齢別・居住地域別・ライフステージ別



(2) 今後の区立公園のあり方

◇「緑や花を充実してほしい」が5割台半ば

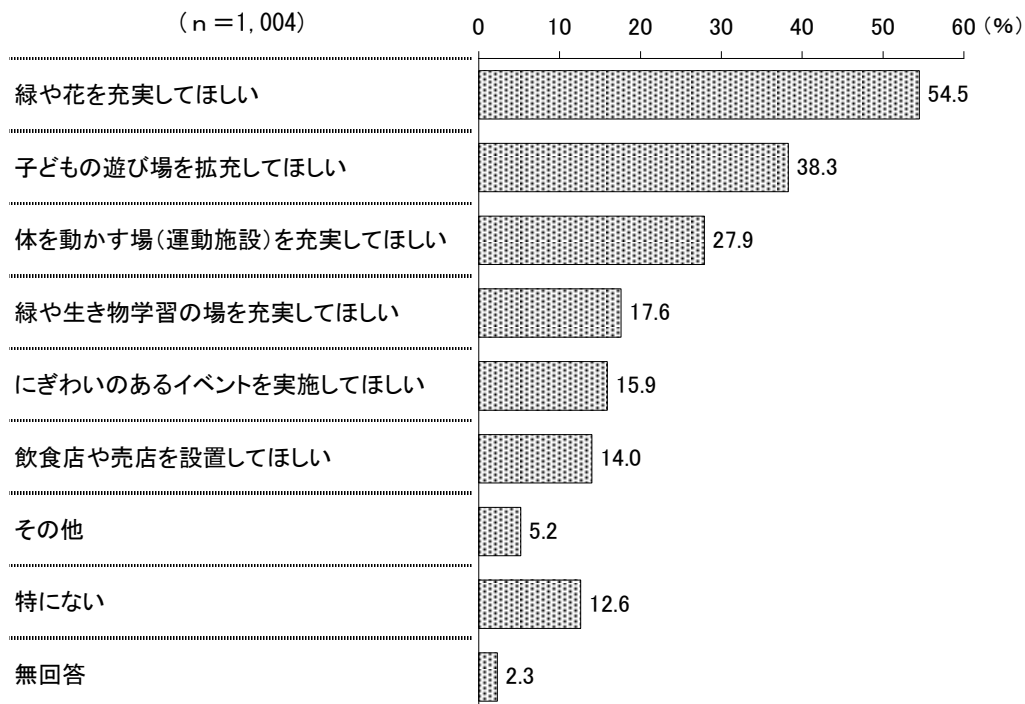
問28 あなたは、今後の区立公園のあり方についてどのようにお考えですか。(〇は3つまで)

n = 1,004

1	子どもの遊び場を拡充してほしい	38.3%
2	緑や花を充実してほしい	54.5
3	緑や生き物学習の場を充実してほしい	17.6
4	体を動かす場(運動施設)を充実してほしい	27.9
5	飲食店や売店を設置してほしい	14.0
6	にぎわいのあるイベントを実施してほしい	15.9
7	その他	5.2
8	特にない	12.6
	(無回答)	2.3

今後の区立公園のあり方について、「緑や花を充実してほしい」(54.5%)が5割台半ばで最も高くなっている。次いで、「子どもの遊び場を拡充してほしい」(38.3%)、「体を動かす場(運動施設)を充実してほしい」(27.9%)、「緑や生き物学習の場を充実してほしい」(17.6%)、「にぎわいのあるイベントを実施してほしい」(15.9%)、「飲食店や売店を設置してほしい」(14.0%)などとなっている。(図表14-2-1)

図表14-2-1 今後の区立公園のあり方(複数回答)



性別でみると、男性の方が女性よりも「体を動かす場（運動施設）を充実してほしい」で6.7ポイント、「飲食店や売店を設置してほしい」で5.4ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「緑や花を充実してほしい」で6.5ポイント、「にぎわいのあるイベントを実施してほしい」で4.0ポイント、それぞれ高くなっている。

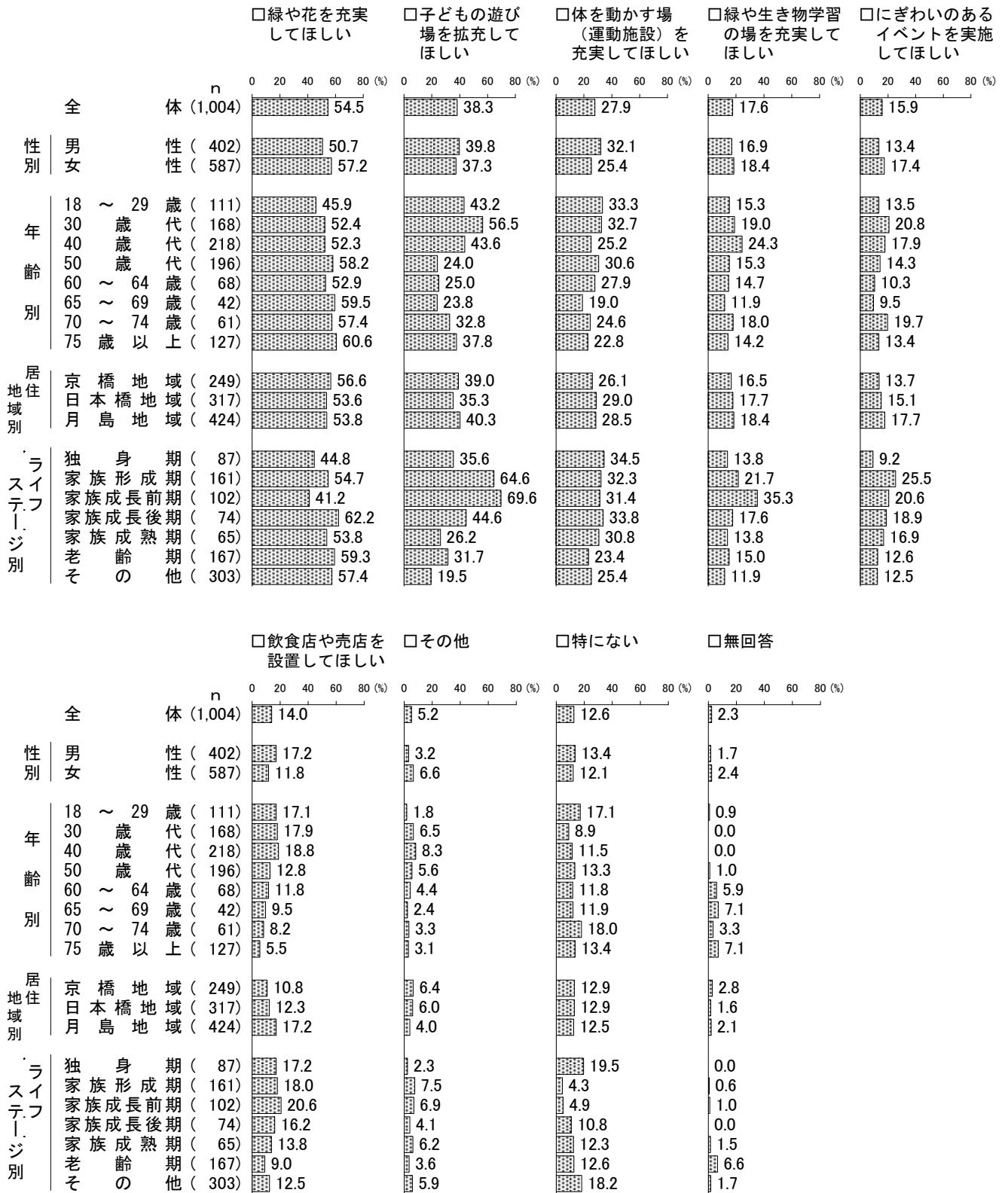
年齢別でみると、「緑や花を充実してほしい」は65～69歳と75歳以上で約6割と高くなっている。「子どもの遊び場を拡充してほしい」は30歳代で6割近くと高くなっている。「体を動かす場（運動施設）を充実してほしい」は18～29歳と30歳代で3割を超えて高くなっている。

居住地域別でみると、「子どもの遊び場を拡充してほしい」は月島地域と京橋地域で約4割と高くなっている。

ライフステージ別でみると、「緑や花を充実してほしい」は家族成長後期で6割を超えて高くなっている。「子どもの遊び場を拡充してほしい」は家族成長前期と家族形成期で6割台と高くなっている。「緑や生き物学習の場を充実してほしい」は家族成長前期で3割台半ばと高くなっている。

(図表14-2-2)

図表14-2-2 今後の区立公園のあり方—性別・年齢別・居住地域別・ライフステージ別



【15 今後のまちづくり】

(1) 10年後の中央区が「どのようなまち」になっていると良いか

◇「犯罪のない安心して住めるまち」が5割

問29 あなたは、10年後の中央区が「どのようなまち」になっていると良いと思いますか。

(○は4つまで)

n = 1,004

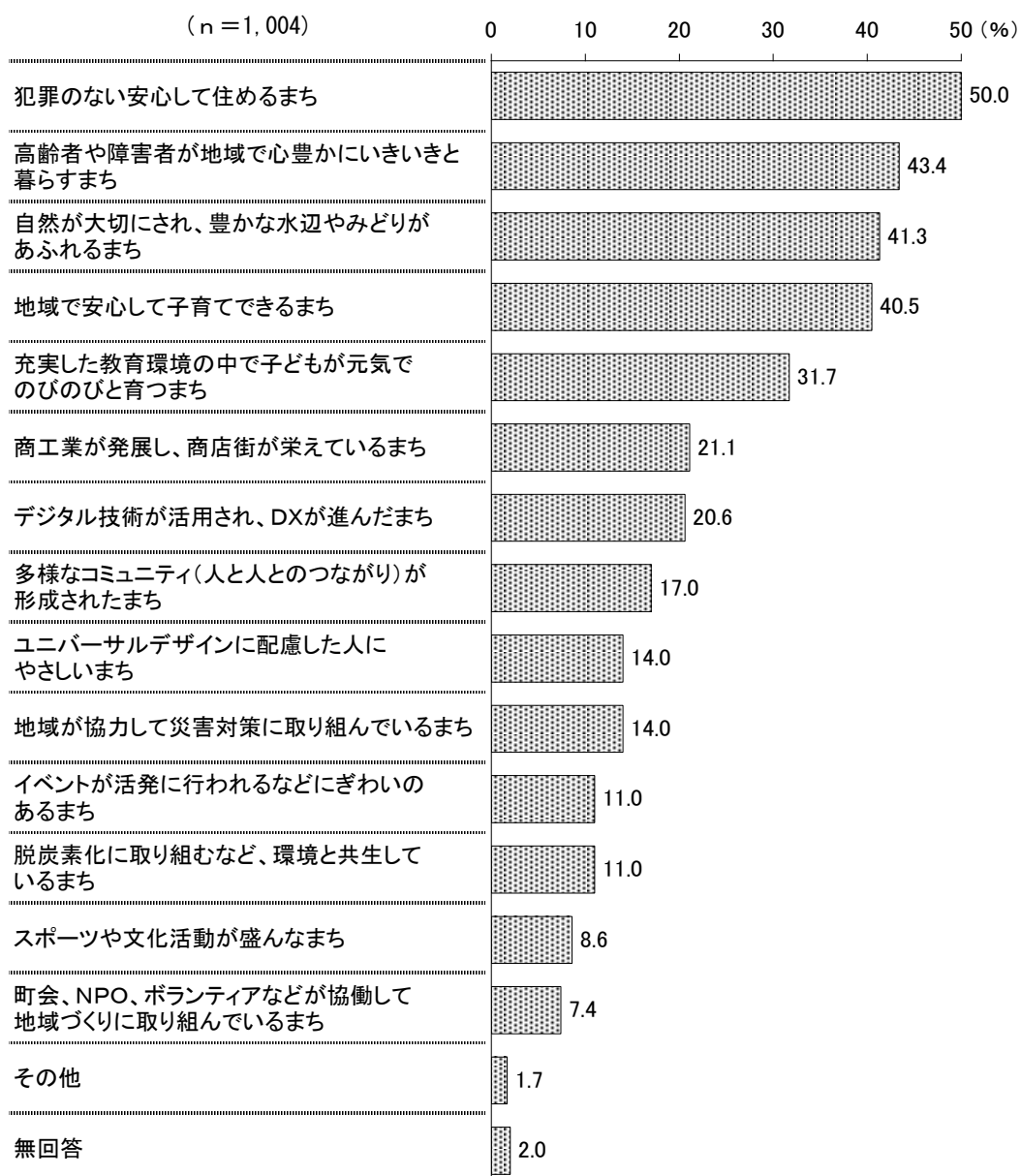
1	地域で安心して子育てできるまち	40.5%
2	充実した教育環境の中で子どもが元気でのびのびと育つまち	31.7
3	高齢者や障害者が地域で心豊かにいきいきと暮らすまち	43.4
4	ユニバーサルデザインに配慮した人にやさしいまち	14.0
5	多様なコミュニティ（人と人とのつながり）が形成されたまち	17.0
6	デジタル技術が活用され、DXが進んだまち	20.6
7	商工業が発展し、商店街が栄えているまち	21.1
8	イベントが活発に行われるなどにぎわいのあるまち	11.0
9	町会、NPO、ボランティアなどが協働して地域づくりに取り組んでいるまち	7.4
10	自然が大切にされ、豊かな水辺やみどりがあふれるまち	41.3
11	脱炭素化に取り組むなど、環境と共生しているまち	11.0
12	地域が協力して災害対策に取り組んでいるまち	14.0
13	犯罪のない安心して住めるまち	50.0
14	スポーツや文化活動が盛んなまち	8.6
15	その他	1.7
	(無回答)	2.0

(※) DX Digital Transformation の略称。ICT（情報通信技術）の浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させることを意味します。

(※) NPO Non-Profit OrganizationまたはNot-for-Profit Organizationの略称で、さまざまな社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、収益を分配することを目的としない団体の総称です。

10年後の中央区が「どのようなまち」になっていると良いかは、「犯罪のない安心して住めるまち」(50.0%)が5割で最も高くなっている。次いで、「高齢者や障害者が地域で心豊かにいきいきと暮らすまち」(43.4%)、「自然が大切にされ、豊かな水辺やみどりがあふれるまち」(41.3%)、「地域で安心して子育てできるまち」(40.5%)、「充実した教育環境の中で子どもが元気でのびのびと育つまち」(31.7%)などとなっている。(図表15-1-1)

図表15-1-1 10年後の中央区が「どのようなまち」になっていると良いか（複数回答）



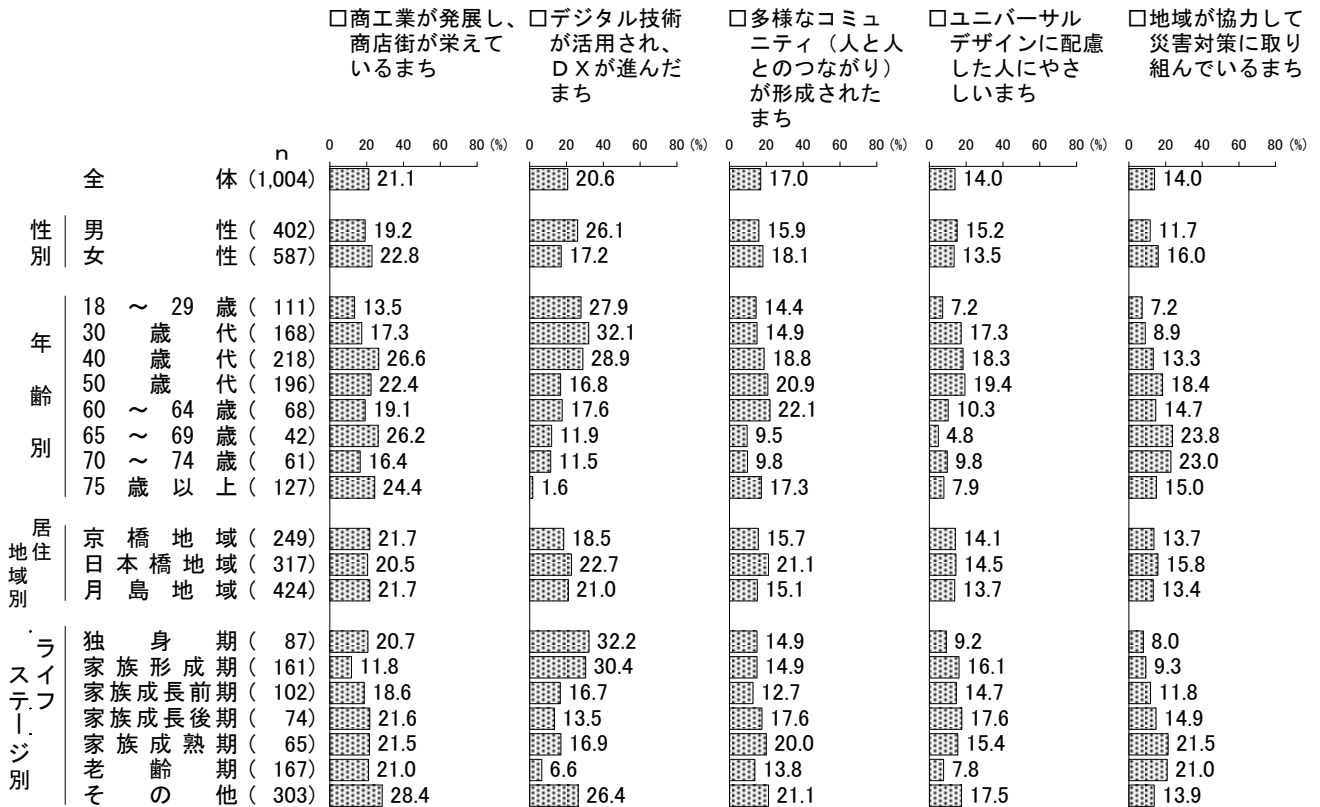
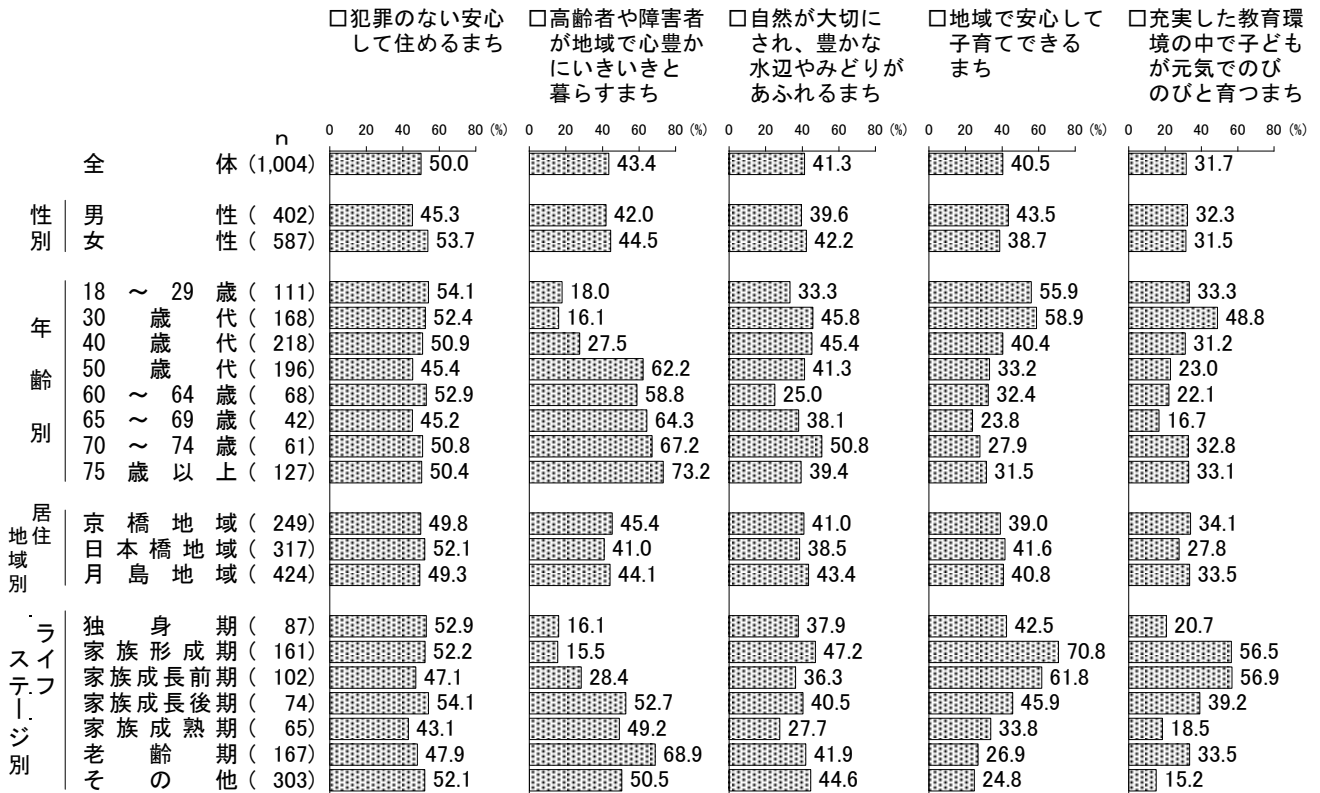
性別でみると、男性の方が女性よりも「デジタル技術が活用され、DXが進んだまち」で8.9ポイント、「地域で安心して子育てできるまち」で4.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性の方が男性よりも「犯罪のない安心して住めるまち」で8.4ポイント、「地域が協力して災害対策に取り組んでいるまち」で4.3ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「高齢者や障害者が地域で心豊かにいきいきと暮らすまち」は75歳以上で7割を超えて高くなっている。「自然が大切にされ、豊かな水辺やみどりがあふれるまち」は70～74歳で約5割と高くなっている。「地域で安心して子育てできるまち」は18～29歳と30歳代で5割台と高くなっている。

居住地域別でみると、「犯罪のない安心して住めるまち」は日本橋地域で5割を超えて高くなっている。「高齢者や障害者が地域で心豊かにいきいきと暮らすまち」は京橋地域と月島地域で4割台半ばと高くなっている。「充実した教育環境の中で子どもが元気で伸び伸びと育つまち」は京橋地域で3割台半ばと高くなっている。

ライフステージ別でみると、「高齢者や障害者が地域で心豊かにいきいきと暮らすまち」は老齢期で7割近く、家族成長後期で5割を超えて高くなっている。「自然が大切にされ、豊かな水辺やみどりがあふれるまち」は家族形成期で5割近くと高くなっている。「地域で安心して子育てできるまち」は家族形成期で約7割、家族成長前期で6割を超えて高くなっている。(図表 15-1-2)

図表15-1-2 10年後の中央区が「どのようなまち」になっていると良いか
 -性別・年齢別・居住地域別・ライフステージ別（上位10項目）



【16 施策の要望・評価】

(1) 区の施策の満足度と重要度

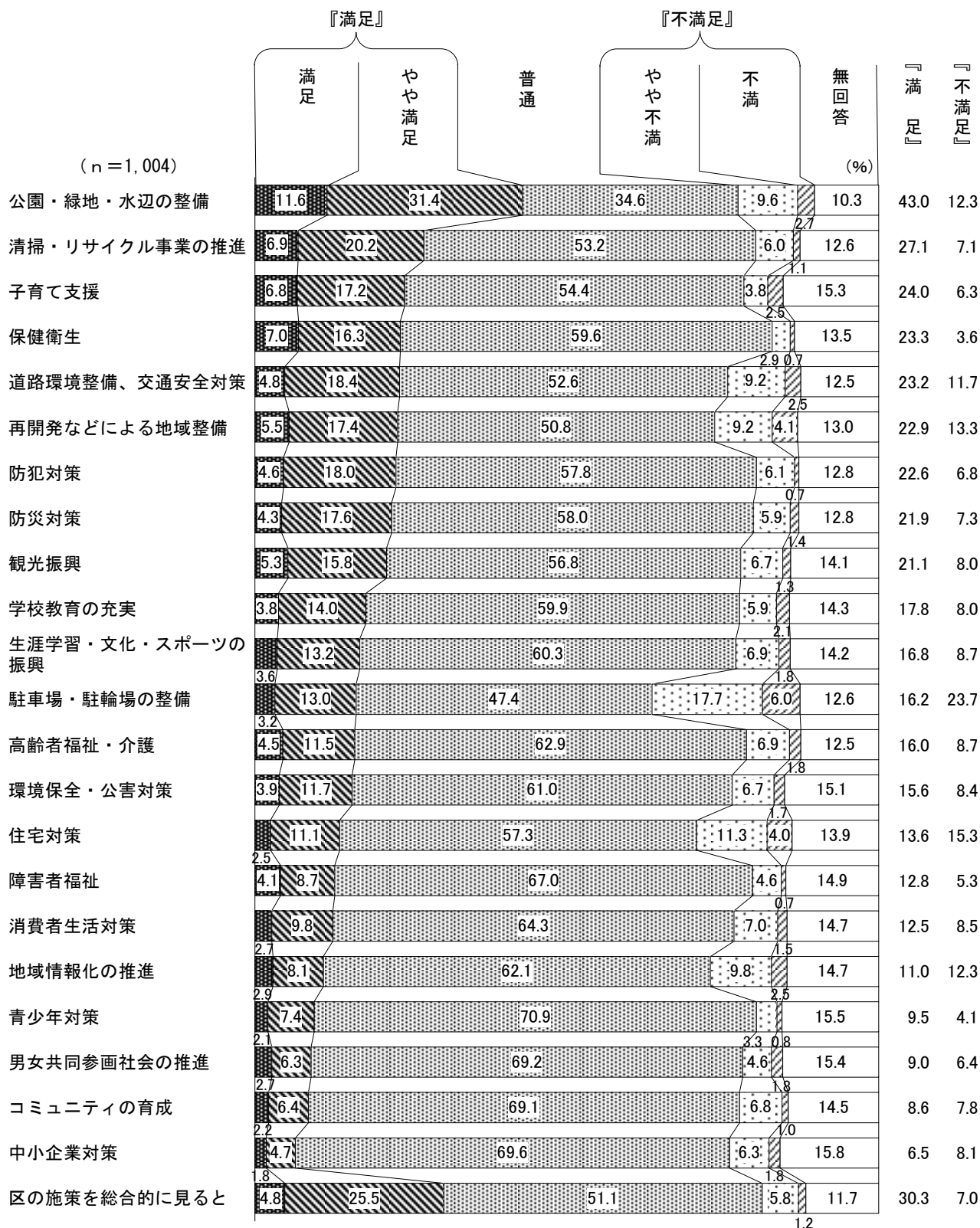
◇満足度が高いのは「公園・緑地・水辺の整備」、低いのは「駐車場・駐輪場の整備」

◇重要度が高いのは「防災対策」、低いのは「中小企業対策」

	満足度					無回答	重要度 (%)			
	1 満足	2 やや満足	3 普通	4 やや不満	5 不満		1 たいへん重要	2 比較的 重要	3 普通	無回答
問30 あなたは、区の施策についてどの程度満足していますか。また、その施策をどの程度重視していますか。満足度と重要度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)										
n = 1,004										
(1) 子育て支援	6.8	17.2	54.4	3.8	2.5	15.3	49.0	17.6	13.6	19.7
(2) 障害者福祉	4.1	8.7	67.0	4.6	0.7	14.9	32.9	27.7	19.4	20.0
(3) 高齢者福祉・介護	4.5	11.5	62.9	6.9	1.8	12.5	43.2	23.5	15.1	18.1
(4) 保健衛生	7.0	16.3	59.6	2.9	0.7	13.5	31.8	32.0	16.7	19.5
(5) 男女共同参画社会の推進	2.7	6.3	69.2	4.6	1.8	15.4	15.0	28.5	35.6	20.9
(6) 住宅対策	2.5	11.1	57.3	11.3	4.0	13.9	22.1	32.5	25.5	19.9
(7) 公園・緑地・水辺の整備	11.6	31.4	34.6	9.6	2.7	10.3	32.2	32.2	16.9	18.7
(8) 消費者生活対策	2.7	9.8	64.3	7.0	1.5	14.7	16.8	31.8	30.3	21.1
(9) 環境保全・公害対策	3.9	11.7	61.0	6.7	1.7	15.1	26.3	31.2	21.7	20.8
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	6.9	20.2	53.2	6.0	1.1	12.6	24.8	35.1	20.1	20.0
(11) 駐車場・駐輪場の整備	3.2	13.0	47.4	17.7	6.0	12.6	17.1	30.8	31.9	20.2
(12) 道路環境整備、交通安全対策	4.8	18.4	52.6	9.2	2.5	12.5	24.8	32.5	23.0	19.7
(13) 防災対策	4.3	17.6	58.0	5.9	1.4	12.8	46.1	21.9	12.4	19.6
(14) 防犯対策	4.6	18.0	57.8	6.1	0.7	12.8	41.8	24.2	14.5	19.4
(15) 再開発などによる地域整備	5.5	17.4	50.8	9.2	4.1	13.0	20.2	31.7	28.6	19.5
(16) 中小企業対策	1.8	4.7	69.6	6.3	1.8	15.8	12.7	27.8	37.8	21.6
(17) 学校教育の充実	3.8	14.0	59.9	5.9	2.1	14.3	33.7	24.8	21.2	20.3
(18) 青少年対策	2.1	7.4	70.9	3.3	0.8	15.5	19.1	29.4	30.3	21.2
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	3.6	13.2	60.3	6.9	1.8	14.2	16.6	30.2	32.8	20.4
(20) コミュニティの育成	2.2	6.4	69.1	6.8	1.0	14.5	12.8	29.4	37.4	20.4
(21) 観光振興	5.3	15.8	56.8	6.7	1.3	14.1	14.7	31.0	33.9	20.4
(22) 地域情報化の推進 (福祉・医療・生涯学習などさまざまな区民サービス情報のネットワーク化・CATVの整備促進など)	2.9	8.1	62.1	9.8	2.5	14.7	17.5	33.5	27.7	21.3
(23) 区の施策を総合的に見ると	4.8	25.5	51.1	5.8	1.2	11.7				

次のグラフは、「満足」と「やや満足」の合算で、高い順に並べたものである。「公園・緑地・水辺の整備」は、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』(43.0%)が4割を超えて最も高くなっている。一方、「駐車場・駐輪場の整備」は、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満足』(23.7%)が2割を超えて最も高くなっている。(図表16-1-1)

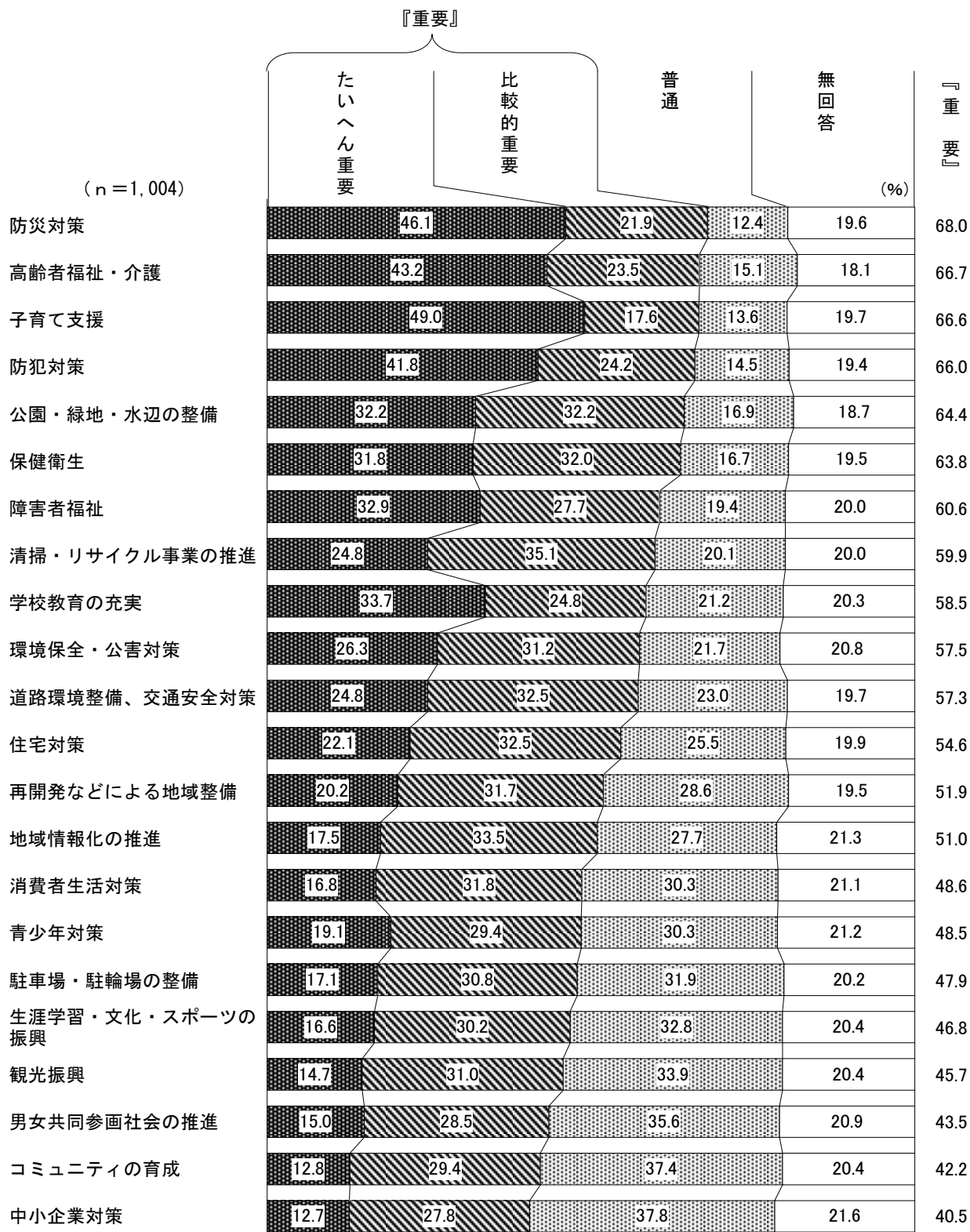
図表16-1-1 区の施策の満足度



次のグラフは、「たいへん重要」と「比較的重要」の合算で高い順に並べたものである。「防災対策」は、「たいへん重要」と「比較的重要」を合わせた『重要』(68.0%)が7割近くで最も高くなっている。また、「中小企業対策」は、「普通」(37.8%)が4割近くで最も高くなっている。

(図表16-1-2)

図表16-1-2 区の施策の重要度



■満足度順位

「満足」と「やや満足」の合計を『満足』とし、「やや不満」と「不満」の合計を『不満足』とした場合の、それぞれの上位5項目は次のようになっている。

『満 足』		『不満足』	
①公園・緑地・水辺の整備	(43.0%)	①駐車場・駐輪場の整備	(23.7%)
②清掃・リサイクル事業の推進	(27.1%)	②住宅対策	(15.3%)
③子育て支援	(24.0%)	③再開発などによる地域整備	(13.3%)
④保健衛生	(23.3%)	④公園・緑地・水辺の整備	(12.3%)
⑤道路環境整備、交通安全対策	(23.2%)	④地域情報化の推進	(12.3%)

■重要度順位

「たいへん重要」と「比較的重要」の合計を『重要』とした場合の、上位5項目と下位5項目は次のようになっている。

上 位		下 位	
①防災対策	(68.0%)	①中小企業対策	(40.5%)
②高齢者福祉・介護	(66.7%)	②コミュニティの育成	(42.2%)
③子育て支援	(66.6%)	③男女共同参画社会の推進	(43.5%)
④防犯対策	(66.0%)	④観光振興	(45.7%)
⑤公園・緑地・水辺の整備	(64.4%)	⑤生涯学習・文化・スポーツの振興	(46.8%)

満足度・重要度の比較をより明確にするために、加重平均値を算出した。

$$\text{満足度評価点} = (\text{「満足」の回答者数} \times 10 \text{点} + \text{「やや満足」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \times 0 \text{点} + \text{「やや不満」の回答者数} \times -5 \text{点} + \text{「不満」の回答者数} \times -10 \text{点}) \div (\text{回答者数} - \text{無回答者数})$$

$$\text{重要度評価点} = (\text{「たいへん重要」の回答者数} \times 10 \text{点} + \text{「比較的重要」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \times 0 \text{点}) \div (\text{回答者数} - \text{無回答者数})$$

この計算方法では、満足度の場合の評価点は、+10.00点～-10.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、+10.00点に近くなるほど満足度は高くなり、逆に-10.00点に近くなるほど不満足度が高くなる。一方、重要度は、+10.00点～0.00点の間に分布することになる。

以上の算出方法による評価点の上位5項目、下位5項目は次のようになっている。

【満足度】

上 位		下 位	
①公園・緑地・水辺の整備	(2.20)	①駐車場・駐輪場の整備	(-0.59)
②保健衛生	(1.50)	②住宅対策	(-0.19)
③清掃・リサイクル事業の推進	(1.48)	③中小企業対策	(-0.09)
④子育て支援	(1.30)	④地域情報化の推進	(-0.05)
⑤防犯対策	(1.13)	⑤コミュニティの育成	(0.12)

【重要度】

上 位		下 位	
①子育て支援	(7.20)	①中小企業対策	(3.40)
②防災対策	(7.10)	②コミュニティの育成	(3.46)
③高齢者福祉・介護	(6.72)	③男女共同参画社会の推進	(3.70)
④防犯対策	(6.69)	④観光振興	(3.80)
⑤公園・緑地・水辺の整備	(5.94)	⑤生涯学習・文化・スポーツの振興	(3.99)

居住地域別に満足度をみると、京橋地域では、「公園・緑地・水辺の整備」(2.58)、「保健衛生」(1.54)が比較的高くなっている。また、「駐車場・駐輪場の整備」(-0.76)、「住宅対策」(-0.39)が比較的低くなっている。

日本橋地域では、「保健衛生」(1.65)、「公園・緑地・水辺の整備」(1.63)が比較的高くなっている。また、「駐車場・駐輪場の整備」(-0.82)、「住宅対策」(-0.23)が比較的低くなっている。

月島地域では、「公園・緑地・水辺の整備」(2.42)、「子育て支援」(1.51)、「清掃・リサイクル事業の推進」(1.51)が比較的高くなっている。また、「駐車場・駐輪場の整備」(-0.33)、「地域情報化の推進」(-0.11)が比較的低くなっている。

居住地域別に重要度をみると、「子育て支援」は京橋地域と月島地域でともに第1位、日本橋地域で第2位となっている。「防災対策」は日本橋地域で第1位、月島地域で第2位となっている。「高齢者福祉・介護」は京橋地域で第2位となっている。(図表16-1-3)

図表16-1-3 区の施策の満足度評価点と重要度評価点一居住地域別

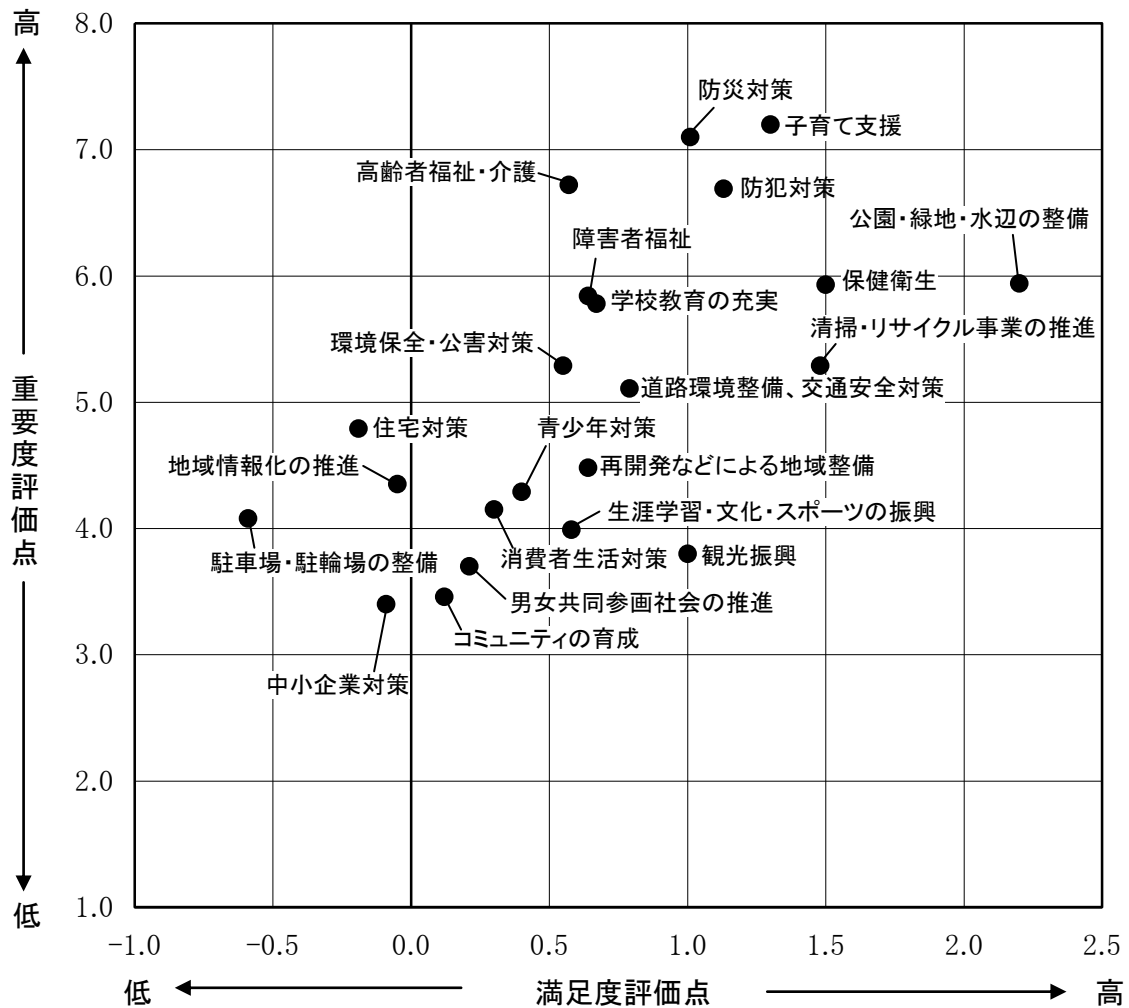
項目	満足度				重要度			
	全体	京橋地域	日本橋地域	月島地域	全体	京橋地域	日本橋地域	月島地域
(1) 子育て支援	1.30	1.19	1.12	1.51	7.20	7.37	6.72	7.49
(2) 障害者福祉	0.64	0.73	0.72	0.53	5.84	5.80	5.72	5.96
(3) 高齢者福祉・介護	0.57	0.65	0.51	0.56	6.72	6.73	6.54	6.84
(4) 保健衛生	1.50	1.54	1.65	1.37	5.93	5.85	5.85	6.04
(5) 男女共同参画社会の推進	0.21	0.30	0.20	0.16	3.70	3.57	3.70	3.79
(6) 住宅対策	-0.19	-0.39	-0.23	-0.04	4.79	4.76	4.56	4.97
(7) 公園・緑地・水辺の整備	2.20	2.58	1.63	2.42	5.94	5.98	5.90	5.95
(8) 消費者生活対策	0.30	0.30	0.25	0.34	4.15	4.13	3.93	4.32
(9) 環境保全・公害対策	0.55	0.18	0.43	0.83	5.29	5.29	5.31	5.28
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	1.48	1.23	1.61	1.51	5.29	5.34	5.17	5.36
(11) 駐車場・駐輪場の整備	-0.59	-0.76	-0.82	-0.33	4.08	4.12	3.87	4.19
(12) 道路環境整備、交通安全対策	0.79	0.37	0.67	1.11	5.11	4.92	4.65	5.55
(13) 防災対策	1.01	0.81	0.71	1.33	7.10	6.59	7.05	7.41
(14) 防犯対策	1.13	0.83	1.18	1.25	6.69	6.28	6.64	6.95
(15) 再開発などによる地域整備	0.64	0.26	1.01	0.58	4.48	4.06	3.93	5.14
(16) 中小企業対策	-0.09	-0.37	-0.04	0.03	3.40	3.95	3.44	3.07
(17) 学校教育の充実	0.67	0.63	0.74	0.66	5.78	5.85	5.42	6.04
(18) 青少年対策	0.40	0.40	0.34	0.45	4.29	4.36	3.91	4.56
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	0.58	0.70	0.55	0.55	3.99	4.23	3.85	3.96
(20) コミュニティの育成	0.12	-0.10	0.16	0.20	3.46	3.68	3.50	3.31
(21) 観光振興	1.00	0.71	1.44	0.82	3.80	3.48	4.14	3.72
(22) 地域情報化の推進	-0.05	-0.32	0.21	-0.11	4.35	4.39	4.37	4.33

次の図表は、加重平均値による満足度評価と重要度評価を相関させた散布図である。横軸が満足度評価点、縦軸が重要度評価点になっている。

右に位置するほど満足度が高く、上に位置するほど重要度が高いといえる。満足度評価点が低く、重要度評価点が高い領域（左上方）にある項目が、住民ニーズの高いものと考えられる。

(図表16-1-4)

図表16-1-4 区の施策の満足度評価点と重要度評価点の相関



(2) 区の施策への要望

◇「子育て支援」と「高齢者福祉・介護」がともに3割を超える

問31 問30の施策の中で、あなたが力を入れてほしいものは何ですか。1位から3位までを選んで番号を記入してください。(1～22までの番号)

	(%)			
	第1位	第2位	第3位	全体
n = 1,004				
(1) 子育て支援	21.9	6.5	4.6	33.0
(2) 障害者福祉	1.9	3.6	2.6	8.1
(3) 高齢者福祉・介護	16.4	9.0	5.8	31.2
(4) 保健衛生	2.4	4.0	3.8	10.2
(5) 男女共同参画社会の推進	1.3	1.7	1.1	4.1
(6) 住宅対策	4.6	4.7	3.0	12.3
(7) 公園・緑地・水辺の整備	5.4	9.7	9.0	24.0
(8) 消費者生活対策	1.7	2.3	2.7	6.7
(9) 環境保全・公害対策	2.4	3.5	3.1	9.0
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	1.3	2.3	3.7	7.3
(11) 駐車場・駐輪場の整備	1.9	3.5	2.7	8.1
(12) 道路環境整備、交通安全対策	1.3	2.6	2.9	6.8
(13) 防災対策	9.0	10.5	8.8	28.2
(14) 防犯対策	5.1	7.0	8.1	20.1
(15) 再開発などによる地域整備	2.5	3.6	3.8	9.9
(16) 中小企業対策	0.9	1.7	2.3	4.9
(17) 学校教育の充実	3.7	5.1	5.0	13.7
(18) 青少年対策	0.3	0.3	0.7	1.3
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1.2	2.0	3.8	7.0
(20) コミュニティの育成	0.3	1.2	2.5	4.0
(21) 観光振興	0.7	1.1	3.3	5.1
(22) 地域情報化の推進 (福祉・医療・生涯学習などさまざまな区民サービス 情報のネットワーク化・CATVの整備促進など)	1.8	1.3	2.3	5.4
(無回答)	12.2	13.1	14.7	12.2

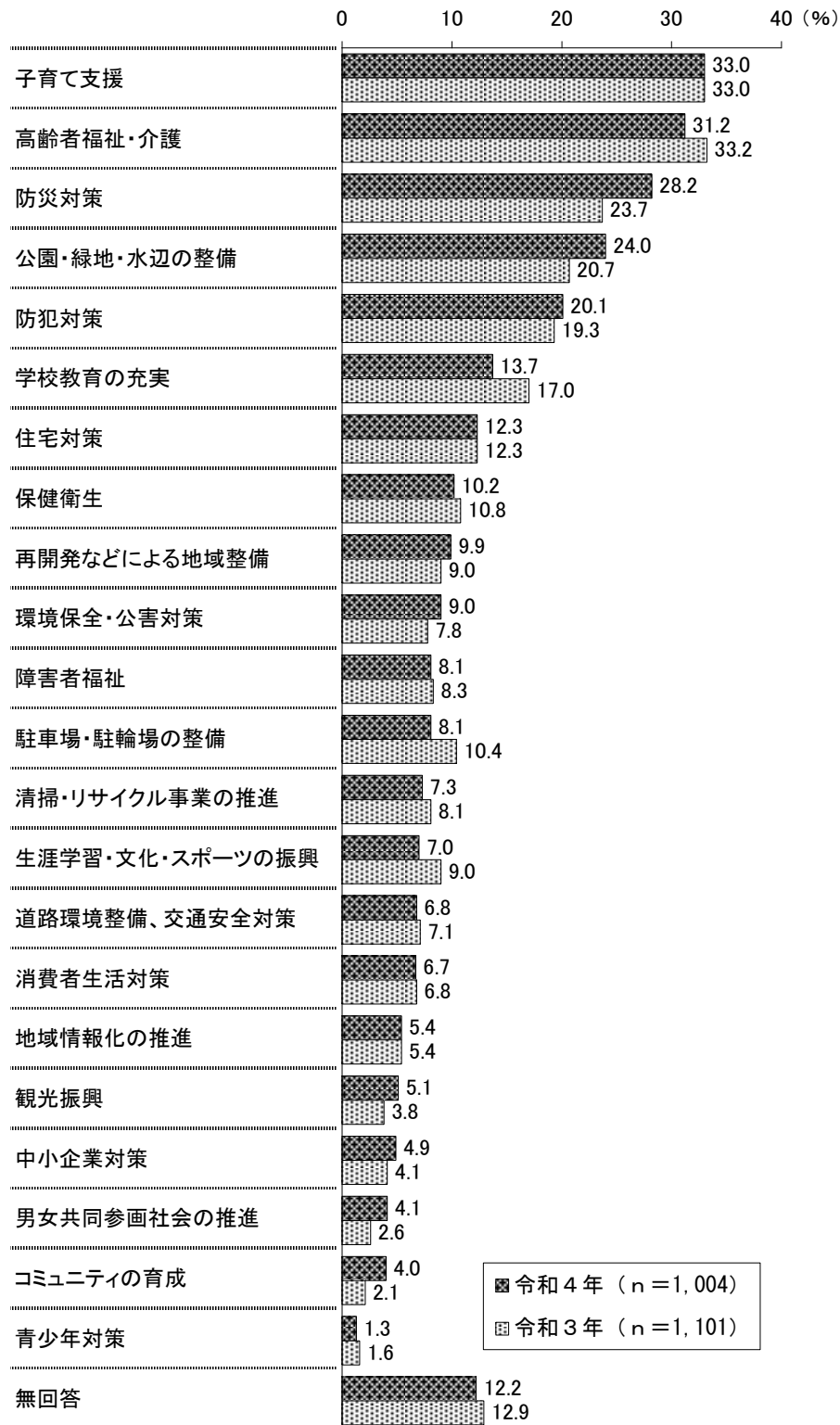
* 全体の無回答の割合は、第1位の割合とした。

区の施策への要望としては、「子育て支援」(33.0%)と「高齢者福祉・介護」(31.2%)がともに3割を超えて高くなっている。次いで、「防災対策」(28.2%)、「公園・緑地・水辺の整備」(24.0%)、「防犯対策」(20.1%)、「学校教育の充実」(13.7%)などとなっている。

昨年の調査結果と比較すると、「防災対策」は4.5ポイント、「公園・緑地・水辺の整備」は3.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「学校教育の充実」は3.3ポイント減少している。

(図表16-2-1)

図表16-2-1 区の施策への要望（複数回答）



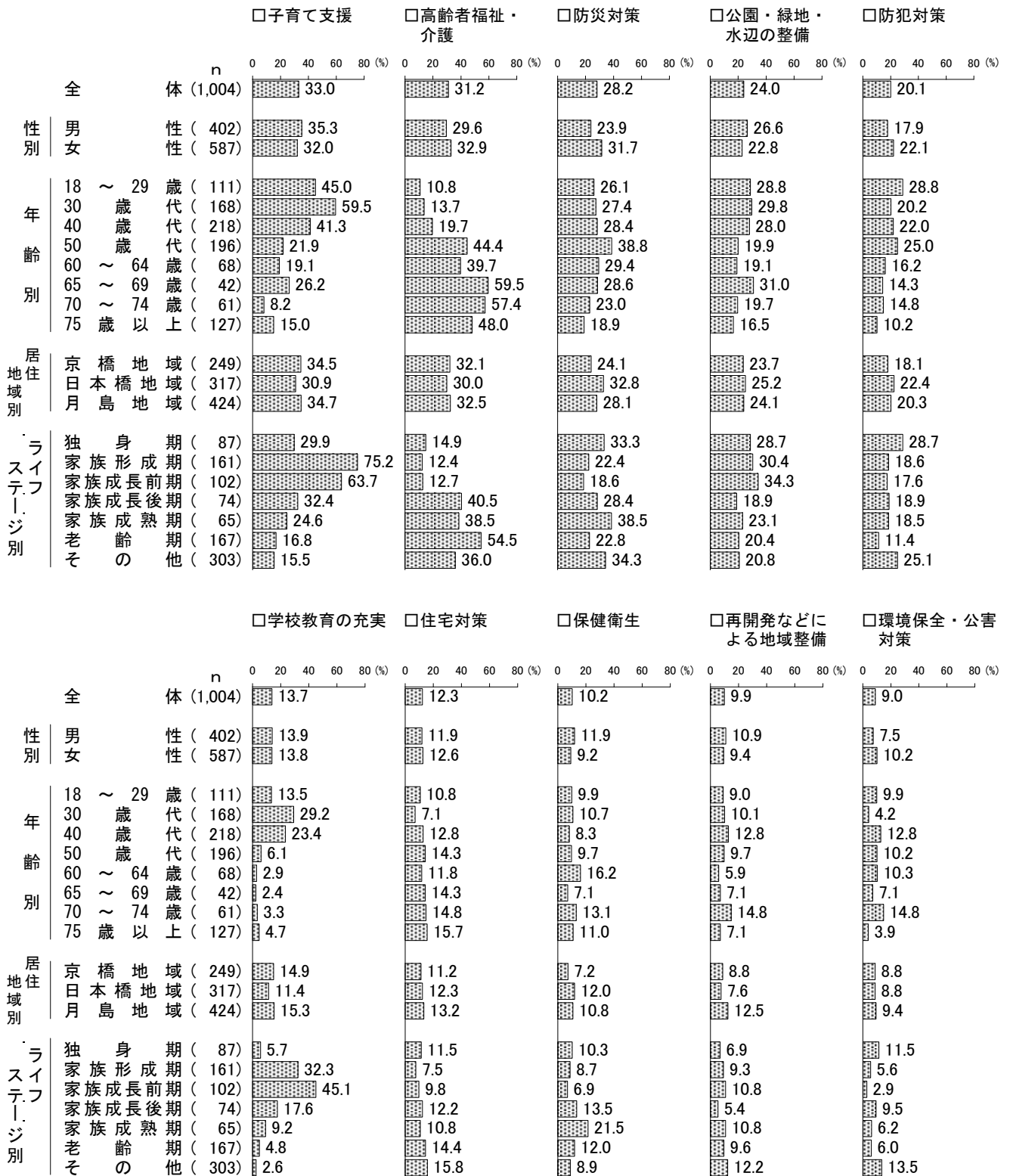
性別でみると、女性の方が男性よりも「防災対策」で7.8ポイント、「防犯対策」で4.2ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性の方が女性よりも「公園・緑地・水辺の整備」で3.8ポイント、「子育て支援」で3.3ポイント、それぞれ高くなっている。

年齢別でみると、「子育て支援」は30歳代で6割と高くなっている。「高齢者福祉・介護」は65～69歳と70～74歳で5割台と高くなっている。「防災対策」は50歳代で4割近くと高くなっている。

居住地域別でみると、「子育て支援」は月島地域と京橋地域で3割台半ばと高くなっている。「防災対策」は日本橋地域で3割を超えて高くなっている。

ライフステージ別でみると、「子育て支援」は家族形成期で7割台半ば、家族成長前期で6割を超えて高くなっている。「高齢者福祉・介護」は老齢期で5割台半ばと高くなっている。「防災対策」は家族成熟期で4割近くと高くなっている。「学校教育の充実」は家族成長前期で4割台半ばと高くなっている。(図表16-2-2)

図表 16-2-2 区の施策への要望—性別・年齢別・居住地域別・ライフステージ別（上位 10 項目）



上位5項目にあげられた施策を性別でみると、「子育て支援」は男性で第1位となっており、「高齢者福祉・介護」は女性で第1位となっている。

年齢別でみると、「子育て支援」は40歳代以下の年代で第1位となっており、「高齢者福祉・介護」は50歳代以上の年代で第1位となっている。

居住地域別でみると、「子育て支援」は京橋地域と月島地域で第1位、日本橋地域で第2位となっている。「防災対策」は日本橋地域で第1位となっている。

ライフステージ別でみると、「防災対策」は独身期と家族成熟期で同率を含め第1位となっている。「子育て支援」は家族形成期と家族成長前期で第1位となっている。「高齢者福祉・介護」は家族成長後期と家族成熟期、老齢期、その他で同率を含め第1位となっている。(図表16-2-3)

図表 16-2-3 区の施策への要望—性別・年齢別・居住地域別・ライフステージ別(上位5項目)

(%)

属性		順位	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体			1,004	子育て支援 33.0	高齢者福祉・介護 31.2	防災対策 28.2	公園・緑地・水辺の整備 24.0	防犯対策 20.1
性 別	男 性		402	子育て支援 35.3	高齢者福祉・介護 29.6	公園・緑地・水辺の整備 26.6	防災対策 23.9	防犯対策 17.9
	女 性		587	高齢者福祉・介護 32.9	子育て支援 32.0	防災対策 31.7	公園・緑地・水辺の整備 22.8	防犯対策 22.1
年 齢 別	18~29歳		111	子育て支援 45.0	公園・緑地・水辺の整備/防犯対策 28.8		防災対策 26.1	学校教育の充実 13.5
	30歳代		168	子育て支援 59.5	公園・緑地・水辺の整備 29.8	学校教育の充実 29.2	防災対策 27.4	防犯対策 20.2
	40歳代		218	子育て支援 41.3	防災対策 28.4	公園・緑地・水辺の整備 28.0	学校教育の充実 23.4	防犯対策 22.0
	50歳代		196	高齢者福祉・介護 44.4	防災対策 38.8	防犯対策 25.0	子育て支援 21.9	公園・緑地・水辺の整備 19.9
	60~64歳		68	高齢者福祉・介護 39.7	防災対策 29.4	子育て支援/公園・緑地・水辺の整備 19.1		保健衛生/ 防犯対策 16.2
	65~69歳		42	高齢者福祉・介護 59.5	公園・緑地・水辺の整備 31.0	防災対策 28.6	子育て支援 26.2	障害者福祉/住宅対策/ 防犯対策 14.3
	70~74歳		61	高齢者福祉・介護 57.4	防災対策 23.0	公園・緑地・水辺の整備 19.7	住宅対策/環境保全・公害対策/防犯対策/ 再開発などによる地域整備 14.8	
	75歳以上		127	高齢者福祉・介護 48.0	防災対策 18.9	公園・緑地・水辺の整備 16.5	住宅対策 15.7	子育て支援 15.0
居 住 地 域 別	京橋地域		249	子育て支援 34.5	高齢者福祉・介護 32.1	防災対策 24.1	公園・緑地・水辺の整備 23.7	防犯対策 18.1
	日本橋地域		317	防災対策 32.8	子育て支援 30.9	高齢者福祉・介護 30.0	公園・緑地・水辺の整備 25.2	防犯対策 22.4
	月島地域		424	子育て支援 34.7	高齢者福祉・介護 32.5	防災対策 28.1	公園・緑地・水辺の整備 24.1	防犯対策 20.3
ラ イ フ ス テ ー ジ 別	独 身 期		87	防災対策 33.3	子育て支援 29.9	公園・緑地・水辺の整備/防犯対策 28.7		高齢者福祉・介護 14.9
	家族形成期		161	子育て支援 75.2	学校教育の充実 32.3	公園・緑地・水辺の整備 30.4	防災対策 22.4	防犯対策 18.6
	家族成長前期		102	子育て支援 63.7	学校教育の充実 45.1	公園・緑地・水辺の整備 34.3	防災対策 18.6	防犯対策 17.6
	家族成長後期		74	高齢者福祉・介護 40.5	子育て支援 32.4	防災対策 28.4	公園・緑地・水辺の整備/防犯対策 18.9	
	家族成熟期		65	高齢者福祉・介護/防災対策 38.5		子育て支援 24.6	公園・緑地・水辺の整備 23.1	保健衛生 21.5
	老 齢 期		167	高齢者福祉・介護 54.5	防災対策 22.8	公園・緑地・水辺の整備 20.4	子育て支援 16.8	住宅対策 14.4
	そ の 他		303	高齢者福祉・介護 36.0	防災対策 34.3	防犯対策 25.1	公園・緑地・水辺の整備 20.8	住宅対策 15.8

V 結果の数表

V 結果の数表

1 定住性

上段：件数
下段：%

問1 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。（〇は1つ）

全 体	3 年未 満	3 ～ 6 年未 満	6 ～ 10 年未 満	10 ～ 15 年未 満	15 ～ 20 年未 満	20 年 以上	生 ま れ て か ら ず つ と	無 回 答
1,004 100.0	186 18.5	139 13.8	131 13.0	127 12.6	97 9.7	228 22.7	88 8.8	8 0.8

問2 あなたは、中央区に対して「わがまち」というような愛着心を感じていますか。（〇は1つ）

全 体	非 常 に 感 じ る	少 し は 感 じ る	あ ま り 感 じ な い	感 じ な い	わ か ら な い	無 回 答
1,004 100.0	439 43.7	419 41.7	75 7.5	23 2.3	41 4.1	7 0.7

問3 あなたは、中央区に今後もずっと住みたいと思っていますか。（〇は1つ）

全 体	住 み 続 け た い	で き れ ば 住 み 続 け た い	で き れ ば 転 出 し た い	転 出 し た い	わ か ら な い	無 回 答
1,004 100.0	560 55.8	295 29.4	23 2.3	6 0.6	114 11.4	6 0.6

2 防災対策

問4 あなたのご家庭では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。（〇はいくつでも）

全 体	食 料 の 備 蓄 （ 1 人 1 日 3 食 分 ）	飲 料 水 の 備 蓄 （ 1 人 1 日 3 分 ）	簡 易 ト イ レ の 備 蓄	家 具 類 の 転 倒 ・ 落 下 止 防 止 や ガ ラ ス 飛 散 防 止 ・ 移 動	消 火 器 ・ 救 急 セ ツ ト な ど の 備 え	バ ー ル や ハ ン マ ー な ど の 救 助 工 具 の 備 え	貴 重 品 を 持 ち 出 す 準 備	風 呂 な ど へ の 水 の た め 置 き	救 命 救 助 の 講 習 会 へ の 参 加	防 災 訓 練 へ の 参 加	町 会 ・ 自 治 会 な ど の 地 域 の 参 加	避 難 方 法 、 避 難 場 所 の 確 認	家 庭 で の 連 絡 方 法 な ど の 話 し 合 い	建 物 の 補 強	そ の 他	特 に な い	無 回 答
1,004 100.0	674 67.1	723 72.0	499 49.7	364 36.3	475 47.3	136 13.5	221 22.0	206 20.5	91 9.1	131 13.0	386 38.4	269 26.8	56 5.6	26 2.6	98 9.8	9 0.9	

(問4で、「1 食料の備蓄」「2 飲料水の備蓄」「3 簡易トイレの備蓄」とお答えの方に)
 問4-1 災害に対する備蓄量

上段：件数
 下段：%

	全 体	1 日 分 以下	2 日 分	3 日 分	4 ～ 6 日 分	1 週 間 分 以上	無 回 答	平均 備 蓄 (日 数)	最小 備 蓄 (日 数)	最大 備 蓄 (日 数)
食料の備蓄	674 100.0	62 9.2	112 16.6	265 39.3	78 11.6	110 16.3	47 7.0	3.92	0.5	30
飲料水の備蓄	723 100.0	80 11.1	111 15.4	221 30.6	99 13.7	156 21.6	56 7.7	4.49	0.3	84
簡易トイレの備蓄	499 100.0	76 15.2	70 14.0	151 30.3	34 6.8	109 21.8	59 11.8	4.85	1.0	50

問5 区では区立の小・中学校などを「防災拠点」とし、食料や毛布などの備蓄や井戸を整備しています。この「防災拠点」は避難所や救護所などの機能を持っています。
 あなたは、ご自分の地域の「防災拠点」を知っていますか。(○は1つ)

全 体	知 っ て い る	わ か ら な い が、 場 所 は	知 ら な い	無 回 答
1,004 100.0	620 61.8	103 10.3	272 27.1	9 0.9

(問5で、「1 知っている」または「2 知っているが、場所はわからない」とお答えの方に)
 問5-1 この防災拠点の災害時の運営を円滑に進めるため、町会・自治会や防災区民組織が防災拠点運営委員会をつくり、防災訓練の実施や日頃から防災について話し合うなど、災害に備えた協力体制をとっていることをあなたは知っていますか。(○は1つ)

全 体	知 っ て い る	は 知 っ て い る が、 活 動 内 容	知 ら な い	無 回 答
723 100.0	167 23.1	245 33.9	288 39.8	23 3.2

問6 大地震などの災害が起こり、自宅が火災や倒壊などにより居住できず防災拠点へ避難することになった場合、あなたが特に気がかりなことは何ですか。

上段：件数
下段：%

(○はいくつでも)

全体	水・食料	トイレ	プライバシー	家族・友人・知人などの安否	災害状況・対策などの情報	携帯電話などの充電設備	医療・医薬品	高齢者介護や乳幼児保育	スペースの確保	暑さ寒さ対策	ペットの世話	その他	特にない	わからない	無回答
1,004	614	694	508	544	338	525	408	171	433	468	147	45	12	8	5
100.0	61.2	69.1	50.6	54.2	33.7	52.3	40.6	17.0	43.1	46.6	14.6	4.5	1.2	0.8	0.5

問7 災害時に区内の災害情報を得る手段として、一般のテレビ・ラジオ以外にあなたが有効だと思うものは何ですか。(○はいくつでも)

全体	区のホームページ	防災マップアプリ	ちゅうおう安全・安心メール	インターネット	ツイッターやフェイスブックなどのSNS(ソーシャルネットワーク)	ドS N S (ソーシャルネットワーク)	ワイキングサービス)	防災行政無線(屋外スピーカー)	緊急告知ラジオ	ケーブルテレビ	その他	無回答
1,004	315	233	198	612	425	280	302	30	9	25		
100.0	31.4	23.2	19.7	61.0	42.3	27.9	30.1	3.0	0.9	2.5		

3 健康診査

問8 あなたは、この1年間に健康診査(健康診断)を受けましたか。(○はいくつでも)

全体	区で実施している健康診査を受けた	勤務先(家族の勤務先を含む)で実施する健康診査を受けた	加入している健康保険組合などで実施している健康診査を受けた	個人で人間ドックなどを受けた	学校で実施する健康診査を受けた	その他で受けた	健康診査は受けていない	無回答
1,004	258	479	84	84	20	39	159	3
100.0	25.7	47.7	8.4	8.4	2.0	3.9	15.8	0.3

上段：件数
下段：%

(問8で、「7 健康診査は受けていない」とお答えの方に)

問8-1 あなたが健康診査を受けなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

全 体	勤務先(家族の勤務先を含む)などで実施していない	受診方法がわからない	必要がない	時間がない	面倒である	健康に自信がある	病気で医者にかかっている	検査がいや	病気と診断されるのが怖い	費用がかかる	その他	無回答
159 100.0	18 11.3	12 7.5	10 6.3	44 27.7	24 15.1	9 5.7	38 23.9	12 7.5	7 4.4	8 5.0	45 28.3	1 0.6

4 高齢者施策

問9 あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいですか。(もっとも近い考え1つに〇)

全 体	主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい	主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい	高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい	特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい	介護付き有料老人ホームに入りたい	その他	わからない	無回答
1,004 100.0	111 11.1	382 38.0	245 24.4	74 7.4	76 7.6	12 1.2	98 9.8	6 0.6

問10 あなたは、住み慣れた地域で暮らし続けるために、これからの高齢者保健福祉施策で、区が力を入れていくべきものは何だと思いませんか。(〇はいくつでも)

全 体	健康づくり・介護予防の充実	就労・社会参加の促進	在宅サービス(医療・介護・福祉サービスなど)の充実	特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設整備・誘致	高齢者向け住宅の整備・誘致	ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援	低所得者への経済的支援	特になし	無回答
1,004 100.0	358 35.7	256 25.5	523 52.1	349 34.8	393 39.1	493 49.1	215 21.4	39 3.9	11 1.1

5 子育て支援

問11 あなたは、子育てに関する悩みや不安をどこに相談しましたか。（〇は2つまで）

全体	配偶者・パートナー	その他の親族	職場の人	隣近所の人、知人、友人	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生	支館、あかちゃん天国など子育て支援施設	子ども家庭支援センター、児童館	（健診時などで）保健所、保健センターの担当者	その他	特に相談しない	子育てを経験していない	無回答
1,004 100.0	323 32.2	169 16.8	21 2.1	88 8.8	37 3.7	16 1.6	17 1.7	24 2.4	18 1.8	94 9.4	426 42.4	77 7.7	

問12 あなたがこれからの区の子育て支援で重要と考えるものを選んでください。（〇は2つまで）
また、さらに充実を図る必要があると考えるものを選んでください。（〇はいくつでも）

重要と考えるもの（〇は2つまで）

全体	整備 保育園・認定こども園・幼稚園などの施設	保育事業所・地域型	援児一時預かり保育、延長保育、病後児保育などの子育て支援	の子ども健やかな成長のための子育て仲間が交流し、情報交換	教育環境の整備	子ども健やかな成長のための	や放課後などにおける児童の遊び	情報の提供や相談サービス	備して育てることができ環境を整	公園の整備など、子どもを安心	お母親と乳幼児などの健康の確保	職業生活と家庭生活との両立の	児童虐待防止対策	経済的な支援	特にな	無回答
1,004 100.0	338 33.7	343 34.2	45 4.5	117 11.7	107 10.7	39 3.9	121 12.1	18 1.8	170 16.9	85 8.5	109 10.9	55 5.5	173 17.2			

さらに充実を図る必要があると考えるもの（〇はいくつでも）

全体	整備 保育園・認定こども園・幼稚園などの施設	保育事業所・地域型	援児一時預かり保育、延長保育、病後児保育などの子育て支援	の子ども健やかな成長のための子育て仲間が交流し、情報交換	教育環境の整備	子ども健やかな成長のための	や放課後などにおける児童の遊び	情報の提供や相談サービス	備して育てることができ環境を整	公園の整備など、子どもを安心	お母親と乳幼児などの健康の確保	職業生活と家庭生活との両立の	児童虐待防止対策	経済的な支援	特にな	無回答
1,004 100.0	256 25.5	296 29.5	120 12.0	218 21.7	242 24.1	141 14.0	279 27.8	117 11.7	260 25.9	179 17.8	189 18.8	54 5.4	307 30.6			

6 防犯対策

問13 あなたの住む地域で不安を感じる具体的犯罪は何ですか。（○は2つまで）

全体	ひったくり	空き巣	強盗	すり・置き引き	自動車（自転車）泥棒・車上ねらい	振り込め詐欺	傷害・暴行	放火	痴漢・強制わいせつ	少年犯罪	子どもの誘拐・連れ去り	暴力団員による犯罪	悪質な客引き	その他	特にない	無回答
1,004 100.0	65 6.5	171 17.0	73 7.3	19 1.9	96 9.6	187 18.6	53 5.3	62 6.2	120 12.0	35 3.5	107 10.7	14 1.4	10 1.0	34 3.4	361 36.0	19 1.9

問14 あなたが防犯のために実行していること、心掛けていることは何ですか。（○はいくつでも）

全体	自主的な防犯パトロールなどの活動に参加している	区報、ホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている	区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙など、防犯に関する情報を得ている	何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている	近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている	日ごろから鍵や窓の使用や、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している	防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を利用している	警備会社などのセキュリティシステムを利用している	防犯カメラなどの防犯設備が導入されている	エンタランスなどにオートロック機能やカメラなどの防犯設備が導入されている	その他	特に何もしていない	無回答
1,004 100.0	19 1.9	233 23.2	128 12.7	178 17.7	134 13.3	146 14.5	574 57.2	23 2.3	206 20.5	16 1.6			

問15 今後、あなたが区に特に力を入れてほしいと考える施策は何ですか。（○は2つまで）

全体	区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信	住まいの防犯設備整備費用の助成	自動通話録音機の無料貸出しなどの振り込め詐欺防止対策	地域の防犯カメラや街路灯設置の推進	防犯対策に関するハンドブックの配布や講座・講演会などの啓発活動	学校や児童館などの子どもの安全対策	通学路や公園などの安全対策	地域の防犯パトロール活動などへの支援	その他	特にない	無回答
1,004 100.0	200 19.9	147 14.6	57 5.7	472 47.0	22 2.2	196 19.5	241 24.0	141 14.0	15 1.5	109 10.9	14 1.4

7 スポーツ

上段：件数
下段：%

問16 あなたがこの1年間に行ったスポーツや運動は何ですか。(〇はいくつでも)

全 体	水泳(水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む)	健康体操など	体操(ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など)	ジョギング、マラソン	ウオーキング、散歩(散策、ペットの散歩などを含む)	ウオーキング、散歩(散策、ペットの散歩などを含む)	マシントレーニング(ランニングマシン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動)	武道(柔道、剣道、空手など)	テニス、ソフトテニス	屋内球技(バレーボール、バドミントン、卓球など)	屋外の球技(野球、ソフトボール、サッカー、フットサルなど)	ゴルフ	ハイキング、キャンプ、登山など	スキー、スノーボード、スケートなど	海水浴(遊水)	シュノーケリング、ダイビング、サーフィン、ヨットなど
1,004 100.0	124 12.4		346 34.5	174 17.3	624 62.2	193 19.2	22 2.2	45 4.5	32 3.2	28 2.8	129 12.8	73 7.3	57 5.7	26 2.6	35 3.5	
釣り	ボーリング	サイクリング	ゲットボード、ゴルフ、スポーツ吹矢など	バレーボール、ペタンク、ターゲット	フリースポーツ(グラウンドゴルフ、キンボール、スポーツ、ソフト)	ダンス(フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、民謡の踊りを含む)	その他	スポーツや運動はしなかった	無回答							
41 4.1	32 3.2	103 10.3		5 0.5	39 3.9	23 2.3	144 14.3	15 1.5								

(問16で、「1 水泳」から「20 その他」のいずれかにお答えの方に)

問16-1 あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(〇は1つ)

全 体	週に3日以上	週に1〜2日程度	月に1〜3日程度	3カ月に1〜2日程度(年)	年に1〜3日程度	無回答
845 100.0	242 28.6	301 35.6	157 18.6	57 6.7	31 3.7	57 6.7

8 地域のコミュニティ活動

問17 新型コロナウイルス感染症が拡大する以前に、あなたが最も力を入れてきたコミュニティ活動は何ですか。（○は1つ）

全 体	町会・自治会活動（回覧板、文書配布、情報発信など）	地域の行事（盆踊り、縁日、もちつきへの参加など）	祭礼（おみこし・山車への参加など）	普及啓発、団体での演奏など	地域の文化・生涯学習活動（伝統文化の提供、技術指導など）	地域のスポーツ活動（体を動かす機会の提供、見回りなど）	防災・防犯活動（防災訓練、交通安全、地域の見回りなど）	福祉活動（子育ての助け、高齢者の見守りへの協力など）	環境美化活動（まちかどクリンデーへの参加、花壇・公園の清掃など）	子どもに関する活動（青少年対策地区委員、PTA、読み聞かせなど）	その他	特 に な い	無 回 答
1,004 100.0	46 4.6	99 9.9	46 4.6	18 1.8	14 1.4	7 0.7	5 0.5	10 1.0	37 3.7	8 0.8	693 69.0	21 2.1	

（問17で、「1 町会・自治会活動」から「10 その他」のいずれかにお答えの方に）
問17-1 問17で選択した活動に対してコロナ禍によりどのような影響がありましたか。
（もっとも近い考え1つに○）

全 体	従来どおり活動した	従来どおりには活動できなかつた	工夫して活動した	その他	特に影響はない	無 回 答
290 100.0	10 3.4	200 69.0	38 13.1	8 2.8	9 3.1	25 8.6

問18 これまでのコロナ禍を踏まえ、あなたがコミュニティに求めるものは何ですか。
（○はいくつでも）

全 体	顔を合わせたら挨拶できる近所付き合い	地域イベントへの参加を通じた地域の方との交流	町会・自治会活動を通じた地域の方との交流	NPOやボランティア団体による地域課題の解決	インターネットやSNSを活用した情報発信やオンライン上での交流	自分の知識・技術を向上させることができる取り組み	災害時の安否確認や共助	高齢者に対する訪問や声掛け	公園や道路環境の維持・向上を通じた地域の方との交流	子どもの成長を助け合える協力関係	その他	特 に な い	無 回 答
1,004 100.0	390 38.8	196 19.5	140 13.9	50 5.0	138 13.7	139 13.8	312 31.1	188 18.7	96 9.6	202 20.1	12 1.2	216 21.5	19 1.9

9 築地魚河岸

問19 あなたは、「築地魚河岸」に行ったことがありますか。（〇は1つ）

全体	よく行っている	行ったことがある	知っているが、行ったことがない	知らない「築地魚河岸」を知	無回答
1,004	160	456	239	135	14
100.0	15.9	45.4	23.8	13.4	1.4

（問19で、「1 よく行っている」または「2 行ったことがある」とお答えの方に）

問19-1 あなたが「築地魚河岸」に行った目的は何ですか。（〇はいくつでも）

全体	1階の店舗で買い物をするため	魚河岸食堂で食事をする	イベントに参加するため	その他	無回答
616	421	200	13	41	76
100.0	68.3	32.5	2.1	6.7	12.3

（問19で、「1 よく行っている」「2 行ったことがある」「3 知っているが、行ったことがない」とお答えの方に）

問19-2 「築地魚河岸」には一般の方が利用できる店舗や食堂などがありますが、その印象やイメージとしてあてはまるものをお答えください。（〇はいくつでも）

全体	1階の店舗について						魚河岸食堂について			その他		無回答	
	プロが厳選した商品が販売されており、安心して買い物ができる	新鮮なものが買える	スーパーでは買えないような珍しいものが買える	どこでも買つていいかわからない	同じようなものを扱う店が多く、近隣のスーパーなどの違いを感じない	一般の人でも気軽に利用できる施設であることを知らない	混雑している（イメージがある）	おいしい料理が食べられる	食堂があることを知らない	混雑している（イメージがある）	いつ、どのかわからないイベントを開催している		築地魚河岸の場所がわからない
855	246	472	276	138	37	65	206	328	95	224	366	34	31
100.0	28.8	55.2	32.3	16.1	4.3	7.6	24.1	38.4	11.1	26.2	42.8	4.0	3.6

10 受動喫煙防止対策

問20 令和2年7月1日に「中央区受動喫煙防止対策の推進に関する条例」が施行されました。あなたは条例で定めた「中央区たばこルール」を知っていますか。（○は1つだけ）

全体	「中央区たばこルール」の内容も知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
1,004 100.0	253 25.2	297 29.6	433 43.1	21 2.1

11 デジタル技術を活用した区民サービス

問21 あなたが、区に進めてほしいと考えるデジタル技術を活用した区民サービスはどれですか。（○はいくつでも）

全体	窓口手続きにおけるキャッシュレス決済	オンライン手続きにおけるキャッシュレス決済	区役所で行かずに最初から最後までオンラインでできる手続きの拡大	マイナンバーカードを利用したオンライン手続きの拡大	スマートフォン等への区民サービスの案内	チャットボットを活用した自動応答サービスの提供	ICTを活用した窓口受付サービス	オンラインでの窓口の混雑状況の配信	区が主催する講座や説明会等のオンライン配信	区が保有するデータのオープンデータ化	その他	特になし	無回答
1,004 100.0	386 38.4	378 37.6	590 58.8	368 36.7	222 22.1	65 6.5	130 12.9	166 16.5	149 14.8	113 11.3	22 2.2	168 16.7	53 5.3

12 広報

上段：件数
下段：%

問22 区の広報紙「区のおしらせ ちゅうおう」は月3回発行しています。あなたは広報紙を読んだことがありますか。(○は1つだけ)

全体	よく読んでいる	たまに読んでいる	読んだことがある	読んだことがない	わからない	無回答
1,004 100.0	260 25.9	298 29.7	178 17.7	219 21.8	45 4.5	4 0.4

(問22で、「1 よく読んでいる」「2 たまに読んでいる」「3 読んだことがある」とお答えの方に)
問22-1 広報紙を何で読んでいますか。(○はいくつでも)

全体	紙媒体(町会・区施設や地下鉄駅などでの配布)	電子媒体(スマートフォンアプリに掲載、スマートフォンで配信)	無回答
736 100.0	693 94.2	64 8.7	12 1.6

問23 あなたは、区のサービスやイベントなどの区政情報をどのように入手していますか。(○はいくつでも)

全体	「区のおしらせ」(紙版、電子版)	わたしの便利帳	区のパンフレットやチラシなどの印刷物	区のホームページ	区の広報掲示板	町会・自治会の掲示板や回覧板など	「ケーブルテレビの区提供番組」	「コミュニティFMラジオ」	区の公式SNS(ツイッタラ、フェイスブック、インスタグラム、ライン)	その他	入手していない	無回答
1,004 100.0	603 60.1	81 8.1	118 11.8	236 23.5	111 11.1	142 14.1	18 1.8	8 0.8	48 4.8	27 2.7	186 18.5	8 0.8

13 環境問題

上段：件数
下段：%

問24 あなたは、環境を守るために、どのような取り組みを行っていますか。（〇はいくつでも）

全 体	節電・節水などの環境配慮活動に努めている	ごみ・資源の分別をしている	ペランダ・壁面などを活用して緑を育てている	食品ロスが発生しないように配慮している	その他	特に取り組んでいない	無回答
1,004 100.0	483 48.1	864 86.1	126 12.5	563 56.1	23 2.3	47 4.7	5 0.5

問25 あなたは、環境を守るために、今後どのような家庭での取り組みが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

全 体	節電・節水などの環境配慮活動を徹底する	環境に配慮した製品の購入やサービスの利用	3R（リデュース・リサイクル・リユース）などへ積極的に取り組む	環境学習や自然体験などへの参加により、環境問題への理解を深める	その他	無回答
1,004 100.0	615 61.3	495 49.3	509 50.7	176 17.5	22 2.2	38 3.8

問26 区内には多くの企業がありますが、あなたは、環境を守るために企業の責任として何に取り組む必要があると思いますか。（〇はいくつでも）

全 体	再生可能エネルギー機器や省エネルギーの導入	建物のZEB（ネット・ゼロ・エネルギービル）化	再生可能エネルギーで発電された電気の積極的な利用	ZEV（ゼロ・エミッション・ビル）などの積極的な導入	削減推進による二酸化炭素排出量の削減	建材などの木質化や屋上緑化などの森林整備の支援などによる環境活動への参加	社員等への環境教育による環境配慮への意識向上	その他	無回答
1,004 100.0	598 59.6	334 33.3	433 43.1	279 27.8	403 40.1	277 27.6	295 29.4	31 3.1	65 6.5

14 公園の魅力向上

上段：件数
下段：%

問27 あなたは、区立公園を利用して満足していることは何ですか。（〇は3つまで）

全 体	子どもの遊ぶ場になっていること	緑や花のある場であること	体を動かす場になっていること	地域の憩いの場になっていること	散歩や休養の場になっていること	特にない	公園を利用していない	無回答
1,004 100.0	406 40.4	514 51.2	158 15.7	173 17.2	438 43.6	33 3.3	195 19.4	18 1.8

問28 あなたは、今後の区立公園のあり方についてどのようにお考えですか。（〇は3つまで）

全 体	子どもの遊び場を拡充してほしい	緑や花を充実してほしい	緑や生き物学習の場を充実してほしい	体を動かす場（運動施設）を充実してほしい	飲食店や売店を設置してほしい	にぎわいのあるイベントを実施してほしい	その他	特にない	無回答
1,004 100.0	385 38.3	547 54.5	177 17.6	280 27.9	141 14.0	160 15.9	52 5.2	127 12.6	23 2.3

15 今後のまちづくり

問29 あなたは、10年後の中央区が「どのようなまち」になっていると良いと思いますか。（〇は4つまで）

全 体	地域で安心して子育てできるまち	充実した教育環境の中で子どもが元気で育つまち	高齢者や障害者が地域で心豊かにいきいきと暮らすまち	ユニバーサルデザインに配慮した人にやさしいまち	多様なコミュニティ（人と人とのつながり）が形成されたまち	デジタル技術が活用され、DXが進んだまち	商工業が発展し、商店街が栄えているまち	イベントが活発に行われるなどにぎわいのあるまち	町会、NPO、ボランティアなどが協働して地域づくりに取り組んでいるまち	自然が大切にされ、豊かな水辺やみどりがあふれるまち	脱炭素化に取り組むなど、環境と共生しているまち	地域が協力して災害対策に取り組んでいるまち	犯罪のない安心して住めるまち	スポーツや文化活動が盛んなまち	その他	無回答
1,004 100.0	407 40.5	318 31.7	436 43.4	141 14.0	171 17.0	207 20.6	212 21.1	110 11.0	74 7.4	415 41.3	110 11.0	141 14.0	502 50.0	86 8.6	17 1.7	20 2.0

16 施策の要望・評価

上段：件数
下段：%

問30 あなたは、区の施策についてどの程度満足していますか。満足度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	全 体	満 足	や や 満 足	普 通	や や 不 満	不 満	無 回 答	評 価 点 (点 数)
(1) 子育て支援	1,004 100.0	68 6.8	173 17.2	546 54.4	38 3.8	25 2.5	154 15.3	1.30
(2) 障害者福祉	1,004 100.0	41 4.1	87 8.7	673 67.0	46 4.6	7 0.7	150 14.9	0.64
(3) 高齢者福祉・介護	1,004 100.0	45 4.5	115 11.5	632 62.9	69 6.9	18 1.8	125 12.5	0.57
(4) 保健衛生	1,004 100.0	70 7.0	164 16.3	598 59.6	29 2.9	7 0.7	136 13.5	1.50
(5) 男女共同参画社会の推進	1,004 100.0	27 2.7	63 6.3	695 69.2	46 4.6	18 1.8	155 15.4	0.21
(6) 住宅対策	1,004 100.0	25 2.5	111 11.1	575 57.3	113 11.3	40 4.0	140 13.9	-0.19
(7) 公園・緑地・水辺の整備	1,004 100.0	116 11.6	315 31.4	347 34.6	96 9.6	27 2.7	103 10.3	2.20
(8) 消費者生活対策	1,004 100.0	27 2.7	98 9.8	646 64.3	70 7.0	15 1.5	148 14.7	0.30
(9) 環境保全・公害対策	1,004 100.0	39 3.9	117 11.7	612 61.0	67 6.7	17 1.7	152 15.1	0.55
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	1,004 100.0	69 6.9	203 20.2	534 53.2	60 6.0	11 1.1	127 12.6	1.48
(11) 駐車場・駐輪場の整備	1,004 100.0	32 3.2	131 13.0	476 47.4	178 17.7	60 6.0	127 12.6	-0.59
(12) 道路環境整備、交通安全対策	1,004 100.0	48 4.8	185 18.4	528 52.6	92 9.2	25 2.5	126 12.5	0.79
(13) 防災対策	1,004 100.0	43 4.3	177 17.6	582 58.0	59 5.9	14 1.4	129 12.8	1.01
(14) 防犯対策	1,004 100.0	46 4.6	181 18.0	580 57.8	61 6.1	7 0.7	129 12.8	1.13
(15) 再開発などによる地域整備	1,004 100.0	55 5.5	175 17.4	510 50.8	92 9.2	41 4.1	131 13.0	0.64
(16) 中小企業対策	1,004 100.0	18 1.8	47 4.7	699 69.6	63 6.3	18 1.8	159 15.8	-0.09
(17) 学校教育の充実	1,004 100.0	38 3.8	141 14.0	601 59.9	59 5.9	21 2.1	144 14.3	0.67
(18) 青少年対策	1,004 100.0	21 2.1	74 7.4	712 70.9	33 3.3	8 0.8	156 15.5	0.40
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1,004 100.0	36 3.6	133 13.2	605 60.3	69 6.9	18 1.8	143 14.2	0.58
(20) コミュニティの育成	1,004 100.0	22 2.2	64 6.4	694 69.1	68 6.8	10 1.0	146 14.5	0.12
(21) 観光振興	1,004 100.0	53 5.3	159 15.8	570 56.8	67 6.7	13 1.3	142 14.1	1.00
(22) 地域情報化の推進(福祉・医療・生涯学習などさまざまな 区民サービス情報のネットワーク化・CATVの整備促進など)	1,004 100.0	29 2.9	81 8.1	623 62.1	98 9.8	25 2.5	148 14.7	-0.05
(23) 区の施策を総合的に見ると	1,004 100.0	48 4.8	256 25.5	513 51.1	58 5.8	12 1.2	117 11.7	1.52

満足度の比較をより明確にするために、加重平均値を算出した。

満足度評価点 = (「満足」の回答者数×10点 + 「やや満足」の回答者数×5点 + 「普通」の回答者数×0点
+ 「やや不満」の回答者数×-5点 + 「不満」の回答者数×-10点) ÷ (回答者数 - 無回答者数)

この計算方法では、満足度の場合の評価点は、+10.00点～-10.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、
+10.00点に近くなるほど満足度は高くなり、逆に-10.00点に近くなるほど不満足度が高くなる。

問30 あなたは、区の施策についてどの程度重視していますか。重要度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

上段：件数
下段：%

	全 体	た い へ ん 重 要	比 較 的 重 要	普 通	無 回 答	評 価 点 (点 数)
(1) 子育て支援	1,004 100.0	492 49.0	177 17.6	137 13.6	198 19.7	7.20
(2) 障害者福祉	1,004 100.0	330 32.9	278 27.7	195 19.4	201 20.0	5.84
(3) 高齢者福祉・介護	1,004 100.0	434 43.2	236 23.5	152 15.1	182 18.1	6.72
(4) 保健衛生	1,004 100.0	319 31.8	321 32.0	168 16.7	196 19.5	5.93
(5) 男女共同参画社会の推進	1,004 100.0	151 15.0	286 28.5	357 35.6	210 20.9	3.70
(6) 住宅対策	1,004 100.0	222 22.1	326 32.5	256 25.5	200 19.9	4.79
(7) 公園・緑地・水辺の整備	1,004 100.0	323 32.2	323 32.2	170 16.9	188 18.7	5.94
(8) 消費者生活対策	1,004 100.0	169 16.8	319 31.8	304 30.3	212 21.1	4.15
(9) 環境保全・公害対策	1,004 100.0	264 26.3	313 31.2	218 21.7	209 20.8	5.29
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	1,004 100.0	249 24.8	352 35.1	202 20.1	201 20.0	5.29
(11) 駐車場・駐輪場の整備	1,004 100.0	172 17.1	309 30.8	320 31.9	203 20.2	4.08
(12) 道路環境整備、交通安全対策	1,004 100.0	249 24.8	326 32.5	231 23.0	198 19.7	5.11
(13) 防災対策	1,004 100.0	463 46.1	220 21.9	124 12.4	197 19.6	7.10
(14) 防犯対策	1,004 100.0	420 41.8	243 24.2	146 14.5	195 19.4	6.69
(15) 再開発などによる地域整備	1,004 100.0	203 20.2	318 31.7	287 28.6	196 19.5	4.48
(16) 中小企業対策	1,004 100.0	128 12.7	279 27.8	380 37.8	217 21.6	3.40
(17) 学校教育の充実	1,004 100.0	338 33.7	249 24.8	213 21.2	204 20.3	5.78
(18) 青少年対策	1,004 100.0	192 19.1	295 29.4	304 30.3	213 21.2	4.29
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1,004 100.0	167 16.6	303 30.2	329 32.8	205 20.4	3.99
(20) コミュニティの育成	1,004 100.0	129 12.8	295 29.4	375 37.4	205 20.4	3.46
(21) 観光振興	1,004 100.0	148 14.7	311 31.0	340 33.9	205 20.4	3.80
(22) 地域情報化の推進(福祉・医療・生涯学習などさまざまな 区民サービス情報のネットワーク化・CATVの整備促進など)	1,004 100.0	176 17.5	336 33.5	278 27.7	214 21.3	4.35

重要度の比較をより明確にするために、加重平均値を算出した。

重要度評価点 = (「たいへん重要」の回答者数×10点 + 「比較的重要」の回答者数×5点
+ 「普通」の回答者数×0点) ÷ (回答者数 - 無回答者数)

この計算方法では、重要度の場合の評価点は、+10.00点～0点の間に分布し、+10.00点に近くなるほど重要度が高くなる。

問31 問30の施策の中で、あなたが力を入れてほしいものは何ですか。1位から3位までを選んで番号を記入してください。(1～22までの番号)

上段：件数
下段：%

	全 体	(1) 子育て支 援	(2) 障害者福 祉	(3) 高齢者福 祉・介 護	(4) 保健衛生	(5) 男女共同 参画社会 の推進	(6) 住宅対策	(7) 公園・緑 地・水辺 の整備	(8) 消費者生 活対策	(9) 環境保全 ・公害対策	(10) 清掃・リ サイクル 事業の推 進	(11) 駐車場・ 駐輪場の 整備	(12) 道路環境 整備、交 通安全対 策	(13) 防災対策
第1位～第 3位の累計	1,004 100.0	331 33.0	81 8.1	313 31.2	102 10.2	41 4.1	123 12.3	241 24.0	67 6.7	90 9.0	73 7.3	81 8.1	68 6.8	283 28.2
第1位	1,004 100.0	220 21.9	19 1.9	165 16.4	24 2.4	13 1.3	46 4.6	54 5.4	17 1.7	24 2.4	13 1.3	19 1.9	13 1.3	90 9.0
第2位	1,004 100.0	65 6.5	36 3.6	90 9.0	40 4.0	17 1.7	47 4.7	97 9.7	23 2.3	35 3.5	23 2.3	35 3.5	26 2.6	105 10.5
第3位	1,004 100.0	46 4.6	26 2.6	58 5.8	38 3.8	11 1.1	30 3.0	90 9.0	27 2.7	31 3.1	37 3.7	27 2.7	29 2.9	88 8.8
	(14) 防犯対策	(15) 再開 発など による 地域 整備	(16) 中小 企業 対策	(17) 学校 教育 の充 実	(18) 青少 年対 策	(19) 生涯 学習 ・文 化・ スポ ーツ の振 興	(20) コミ ュニ テイ の育 成	(21) 観光 振興	(22) Tビ Vの 整備 促進 など (地域 情報 化の 推進 (福 祉・ 医療 ・サ ー ビス の整 備の 促進 など ま ざま まな く化 ・C SA A)	無 回 答				
第1位～第 3位の累計	202 20.1	99 9.9	49 4.9	138 13.7	13 1.3	70 7.0	40 4.0	51 5.1		54 5.4	122 12.2			
第1位	51 5.1	25 2.5	9 0.9	37 3.7	3 0.3	12 1.2	3 0.3	7 0.7		18 1.8	122 12.2			
第2位	70 7.0	36 3.6	17 1.7	51 5.1	3 0.3	20 2.0	12 1.2	11 1.1		13 1.3	132 13.1			
第3位	81 8.1	38 3.8	23 2.3	50 5.0	7 0.7	38 3.8	25 2.5	33 3.3		23 2.3	148 14.7			

*第1位～第3位の累計の無回答は第1位の値とした

17 フェイスシート

上段：件数
下段：%

F 1 性別（○は1つ）

全 体	男 性	女 性	無 回 答
1,004 100.0	402 40.0	587 58.5	15 1.5

F 2 年齢（○は1つ）

全 体	1 8 ～ 2 9 歳	3 0 歳 代	4 0 歳 代	5 0 歳 代	6 0 ～ 6 4 歳	6 5 ～ 6 9 歳	7 0 ～ 7 4 歳	7 5 歳 以上	無 回 答
1,004 100.0	111 11.1	168 16.7	218 21.7	196 19.5	68 6.8	42 4.2	61 6.1	127 12.6	13 1.3

性／年齢別

全 体	男 性								女 性							性 別 ま た は 年 齢 無 回 答	
	1 8 ～ 2 9 歳	3 0 歳 代	4 0 歳 代	5 0 歳 代	6 0 ～ 6 4 歳	6 5 ～ 6 9 歳	7 0 ～ 7 4 歳	7 5 歳 以上	1 8 ～ 2 9 歳	3 0 歳 代	4 0 歳 代	5 0 歳 代	6 0 ～ 6 4 歳	6 5 ～ 6 9 歳	7 0 ～ 7 4 歳		7 5 歳 以上
1,004 100.0	42 4.2	70 7.0	88 8.8	69 6.9	33 3.3	21 2.1	25 2.5	54 5.4	69 6.9	97 9.7	129 12.8	127 12.6	35 3.5	21 2.1	36 3.6	73 7.3	15 1.5

F 3 あなたの職業は何ですか。（○は1つ）

全 体	自 営 業 （ 家 族 従 業 を 含 む ）	勤 め 人	ア ル バ イ ト ・ パ ー ト タ イ マ ー	無 職 （ 主 婦 ・ 主 夫 ）	無 職 （ 学 生 ）	無 職 （ そ の 他 ）	無 回 答
1,004 100.0	159 15.8	506 50.4	80 8.0	139 13.8	19 1.9	86 8.6	15 1.5

上段：件数
下段：%

F 4 あなたのお住まいの地域は次のどれにあたりますか。（〇は1つ）

全 体	京 橋 地 域	日 本 橋 地 域	月 島 地 域	無 回 答
1,004 100.0	249 24.8	317 31.6	424 42.2	14 1.4

F 5 現在一緒に暮らしているご家族の方は、あなたを含めて何人ですか。（〇は1つ）

全 体	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人	7 人	8 人	具 体 的 人 数 欄 無 回 答 し て	「6 人 以 上」 に 回 答 し て	無 回 答
1,004 100.0	253 25.2	350 34.9	212 21.1	133 13.2	33 3.3	4 0.4	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	16 1.6

F 6 あなたのお住まいは、次のどれにあたりますか。（〇は1つ）

全 体	持 家		借 家						そ の 他	無 回 答
	一 戸 建	分 譲 マ ン シ ヨ ン	一 戸 建	社、公 共 住 宅 （区立、 都 市 再 生 機 構 （旧公 団） ） 公	民 間 木 造 ア パ ー ト	民 間 鉄 筋 ア パ ー ト、 マ ン シ ヨ ン	社 宅、 官 舎、 寮	間 借 り、 住 込 み		
1,004 100.0	90 9.0	473 47.1	1 0.1	68 6.8	1 0.1	331 33.0	26 2.6	3 0.3	7 0.7	4 0.4

(F6で、「2 分譲マンション」「4 公共住宅」「5 民間木造アパート」「6 民間鉄筋アパート、マンション」「7 社宅、官舎、寮」とお答えの方に)

上段：件数
下段：%

F6-1 お住まいの階層

	全 体	1 階	2 階	3 階	4 階	5 階	6 階	7 階	8 階	9 階	1 0 階 以上	無 回 答	1 ~ 5 階	6 ~ 9 階	1 0 階 以上
分譲マンション	473 100.0	8 1.7	19 4.0	20 4.2	34 7.2	16 3.4	26 5.5	35 7.4	29 6.1	28 5.9	190 40.2	68 14.4	97 20.5	118 24.9	190 40.2
公共住宅	68 100.0	1 1.5	2 2.9	1 1.5	4 5.9	4 5.9	5 7.4	3 4.4	5 7.4	1 1.5	18 26.5	24 35.3	12 17.6	14 20.6	18 26.5
民間木造アパート	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0	-	-
民間鉄筋アパート、 マンション	331 100.0	5 1.5	27 8.2	24 7.3	24 7.3	24 7.3	31 9.4	14 4.2	25 7.6	19 5.7	91 27.5	47 14.2	104 31.4	89 26.9	91 27.5
社宅、官舎、寮	26 100.0	1 3.8	-	2 7.7	6 23.1	2 7.7	3 11.5	-	2 7.7	1 3.8	3 11.5	6 23.1	11 42.3	6 23.1	3 11.5

F7 あなたの家族構成は、次のどれにあたりますか。(〇は1つ)

全 体	ひとり暮らし	夫婦だけ (1世代)	夫婦と子どもだけ (2世代)	夫婦と子どもと親 (3世代)	その他	無 回 答
1,004 100.0	237 23.6	304 30.3	363 36.2	26 2.6	69 6.9	5 0.5

F8 あなたの家族の状況は、次のどれにあたりますか。(〇は1つ)

全 体	子どものいない夫婦	入 学 前 の 子 ども が 小 学 校	学 生 の 子 ども が 小 ・ 中	大 学 生 の 子 ども が 高 校 ・	業 一 番 上 の 子 ども が 学 校 卒	独 身	そ の 他	無 回 答
1,004 100.0	246 24.5	86 8.6	102 10.2	74 7.4	123 12.3	277 27.6	57 5.7	39 3.9

ライフステージ

全 体	独 身 期	家 族 形 成 期	家 族 成 長 前 期	家 族 成 長 後 期	家 族 成 熟 期	老 齡 期	そ の 他	無 回 答
1,004 100.0	87 8.7	161 16.0	102 10.2	74 7.4	65 6.5	167 16.6	303 30.2	45 4.5

VI 使用した調査票

区政世論調査ご協力をお願い

日頃から区政の推進にご理解・ご協力いただきまして、ありがとうございます。

このたび中央区では、「第52回区政世論調査」を行うことといたしました。

今回も、満18歳以上の区民の皆さま2,000人を対象に、防災対策、高齢者施策、子育て支援などについてご意見を伺い、今後の区政推進の基礎資料とするために実施するものです。

調査は無記名で行い、結果は統計的数値としてまとめますので、個人のお名前や回答内容が外部に漏れるなど、ご迷惑をお掛けすることはありません。

今回この調査票をお送りしましたのは、区の住民基本台帳から統計的手法によって無作為に選ばせていただいた結果です。

調査の趣旨をご理解の上、ご回答くださいますようお願い申し上げます。

令和4年4月

中央区企画部広報課

☆ご記入にあたってのお願い

- ◇ **封筒宛名のご本人**がお答えください。
(記入が困難な場合は、本人同意の上で、別の方が回答を代筆しても構いません)
- ◇ 調査票には、濃いえんぴつ、ボールペンまたは万年筆でご記入ください。
- ◇ お答えは、あてはまる回答の番号に○を付けてください。なお、複数回答もごございますので、○は()の中に指定した個数まで付けてください。
- ◇ お答えの中で「その他」を選んだときは、その内容をできるだけ具体的に()の中にご記入ください。
- ◇ 設問によってご回答いただく方が限られる場合がありますので、説明文や矢印に従ってご回答ください。特に説明のない場合は、次の設問にお進みください。

ご記入後の調査票は、同封の返信用封筒に入れて、6月6日(月)までにポストに投函してください。切手は不要です。

この調査についてご不明な点等がございましたら、下記までお気軽にお問い合わせください。



中央区役所 企画部 広報課 広聴係

〒104-8404 中央区築地1-1-1

電話 03-3546-5222 (直通)

(月～金曜日(祝日を除く) 8:30～17:00)

第 52 回 区 政 世 論 調 査 票

1 定住性

問 1 あなたは、中央区にお住まいになって何年になりますか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------|------------|-------------|
| 1 3年未満 | 4 10～15年未満 | 6 20年以上 |
| 2 3～6年未満 | 5 15～20年未満 | 7 生まれてからずっと |
| 3 6～10年未満 | | |

問 2 あなたは、中央区に対して「わがまち」というような愛着心を感じていますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------|-----------|---------|
| 1 非常に感じる | 3 あまり感じない | 5 わからない |
| 2 少しは感じる | 4 感じない | |

問 3 あなたは、中央区に今後もずっと住みたいと思っていますか。(○は1つ)

- | | | |
|--------------|-------------|---------|
| 1 住み続けたい | 3 できれば転出したい | 5 わからない |
| 2 できれば住み続けたい | 4 転出したい | |

2 防災対策

問 4 あなたのご家庭では、大地震などの災害が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。(○はいくつでも)

- | |
|-----------------------------|
| 1 食料の備蓄 → () 日分 (1人1日3食分) |
| 2 飲料水の備蓄 → () 日分 (1人1日3ℓ分) |
| 3 簡易トイレの備蓄 → () 日分 |
| 4 家具類の転倒・落下・移動防止やガラス飛散防止 |
| 5 消火器・救急セットなどの備え |
| 6 バールやハンマーなどの救助用工具の備え |
| 7 貴重品を持ち出す準備 |
| 8 風呂などへの水のため置き |
| 9 救命救助の講習会への参加 |
| 10 町会・自治会などの地域の防災訓練への参加 |
| 11 避難方法、避難場所の確認 |
| 12 家庭での連絡方法などの話し合い |
| 13 建物の補強 |
| 14 その他 (具体的に) |
| 15 特にない |

問5 区では区立の小・中学校などを「防災拠点」とし、食料や毛布などの備蓄や井戸を整備しています。この「防災拠点」は避難所や救護所などの機能を持っています。
あなたは、ご自分の地域の「防災拠点」を知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|--------|
| 1 知っている | 3 知らない |
| 2 知っているが、場所はわからない | |

(問5で、「1 知っている」または「2 知っているが、場所はわからない」とお答えの方に)

→ 問5-1 この防災拠点の災害時の運営を円滑に進めるため、町会・自治会や防災区民組織が防災拠点運営委員会をつくり、防災訓練の実施や日頃から防災について話し合うなど、災害に備えた協力体制をとっていることをあなたは知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------|--------|
| 1 知っている | 3 知らない |
| 2 知っているが、活動内容はよくわからない | |

問6 大地震などの災害が起こり、自宅が火災や倒壊などにより居住できず防災拠点へ避難することになった場合、あなたが特に気がかりなことは何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------|-----------|
| 1 水・食料 | 9 スペースの確保 |
| 2 トイレ | 10 暑さ寒さ対策 |
| 3 プライバシー | 11 ペットの世話 |
| 4 家族・友人・知人などの安否 | 12 その他 |
| 5 災害状況・対策などの情報 | (具体的に) |
| 6 携帯電話などの充電設備 | 13 特にない |
| 7 医療・医薬品 | 14 わからない |
| 8 高齢者介護や乳幼児保育 | |

問7 災害時に区内の災害情報を得る手段として、一般のテレビ・ラジオ以外にあなたが有効だと思うものは何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|--|--|
| 1 区のホームページ | |
| 2 防災マップアプリ | |
| 3 ちゅうおう安全・安心メール | |
| 4 インターネット | |
| 5 ツイッターやフェイスブックなどSNS (ソーシャルネットワーキングサービス) | |
| 6 防災行政無線 (屋外スピーカー) | |
| 7 緊急告知ラジオ | |
| 8 ケーブルテレビ | |
| 9 その他 (具体的に) | |

※ 緊急告知ラジオ 大きな地震や水害など緊急を要する災害の発生時に自動的に電源が入り、災害情報や避難情報などの緊急放送を受信できるラジオです。区では、平成23年度より区民の皆さんへ有償頒布を実施しています。

3 健康診査

※ 健康診査 勤務先で実施する定期健康診断、区や加入している健康保険で実施している健康診査、人間ドックなどです。

問8 あなたは、この1年間に健康診査（健康診断）を受けましたか。（○はいくつでも）

- 1 区で実施している健康診査を受けた
- 2 勤務先（家族の勤務先を含む）で実施する健康診査を受けた
- 3 加入している健康保険組合などで実施する健康診査を受けた
- 4 個人で人間ドックなどを受けた
- 5 学校で実施する健康診査を受けた
- 6 その他で受けた
- 7 健康診査は受けていない

（問8で、「7 健康診査は受けていない」とお答えの方に）

→ 問8-1 あなたが健康診査を受けなかった理由は何ですか。（○はいくつでも）

- 1 勤務先（家族の勤務先を含む）などで実施していない
- 2 受診方法がわからない
- 3 必要がない
- 4 時間がない
- 5 面倒である
- 6 健康に自信がある
- 7 病気で医者にかかっている
- 8 検査がいや
- 9 病気と診断されるのが怖い
- 10 費用がかかる
- 11 その他（具体的に

)

4 高齢者施策

問9 あなたは、介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいですか。

(もっとも近い考え1つに○)

- 1 主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい
- 2 主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい
- 3 高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい
- 4 特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい
- 5 介護付き有料老人ホームに入りたい
- 6 その他（具体的に _____)
- 7 わからない

問10 あなたは、住み慣れた地域で暮らし続けるために、これからの高齢者保健福祉施策で、区が力を入れていくべきものは何だと思えますか。(○はいくつでも)

- 1 健康づくり・介護予防の充実
- 2 就労・社会参加の促進
- 3 在宅サービス（医療・介護・区の在宅福祉サービスなど）の充実
- 4 特別養護老人ホームや認知症対応型グループホームなどの施設の整備・誘致
- 5 高齢者向け住宅の整備・誘致
- 6 ひとり暮らしや認知症高齢者などへの支援
- 7 低所得者への経済的支援
- 8 特にない

問10-1 問10で、あなたが○をした選択肢を含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

5 子育て支援

問11 あなたは、子育てに関する悩みや不安をどこに相談しましたか。(○は2つまで)

1	配偶者・パートナー
2	その他の親族
3	職場の人
4	隣近所の人、知人、友人
5	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の保護者の仲間
6	保育園・認定こども園・幼稚園・学校の先生
7	子ども家庭支援センター、児童館、あかちゃん天国など子育て支援施設
8	(健診時などで) 保健所、保健センターの担当者
9	その他 (具体的に)
10	特に相談しない
11	子育てを経験していない

※ 認定こども園 小学校に就学する前の子どもの教育・保育・子育て支援を一体的に行う施設で、幼稚園と保育所の両方の役割を果たします。

問12 あなたがこれからの区の子育て支援で重要と考えるものを選んでください。(○は2つまで)
また、さらに充実を図る必要があると考えるものを選んでください。(○はいくつでも)

	重要と考えるもの (○は2つまで)	さらに充実を図る必要 があると考えられるもの (○はいくつでも)
1 保育園・認定こども園・地域型保育事業所・幼稚園などの施設整備	1	1
2 一時預かり保育、延長保育、病児・病後児保育などの子育て支援サービス	2	2
3 子育て仲間が交流し、情報交換のできる場	3	3
4 子どもの健やかな成長のための教育環境の整備	4	4
5 放課後などにおける児童の遊びや生活の場	5	5
6 情報の提供や相談サービス	6	6
7 公園の整備など、子どもを安心して育てることができる環境整備	7	7
8 母親と乳幼児などの健康の確保および増進	8	8
9 職業生活と家庭生活との両立の支援	9	9
10 児童虐待防止対策	10	10
11 経済的な支援	11	11
12 特にない	12	12

※ 地域型保育事業所 少人数の単位で0～2歳の子どもを預かる保育事業所です。
(家庭的保育事業・小規模保育事業・事業所内保育事業・居宅訪問型保育事業)

問12-1 あなたが問12で重要と考えるものに○をした選択肢も含め、区に取り組んでほしい具体的な施策やサービスをお書きください。

6 防犯対策

問13 あなたの住む地域で不安に感じる具体的な犯罪は何ですか。(○は2つまで)

1 ひったくり	9 痴漢・強制わいせつ
2 空き巣	10 少年犯罪
3 強盗	11 子どもの誘拐・連れ去り
4 すり・置き引き	12 暴力団員による犯罪
5 自動車(自転車)泥棒・車上ねらい	13 悪質な客引き
6 振り込め詐欺	14 その他
7 傷害・暴行	(具体的に)
8 放火	15 特にない

問14 あなたが防犯のために実行していること、心掛けていることは何ですか。(○はいくつでも)

1 自主的な防犯パトロールなどの活動に参加している
2 区の広報、ちゅうおう安全・安心メール、区のホームページ、警察の広報紙などで防犯に関する情報を得ている
3 何かあれば警察や区などの相談窓口に行くようにしている
4 日ごろから近隣住民などと良好なコミュニケーションを保つようにしている
5 防犯性能の高い鍵や窓の使用や、防犯カメラ、センサー付きライトなどの防犯機器を設置している
6 警備会社などのセキュリティシステムを利用している
7 エントランスなどにオートロック機能や防犯カメラなどの防犯設備が導入されている
8 その他(具体的に)
9 特に何もしていない

問15 今後、あなたが区に特に力を入れてほしいと考える施策は何ですか。(○は2つまで)

- | | | |
|----|---------------------------------|---|
| 1 | 区内の犯罪発生状況や防犯に関する情報発信 | |
| 2 | 住まいの防犯設備整備費用の助成 | |
| 3 | 自動通話録音機の無料貸出しなどの振り込め詐欺防止対策 | |
| 4 | 地域の防犯カメラや街路灯設置の推進 | |
| 5 | 防犯対策に関するハンドブックの配布や講座・講演会などの啓発活動 | |
| 6 | 学校や児童館などの子どもの安全対策 | |
| 7 | 通学路や公園などの安全対策 | |
| 8 | 地域の防犯パトロール活動などへの支援 | |
| 9 | その他（具体的に |) |
| 10 | 特にない | |

7 スポーツ

問16 あなたがこの1年間に行ったスポーツや運動は何ですか。(○はいくつでも)

※ 運動の量や時間の条件はありません。

- 1 水泳（水中歩行、水中運動、アクアビクスなどを含む）
- 2 体操（ラジオ体操、職場体操、ヨガ、ピラティス、太極拳、エアロビクス、ストレッチ、腰痛・肩こり防止などの健康体操など）
- 3 ジョギング、マラソン
- 4 ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）
- 5 マシントレーニング（ランニングマシーン、バランスボール、ダンベルなど器具を使った運動）
- 6 武道（柔道、剣道、空手など）
- 7 テニス、ソフトテニス
- 8 屋内球技（バレーボール、バドミントン、卓球など）
- 9 屋外の球技（野球、ソフトボール、サッカー、フットサルなど）
- 10 ゴルフ
- 11 ハイキング、キャンプ、登山など
- 12 スキー、スノーボード、スケートなど
- 13 海水浴（遊水）
- 14 シュノーケリング、ダイビング、サーフィン、ヨットなど
- 15 釣り
- 16 ボーリング
- 17 サイクリング
- 18 ニュースポーツ（グラウンドゴルフ、キンボールスポーツ、ソフトバレーボール、ペタンク、ターゲットバードゴルフ、スポーツ吹き矢など）
- 19 ダンス（フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、民謡の踊りを含む）
- 20 その他（具体的に)
- 21 スポーツや運動はしなかった

（問16で、「1 水泳」から「20 その他」のいずれかにお答えの方に）

→ 問16-1 あなたは、この1年間にどのくらいスポーツや運動をしましたか。(○は1つ)

- | | |
|------------|-------------------------|
| 1 週に3日以上 | 4 3カ月に1～2日程度（年に4～11日程度） |
| 2 週に1～2日程度 | 5 年に1～3日程度 |
| 3 月に1～3日程度 | |

8 地域のコミュニティ活動

問17 新型コロナウイルス感染症が拡大する以前に、あなたが最も力を入れてきたコミュニティ活動は何ですか。(○は1つ)

- 1 町会・自治会活動（回覧板、文書配布、情報発信など）
- 2 地域の行事（盆踊り、縁日、もちつきへの参加など）
- 3 祭礼（おみこし・山車への参加など）
- 4 地域の文化・生涯学習活動（伝統文化の普及啓発、団体での演奏など）
- 5 地域のスポーツ活動（体を動かす機会の提供、技術指導など）
- 6 防災・防犯活動（防災訓練、交通安全、地域の見回りなど）
- 7 福祉活動（子育ての手助け、高齢者の見守りへの協力など）
- 8 環境美化活動（まちかどクリーンデーへの参加、花壇・公園の清掃など）
- 9 子どもに関する活動（青少年対策地区委員会、PTA、読み聞かせなど）
- 10 その他（具体的に)
- 11 特にない

(問17で、「1 町会・自治会活動」から「10 その他」のいずれかにお答えの方に)

→ 問17-1 問17で選択した活動に対してコロナ禍によりどのような影響がありましたか。

(もっとも近い考え1つに○)

- 1 従来どおり活動した
- 2 従来どおりには活動できなかった
- 3 工夫して活動した
- 4 その他（具体的に)
- 5 特に影響はない

問18 これまでのコロナ禍を踏まえ、あなたがコミュニティに求めるものは何ですか。

(〇はいくつでも)

- | | | |
|----|---------------------------------|---|
| 1 | 顔を合わせたら挨拶できる近所付き合い | |
| 2 | 地域イベントへの参加を通じた地域の方との交流 | |
| 3 | 町会・自治会活動を通じた地域の方との交流 | |
| 4 | NPOやボランティア団体による地域課題の解決 | |
| 5 | インターネットやSNSを活用した情報発信やオンライン上での交流 | |
| 6 | 自分の知識・技術を向上させることができる取り組み | |
| 7 | 災害時の安否確認や共助 | |
| 8 | 高齢者に対する訪問や声掛け | |
| 9 | 公園や道路環境の維持・向上を通じた地域の方との交流 | |
| 10 | 子どもの成長を助け合える協力関係 | |
| 11 | その他 (具体的に |) |
| 12 | 特にない | |

※ NPO Non-Profit Organization または Not-for-Profit Organization の略称で、さまざまな社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、収益を分配することを目的としない団体の総称です。

9 築地魚河岸

- ※ 築地魚河岸 築地市場が移転しても築地の活気とにぎわいを絶やさないために、区が『食のプロに支持され、一般客・観光客にも親しまれる、食のまち「築地」のにぎわいの拠点となる施設』として築地場外に開設した生鮮市場です。目利きのプロが厳選した高品質の水産物や青果物などを販売しています。

問19 あなたは、「築地魚河岸」に行ったことがありますか。(○は1つ)

- | | |
|------------|-----------------------|
| 1 よく行っている | 3 知っているが、行ったことがない |
| 2 行ったことがある | 4 「築地魚河岸」を知らない → 問20へ |

(問19で、「1 よく行っている」または「2 行ったことがある」とお答えの方に)

→ 問19-1 あなたが「築地魚河岸」に行った目的は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 1階の店舗で買い物をするため | 3 イベントに参加するため |
| 2 魚河岸食堂で食事をするため | 4 その他(具体的に) |

(問19で、「1 よく行っている」「2 行ったことがある」「3 知っているが、行ったことがない」とお答えの方に)

→ 問19-2 「築地魚河岸」には一般の方が利用できる店舗や食堂などがありますが、その印象やイメージとしてあてはまるものをお答えください。(○はいくつでも)

<1階の店舗について>

- 1 プロが厳選した商品が販売されており、安心して買い物ができる
- 2 新鮮なものが買える
- 3 スーパーでは買えないような珍しいものが買える
- 4 同じようなものを扱う店が多く、どこで買っていいかわからない
- 5 近くのスーパーなどとの違いを感じない
- 6 一般の人も気軽に利用できる施設であることを知らない
- 7 混雑している(イメージがある)

<魚河岸食堂について>

- 1 おいしい料理が食べられる
- 2 食堂があることを知らない
- 3 混雑している(イメージがある)

<その他>

- 1 いつ、どのようなイベントを開催しているかわからない
- 2 築地魚河岸の場所がわからない

10 受動喫煙防止対策

問20 令和2年7月1日に「中央区受動喫煙防止対策の推進に関する条例」が施行されました。
あなたは条例で定めた「中央区たばこルール」を知っていますか。(○は1つだけ)

- 1 「中央区たばこルール」の内容も知っている
- 2 聞いたことはあるが、内容は知らない
- 3 知らない

※ 中央区たばこルール 公共の場所（区内全域の道路、公園、広場）での受動喫煙を防止するため、「喫煙者が守るべきルール」及び「灰皿を設置する事業者が守るべきルール」を設けました。ルールには加熱式たばこも含まれます。

11 デジタル技術を活用した区民サービス

問21 あなたが、区に進めてほしいと考えるデジタル技術を活用した区民サービスはどれですか。
(○はいくつでも)

- 1 窓口手続きにおけるキャッシュレス決済
- 2 オンライン手続きにおけるキャッシュレス決済
- 3 区役所に行かずに最初から最後までオンラインでできる手続きの拡大
- 4 マイナンバーカードを利用したオンライン手続きの拡大
- 5 スマートフォン等への区民サービスの案内
- 6 チャットボットを活用した自動応答サービスの提供
- 7 ICTを活用した窓口受付サービス
- 8 オンラインでの窓口の混雑状況の配信
- 9 区が開催する講座や説明会等のオンライン配信
- 10 区が保有するデータのオープンデータ化
- 11 その他（具体的に)
- 12 特にない

※ チャットボット インターネットを利用し、人間と会話しているような受け答えをロボットが自動で行うしくみです。

※ ICT を活用した窓口受付サービス インターネットでの手続き案内、申請書作成支援、書かない窓口（タブレット端末等を利用した、申請書記入不要の窓口受付サービス）等の区役所窓口での手続きの利便性を向上するしくみです。

1 2 広報

問22 区の広報紙「区のおしらせ ちゅうおう」は月3回発行しています。
あなたは広報紙を読んだことがありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|------------|------------|
| 1 よく読んでいる | 4 読んだことがない |
| 2 たまに読んでいる | 5 わからない |
| 3 読んだことがある | |

(問22で、「1 よく読んでいる」「2 たまに読んでいる」「3 読んだことがある」とお答えの方に)

→ 問22-1 広報紙を何で読んでいますか。(○はいくつでも)

- | |
|--|
| 1 紙媒体 (町会・自治会配布、新聞折り込み、区施設や地下鉄駅などでの配布) |
| 2 電子媒体 (区ホームページに掲載、スマートフォン用アプリ「マチイロ」で配信) |

※ マチイロ 広報紙を電子書籍として、そのままの形で読むことができます。

問23 あなたは、区のサービスやイベントなどの区政情報をどのように入手していますか。

(○はいくつでも)

- | |
|---------------------------------------|
| 1 区の広報紙「区のおしらせ ちゅうおう」(紙版、電子版いずれも含みます) |
| 2 わたしの便利帳 |
| 3 区のパンフレットやチラシなどの印刷物 |
| 4 区のホームページ |
| 5 区の広報掲示板 |
| 6 町会・自治会の掲示板や回覧板など |
| 7 ケーブルテレビの区提供番組「こんにちは 中央区です」 |
| 8 コミュニティFMラジオ中央エフエムの区提供番組「中央区からのお知らせ」 |
| 9 区の公式SNS (ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、ライン) |
| 10 その他 (具体的に) |
| 11 入手していない |

1 3 環境問題

問24 あなたは、環境を守るために、どのような取り組みを行っていますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|---|
| 1 節電・節水などの環境配慮活動に努めている | |
| 2 ごみ・資源の分別をしている | |
| 3 ベランダ・壁面などを利用して緑を育てている | |
| 4 食品ロスが発生しないように配慮している | |
| 5 その他 (具体的に |) |
| 6 特に取り組んでいない | |

問25 あなたは、環境を守るために、今後どのような家庭での取り組みが必要だと思いますか。
(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------------------|---|
| 1 節電・節水などの環境配慮活動を徹底する | |
| 2 環境に配慮した製品の購入やサービスを利用する | |
| 3 3R (リデュース・リサイクル・リユース) などへ積極的に取り組む | |
| 4 環境学習や自然体験などへの参加により、環境問題への理解を深める | |
| 5 その他 (具体的に |) |

問26 区内には多くの企業がありますが、あなたは、環境を守るために企業の責任として何に取り組む必要があると思いますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|--------------------------------------|---|
| 1 再生可能エネルギー機器や省エネルギー機器の導入 | |
| 2 建物のZEB (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) 化 | |
| 3 再生可能エネルギーで発電された電気などの積極的な利用 | |
| 4 ZEV (ゼロ・エミッション・ビークル) などの積極的な導入 | |
| 5 建材などの木質化や屋上緑化などの緑化推進による二酸化炭素排出量の削減 | |
| 6 森林整備の支援などによる環境活動への参加 | |
| 7 社員等への環境教育による環境配慮への意識向上 | |
| 8 その他 (具体的に |) |

※ ZEB (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)

快適な室内環境を実現しながら、省エネや再生可能エネルギーを利用して建物で消費するエネルギーをゼロにすることを目指した建物のことです。

※ ZEV (ゼロ・エミッション・ビークル)

走行時に二酸化炭素等の排出ガスを出さない電気自動車 (EV) や燃料電池車 (FCV)、プラグインハイブリッド自動車 (PHV) のことです。

1 4 公園の魅力向上

問 27 あなたは、区立公園を利用して満足していることは何ですか。(○は3つまで)

- 1 子どもの遊ぶ場になっていること
- 2 緑や花のある場であること
- 3 体を動かす場になっていること
- 4 地域の憩いの場になっていること
- 5 散歩や休養の場になっていること
- 6 特にない
- 7 公園を利用していない

問 28 あなたは、今後の区立公園のあり方についてどのようにお考えですか。(○は3つまで)

- 1 子どもの遊び場を拡充してほしい
- 2 緑や花を充実してほしい
- 3 緑や生き物学習の場を充実してほしい
- 4 体を動かす場（運動施設）を充実してほしい
- 5 飲食店や売店を設置してほしい
- 6 にぎわいのあるイベントを実施してほしい
- 7 その他（具体的に)
- 8 特にない

15 今後のまちづくり

問 29 あなたは、10年後の中央区が「どのようなまち」になっていると良いと思いますか。

(○は4つまで)

- | | |
|----|-------------------------------------|
| 1 | 地域で安心して子育てできるまち |
| 2 | 充実した教育環境の中で子どもが元気で伸び伸びと育つまち |
| 3 | 高齢者や障害者が地域で心豊かにいきいきと暮らすまち |
| 4 | ユニバーサルデザインに配慮した人にやさしいまち |
| 5 | 多様なコミュニティ（人と人とのつながり）が形成されたまち |
| 6 | デジタル技術が活用され、DXが進んだまち |
| 7 | 商工業が発展し、商店街が栄えているまち |
| 8 | イベントが活発に行われるなどにぎわいのあるまち |
| 9 | 町会、NPO、ボランティアなどが協働して地域づくりに取り組んでいるまち |
| 10 | 自然が大切にされ、豊かな水辺やみどりがあふれるまち |
| 11 | 脱炭素化に取り組むなど、環境と共生しているまち |
| 12 | 地域が協力して災害対策に取り組んでいるまち |
| 13 | 犯罪のない安心して住めるまち |
| 14 | スポーツや文化活動が盛んなまち |
| 15 | その他（具体的に |

※ DX Digital Transformation の略称。ICT（情報通信技術）の浸透が人々の生活をあらゆる面でもより良い方向に変化させることを意味します。

※ NPO Non-Profit Organization または Not-for-Profit Organization の略称で、さまざまな社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、収益を分配することを目的としない団体の総称です。

16 施策の要望・評価

問30 あなたは、区の施策についてどの程度満足していますか。また、その施策をどの程度重視していますか。満足度と重要度について、次の項目それぞれに、あてはまるものを1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	満足度					重要度		
	1 満足	2 やや満足	3 普通	4 やや不満	5 不満	1 たいへん重要	2 比較的 重要	3 普通
(記入例) (1) 子育て支援	①	2	3	4	5	①	2	3
(1) 子育て支援	1	2	3	4	5	1	2	3
(2) 障害者福祉	1	2	3	4	5	1	2	3
(3) 高齢者福祉・介護	1	2	3	4	5	1	2	3
(4) 保健衛生	1	2	3	4	5	1	2	3
(5) 男女共同参画社会の推進	1	2	3	4	5	1	2	3
(6) 住宅対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(7) 公園・緑地・水辺の整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(8) 消費者生活対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(9) 環境保全・公害対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(10) 清掃・リサイクル事業の推進	1	2	3	4	5	1	2	3
(11) 駐車場・駐輪場の整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(12) 道路環境整備、交通安全対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(13) 防災対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(14) 防犯対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(15) 再開発などによる地域整備	1	2	3	4	5	1	2	3
(16) 中小企業対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(17) 学校教育の充実	1	2	3	4	5	1	2	3
(18) 青少年対策	1	2	3	4	5	1	2	3
(19) 生涯学習・文化・スポーツの振興	1	2	3	4	5	1	2	3
(20) コミュニティの育成	1	2	3	4	5	1	2	3
(21) 観光振興	1	2	3	4	5	1	2	3
(22) 地域情報化の推進 〔福祉・医療・生涯学習などさまざまな区民サービス情報のネットワーク化・CATVの整備促進など〕	1	2	3	4	5	1	2	3
(23) 区の施策を総合的に見ると	1	2	3	4	5			

問31 問30の施策の中で、あなたが力を入れてほしいものは何ですか。

1位から3位までを選んで番号を記入してください。(1～22までの番号)

第 1 位	第 2 位	第 3 位

<フェイスシート>

多くの設問にお答えいただきありがとうございました。あと少しお聞かせください。

これからお聞きすることは、これまでのお答えの内容を統計的に分類するためのものです。
ご協力をお願いします。

F 1 性別 (○は1つ)

1 男性	2 女性
------	------

F 2 年齢 (○は1つ)

1 18～29歳	3 40歳代	5 60～64歳	7 70～74歳
2 30歳代	4 50歳代	6 65～69歳	8 75歳以上

F 3 あなたの職業は何ですか。(○は1つ)

1 自営業 (家族従業を含む)	3 アルバイト・パートタイマー	5 無職 (学生)
2 勤め人	4 無職 (主婦・主夫)	6 無職 (その他)

F 4 あなたのお住まいの地域は次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1 京橋地域 (八重洲2丁目、京橋、銀座、新富、入船、湊、明石町、築地、浜離宮庭園、八丁堀、新川)
2 日本橋地域 (本石町、室町、本町、小舟町、小伝馬町、大伝馬町、堀留町、富沢町、人形町、小網町、蛸殻町、箱崎町、馬喰町、横山町、東日本橋、久松町、浜町、中洲、八重洲1丁目、日本橋、茅場町、兜町)
3 月島地域 (佃、月島、勝どき、豊海町、晴海)

F 5 現在一緒に暮らしているご家族の方は、あなたを含めて何人ですか。(○は1つ)

1 1人	3 3人	5 5人
2 2人	4 4人	6 6人以上 (人)

F 6 あなたのお住まいは、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

持家	1	一戸建	
	2	分譲マンション (階)	
借家	3	一戸建	
	4	公共住宅 (区立、区営、都営、公社、都市再生機構 (旧公団)) (階)	
	5	民間木造アパート (階)	
家	6	民間鉄筋アパート、マンション (階)	
	7	社宅、官舎、寮 (階)	
	8	間借り、住込み	
	9	その他 (具体的に)

F 7 あなたの家族構成は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1	ひとり暮らし	
2	夫婦だけ (1世代)	
3	夫婦と子どもだけ (2世代)	
4	夫婦と子どもと親 (3世代)	
5	その他 (具体的に)

F 8 あなたの家族の状況は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1	子どものいない夫婦	
2	一番上の子どもが小学校入学前	
3	一番上の子どもが小・中学生	
4	一番上の子どもが高校・大学生	
5	一番上の子どもが学校卒業	
6	独身	
7	その他 (具体的に)

※ご協力ありがとうございました。

調査結果は、中央区ホームページで公表いたします。

調査結果の概要版が必要な方は、以下の欄に住所・氏名をご記入ください。

概要版ができ次第、送付いたします。(令和4年9月下旬予定)

住 所 中央区 _____

氏 名 _____

第52回 中央区政世論調査 報告書

令和4年9月

刊行物登録番号

4-037

- 発行 中央区企画部広報課
中央区築地1丁目1番1号
電話 03(3546)5222(直通)
- 実施 株式会社エスピー研
千代田区飯田橋3丁目11番20号
電話 03(3239)0071(代表)
-